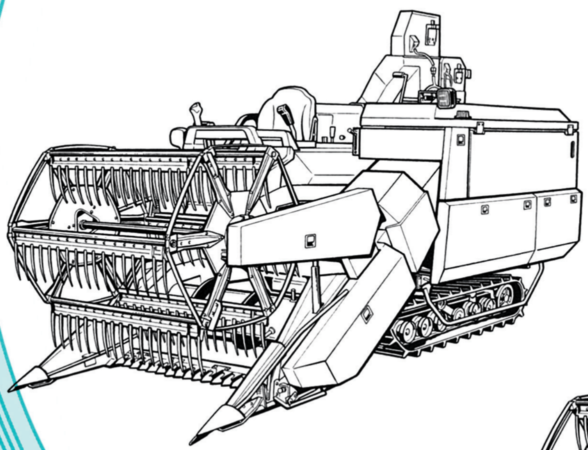
クボタ 普通形 コンバイン

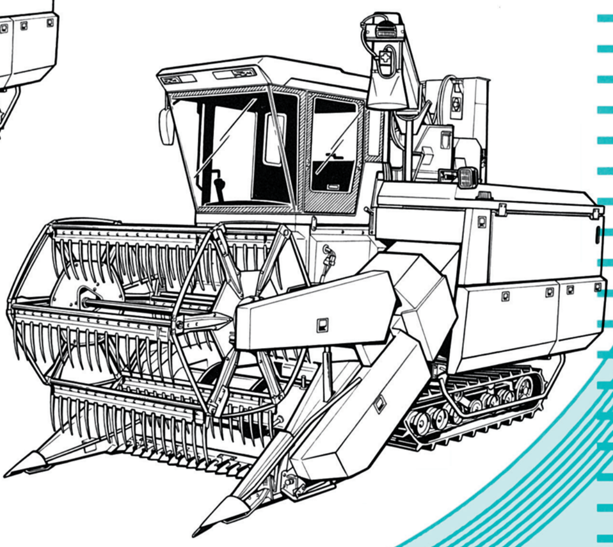
取扱説明書

AEROSTAR

ARH350


M-10044

〔ホッパ仕様〕


M-10041

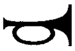
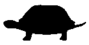
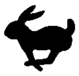
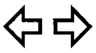
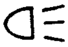
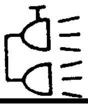
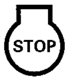
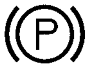
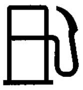
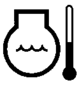
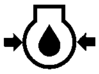
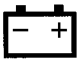
〔グレンタンク仕様〕

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数**“低回転”**
	エンジン回転数**“高回転”**
	ウインカランプ
1 	ヘッドランプ
2 	ヘッドランプと作業灯
	エンジン停止
	駐車ブレーキ
	燃料
	水温
	エンジン油圧
	バッテリ充電

専門用語の説明

● **予熱**	エンジンの始動を容易にするためにエンジンをあたためること
● **SFワンレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
● **ブレーキターン**	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
● **ソフトターン**	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
● **ソリセンサ**	異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持するためのセンサ
● **ドレーン(プラグ)**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
● **刈取オートクラッチ**	刈取部を一定の高さまで上昇・下降させたとき，自動的に刈取搬送部を停止・作動させる装置
● **HST**	油圧式の無段変速装置
● **アジャスト**	調節を意味する
● **主変速レバー**	**“前進”“後進”**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
● **リール**	回転して作物を引起こす刈取部の六角形状の部分
● **タイン**	リールに取付けられている黒い樹脂の爪
● **オーガドラム**	回転すると作物をフィーダ入口へ寄せる**らせん**の付いている円筒の部分
● **出入フィンガ**	オーガのフィーダ入口にあるかき込み棒
● **デバイダ**	刈取部の左右の最前部にある作物を条分けする部分
● **フィーダ**	作物をオーガから脱こく部へ搬送する部分
● **ヘッドロス**	刈取部で損失するこく粒
● **1番スクリュ**	選別部で精選されたこく粒を1番バケットコンベアへ横搬送する部分
● **2番スクリュ**	1番スクリュ部へ選別されなかった作物・こく粒を再度選別部へ搬送する横搬送の部分
● **1番バケットコンベア**	グレンタンク及びホッパまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
● **2番バケットコンベア**	再度選別部まで縦搬送するバケットカップ付コンベア
● **排出バケットコンベア【グレンタンク仕様】**	こく粒排出シュートまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
● **チャフシーブ**	コンケーブから搬送されたこく粒と排かんくずを選別する桟状の板
● **トウミ**	選別風を発生させるファン
● **ササリロス**	こく粒損失で，排かんの中にささっている単粒
● **こぎ残し**	こく粒損失で莢（さや）の中に残っているこく粒
● **こぎ室送じんレバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー

●グレンシーブ	こく粒を精選するあみ体
●こぎ胴	脱こくするドラム
●こぎ胴上部カバーオープン	こぎ胴上部カバーを上に上げる機構
●こぎ胴サイドカバーオープン	こぎ胴サイドカバーを横に開ける機構
●シーブケース	揺動運動してこく粒を選別する装置
●アンローダ【グレンタンク仕様】	グレンタンクからこく粒を排出する筒
●ホッパ【ホッパ仕様】	精選されたこく粒を一時貯留するタンク

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，大豆・そば・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**“ARH350CG仕様”**を基本とし，**“ARH350CG仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】 ARH350 C G
① ② ③

①エンジン出力(PS)………35

②キャビン付き仕様………C仕様

③ グレンタンク仕様……G仕様
　 ホッパ仕様……………H仕様

④諸装置の仕様
（別表参照）

● 諸装置

諸装置＼仕様		H	G	備考
自動化装置	自動刈高さ制御	○	○	
	刈取オートクラッチ [刈取部上昇時搬送駆動停止機能]	○	○	
	対地平行制御	○	○	
	車体水平制御	○	○	
	アンローダ自動旋回制御	―	○	
	自動エンジン停止	○	○	
クリーンファン		○	○	電動
パワークラッチ[刈取]		○	○	電動
アンローダリモコン		―	○	

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に各装置を理解しましょう

2．**装置の名称と取扱い：**各装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

自動化装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3．**自動化装置の名称と取扱い：**自動化装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前にキャビン装置を理解しましょう

4．**キャビン装置の名称と取扱い【C仕様】：**キャビン装置のはたらきと操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

5．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

6．**移動走行と輸送：**

(1)機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。
(2)機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。
(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

7．**収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい刈取作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取シーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

9．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために

- ⚠安全に作業するために …… ⚠-1
  - 1. 安全作業するための注意事項 …… ⚠-1
  - 2. 安全作業するための⚠表示ラベル … ⚠-17
  - 3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-28

サービスと保証について

- サービスと保証について …… 1

装置の名称と取扱い

- 装置の名称と取扱い …… 3
  - 機体方向説明 …… 3
  - 装置の名称と各部のはたらき …… 4
    - メインスイッチ …… 10
    - アクセルレバー …… 10
    - 非常エンジン停止レバー …… 10
    - 主変速レバー …… 11
    - 副変速レバー …… 11
    - 車体旋回モード切換えスイッチ …… 11
    - ブレーキペダル（駐車ブレーキ） …… 12
    - SFワンレバー …… 12
    - ポジピタスイッチ …… 13
    - 方向微調整スイッチ …… 13
    - リール上下スイッチ …… 13
    - リール前後スイッチ …… 13
    - 運転席（シート） …… 14
    - 刈取・リール下降ロック装置 …… 14
    - 脱こく･刈取クラッチレバー …… 15
    - クリーンファンスイッチ …… 15
    - シーブ前調節レバー …… 16
    - シーブ後調節レバー …… 16
    - トウミ調節レバー …… 16
    - もみ排出スイッチ …… 17
    - エアロナビ …… 17
    - コンビネーションスイッチ …… 21
    - ホーンスイッチ …… 21

自動化装置の名称と取扱い

- 自動化装置の名称と取扱い …… 22
  - 装置の名称と各部のはたらき …… 22
    - 自動車体水平制御装置（モンロー） … 23
    - 水平操作レバー …… 24
    - 自動刈高さ制御装置 …… 24
    - 対地平行自動刈高さ制御装置（ロイヤルモンロー） …… 25
    - 刈取オートクラッチ …… 25
    - アンローダ自動旋回制御装置【グレンタンク仕様】 …… 26
    - アンローダレバー【グレンタンク仕様】 …… 27
    - アンローダリモコンスイッチ【グレンタンク仕様】 …… 29

キャビン装置の名称と取扱い【C仕様】

- キャビン装置の名称と取扱い【C仕様】 … 30
  - 装置の名称 …… 30
  - 各装置の取扱い …… 31
    - ドアの開閉・ロックのしかた …… 31
    - 各ウインドの開閉のしかた …… 32
    - ワイパの使いかた …… 32
    - 作業灯スイッチ …… 33
    - ルームランプの使いかた …… 33
  - エアコンの取扱い …… 33
    - コントロールパネル …… 33
    - エアコン冷暖房のしかた …… 34
  - AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い …… 35
    - スイッチ・ツマミの取扱い …… 35
    - ラジオ操作 …… 36
    - カセット操作方法 …… 37
    - 取扱上の注意 …… 38

運転前の点検

- 運転前の点検 …… 39
  - 日常点検項目 …… 40

目次

移動走行と輸送

- **移動走行と輸送 …… 41**
  - **新車時の扱いかた …… 41**
    - ならし運転について …… 41
  - **エンジンの始動と停止のしかた …… 41**
    - 始動のしかた …… 41
    - 停止のしかた …… 44
  - **移動走行について …… 45**
    - 走行前の準備 …… 46
    - 発進のしかた …… 48
    - 旋回のしかた …… 50
    - 停車・駐車のしかた …… 50
    - 移動走行について …… 50
  - **輸送について …… 51**
    - トラックとあゆみ板の準備 …… 51
    - コンバインの準備 …… 51
    - コンバインの積込み・積降ろしのしかた …… 52
    - トラック上での処置 …… 53

収穫作業のしかた

- **収穫作業のしかた …… 54**
  - **作物とほ場の条件 …… 54**
    - 作物の倒伏とほ場の傾き …… 54
  - **ほ場の準備 …… 56**
  - **コンバインの準備 …… 56**
    - 準備のしかた …… 56
  - **刈取作業のしかた …… 57**
    - ほ場の出入りのしかた …… 57
    - 刈取作業の手順 …… 59
    - ほ場の刈りかたと旋回のしかた …… 61
    - 作物に合わせた変速の選びかた …… 64
    - こく粒の排出のしかた**【ホッパ仕様】** …… 65
    - こく粒の排出のしかた**【グレンタンク仕様】** …… 66
    - 手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた …… 70
    - 作業に合わせた各部の調節・調整のしかた …… 71
    - エアロナビによる異常と処置 …… 77
    - エアロナビによる故障と処置 …… 80

メンテナンス

- **メンテナンス …… 83**
  - **各部のオープン(開閉)と脱着のしかた …… 83**
    - エンジンルームオープン**【C仕様除く】** …… 83
    - 防じんカバーオープン**【C仕様】** …… 84
    - 運転席下カバー及び運転席下側板の脱着**【C仕様】** …… 84
    - こぎ胴上部カバーオープン …… 85
    - こぎ胴サイドカバーオープン …… 86
    - クリーンファンカバーオープン …… 87
    - ホッパオープン**【ホッパ仕様】** …… 87
    - グレンタンクオープン**【グレンタンク仕様】** …… 88
  - **各部の掃除と注油のしかた …… 90**
    - 各部の掃除 …… 90
    - 各部の注油 …… 96
  - **定期点検 …… 98**
    - オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整 …… 98
    - 廃棄物の処理について …… 98
    - 使用者が行なってはいけない修理 …… 98
    - 定期点検一覧表 …… 99
    - 給・注油(水)点検一覧表 …… 102
    - 燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換 …… 103
    - ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 112
    - エアクリーナの点検・掃除・交換 …… 114
    - パイプ・ホース類の点検・交換 …… 115
    - 防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 …… 116
    - オイルクーラフィンの掃除 …… 116
    - コンデンサフィンの掃除**【C仕様】** …… 116
    - フューエルフィルタカートリッジ・フューエルフィルタアッシの掃除，フィルタエレメントの交換 …… 117
    - エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 119

目　次

HSTオイルフィルタカートリッジの交換・油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換 …… 120
アンローダコンベア駆動油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換**【グレンタンク仕様】** … 121
各部ワイヤの点検・調整 …… 121
各部ベルトの点検・調整 …… 124
各部チェーンの点検・調整 …… 135
１番・２番バケットコンベアの点検・調整・交換 …… 137
排出バケットコンベアの点検・調整・交換**【グレンタンク仕様】** …… 139
アンローダベルトコンベアの点検・調整・交換**【グレンタンク仕様】** …… 140
刈刃の点検・調整 …… 142
オーガドラム・フィンガの点検・調整 … 143
フィルタの掃除・交換**【C仕様】** …… 144
冷媒（ガス）量の点検**【C仕様】** …… 145
吐出口ブーツの点検・交換**【グレンタンク仕様】** …… 145
バッテリの点検・交換 …… 146
電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換 …… 150
ランプ（電球）の点検・交換 …… 152
ホーンスイッチの点検 …… 152
反射器の点検・交換 …… 153
クローラの点検・調整 …… 154
トラックローラ（転輪）の点検 …… 155
刈取作業後の手入れ …… 156
毎日の作業後 …… 156
長期格納時 …… 156

コンバインの不調と処置

コンバインの不調と処置 …… 158
エンジンがかからない …… 159
作物を刈取らずに押倒していく …… 160
刈取部でのロスが多い …… 160
リールで巻上げや巻付きをおこす …… 160
こく粒の飛散が多い …… 161
選別が悪くなった …… 161
損傷粒が多い …… 161
汚粒が出る …… 162
莢付粒が多い …… 162
こぎ室でゴトゴト音がして能率があがらない …… 162
刈高さ自動で刈刃が突込む …… 163

付　表

付　表 …… 164
主要諸元 …… 164
付属部品 …… 166
オプション（別売品）（純正部品を使いましょう） …… 167
消耗品（純正部品を使いましょう） … 168
クボタ純オイル …… 178

そば・麦・小豆用キット組付要領

組付要領 …… **179**
  そば・麦共通キット …… **180**
    組付部品 …… 180
    刈取部底板 …… 181
    フィーダ底板 …… 181
    １番・２番バケットコンベア底板 …… 182
    排出バケットコンベア底板
      【グレンタンク仕様】 …… 182
    グレンタンク底板**【グレンタンク仕様】** …… 183
    １番・２番横スクリュ底板 …… 183
    左分草かんの取付け …… 184
    右分草かんの取付け …… 185
    トウミシャッタの取付け …… 185
    排じん流し板 …… 186
    スクレーパの取付け …… 187
  そば専用キット …… **188**
    組付部品 …… 188
    受あみ …… 189
    グレンシーブの組替え …… 189
    ２番還元板の組替え …… 190
  麦専用キット …… **191**
    組付部品 …… 191
    受あみ …… 192
    スクレーパの組付け …… 192
    泥除け板の取外し …… 193
    ２番還元板の組替え …… 193
    こぎ胴プーリ・こぎ胴駆動プーリの
      組替え …… 193
  小豆専用キット …… **194**
    組付部品 …… 194
    刈取部底板 …… 195
    フィーダ底板 …… 195
    １番・２番横スクリュ底板 …… 196
    １番・２番バケットコンベア底板 …… 197

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください。

この黄色ページは，安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項と⚠表示ラベルの内容・貼付位置を記載しています。また，本文中でも取扱い上の注意事項をそのつど⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足 として取上げていますので本機をご使用になる前に，これらの注意事項をよく読んで理解してください。

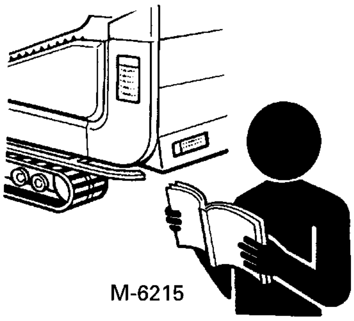
1．安全作業するための注意事項

◆一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

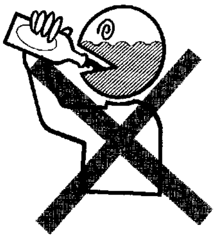
【守らないと】
死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6215

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - ・お酒を飲んでる方　　・睡眠不足の方
  - ・妊娠中のご婦人　　・過労，病気の方
  - ・１６歳未満の方

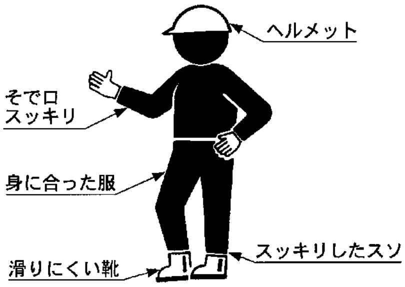
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。


M-6216

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

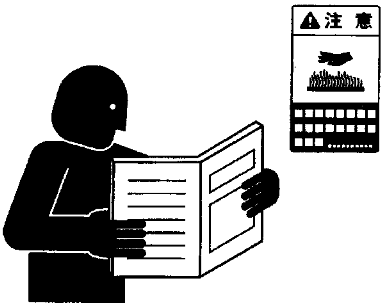
【守らないと】
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。


ヘルメット
そで口
スッキリ
身に合った服
スッキリしたスソ
滑りにくい靴
M-6219

⚠ 安全に作業するために

⚠ 取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

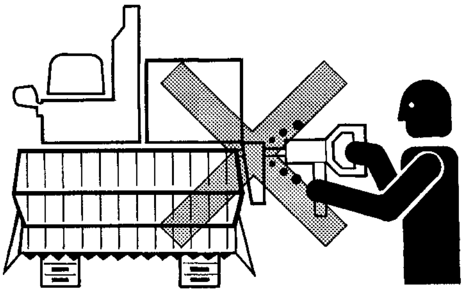
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。



F-8822

【守らないと】
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠ 機械を改造しない。

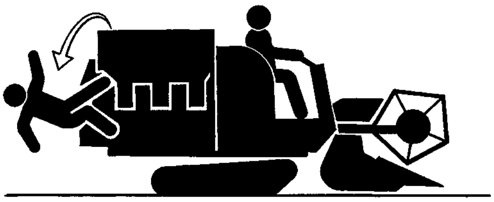


M-9200A

【守らないと】
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

⚠ 運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

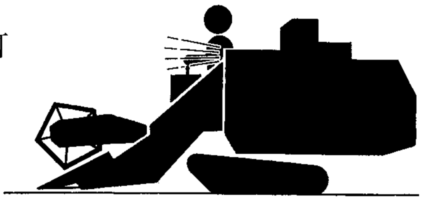


M-8223

【守らないと】
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠ 夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。



M-9347改

【守らないと】
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

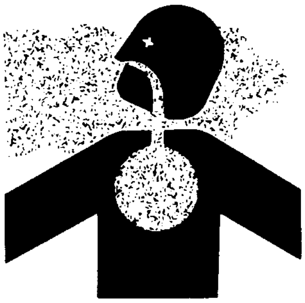
◆作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】

エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。



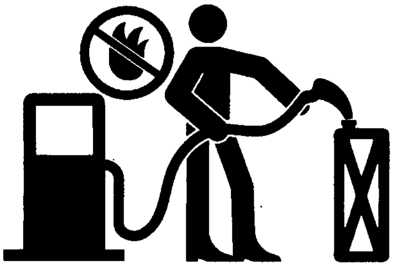
F-8842

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

【守らないと】

火災の原因になります。



B-1499

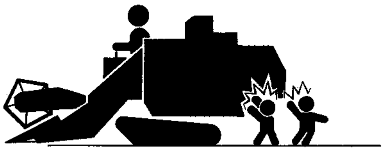
⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

■エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを“停止”位置，副変速レバーを“中立”位置にし，各クラッチを“切”位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。

■機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

【守らないと】

回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

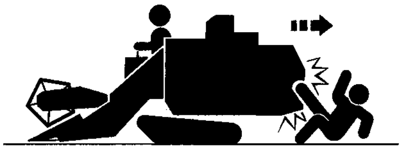


M-8213

■初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】

思わぬ事故の原因となります。



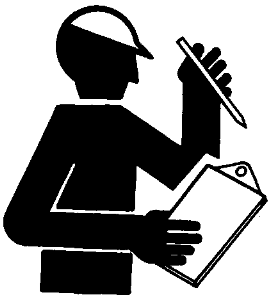
M-8214

⚠ 安全に作業するために

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

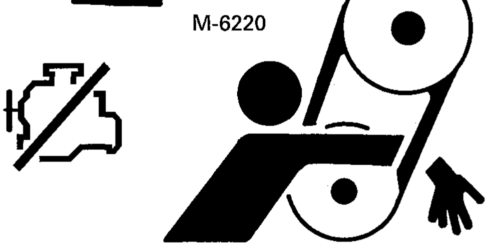
■運転の前には点検項目（３９ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。


M-6220

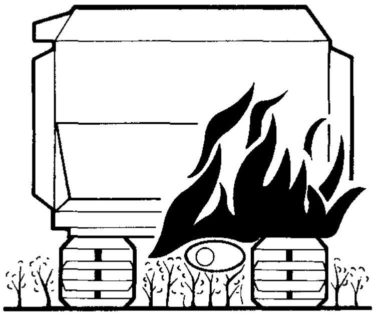
■点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。


N-0676

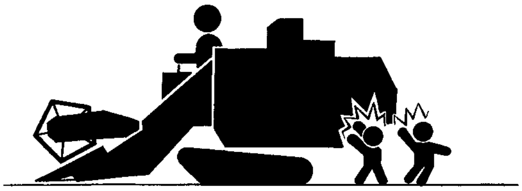
■マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっている排かんくずはきれいに取除く。

【守らないと】
火災の原因になります。


M-6238

■点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

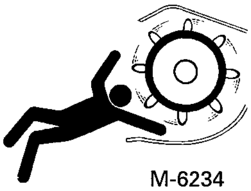
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

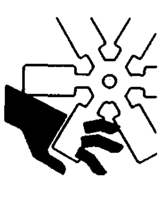

M-8213

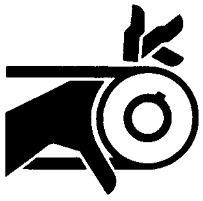
⚠脱こく部，エンジンルーム，ホッパ【ホッパ仕様】，グレンタンク【グレンタンク仕様】をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- ●オープンは平坦な場所で行なう。
- ●ホッパ【ホッパ仕様】，グレンタンク後部カバー【グレンタンク仕様】をオープンしたときは，ストッパを掛ける。また，脱こく左サイドカバーをオープンしたときは，ストッパが効いているか確認する。
- ●オープンしたままエンジンを始動しない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

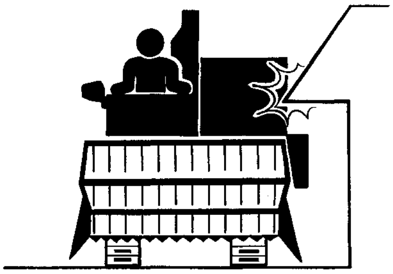

M-6234


B-1505


B-1506

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

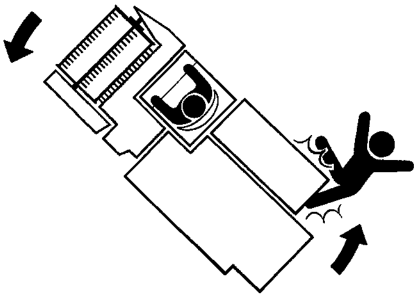
⚠移動走行するときは，次の事項を守る。


M-8217

- 各作業クラッチを **“切”** 位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。
- 副変速レバーを切換えるときは，平たんな場所で主変速レバーを **“停止”** 位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ **【ホッパ仕様】**，左分草かん前・後を収納して，機体幅をせまくする。
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。
- アンローダはアンローダ受けに収納する。**【グレンタンク仕様】**
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 車体旋回モード切換えスイッチを，**“ソフトターン”** 位置に入れる。

【守らないと】
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

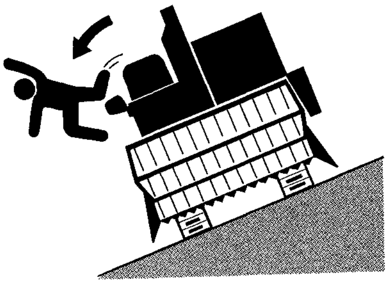
⚠高速走行時は急旋回をしない。


M-8218

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），SFワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

【守らないと】
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。


M-8220

- 坂道（傾斜地）では，SFワンレバー，副変速レバー，ブレーキペダルを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

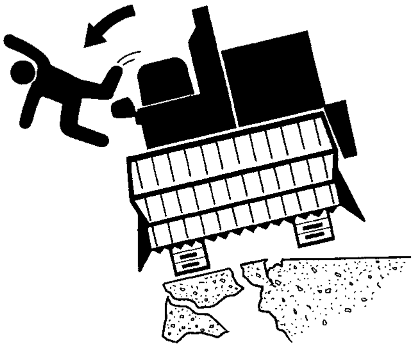
【守らないと】
暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

⚠ 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

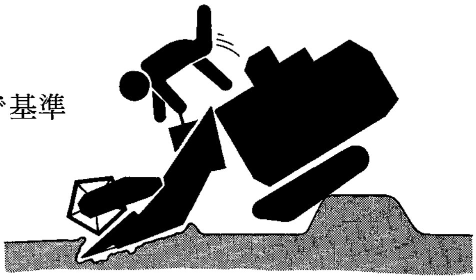
- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。


M-8219

⚠ ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

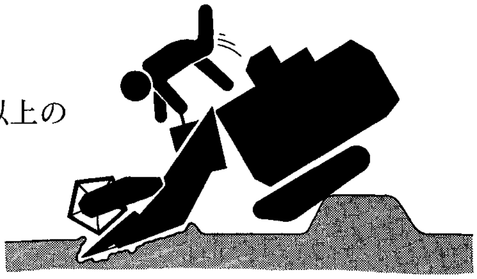
- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。


M-8221

【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

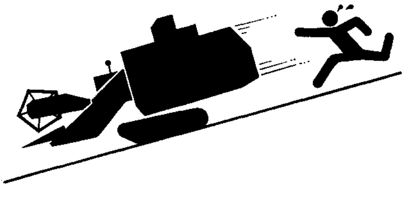
- 10cm以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。


M-8221

【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠ 駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを“標準”又は“低速”位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

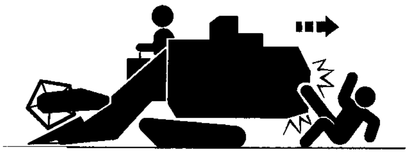

M-9200

【守らないと】
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

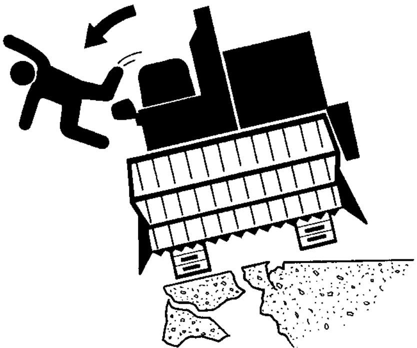
- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，補助者のＯＫをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。


M-8214

【守らないと】
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

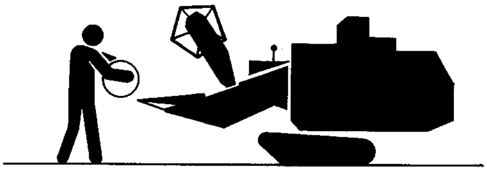
⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

【守らないと】
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。


M-8662

⚠投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部を下げてリールを最上昇位置にし，リール・刈刃クラッチレバーを必ず**“切”**位置にし，作物は少しずつ投げ入れる。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。


M-9202

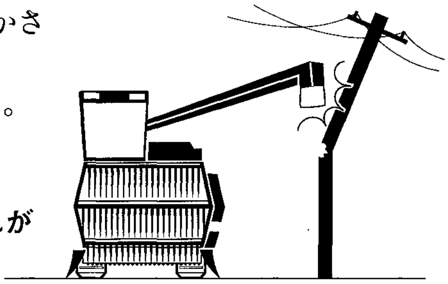
【守らないと】
リールに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

⚠ アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

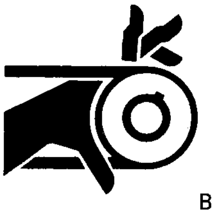
【守らないと】
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



M-10247

⚠ 異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- かんの巻付きや詰まりを取除くときや，こく粒の点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを“**切**”位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- こぎ胴に詰まったかんなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

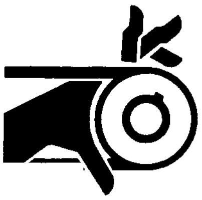


B-1506

【守らないと】
チェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。



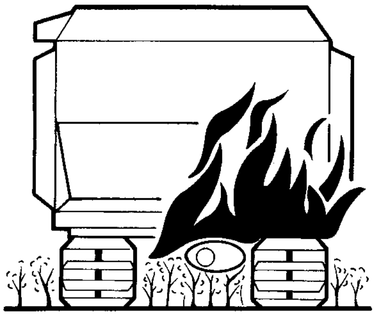
B-1506

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆作業後・格納時の注意事項

⚠排かんくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

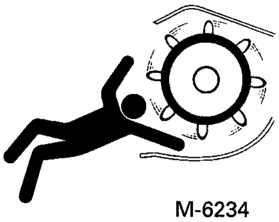
【守らないと】
排かんくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。



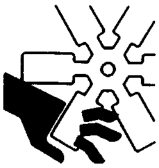
M-6238

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

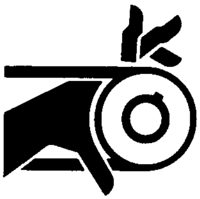
【守らないと】
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



B-1505

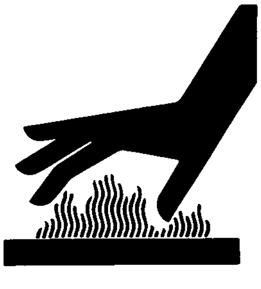


B-1506

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体，マフラ，排気管は，停止直後は触れない。

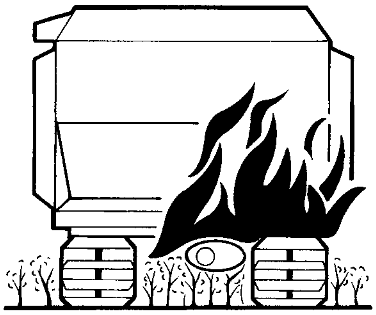
【守らないと】
やけどを負うおそれがあります。



B-1502

⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺の排かんくずを点検し，きれいに取除く。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

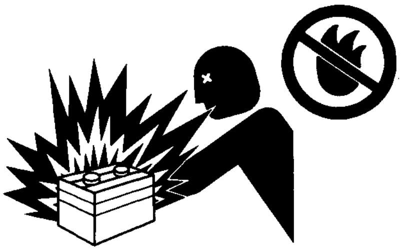
⚠ 安全に作業するために

⚠ 掃除するときは，刈刃の刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

【守らないと】
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。



F-8836

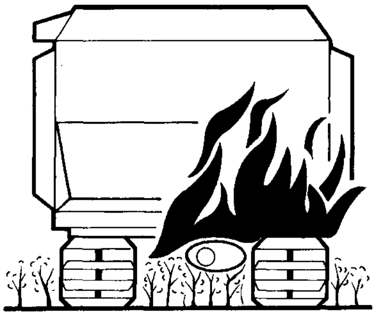
⚠ ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

【守らないと】
ショートによる火災発生のおそれがあります。

B-1500

⚠ 機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。

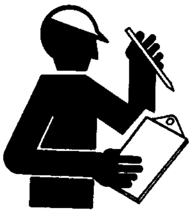


M-6238

◆点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

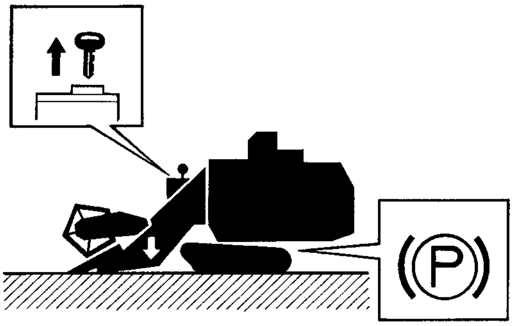
【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。



M-6220

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

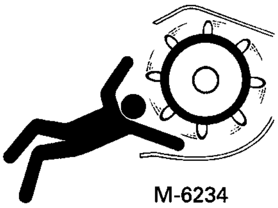
【守らないと】
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



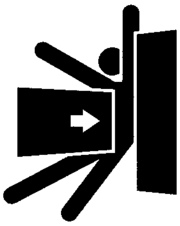
M-9203

⚠ホッパ【ホッパ仕様】，グレンタンク後部カバー【グレンタンク仕様】をオープンしたときは，ストッパで固定する。

【守らないと】
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



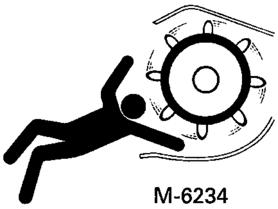
M-6234



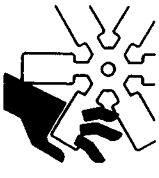
M-8676

⚠脱こく左サイドカバー，脱こく上部カバー，エンジンルーム，ホッパ【ホッパ仕様】，グレンタンク【グレンタンク仕様】をオープンしたままエンジンを回さない。

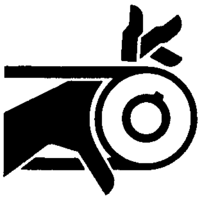
【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



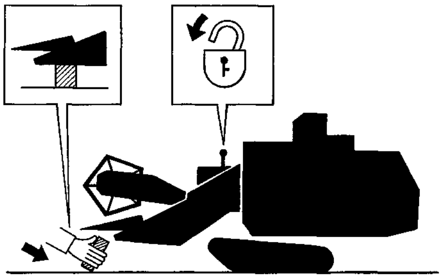
B-1505



B-1506

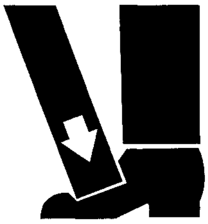
⚠ 安全に作業するために

⚠ 刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。


M-8226

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

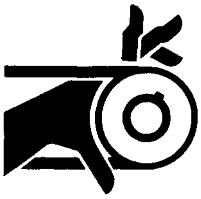
【守らないと】
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


M-8659

⚠ 刈刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠ 取外したカバー類は，必ず取付ける。

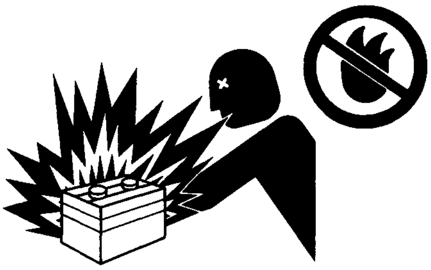

B-1506

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス⊖側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス⊕側のケーブルをプラス⊕側の端子に取付ける。

【守らないと】
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

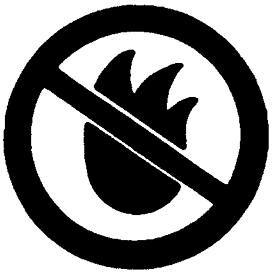


F-8836

⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。【補水タイプ】

- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

【守らないと】
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

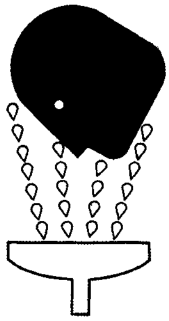


F-8836

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐに水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗う。

【守らないと】
失明やヤケドのおそれがあります。

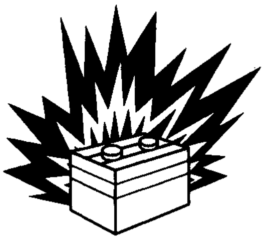


F-8837

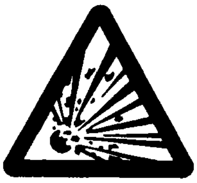
⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

【守らないと】
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



F-8836改



M-6465

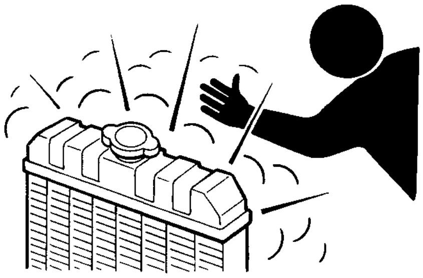
⚠ 安全に作業するために

⚠ ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

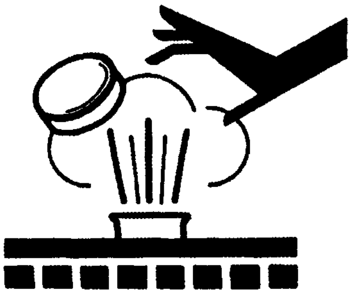
- エンジン停止後，３０分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータの圧力キャップを 徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



B-1503



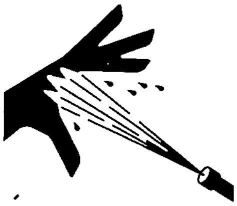
F-8846

⚠ フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

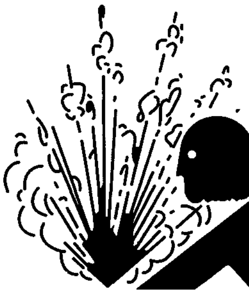
- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。



M-8665



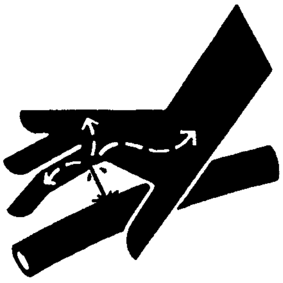
M-8666

⚠ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

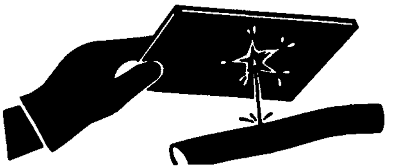
- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。



F-8847

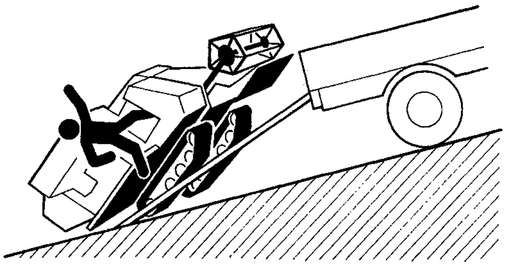


B-1504

◆運搬時の注意事項

⚠トラックへの積込み・積降ろしは平たん地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。



M-9204

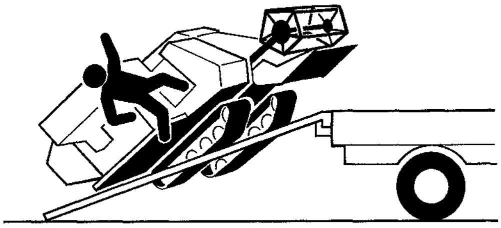
【守らないと】
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろしには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm以上
数量	２枚
強度	１枚が2800kg以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。



M-8215

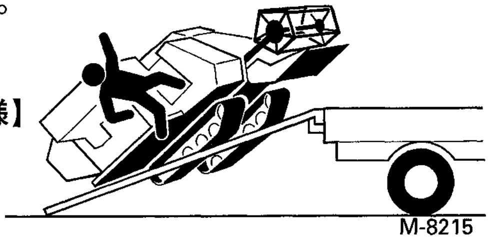
【守らないと】
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降ろし前に，こく粒はすべて排出，又は降ろす。

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納する。

【グレンタンク仕様】

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

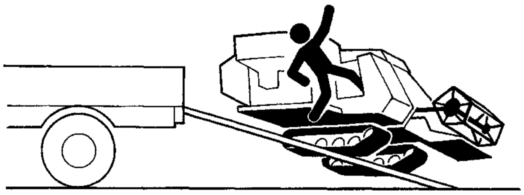


M-8215

【守らないと】
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積込み・積降ろしは最低速で行なう。

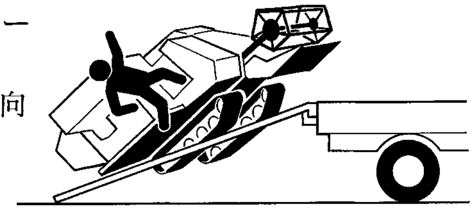
- 積込みは前進で，積降ろしは後進で行なう。



M-9205

【守らないと】
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

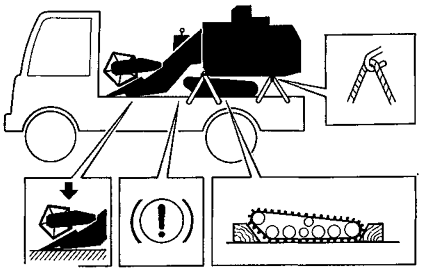
▲ あゆみ板の上では方向修正しない。


M-8215

- あゆみ板の上では，SFワンレバー・副変速レバー・駐車ブレーキは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

【守らないと】
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

▲ トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

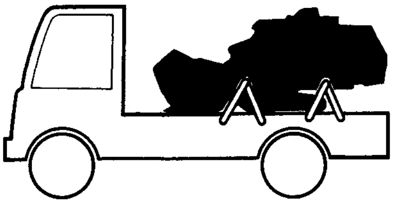


M-8216

- 副変速レバーを**“標準”**位置又は**“低速”**位置にする。
- 所定の**“ロープ掛けフック（4カ所）”**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

【守らないと】
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

▲ 輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

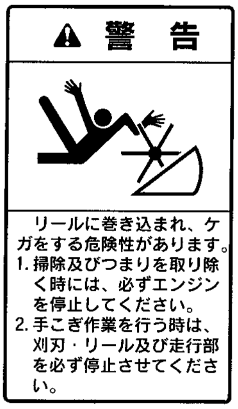

M-8313

【守らないと】
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

2. 安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置

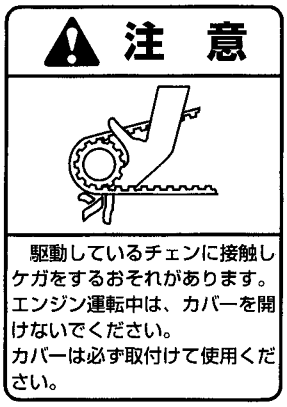
①品番　5T008-5586-1



⚠ 警　告

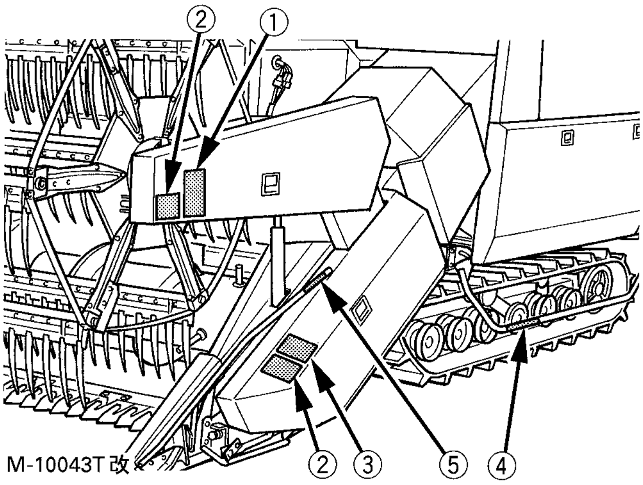
リールに巻き込まれ、ケガをする危険性があります。
1. 掃除及びつまりを取り除く時には、必ずエンジンを停止してください。
2. 手こぎ作業を行う時は、刈刃・リール及び走行部を必ず停止させてください。

②品番　5T008-5592-1

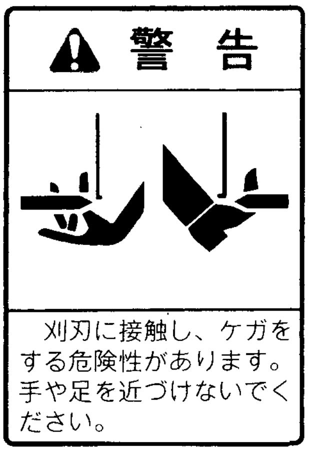


⚠ 注　意

駆動しているチェンに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

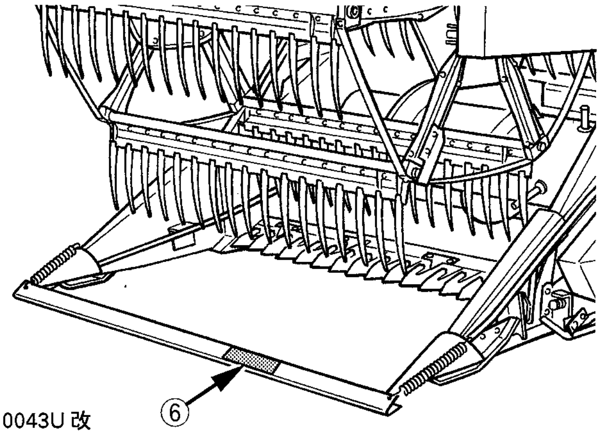


③品番　5T008-5584-1



⚠ 警　告

刈刃に接触し、ケガをする危険性があります。
手や足を近づけないでください。



④品番　5H601-4344-1

⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

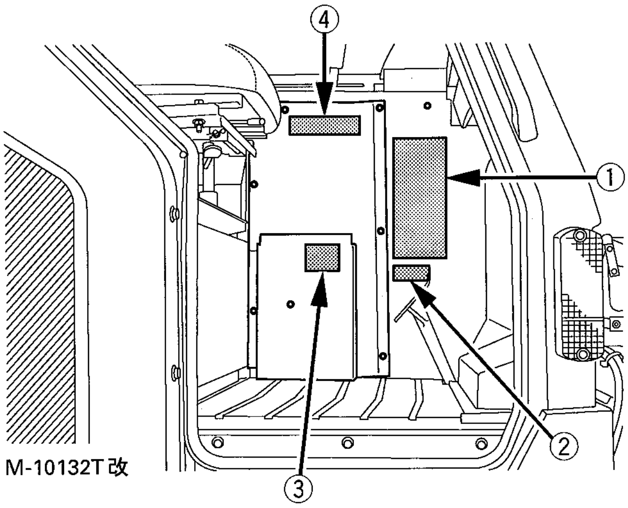
⑤品番　59700-2136-2

⚠注意	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑥品番　5T008-5589-1

⚠注意	移動時は装着してください

⚠ 安全に作業するために



①品番　5H706-4328-1

⚠ 注　　意

作業前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキを「入」にし、各作業クラッチを「切」にすること。
3．屋内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので換気すること。
4．ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1．発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2．転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3．走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
4．道路交通法規定により、トラック運搬時（特にキャビン付）は、地上高3.8m以下で運行すること。
5．刈取作業時以外（あぜ乗越時、移動走行時、運搬時、格納時）は、「もみ」をすべて排出または降ろして、各作業クラッチを“切”にし、M仕様（車体水平制御）は、機体を一番下げた状態にすること。

積込・積降ろし
1．転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
　①積み込むときは前進で、降ろすときは後進にすること。
　②副変速を倒伏（低速）にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、低速にすること。
　③あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
　④あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1．火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。
2．急発進・暴走の危険があるので、副変速レバーを切り換えるときは、平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3．機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

②品番　5H706-4324-1

⚠ 注　　意

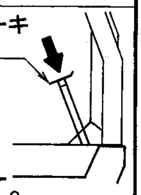
エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキを「入」にし、各作業クラッチを「切」にすること。

③品番　5H700-4322-1

⚠ 注　　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの操作方法



①主変速レバーを「停止」位置にし停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、もう一度ペダルを踏み込んで下さい。

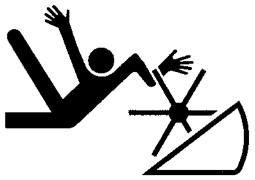
④品番　5H601-4354-1

⚠ 注　　意

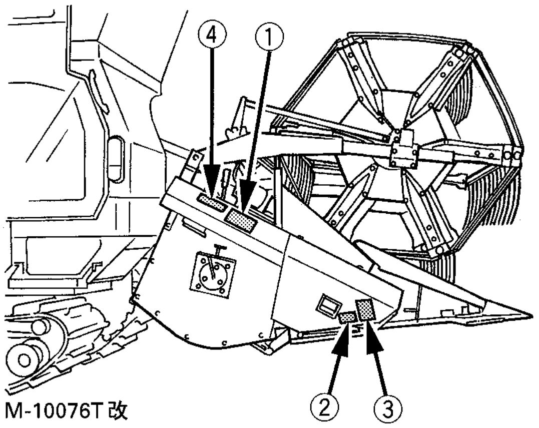
坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと

①品番　5T008-5586-1

⚠ 警　告



リールに巻き込まれ、ケガをする危険性があります。
1. 掃除及びつまりを取り除く時には、必ずエンジンを停止してください。
2. 手こぎ作業を行う時は、刈刃・リール及び走行部を必ず停止させてください。



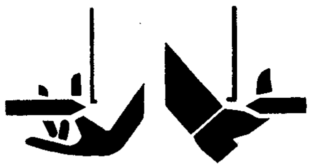
②品番　5T008-5585-1

⚠ 注　意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

③品番　5T008-5584-1

⚠ 警　告



刈刃に接触し、ケガをする危険性があります。手や足を近づけないでください。

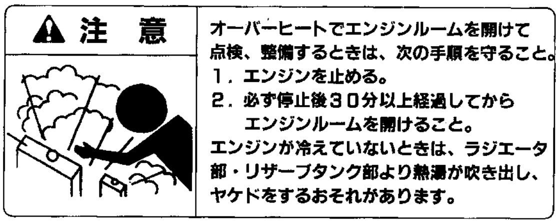
④品番　5T008-5588-1

⚠ 注 意

- 枕処理作業をするときは、必ずクラッチレバーを切って刈刃・リールを止めてください。

▲ 安全に作業するために

①品番　5H601-4343-1



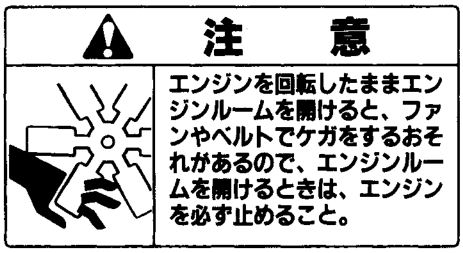
▲ 注　意

オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順を守ること。

1．エンジンを止める。
2．必ず停止後３０分以上経過してから
　　エンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

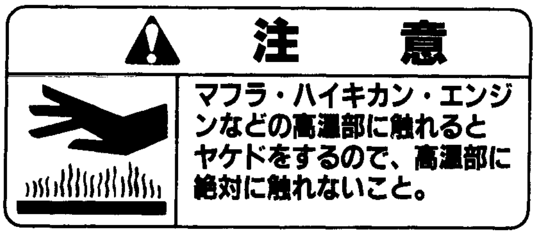
②品番　5H601-4342-1



▲ 注　意

エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

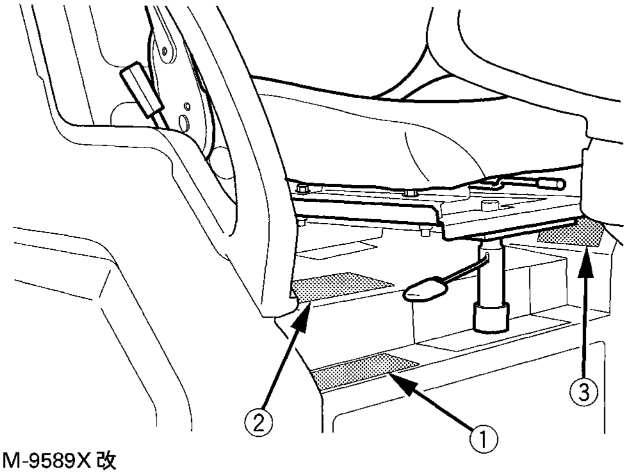
③品番　53220-3159-1



▲ 注　意

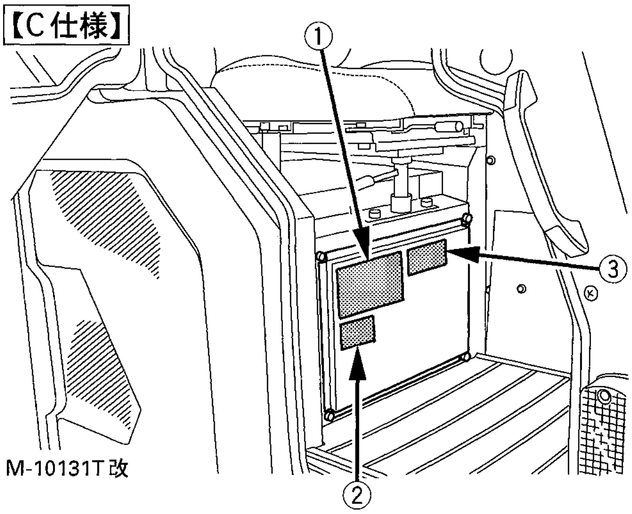
マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

【C仕様除く】

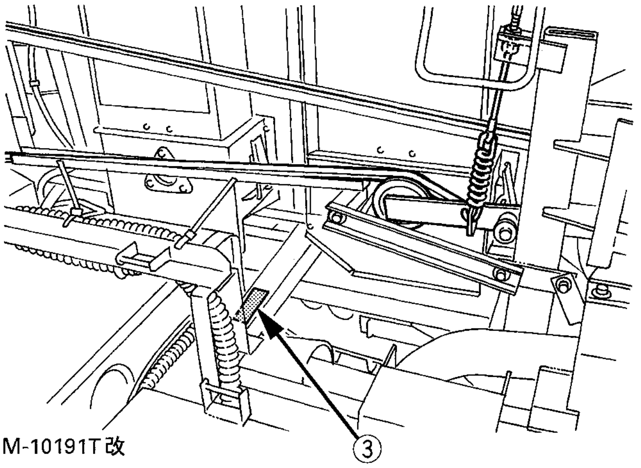


M-9589X 改

【C仕様】

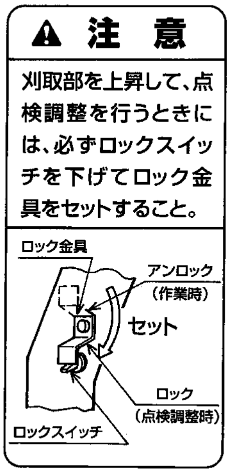


M-10131T 改



M-10191T 改

①品番　5H690-4322-1

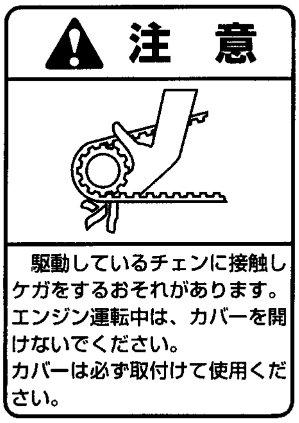


注　意

刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。

ロック金具
アンロック
（作業時）
セット
ロック
（点検調整時）
ロックスイッチ

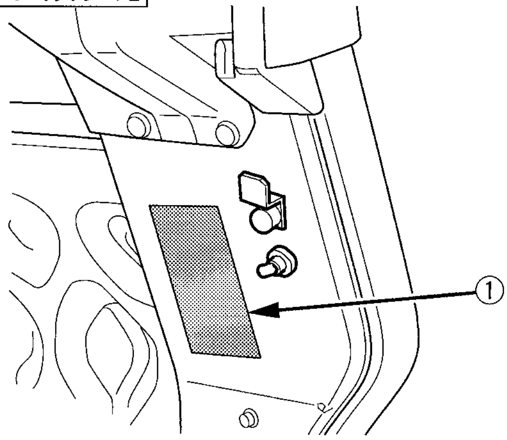
②品番　5T008-5592-1



注　意

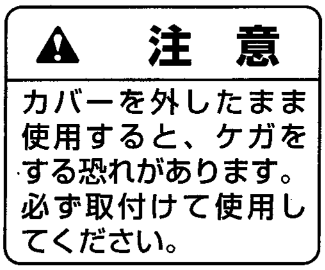
駆動しているチェンに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。カバーは必ず取付けて使用ください。

【C仕様除く】



M-9581T改

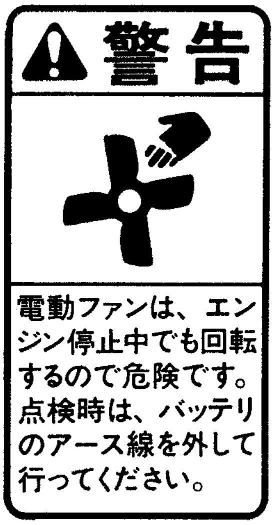
③品番　5T008-5585-1



注　意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

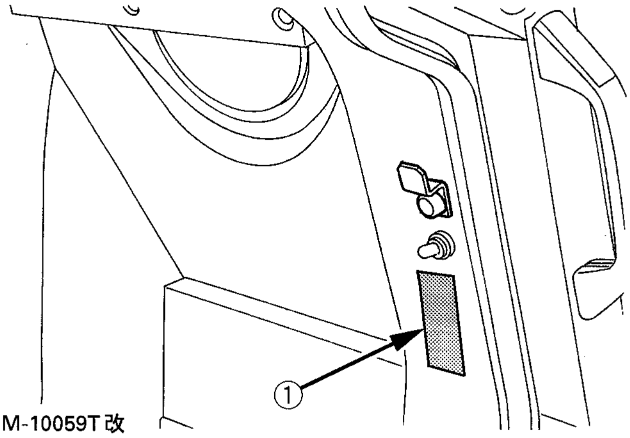
④品番　5T008-5582-1



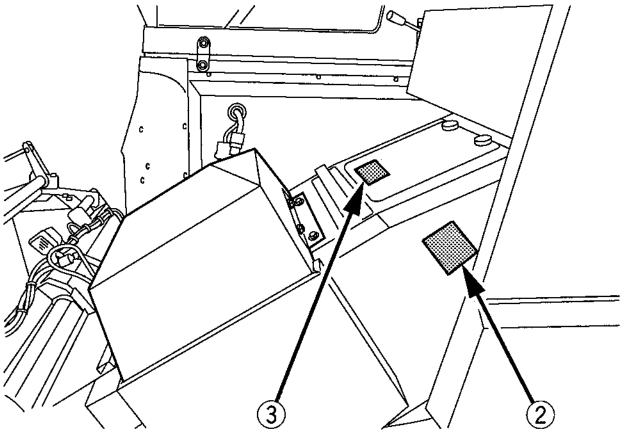
警告

電動ファンは、エンジン停止中でも回転するので危険です。点検時は、バッテリのアース線を外して行ってください。

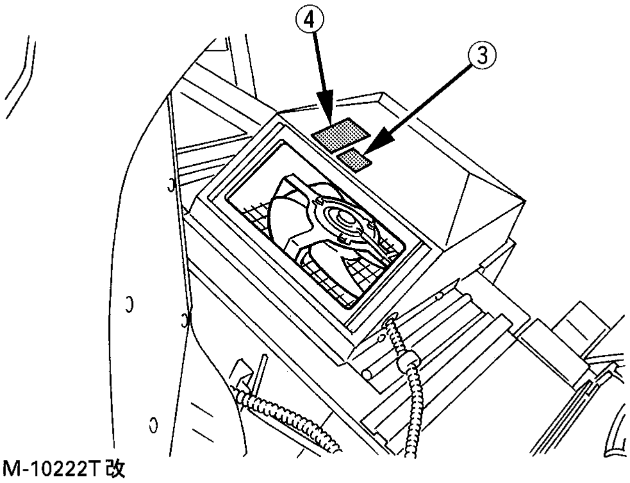
【C仕様】



M-10059T改



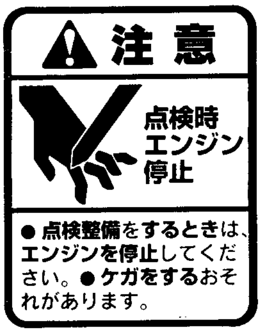
M-10092T改



M-10222T改

▲ 安全に作業するために

①品番　5T009-6434-1

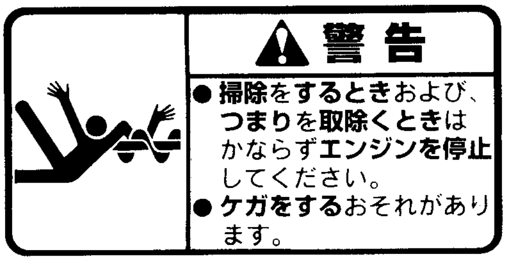


▲ 注 意

点検時
エンジン
停止

● **点検整備をするとき**は、**エンジンを停止**してください。● **ケガをする**おそれがあります。

②品番　5T009-6431-1

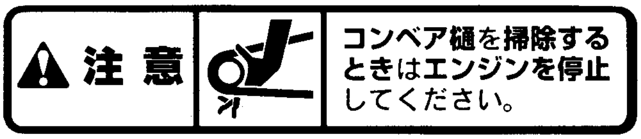


▲ 警 告

● **掃除をするとき**および、**つまりを取除くとき**は かならず**エンジンを停止**してください。

● **ケガをする**おそれがあります。

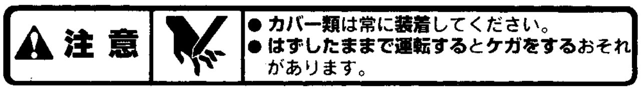
③品番　5T009-6433-1



▲ 注 意

コンベア樋を掃除するときはエンジンを停止してください。

④品番　5T009-6435-1

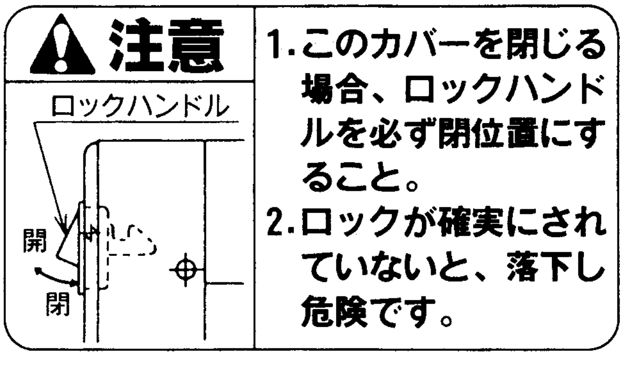


▲ 注 意

● **カバー類は常に装着**してください。

● **はずしたままで運転するとケガをするおそれ**があります。

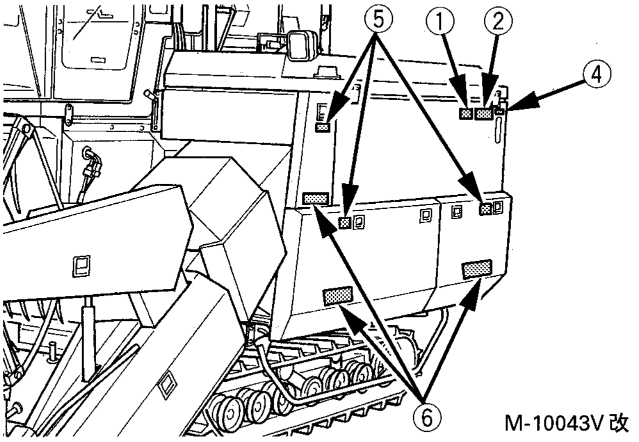
⑤品番　5K190-6433-1



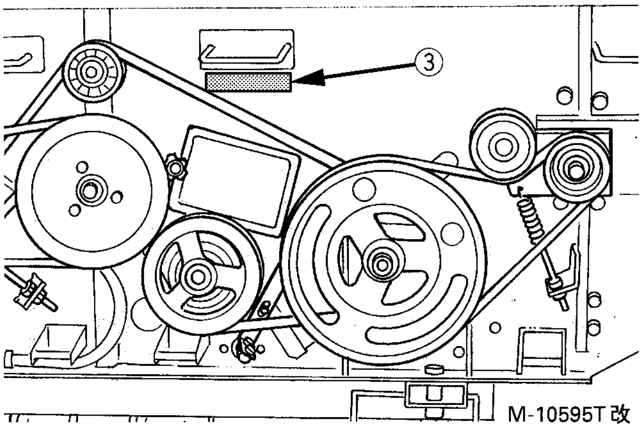
▲ 注意

1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。

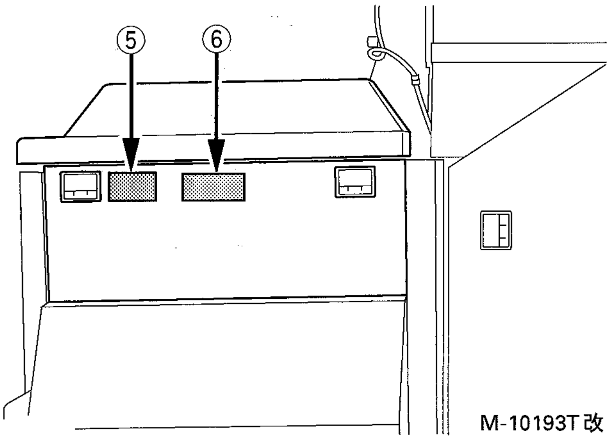
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。



M-10043V改

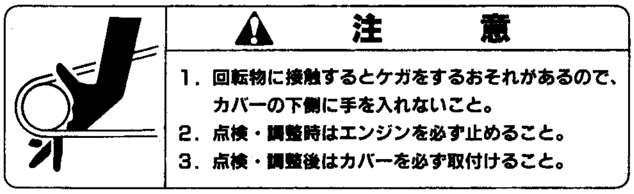


M-10595T改



M-10193T改

⑥品番　5K200-6436-1



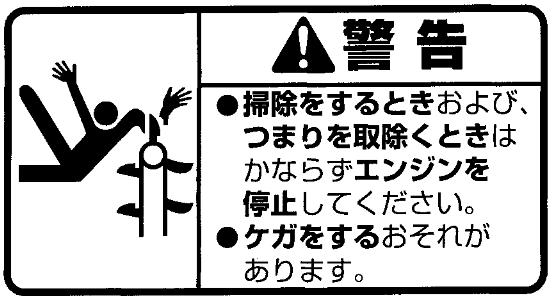
▲ 注 意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。

2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。

3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

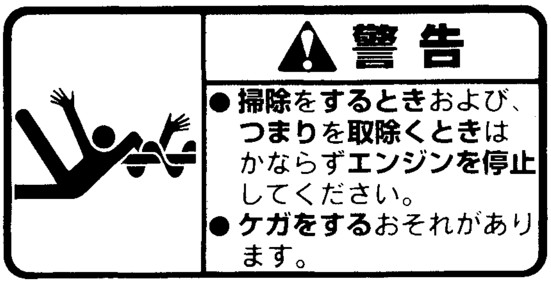
①品番　5T009-6161-1



警　告

- **掃除をするとき**および、**つまりを取除くとき**はかならず**エンジンを停止**してください。
- **ケガをする**おそれがあります。

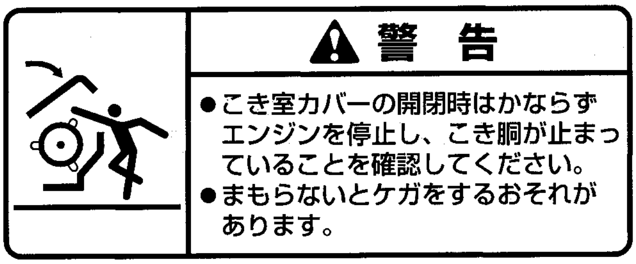
②品番　5T009-6432-1



警　告

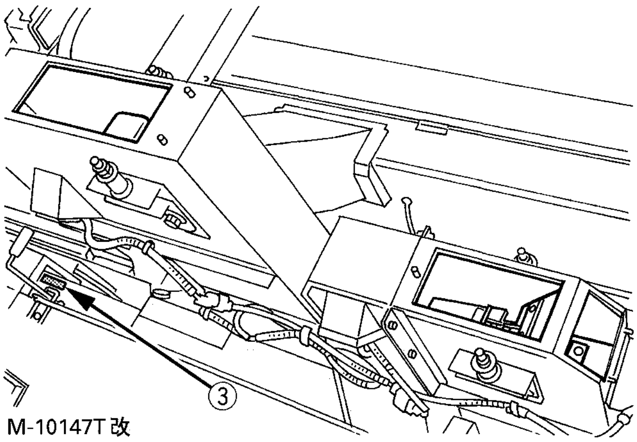
- **掃除**を**するとき**および、**つまり**を**取除くとき**はかならず**エンジンを停止**してください。
- **ケガをする**おそれがあります。

③品番　5T009-6725-1



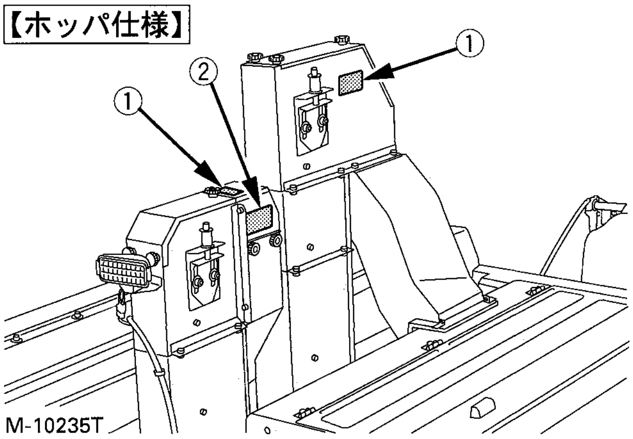
警　告

- こき室カバーの開閉時はかならずエンジンを停止し、こき胴が止まっていることを確認してください。
- まもらないとケガをするおそれがあります。



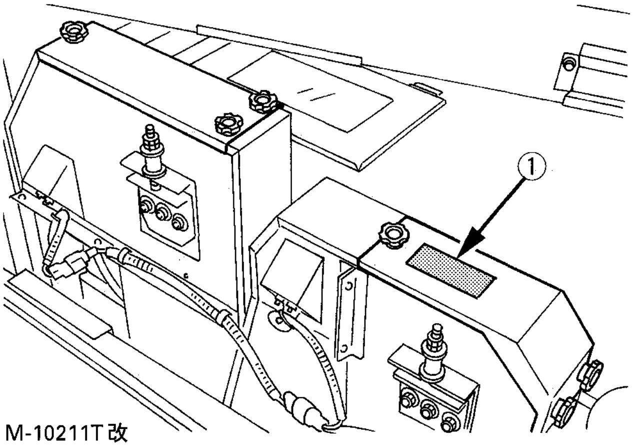
M-10147T改

【ホッパ仕様】



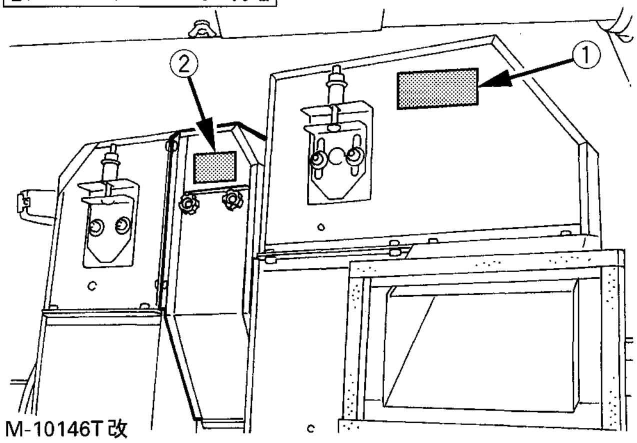
M-10235T

【グレンタンク仕様】



M-10211T改

【グレンタンク仕様】



M-10146T改

①品番　5T000-4392-1【ホッパ仕様】

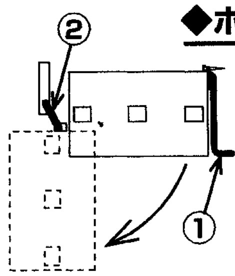
⚠ 注意

◆ホッパーをオープンするときは

1.ホッパーに身体がはさまれる恐れがあるので必ず平坦な場所で行うこと。
2.内部の「こく粒」は全て排出すること。
3.エンジンは必ず停止して行うこと。
4.開閉時は、周囲を確認しゆっくり行うこと。

◆エンジン始動時は必ずホッパーを収納固定しておくこと。

◆ホッパーオープンのしかた



㋑ オープンレバー ① を引きながらタンクをゆっくりと開きます。
㋺ 固定ロッド ② で固定します。
㋩ タンクを元に戻す時は、上記の逆の手順で行います。

②品番　52166-2119-2【ホッパ仕様】

⚠ 注意

1. 転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

③品番　5T000-4382-1【グレンタンク仕様】

⚠ 注意

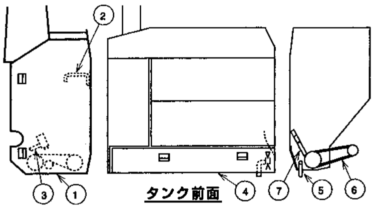
◆グレンタンクをオープンするときは、

1. タンクに身体がはさまれるおそれがあるので必ず平坦な場所で行うこと。
2. 内部の「こく粒」はすべて排出すること。
3. エンジンは必ず停止して行うこと。
4. 開閉時は、周囲を確認した後、静かに行うこと。

◆エンジン始動時は必ずタンクを収納固定しておくこと。

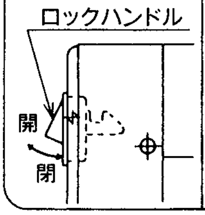
◆タンクオープンのしかた

㋑ 後部カバー ① を開き、固定ロッド ② で固定します。
㋺ クラッチレバー ③ を解除し、ブイベルトを外します。
㋩ サイドカバー ④ を外し、タンク下の固定ピン ⑤ を引き上げロックします。
㊁ ブイベルト ⑥ をプーリから外した後、オープンレバー ⑦ を引きながら、タンクをゆっくりと開きます。
㋭ タンクを元に戻す時は、上記の逆の手順で行います。



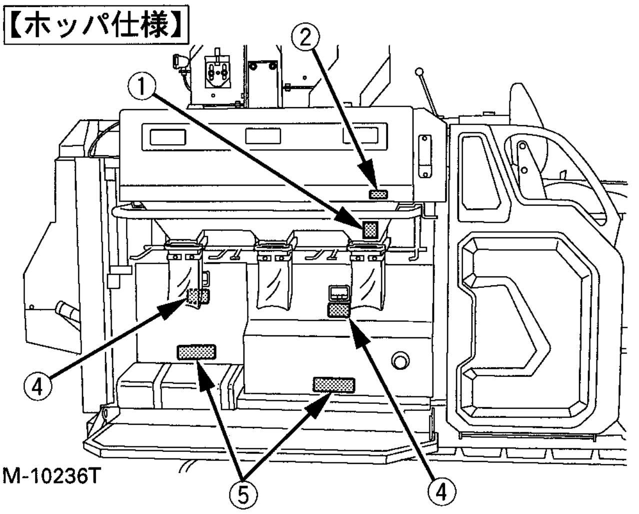
④品番　5K190-6433-1

⚠ 注意



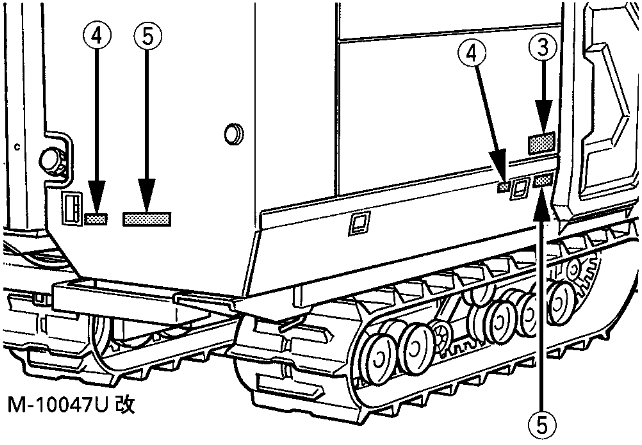
1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

【ホッパ仕様】



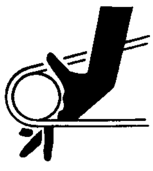
M-10236T

【グレンタンク仕様】



M-10047U 改

⑤品番　5K200-6436-1



⚠ 注意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

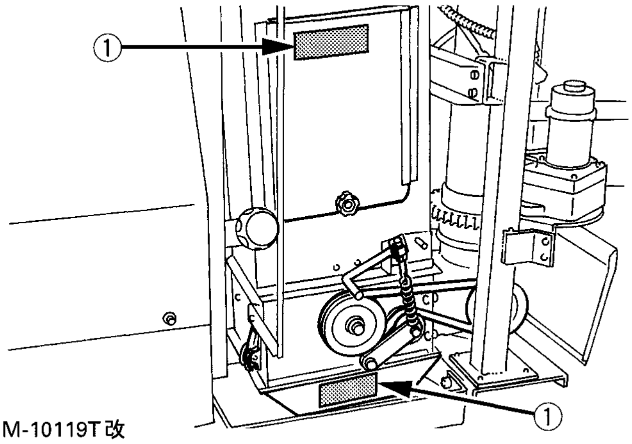
①品番　5K190-6461-1【グレンタンク仕様】

注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

【グレンタンク仕様】



M-10119T改

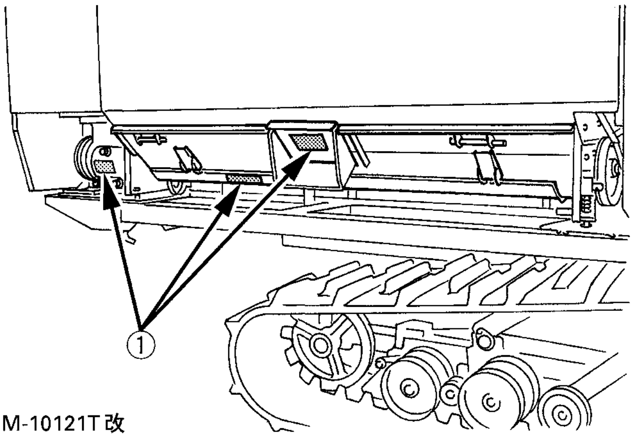
②品番　53981-6434-1【グレンタンク仕様】

注意

掃　除　口

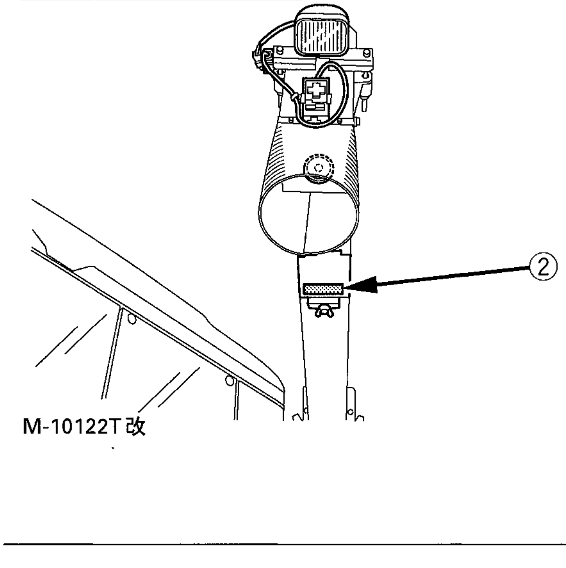
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

【グレンタンク仕様】



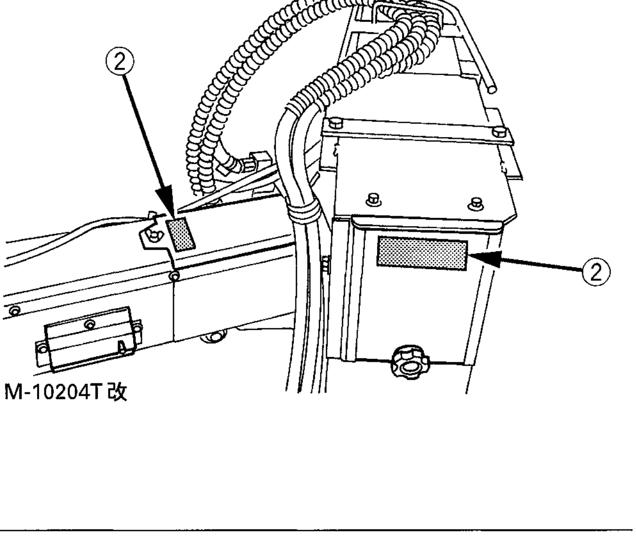
M-10121T改

【グレンタンク仕様】



M-10122T改

【グレンタンク仕様】



M-10204T改

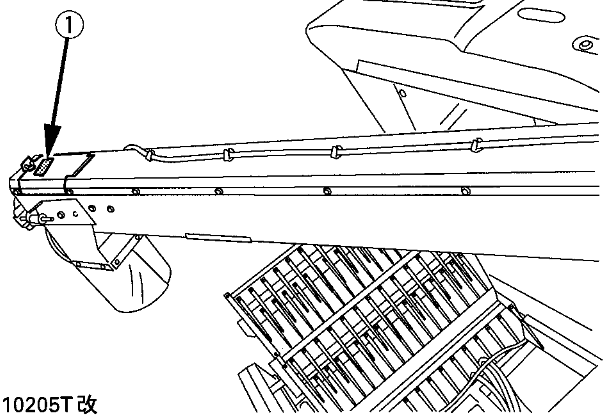
①品番　53981-6434-1【グレンタンク仕様】

掃　除　口

注意

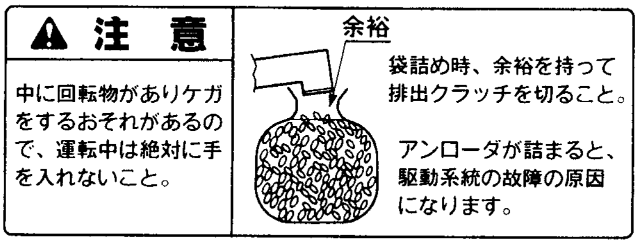
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

【グレンタンク仕様】



M-10205T改

②品番　5G200-6425-1【グレンタンク仕様】



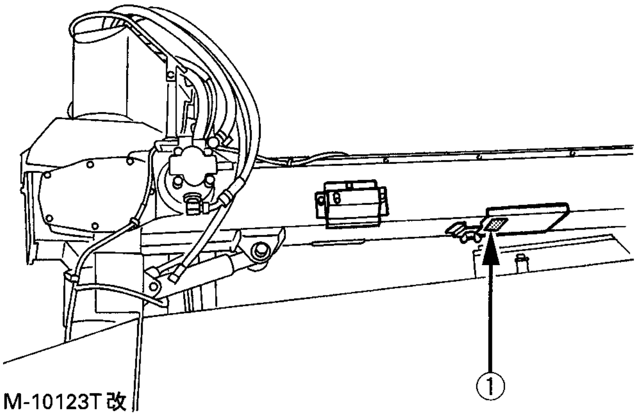
注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。

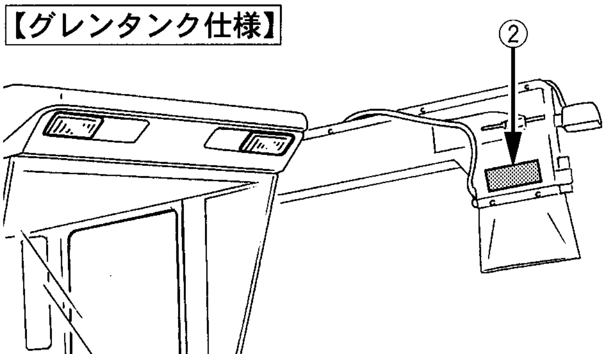
アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

【グレンタンク仕様】



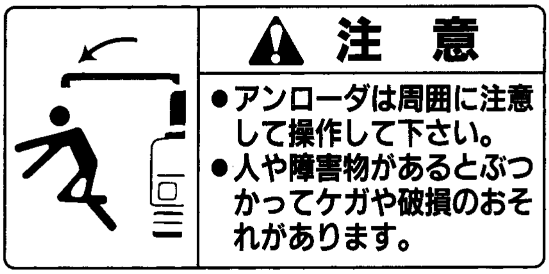
M-10123T改

【グレンタンク仕様】



M-10086T改

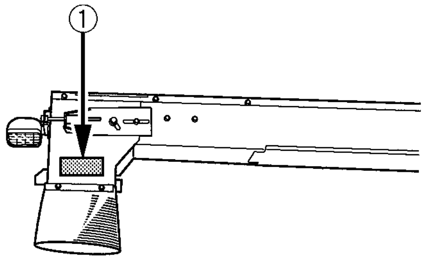
①品番　51971-3994-1【グレンタンク仕様】



注　意

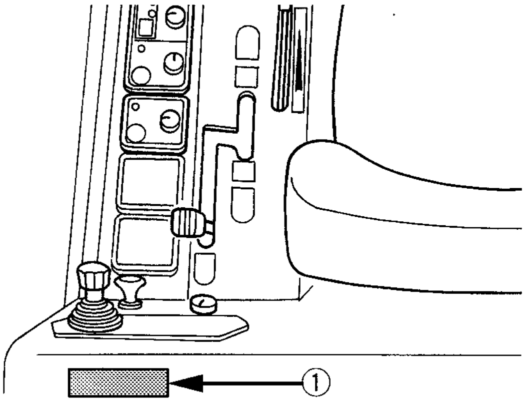
- アンローダは周囲に注意して操作して下さい。
- 人や障害物があるとぶつかってケガや破損のおそれがあります。

【グレンタンク仕様】



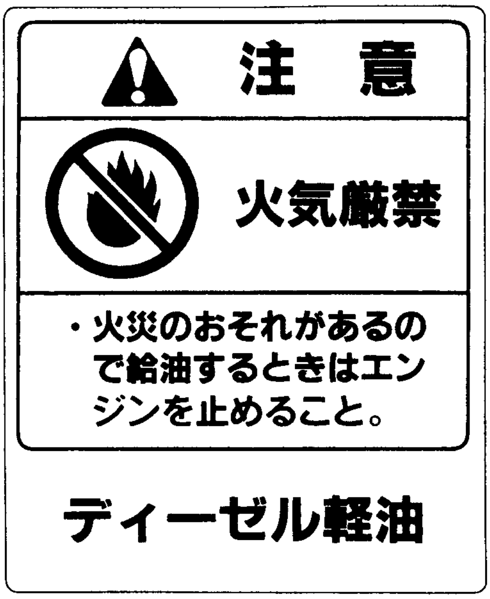
M-10081T改

【グレンタンク仕様】



M-9378T改

①品番　5K200-6212-1



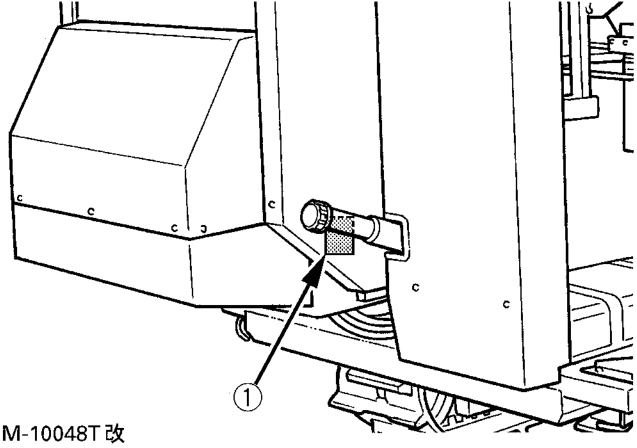
▲ 注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

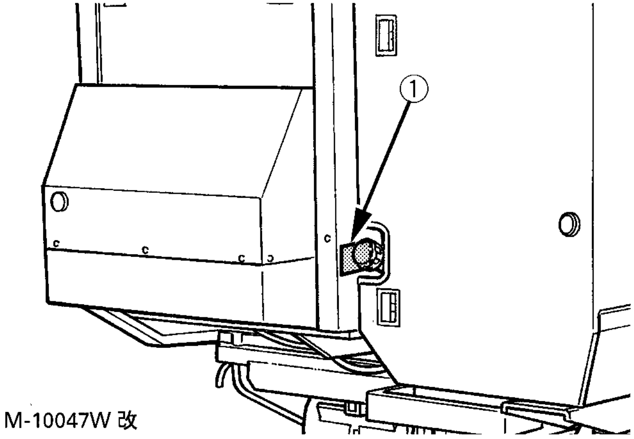
ディーゼル軽油

【ホッパ仕様】



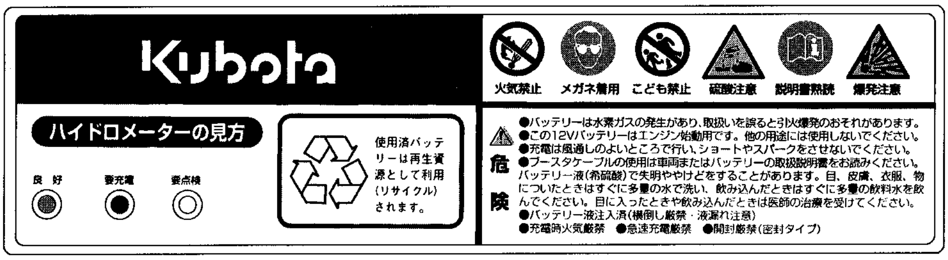
M-10048T 改

【グレンタンク仕様】



M-10047W 改

①品番　5H522-4112-1



Kubota

ハイドロメーターの見方

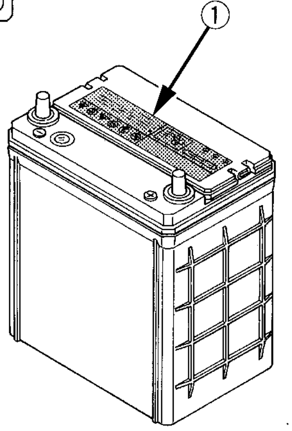
良　好　　要充電　　要点検

使用済バッテリーは再生資源として利用（リサイクル）されます。

火気禁止
メガネ着用
こども禁止
硫酸注意
説明書熟読
爆発注意

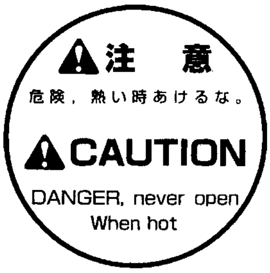
危険

●バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
●この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
●充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。
●ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。
バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
●バッテリー液注入済（横倒し厳禁・液漏れ注意）
●充電時火気厳禁　●急速充電厳禁　●開封厳禁（密封タイプ）



M-8568T

②品番　16667-8724-1



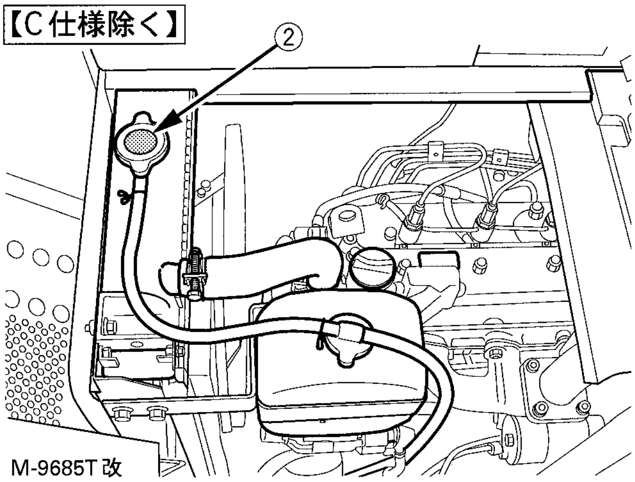
注　意

危険，熱い時あけるな。

CAUTION

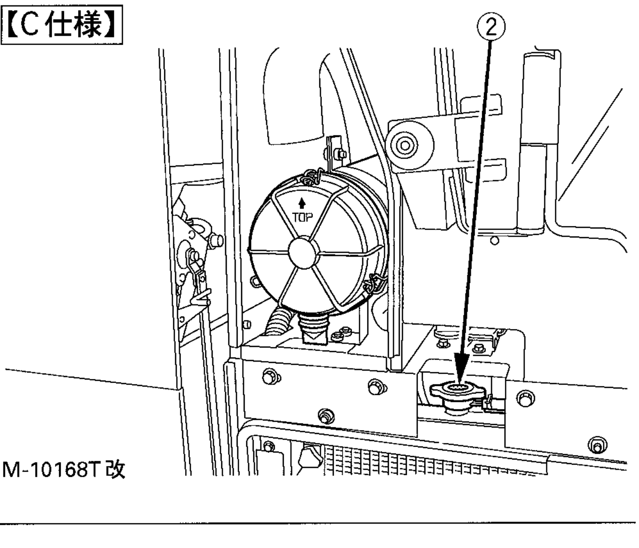
DANGER, never open When hot

【C仕様除く】



M-9685T 改

【C仕様】



M-10168T 改

3. ⚠表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠表示ラベルがよごれた場合は，石鹼水で洗い，やわらかい布でふく。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

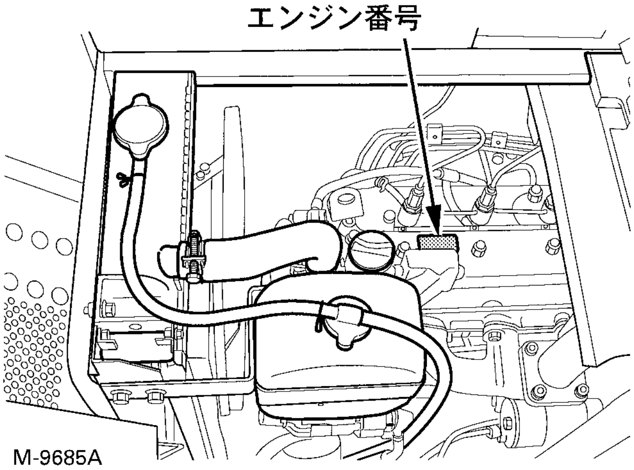
その際　⑴商品名・区分と車台番号
　　　　⑵とう載機関(エンジン)の型式名と機関番号

をあわせてご連絡ください。

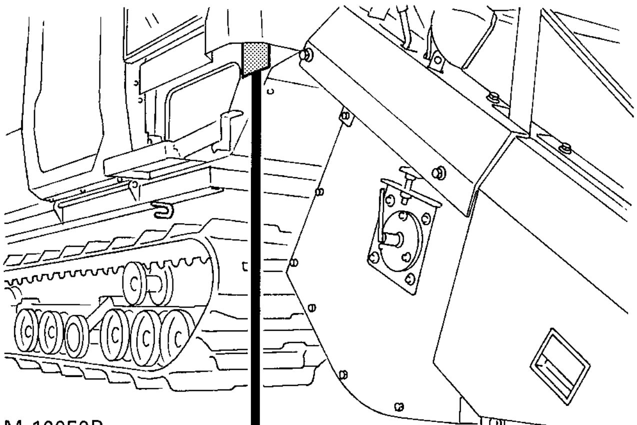
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

⚠ 警　告

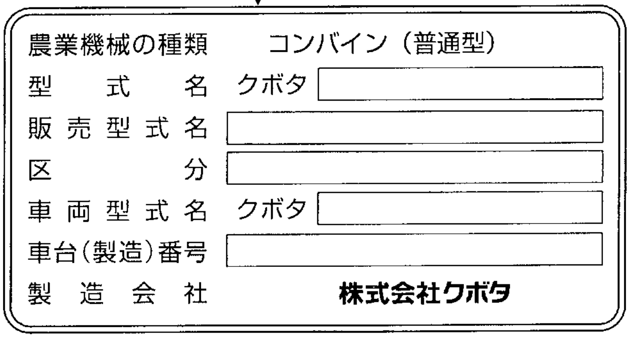
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



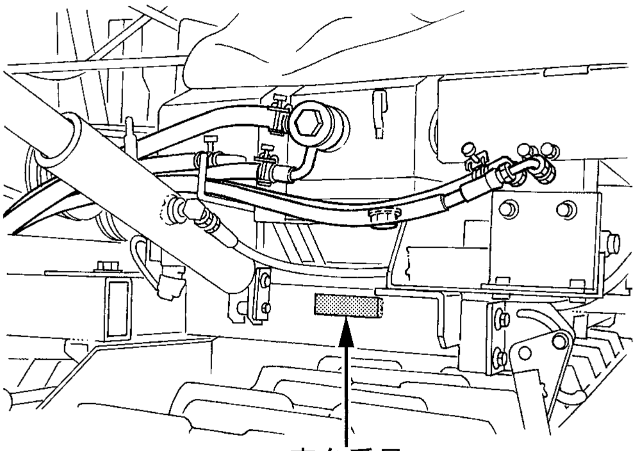
M-9685A



M-10050B



農業機械の種類	コンバイン（普通型）	
型　式　名	クボタ	
販売型式名		
区　　分		
車両型式名	クボタ	
車台(製造)番号		
製造会社	**株式会社クボタ**	



M-10051A

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

型式名	安全鑑定番号	対象型式区分
ARH350	27011	ARH350-H，CH
ARH350G	27012	ARH350-G，CG

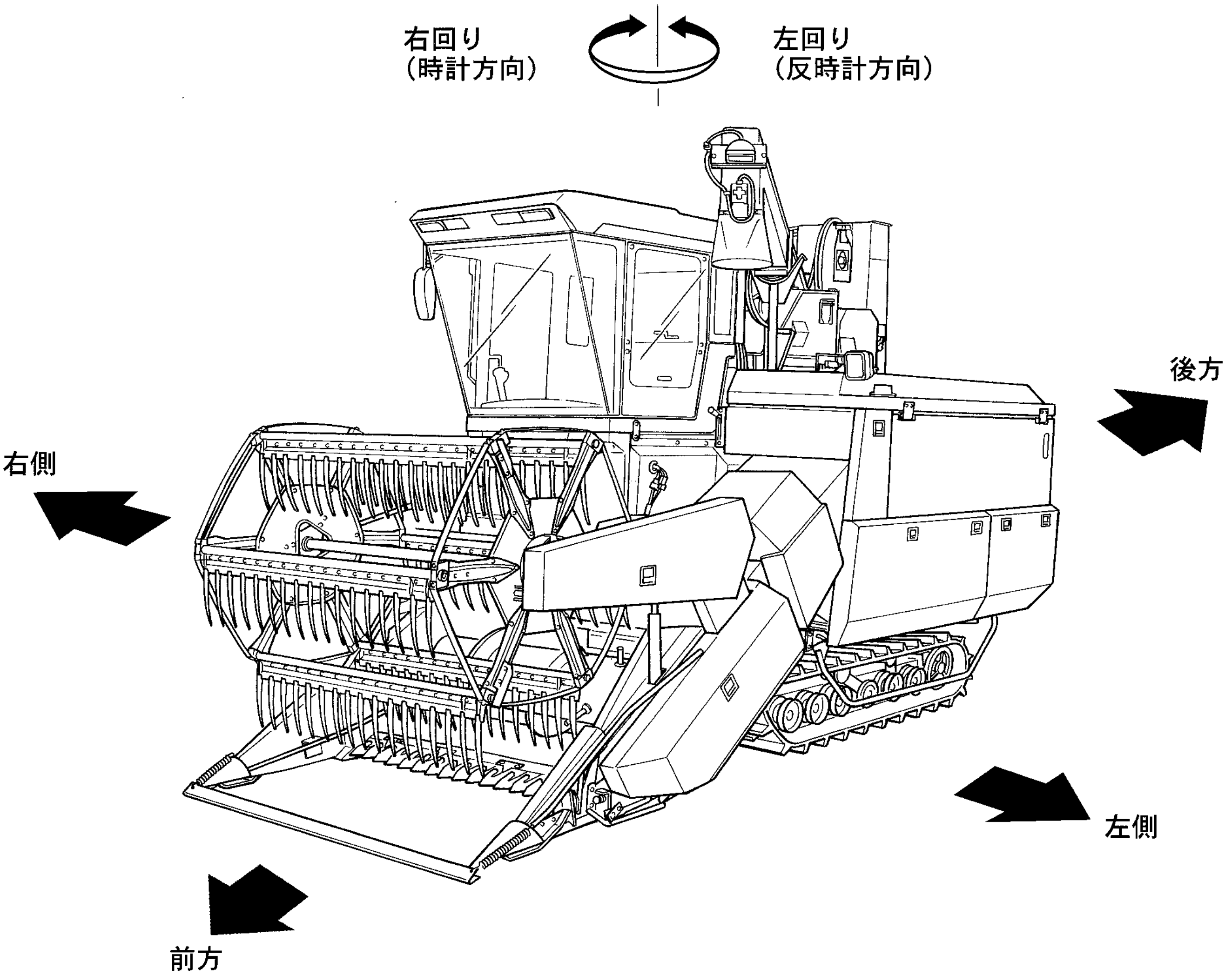
◆補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

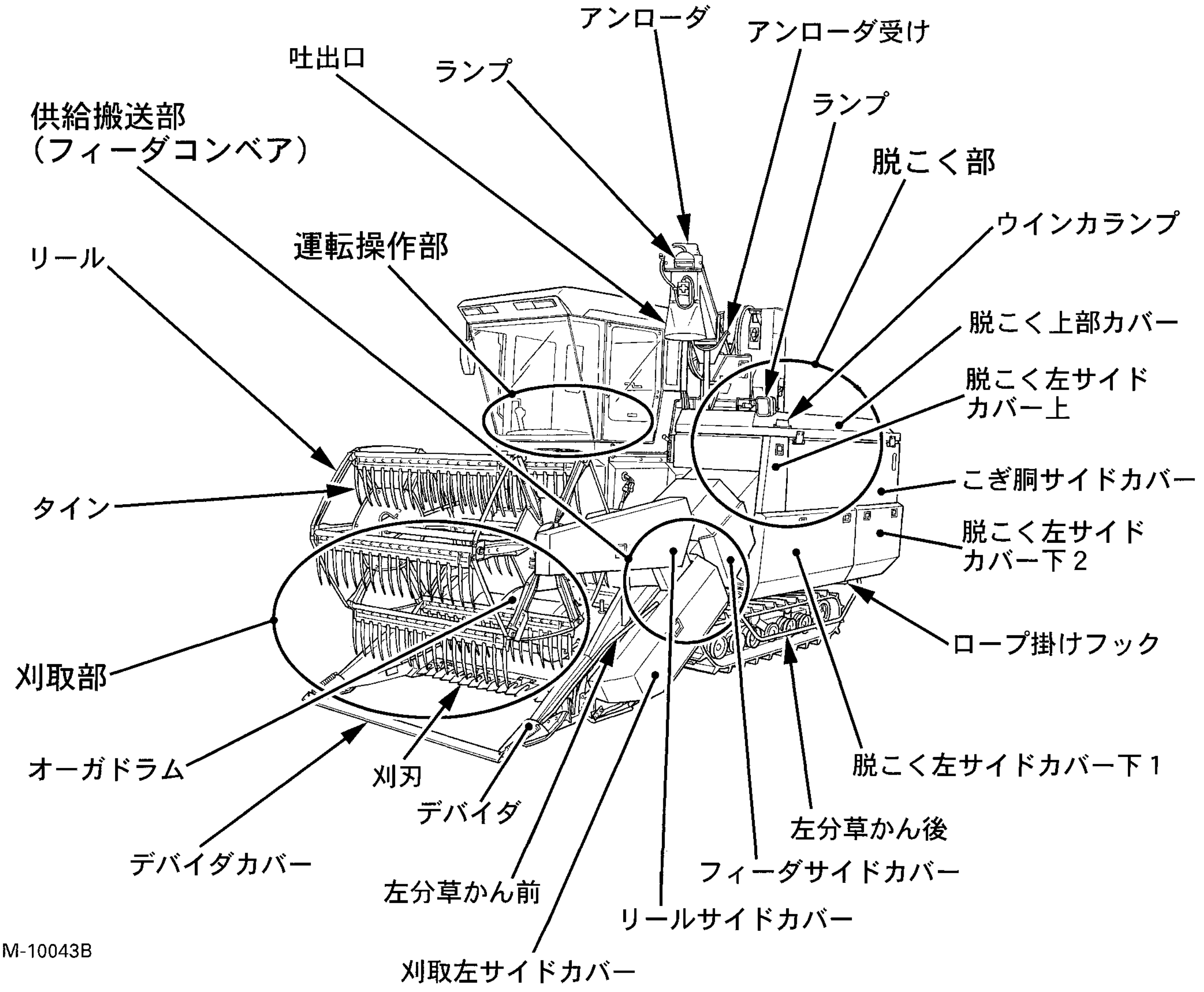

右回り
（時計方向）
左回り
（反時計方向）
後方
右側
左側
前方

M-10043A

装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

【グレンタンク仕様】

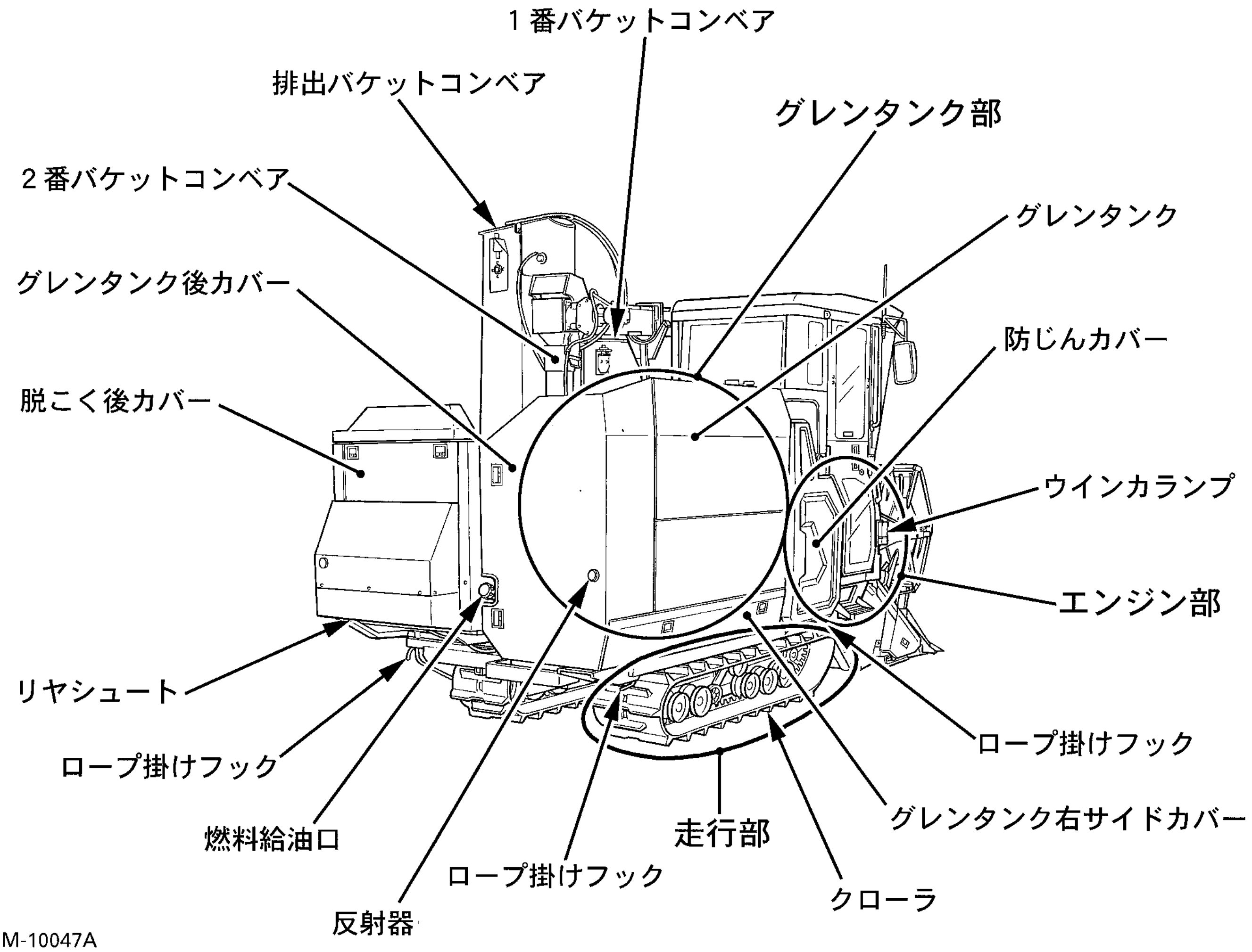

アンローダ
アンローダ受け
吐出口
ランプ
ランプ
供給搬送部
（フィーダコンベア）
脱こく部
ウインカランプ
リール
運転操作部
脱こく上部カバー
脱こく左サイド
カバー上
タイン
こぎ胴サイドカバー
脱こく左サイド
カバー下２
ロープ掛けフック
刈取部
オーガドラム
刈刃
デバイダ
脱こく左サイドカバー下１
左分草かん後
デバイダカバー
フィーダサイドカバー
左分草かん前
リールサイドカバー
刈取左サイドカバー

M-10043B

- **運転操作部**……………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**…………………作物の刈取りと引起しを行なうところ
- **供給搬送部**……………作物を脱こく部へ搬送するところ
  （フィーダコンベア）
- **脱こく部**………………作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……………グレンタンクからこく粒を排出する筒

装置の名称と各部のはたらき

【グレンタンク仕様】

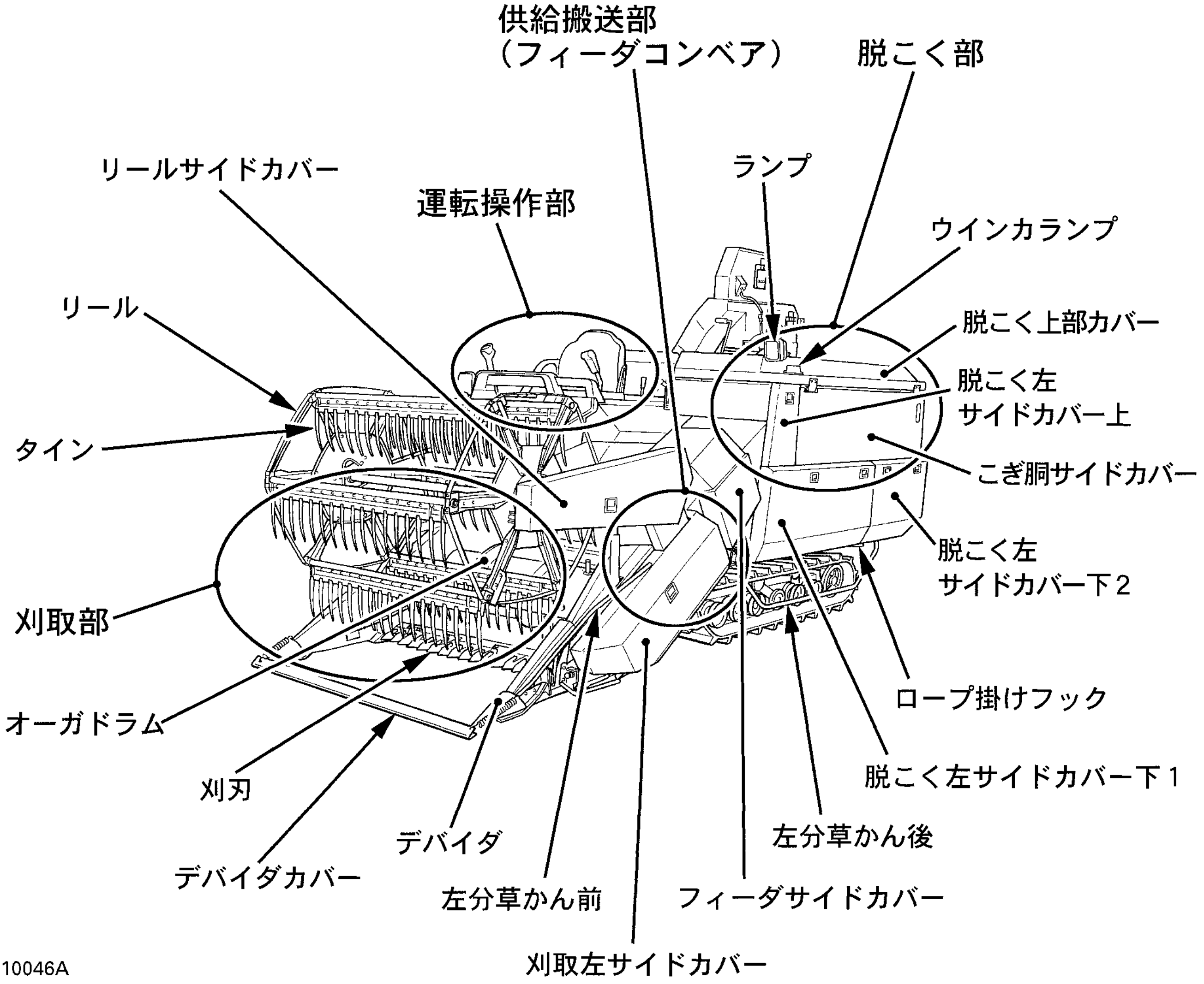

１番バケットコンベア
排出バケットコンベア
グレンタンク部
２番バケットコンベア
グレンタンク
グレンタンク後カバー
防じんカバー
脱こく後カバー
ウインカランプ
エンジン部
リヤシュート
ロープ掛けフック
ロープ掛けフック
燃料給油口
走行部
グレンタンク右サイドカバー
ロープ掛けフック
クローラ
反射器
M-10047A

- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ

装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

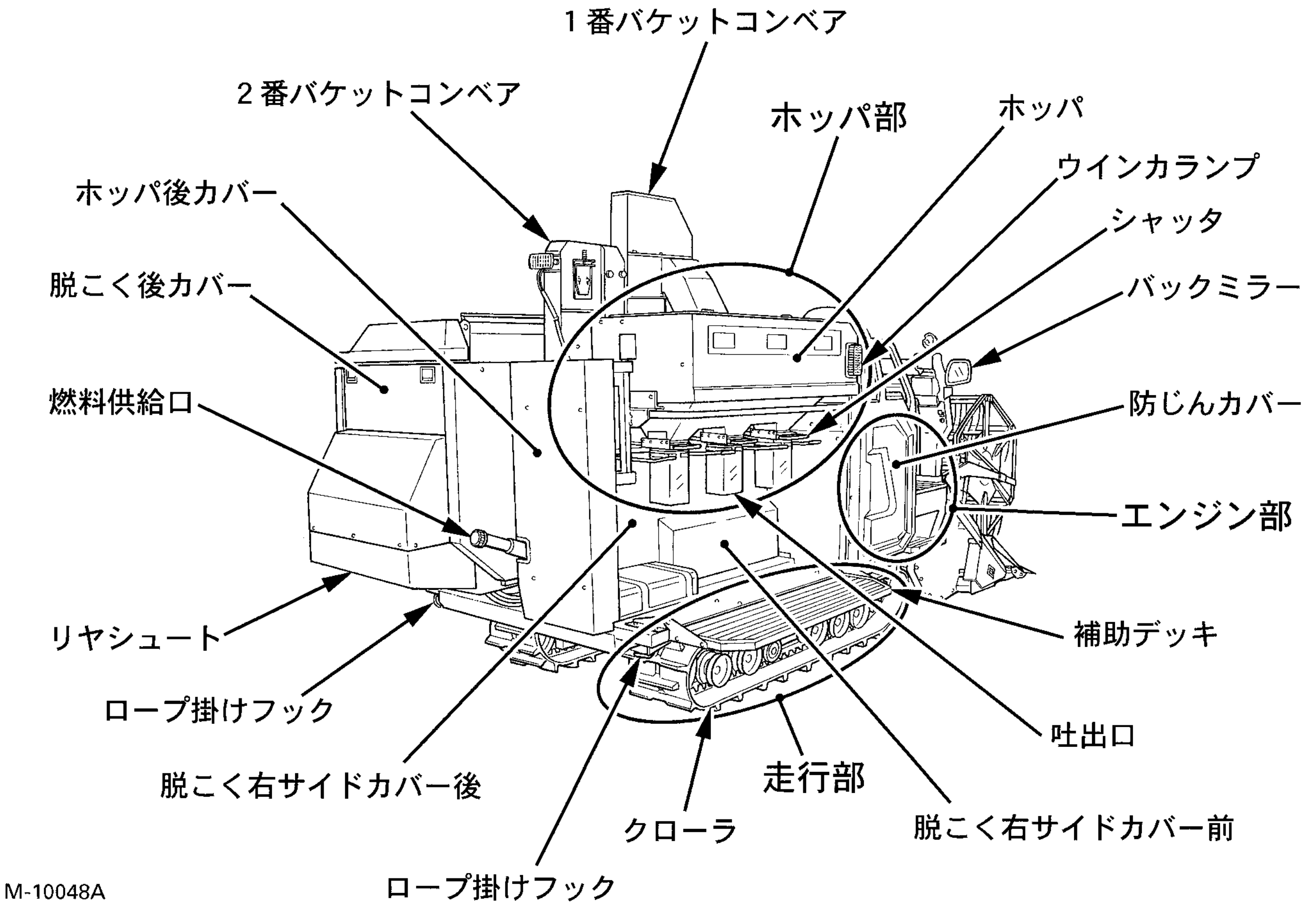
【ホッパ仕様】


供給搬送部
（フィーダコンベア）
脱こく部
リールサイドカバー
ランプ
運転操作部
ウインカランプ
リール
脱こく上部カバー
脱こく左
サイドカバー上
タイン
こぎ胴サイドカバー
脱こく左
サイドカバー下2
刈取部
ロープ掛けフック
オーガドラム
脱こく左サイドカバー下1
刈刃
デバイダ
左分草かん後
デバイダカバー
左分草かん前
フィーダサイドカバー
M-10046A
刈取左サイドカバー

- **運転操作部**……………………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**…………………………作物の刈取りと引起しを行なうところ
- **供給搬送部**……………………作物を脱こく部へ搬送するところ
  （フィーダコンベア）
- **脱こく部**………………………作物の脱こくを行なうところ

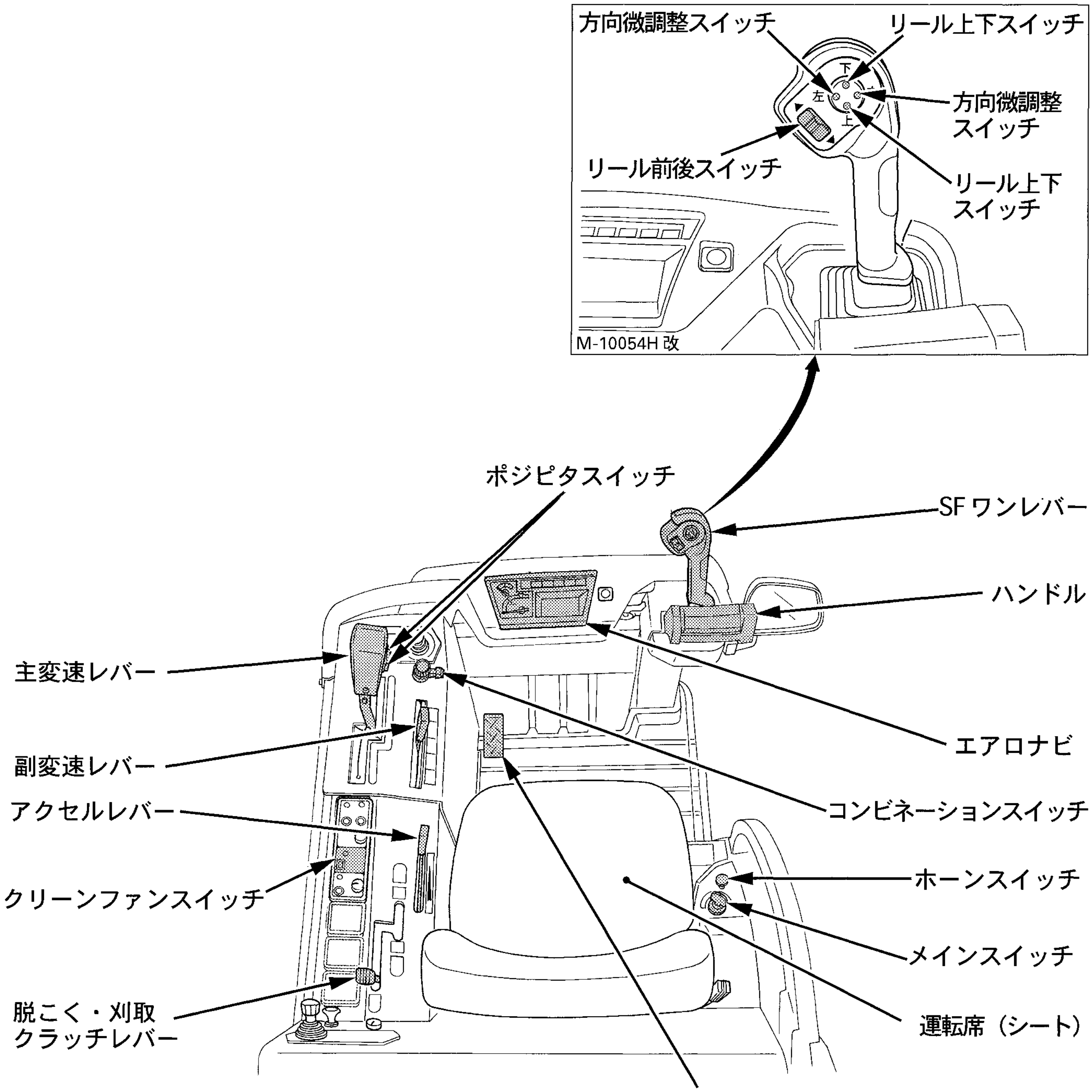
装置の名称と各部のはたらき

【ホッパ仕様】


1番バケットコンベア
2番バケットコンベア
ホッパ部
ホッパ
ホッパ後カバー
ウインカランプ
シャッタ
脱こく後カバー
バックミラー
燃料供給口
防じんカバー
エンジン部
補助デッキ
リヤシュート
ロープ掛けフック
吐出口
脱こく右サイドカバー後
走行部
クローラ
脱こく右サイドカバー前
ロープ掛けフック
M-10048A

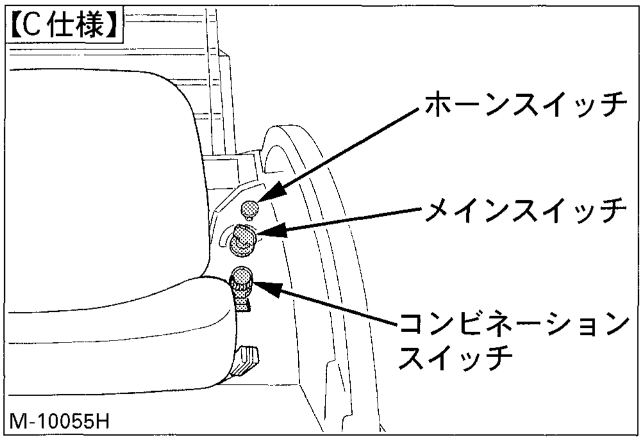
- **●エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **●走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **●ホッパ部**……………脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ

装置の名称と各部のはたらき

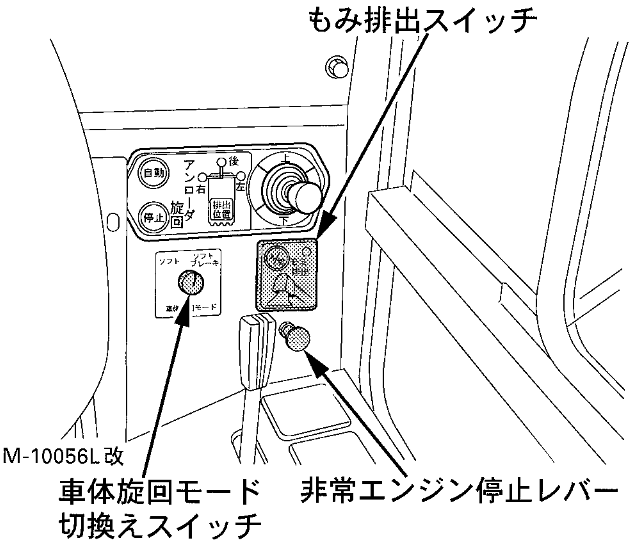

方向微調整スイッチ
リール上下スイッチ
下
左
上
方向微調整
スイッチ
リール前後スイッチ
リール上下
スイッチ
M-10054H 改
ポジピタスイッチ
SF ワンレバー
ハンドル
主変速レバー
エアロナビ
副変速レバー
コンビネーションスイッチ
アクセルレバー
クリーンファンスイッチ
ホーンスイッチ
メインスイッチ
運転席（シート）
脱こく・刈取
クラッチレバー
ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

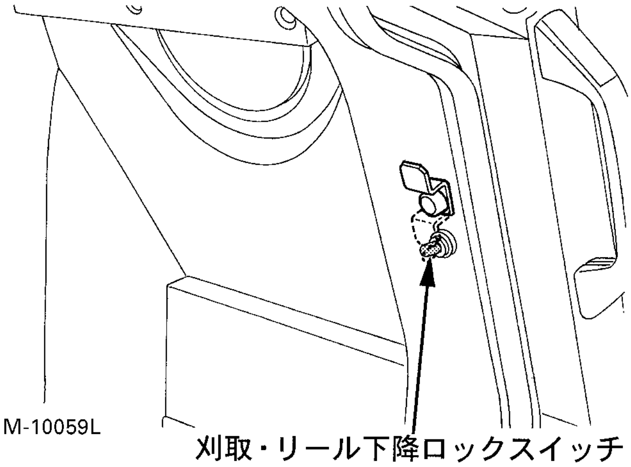
M-9378X 改

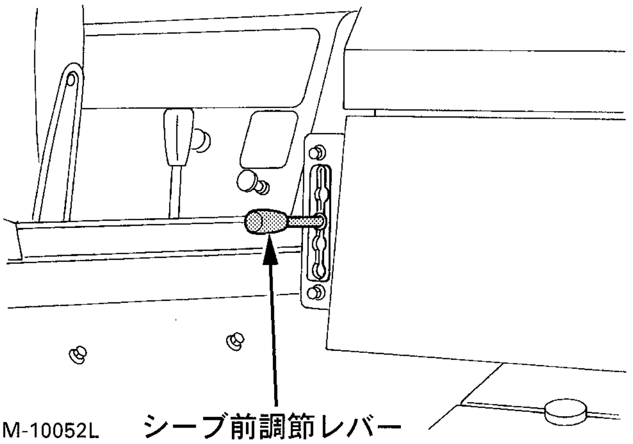
※イラストは C 仕様除く

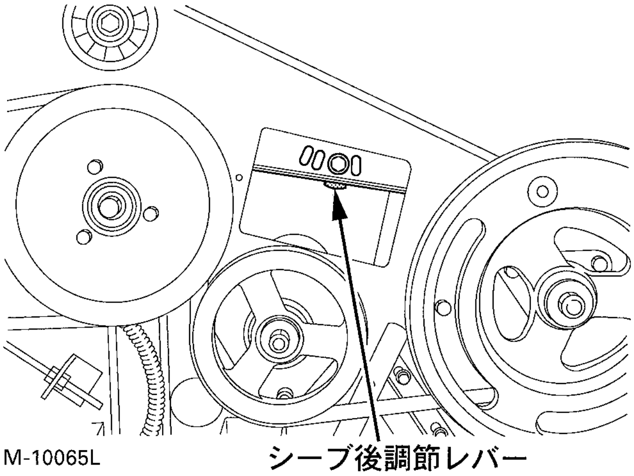

【C仕様】
ホーンスイッチ
メインスイッチ
コンビネーション
スイッチ
M-10055H

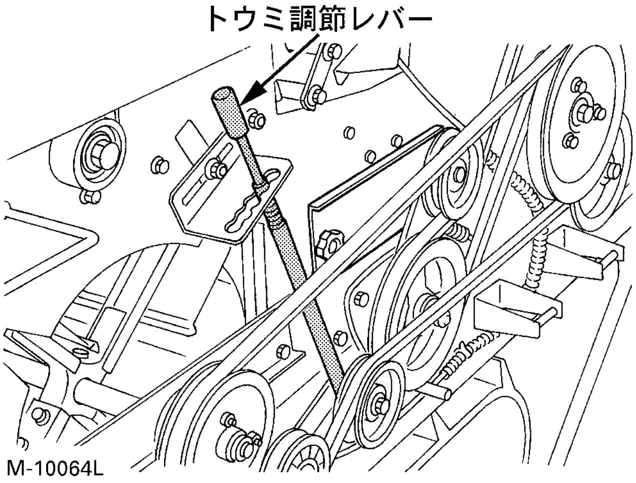
装置の名称と各部のはたらき


もみ排出スイッチ
自動
停止
旋回
アンローダ
後
右
左
上
下
排出位置
M-10056L改
車体旋回モード
切換えスイッチ
非常エンジン停止レバー


M-10059L
刈取・リール下降ロックスイッチ


M-10052L
シーブ前調節レバー

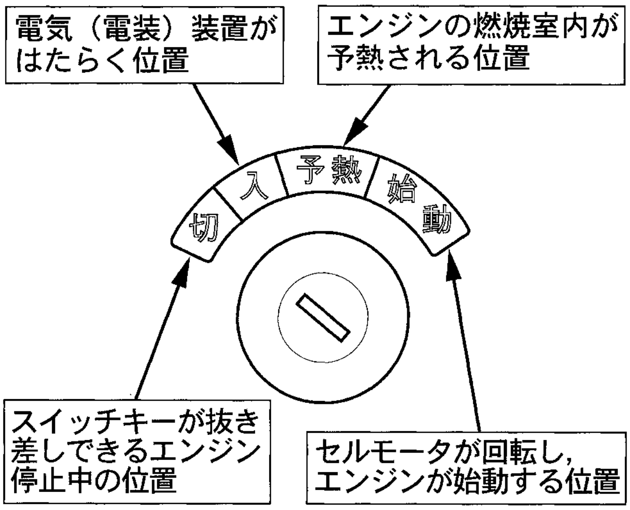

M-10065L
シーブ後調節レバー


トウミ調節レバー
M-10064L

◆エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



電気（電装）装置がはたらく位置

エンジンの燃焼室内が予熱される位置

スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置

セルモータが回転し，エンジンが始動する位置

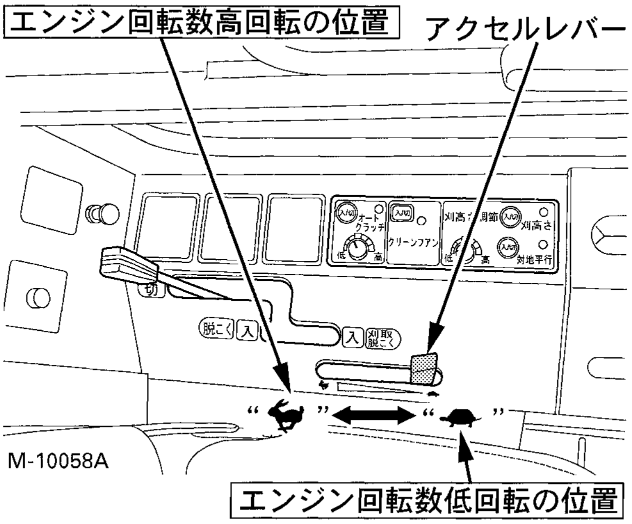
M-9609E

補　足

＊エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**“入”**の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。


オートクラッチ
クリーンファン
刈高さ調節
刈高さ
対地平行
低
高
切
脱こく
入
入
刈取脱こく

エンジン回転数高回転の位置

アクセルレバー

M-10058A

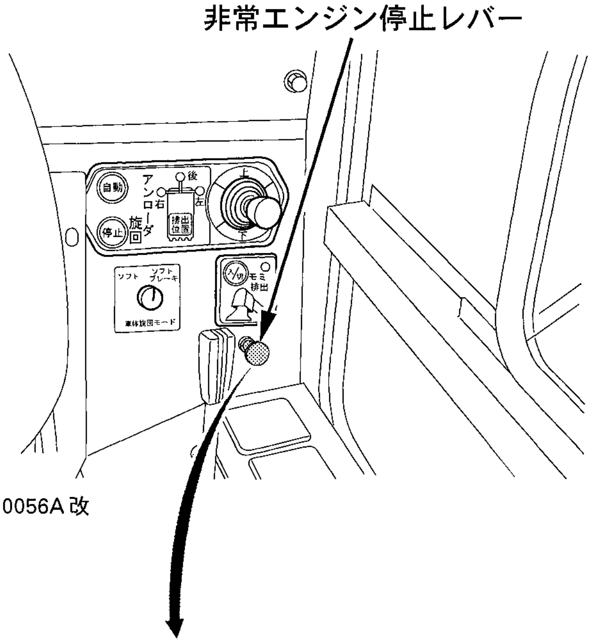
エンジン回転数低回転の位置

補　足

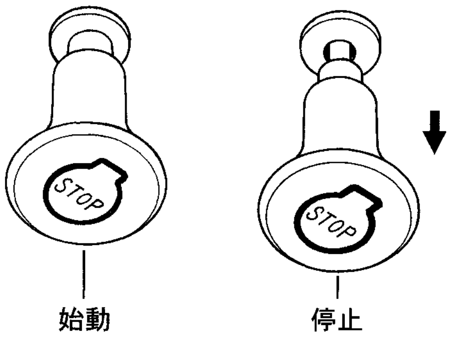
＊エンジン回転計は，17ページを参照してください。

■非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**“切”**位置にしてもエンジンが止まらないときなど非常時に，エンジンを停止させるレバーです。


非常エンジン停止レバー
自動
停止
後
右
左
上
下
旋回
排出位置
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出

M-10056A改


STOP
STOP
始動
停止

M-8777A

補　足

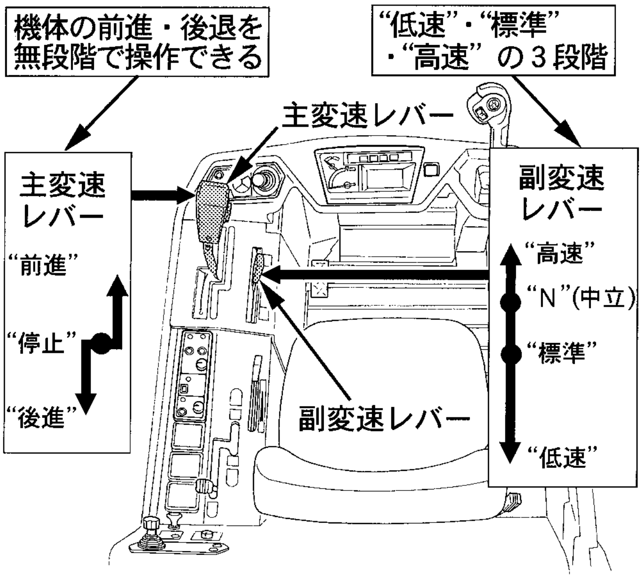
＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆走行操作関係

■主変速レバー

■副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。


機体の前進・後退を無段階で操作できる
“低速”・“標準”・“高速”の３段階
主変速レバー
主変速レバー
“前進”
“停止”
“後進”
副変速レバー
“高速”
“N”(中立)
“標準”
“低速”
副変速レバー

M-10055A

重　要

＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを **“停止”** 位置にして駐車ブレーキを解除してください。

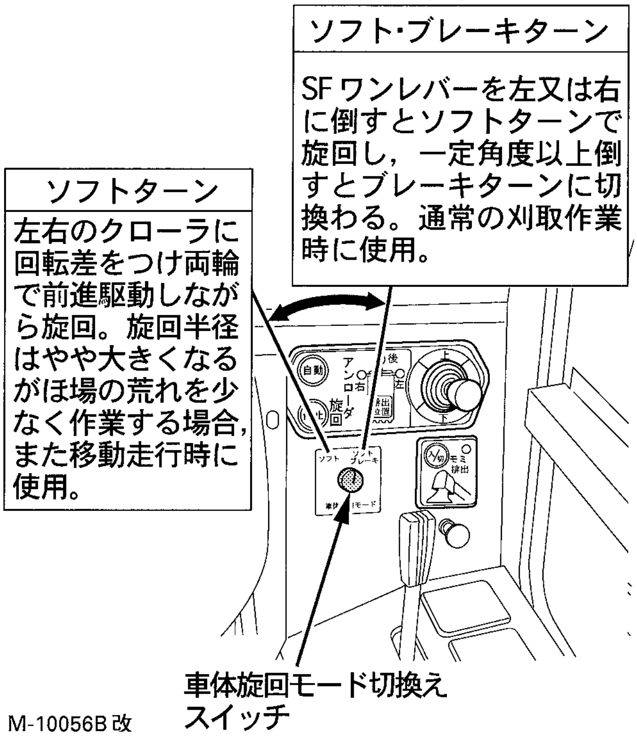
補　足

＊駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**“停止”** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊ **“後進”** 位置にするとバックブザーが鳴ります。

■車体旋回モード切換えスイッチ

旋回方式を選択するスイッチです。作業条件に応じて切換えてください。


ソフト・ブレーキターン
ソフトターン
車体旋回モード切換えスイッチ

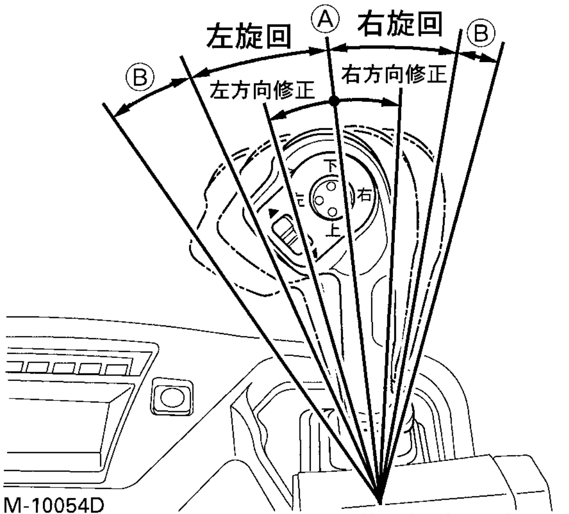
ソフト・ブレーキターン：SFワンレバーを左又は右に倒すとソフトターンで旋回し，一定角度以上倒すとブレーキターンに切換わる。通常の刈取作業時に使用。

ソフトターン：左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回。旋回半径はやや大きくなるがほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用。

M-10056B改

補　足

＊車体旋回モード切換えスイッチを **“ソフト・ブレーキ”** 位置に選択するとⒶからⒷの範囲に切換わるとブレーキターンとなります。


左旋回
Ⓐ
右旋回
Ⓑ
Ⓑ
左方向修正
右方向修正
“運転席にすわって操作する方向”

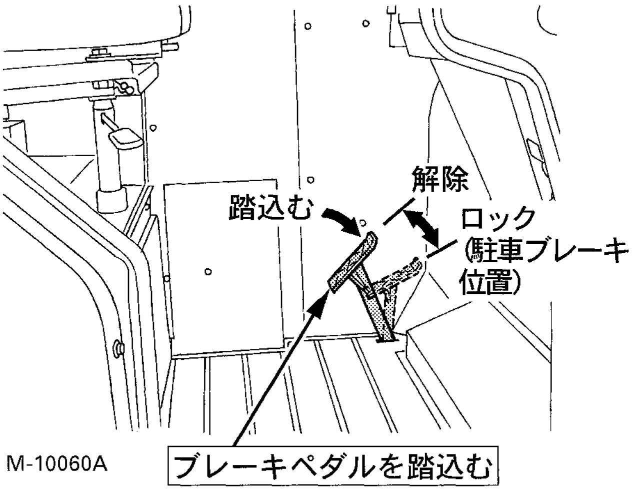
M-10054D

Ⓐ：ソフトターン範囲

Ⓑ：ブレーキターン範囲

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキペダルはロック位置で固定され駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込んでロックを解除してください。


解除
踏込む
ロック
（駐車ブレーキ位置）
ブレーキペダルを踏込む
M-10060A

補　足

＊駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**“停止”** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊移動（路上含む）走行時は，駐車ブレーキペダルを **“解除”** 位置にしてください。

＊駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

＊駐車ブレーキペダルが **“解除”** 位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに下記内容を表示します。

ブレーキペダル
を踏む

■SFワンレバー

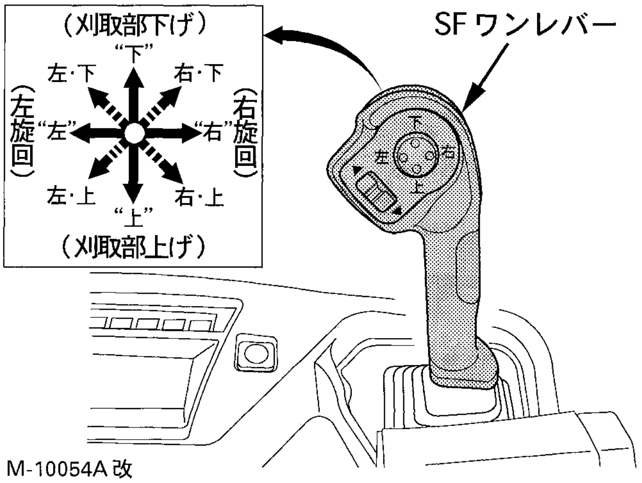
SFワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

● SFワンレバー

“左” ⟷ “右” … レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

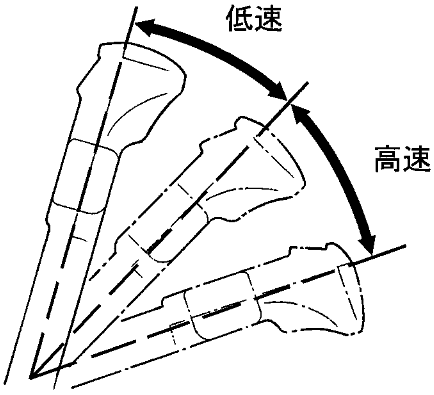
“下げ” ↕ “上げ” ………… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左・下　右・下　左・上　右・上 ……… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。


（刈取部下げ）
“下”
左・下
右・下
（左旋回）
“左”
“右”
（右旋回）
左・上
右・上
“上”
（刈取部上げ）
SF ワンレバー
下
左
右
上
M-10054A 改

補　足

＊昇降速度は，レバーを前側に倒す量により低速範囲から高速範囲へと切換わります。

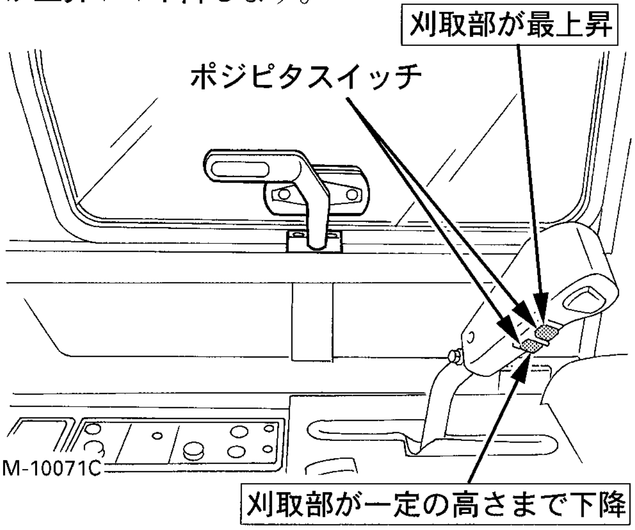


M-9861A

＊エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにSFワンレバーを前方（**“下”** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■ポジピタスイッチ

刈取作業中に，ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇⟷下降**します。

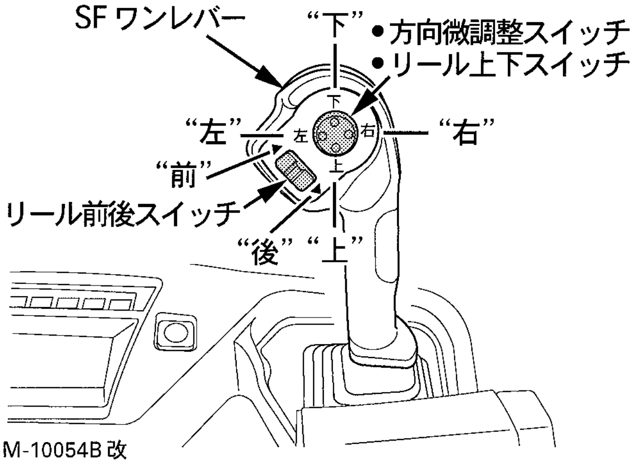

刈取部が最上昇
ポジピタスイッチ
刈取部が一定の高さまで下降

M-10071C

■方向微調整スイッチ
■リール上下スイッチ
■リール前後スイッチ

方向微調整スイッチは，刈取作業時に機体進路の方向修正を行なうスイッチです。また，リール上下スイッチは，刈取作業時にリールを上下に動かすスイッチです。

リール前後スイッチは，刈取作業時にリールを前後に動かすスイッチです。


SF ワンレバー
“下”
●方向微調整スイッチ
●リール上下スイッチ
下
“左”
左
右
“右”
上
“前”
リール前後スイッチ
“後”
“上”

M-10054B改

● **方向微調整スイッチ**

“左”⟷“右” ……スイッチを押した方向に機体の進路が変わります。

補　足

＊方向修正を行なうときは，SFワンレバーと方向微調整スイッチを同時に操作することはできません。操作するときは，レバー又は，スイッチのどちらかを操作してください。

＊方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。旋回など機体を大きく方向転回するときは，SFワンレバーを操作してください。

● **リール上下スイッチ**

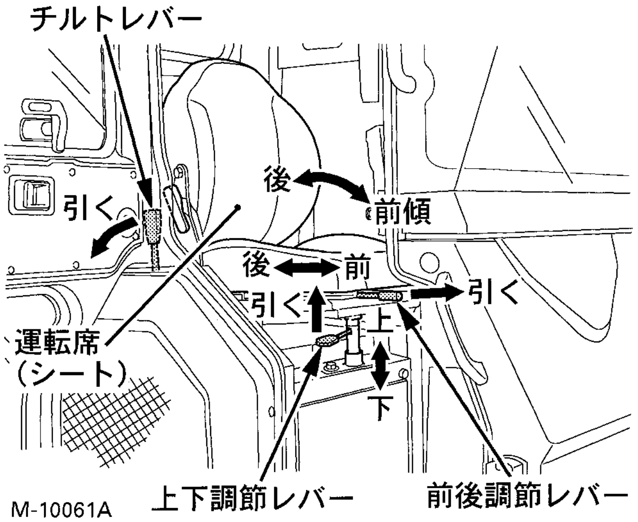
“下” ……スイッチを押した方向にリールが動きます。
↕
“上”

● **リール前後スイッチ**

“前”⟷“後” ……スイッチを押した方向にリールが動きます。

■運転席（シート）

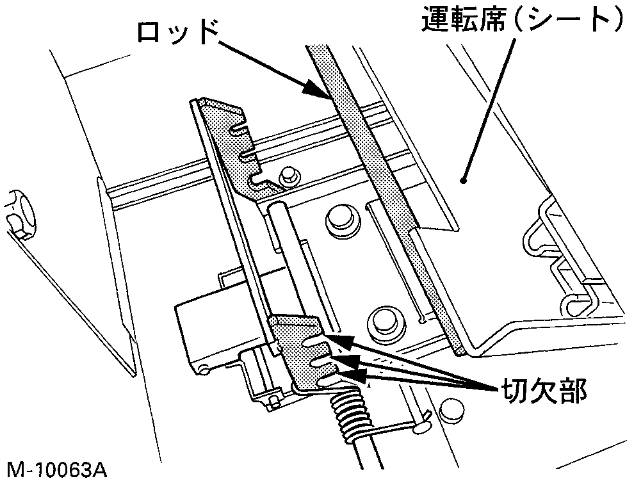
運転席は，**前，後**方向と**上，下**方向及び**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），上下調節レバー（**上，下**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。


チルトレバー
引く
後
前傾
後
前
引く
上
引く
下
運転席
（シート）
上下調節レバー
前後調節レバー

M-10061A

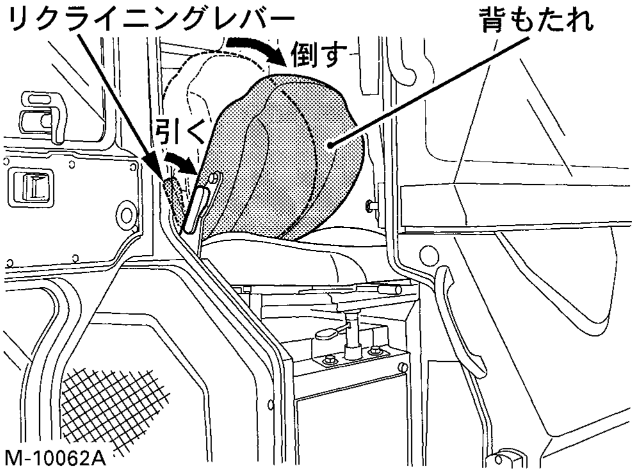
補　足

＊前傾斜方向は３段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。


ロッド
運転席（シート）
切欠部

M-10063A

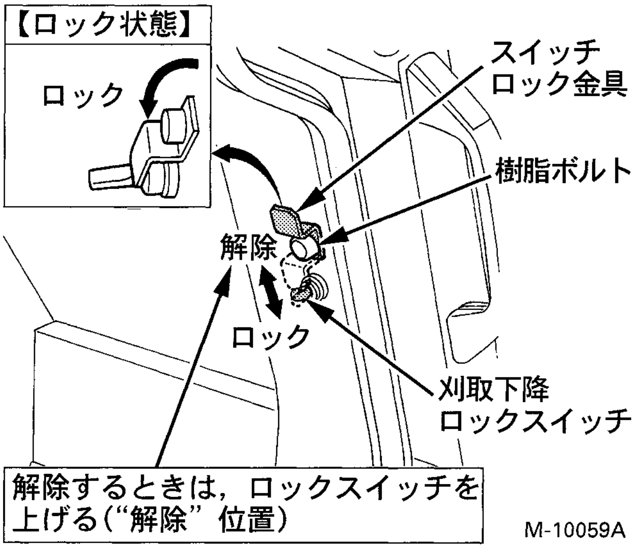
＊運転席の背もたれは，リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻すときは，背もたれをロックするまで後方に倒してください。


リクライニングレバー
背もたれ
倒す
引く

M-10062A

■刈取・リール下降ロック装置

刈取部及びリールの下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**“ロック”**位置）とSFワンレバーを操作しても刈取部及びリールは下降しません。


【ロック状態】
ロック
スイッチ
ロック金具
樹脂ボルト
解除
ロック
刈取下降
ロックスイッチ
解除するときは，ロックスイッチを上げる（“解除” 位置）

M-10059A

補　足

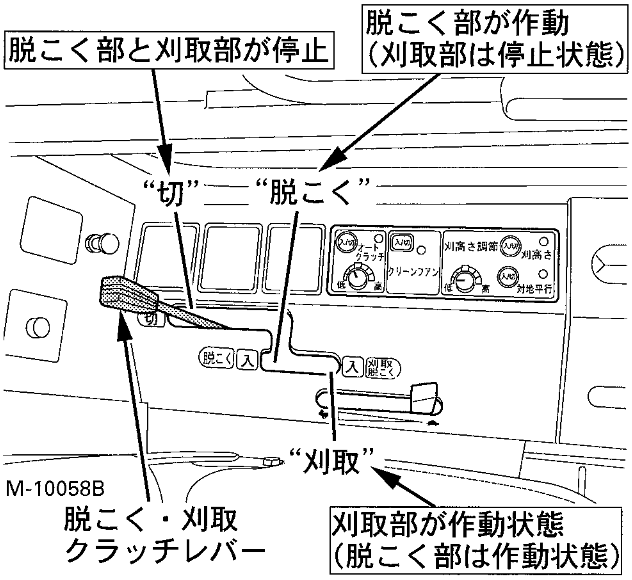
＊ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

＊エンジンを始動しないと刈取部及びリールは上昇，下降しません。

◆刈取・脱こく関係

■脱こく・刈取クラッチレバー

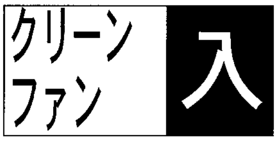
脱こく部と刈取部の動力を**入**・**切**するクラッチレバーです。


脱こく部と刈取部が停止
脱こく部が作動
(刈取部は停止状態)
“切”
“脱こく”
“刈取”
M-10058B
脱こく・刈取
クラッチレバー
刈取部が作動状態
(脱こく部は作動状態)

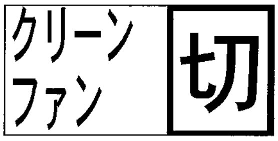
■クリーンファンスイッチ

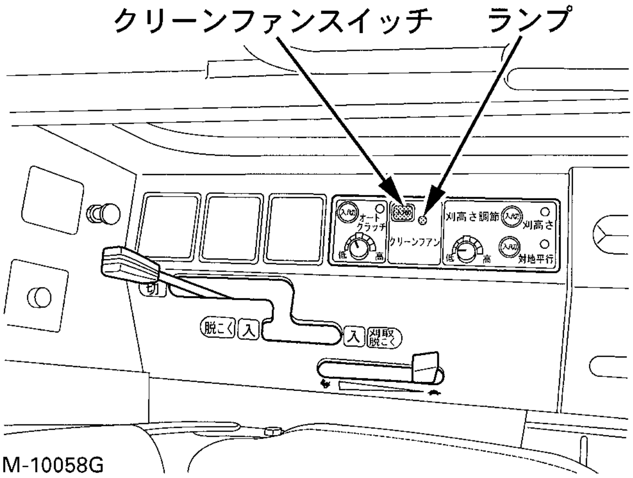
刈取部及びフィーダ部で発生するゴミやほこりを吸入するファンの入／切を行なうスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイにクリーンファン **“入”** ／ **“切”** を一定時間表示します。

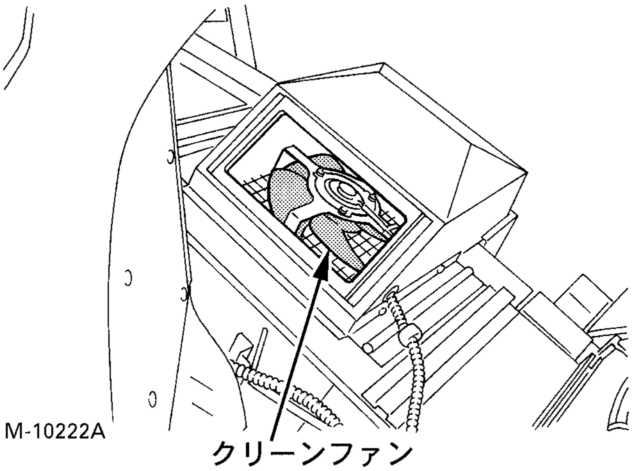
クリーンファンスイッチ **“入”** … ランプが点灯し，クリーンファンが作動します。



クリーンファンスイッチ **“切”** … ランプが消灯し，クリーンファンが停止します。




クリーンファンスイッチ
ランプ
M-10058G

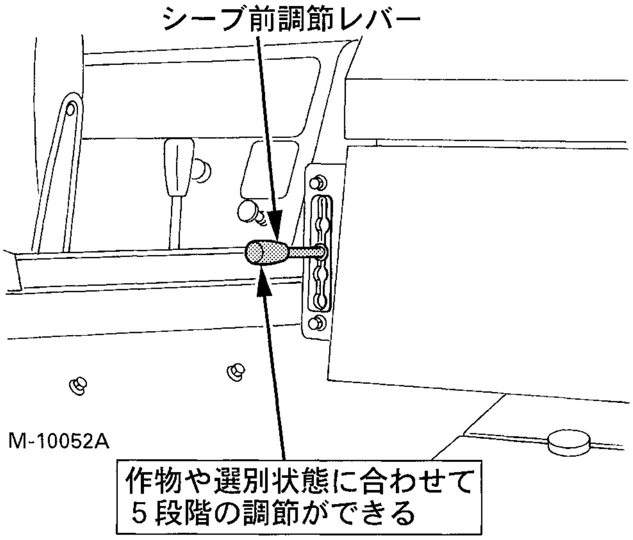

M-10222A
クリーンファン

補　足

＊クリーンファンは，刈取クラッチを **“入”** 位置にすると作動します。

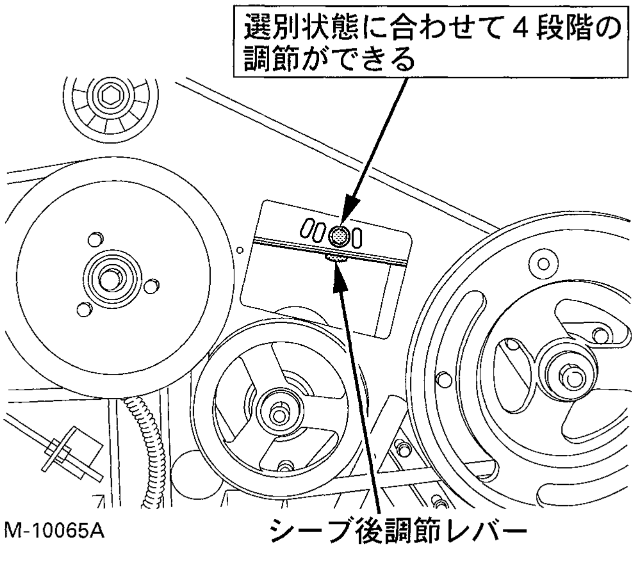
■シーブ前調節レバー

シーブケース中央から前側にある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。


シーブ前調節レバー
M-10052A
作物や選別状態に合わせて
5段階の調節ができる

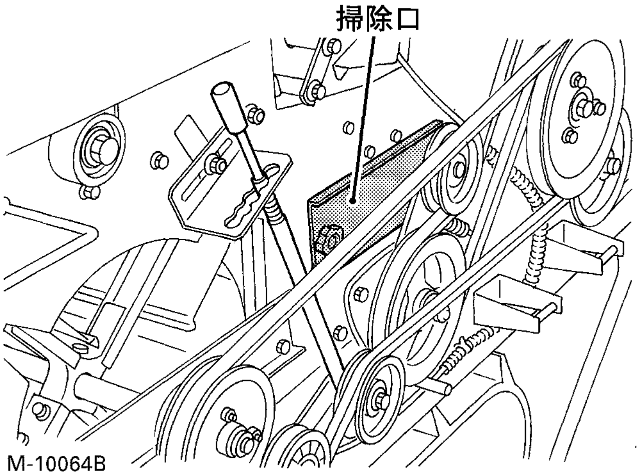
■シーブ後調節レバー

シーブケース中央から後側にある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。


選別状態に合わせて4段階の
調節ができる
M-10065A
シーブ後調節レバー

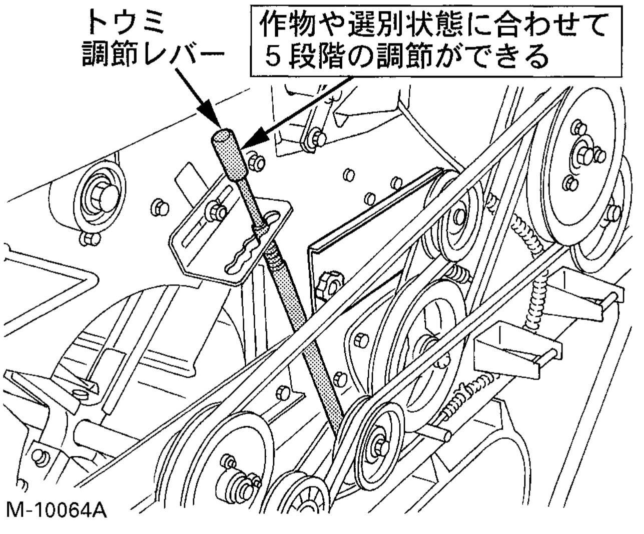
補　足

＊シーブ後調節レバーは，左サイドカバー下を取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。


掃除口
M-10064B

■トウミ調節レバー

トウミの風力調節を行なうレバーです。


トウミ
調節レバー
作物や選別状態に合わせて
5段階の調節ができる
M-10064A

補　足

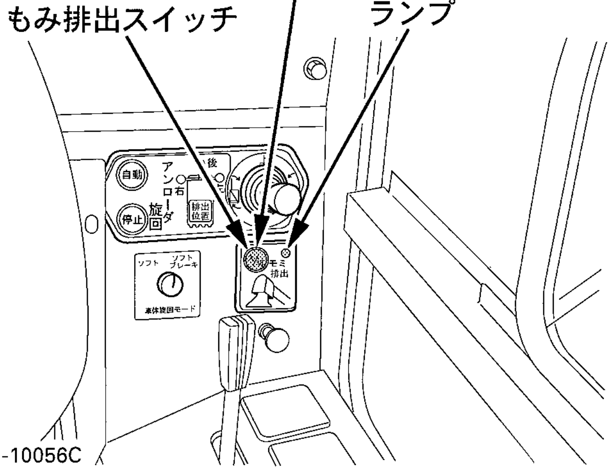
＊トウミ調節レバーは，左サイドカバー下を取外すとあります。

◆グレンタンク関係

■もみ排出スイッチ

グレンタンク内のこく粒の排出操作を行なうスイッチです。

押すとランプが点滅し，アンローダからこく粒を排出し，もう一度押すとランプが消灯し，こく粒の排出を停止します。


もみ排出スイッチ
ランプ
自動
停止
アンローダ
旋回
右
後
排出位置
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出

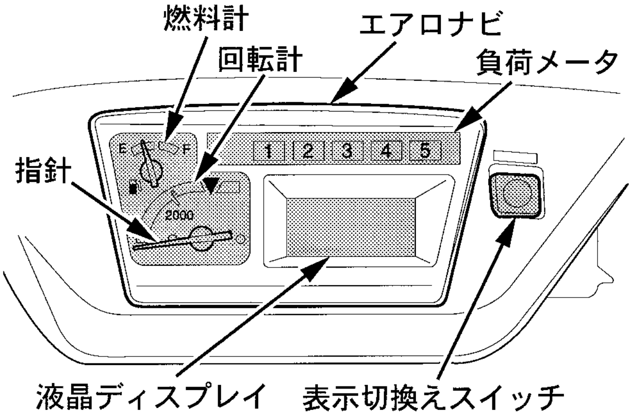
M-10056C

補　足

＊エンジン始動後にアンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，こく粒は排出しません。

◆電装関係

■エアロナビ


燃料計
回転計
エアロナビ
負荷メータ
指針
E
F
1
2
3
4
5
2000
液晶ディスプレイ
表示切換えスイッチ

M-9597A

◆各メータ

●エンジン回転計（単位：rpm）

1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料計

燃料の残量を表示（**"E"**〔空〕⟷**"F"**〔満タン〕)します。

●負荷メータ

刈取り作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆液晶ディスプレイ・表示切換えスイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，必要な情報を表示します。また，表示切換えスイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切換わります。

1.移動走行・通常作業時

(1) アワーメータ・オイル・充電 表示

駐車ブレーキが掛かっていない状態でスイッチキーを“切”位置から“入”位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

補　足

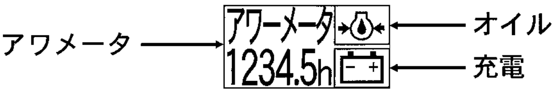
＊駐車ブレーキペダルを踏込んでいるときは，駐車ブレーキ（P）を優先的に表示します。

- **アワメータ**表示 **（単位：h〔時間〕）**

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

- **オイル・充電**表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。


アワメータ
アワーメータ
1234.5h
オイル
充電

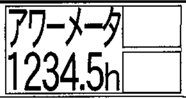
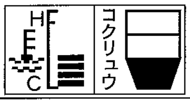
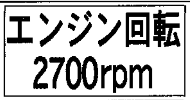
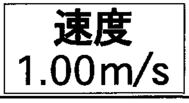
重　要

＊エンジンは停止状態でオイル又は，充電の表示が消えているときは，オイルの油圧異常又は，充電異常が発生しても警報が出ないため，購入先に連絡してください。

(2) マルチ表示

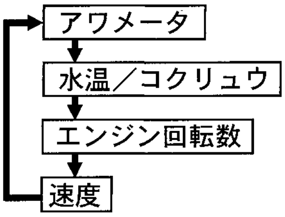
エンジンを始動すると下記の基本表示のいずれかを表示しますので，必要に応じて表示切換えスイッチを押して切換えてください。

- **表示**

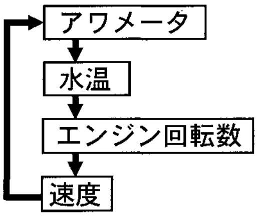
アワメータ	 アワーメータ 1234.5h	エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。
水温／コクリュウ		エンジンの水温とグレンタンク内のこく粒の量を表示します。
エンジン回転	 エンジン回転 2700rpm	1分間のエンジン回転数をデジタル表示します。
速　度		1秒間に進む速度をデジタル表示します。

補　足

＊通常表示は表示切換えスイッチを１回押すごとに下記➡の順で表示が切換わります。


アワメータ
水温／コクリュウ
エンジン回転数
速度

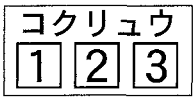
＊【**ホッパ仕様**】は，もみセンサ１つにつきシングル表示しかありません。


アワメータ
水温
エンジン回転数
速度

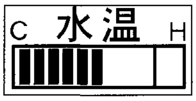
＊エンジン始動中は，オイル・充電表示はされません。

＊水温／コクリュウ表示は，単体（シングル）表示をすることができますので，必要な場合は，購入先に連絡してください。

- こく粒シングル表示



- 水温シングル表示



＊エンジンを停止したときの表示内容が，次にエンジンを始動したときに最初に表示されます。

＊ 速 度 表示は，ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

2.異常発生時

補　足

＊処置については77ページを参照してください。

燃料を給油	燃料を 給油	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	充電系 異常	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常	エンジン油圧 異常	エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	オーバー ヒート	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負　荷	負荷	刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
こく粒満杯	穀粒満杯	ホッパ又は，グレンタンク内のこく粒が満杯になると表示します。
1　番	1番	1番バケットコンベアが詰まると表示します。
2　番	2番	2番処理ケース内又は，2番バケットコンベア内が詰まると，表示します。
オーガ	オーガ	アンローダ内が詰まると表示します。**【グレンタンク仕様】**

3.誤操作時

アンローダを上げる	**アンローダ を上げる**	アンローダ**下降不可範囲**内で，誤まったアンローダレバー操作をすると表示します。**【グレンタンク仕様】**

補　足

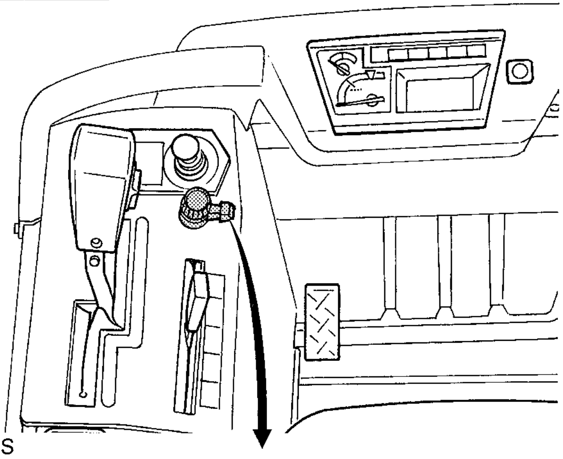
＊**下降不可範囲**については，68ページを参照してください。

エンジン始動時にスイッチキーを **“始動”** 位置にしたとき，各レバーが始動条件に合っていない場合，その内容を表示します。

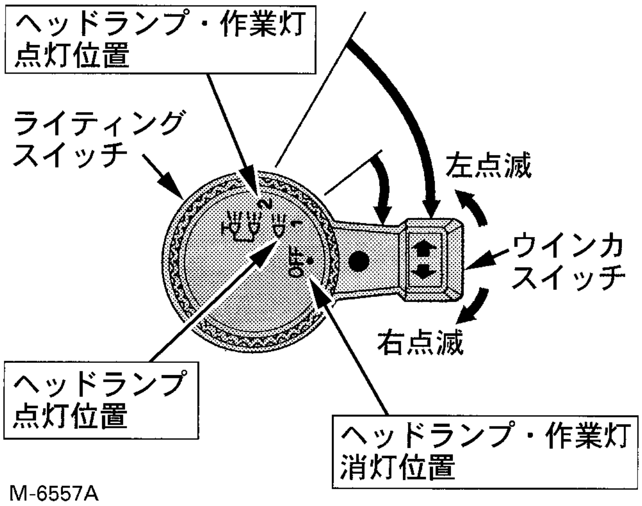
脱こくクラッチ切に	**脱こく クラッチ切に**	脱こく・刈取クラッチレバーが **“脱こく”** 又は，**“刈取”** 位置のときに表示します。
主変速を中立に	**主変速 中立に**	主変速レバーが **“停止”**（中立）位置以外のときに表示します。
排出クラッチ切に	**排出 クラッチ切に**	もみ排出スイッチが **“入”** のときに表示します。
ブレーキペダルを踏む	**ブレーキペダル を踏む**	ブレーキペダルを踏込んでいないとき表示します。

■コンビネーションスイッチ
■ホーンスイッチ

【C仕様除く】

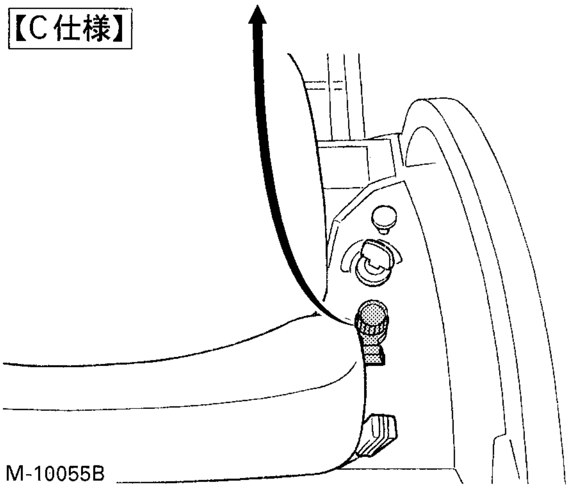


M-9378S

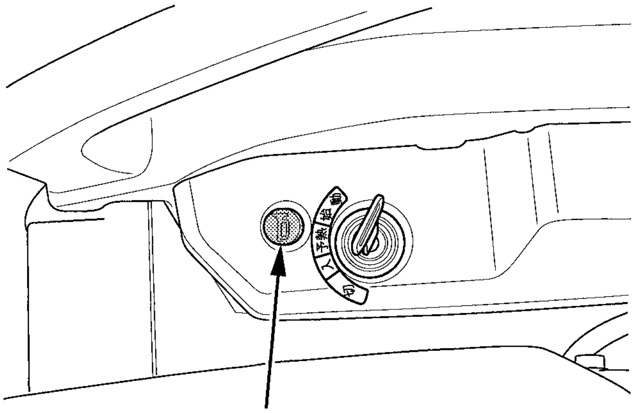

ヘッドランプ・作業灯
点灯位置
ライティング
スイッチ
左点滅
ウインカ
スイッチ
右点滅
ヘッドランプ
点灯位置
ヘッドランプ・作業灯
消灯位置
OFF

M-6557A

【C仕様】



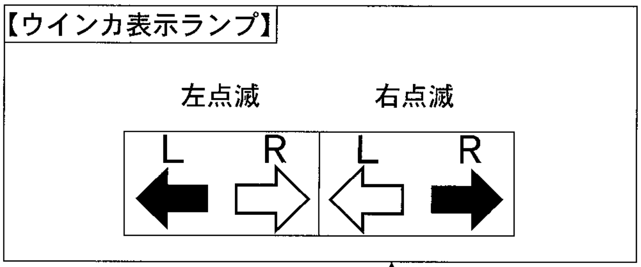
M-10055B

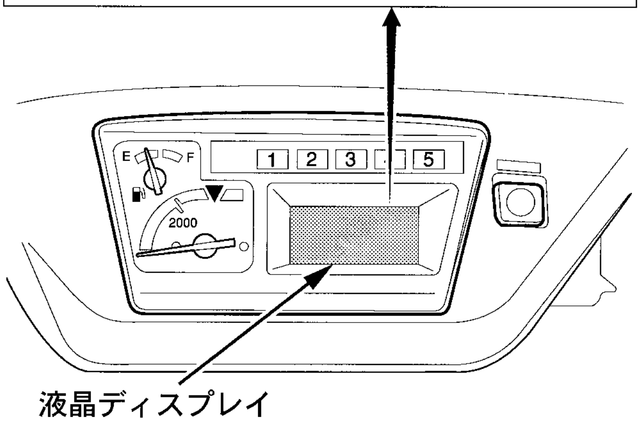


M-9598A ホーンスイッチ

● **ライティングスイッチ**
スイッチを操作するとランプが点灯します。

● **ウインカスイッチ**
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にエアロナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。


【ウインカ表示ランプ】
左点滅
右点滅
L
R
L
R

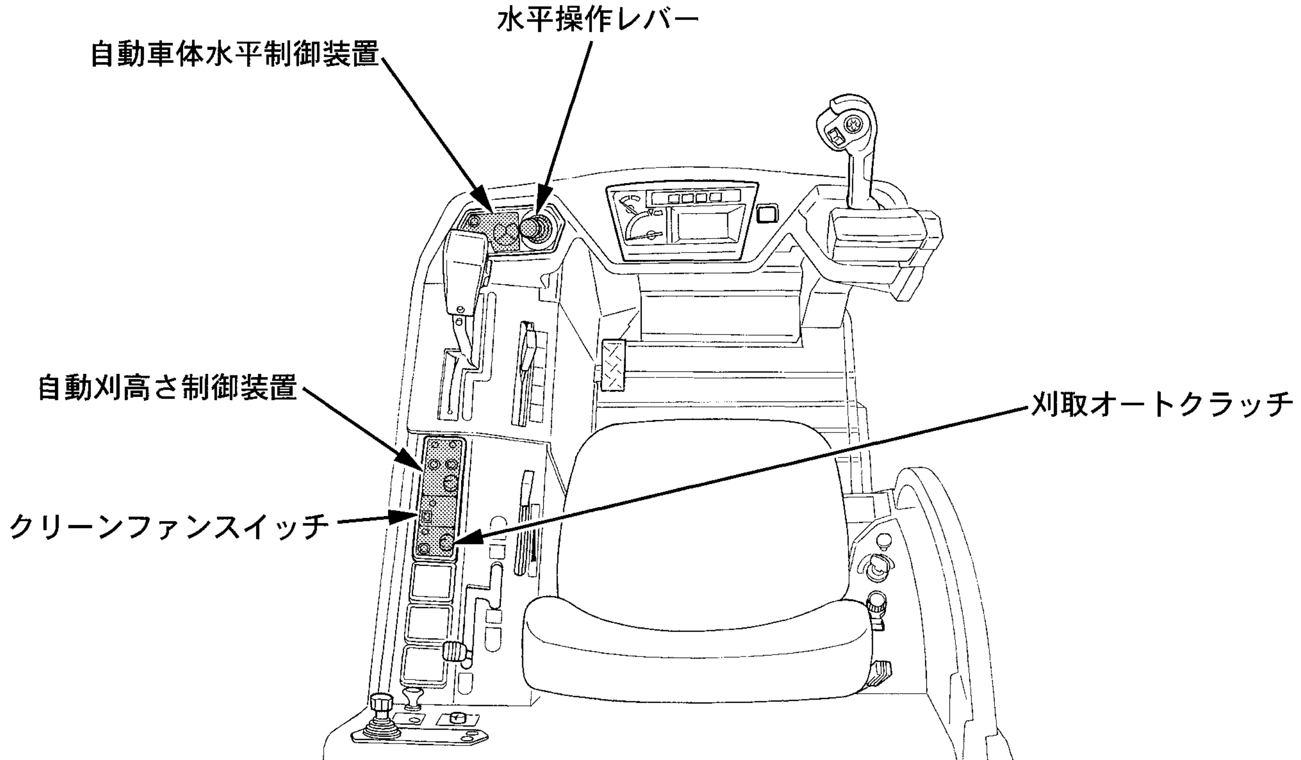

E
F
1
2
3
5
2000

液晶ディスプレイ
M-9597B

● **ホーンスイッチ**
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

自動化装置の名称と取扱い

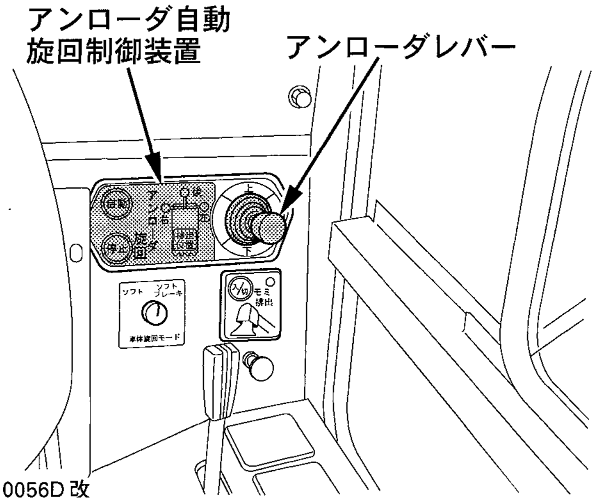
装置の名称と各部のはたらき


水平操作レバー
自動車体水平制御装置
自動刈高さ制御装置
刈取オートクラッチ
クリーンファンスイッチ

M-10055C

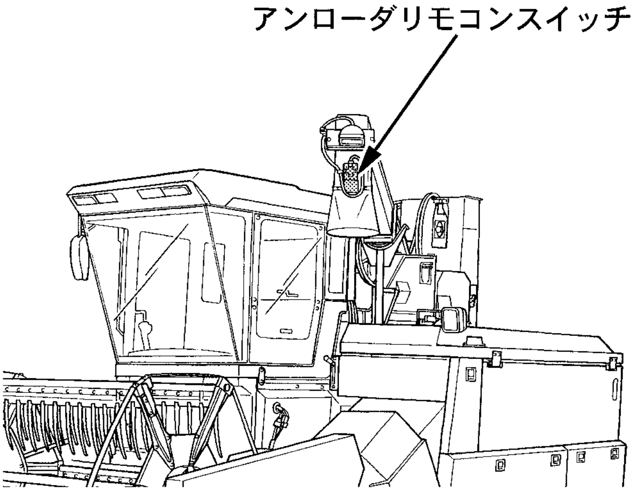
※イラストはグレンタンク仕様

【グレンタンク仕様】


アンローダ自動
旋回制御装置
アンローダレバー

M-10056D 改

【グレンタンク仕様】


アンローダリモコンスイッチ

M-10043F

装置の名称と各部のはたらき

◆走行操作関係

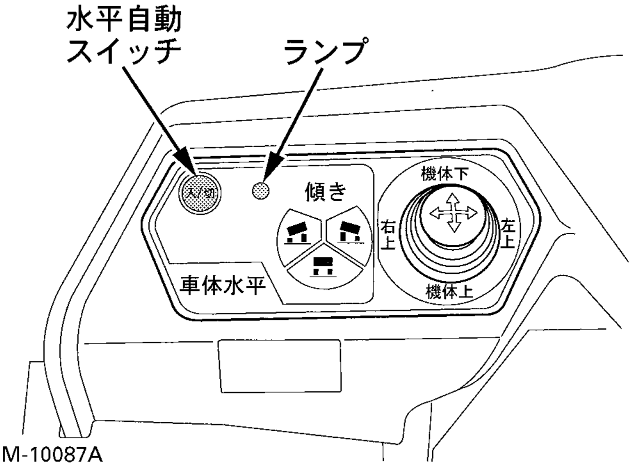
■自動車体水平制御装置（モンロー）

自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

●水平自動スイッチ

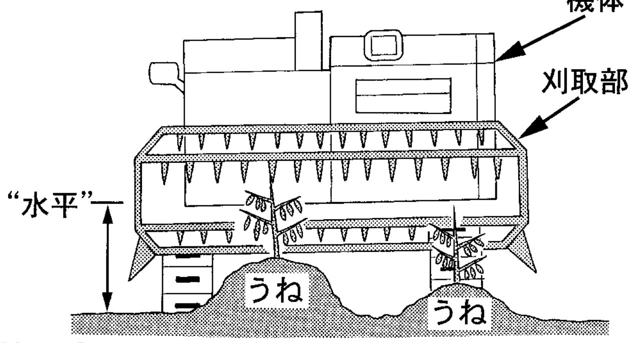
左・右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**水平“入”／“切”**を一定時間表示します。

左右水平制御“入”…… **水平 入**	ランプが点灯し，左・右方向の自動制御が作動します。
左右水平制御“切”…… **水平 切**	ランプが消灯し，左・右方向の自動制御が解除されます。


水平自動
スイッチ
ランプ
入/切
傾き
車体水平
機体下
右上
左上
機体上

M-10087A

※うねによる機体の傾きの場合


機体
刈取部
“水平”
うね
うね

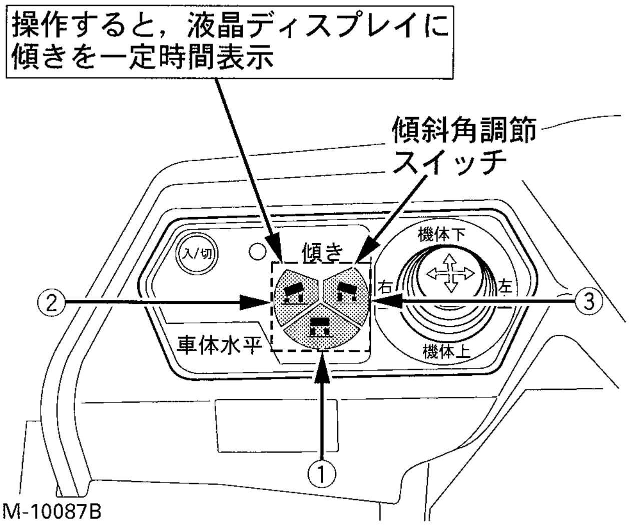
M-8323B

補　足

＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にするか，又は水平自動スイッチを**“切”**にすると，機体は左右共にいつたん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

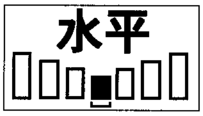
●傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。

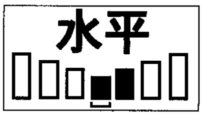

操作すると，液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示
傾斜角調節
スイッチ
入/切
傾き
機体下
右
左
車体水平
機体上
②
③
①

M-10087B

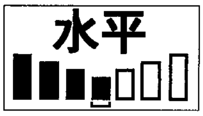
① “▀” ……… スイッチを押すと，水平制御に戻ります。



② “▀” ……… スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。



③ “▀” ……… スイッチを押すと，左上がり気味に制御します。

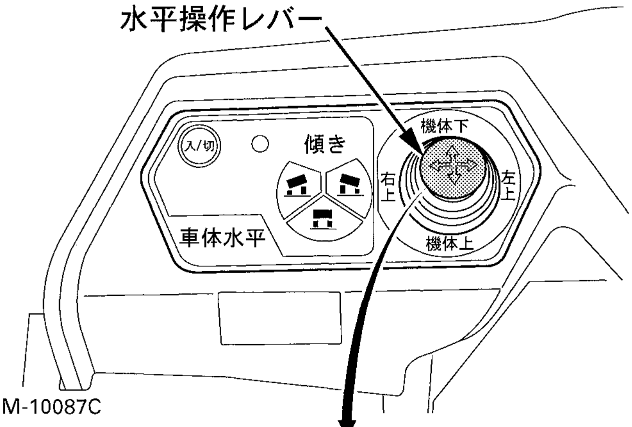


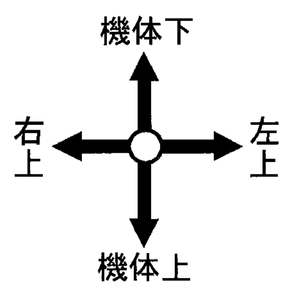
補　足

＊機体傾斜は３段階調節が行なえます。

■水平操作レバー

機体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。


水平操作レバー
入/切
傾き
車体水平
機体下
右上
左上
機体上
M-10087C


機体下
右上
左上
機体上

レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり
左上	左上がり

補　足

＊機体の動く方向は運転席に座って見たときです。

＊自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。

＊傾斜地では操作しないでください。

＊モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

■自動刈高さ制御装置

自動刈高さ制御装置は，刈取作業中に刈取部の高さを地面に対して，一定の高さに修正・保持する装置です。

● 刈高さ自動スイッチ

自動刈高さ制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**刈高“入”／“切”**を一定時間表示します。

自動刈高さ制御“入”………ランプが点灯し，自動刈高さ制御が作動します。

刈高 **入**

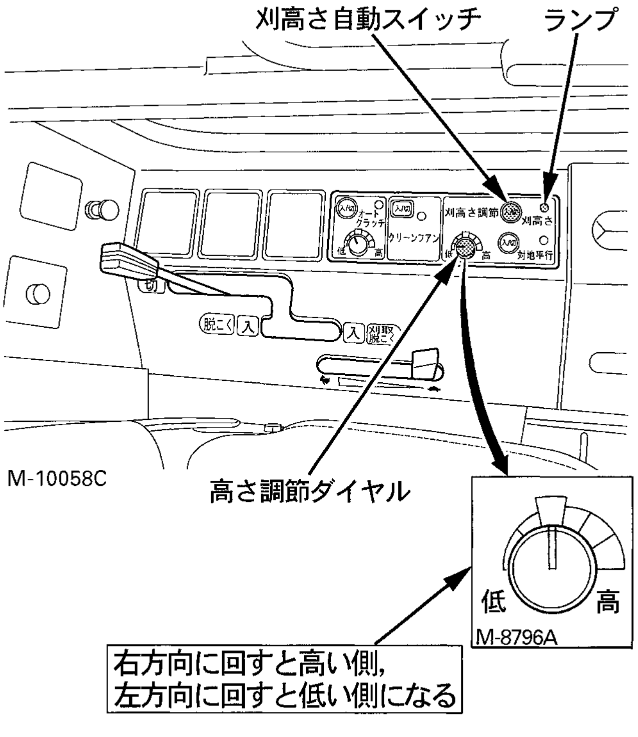
自動刈高さ制御“切”………ランプが消灯し，自動刈高さ制御が解除されます。

刈高 **切**

● 高さ調節ダイヤル

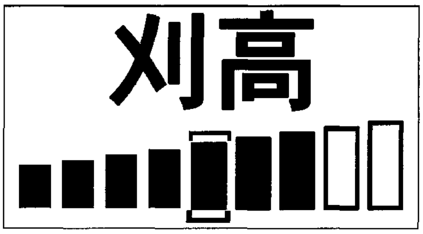
ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに９段階の目盛で刈取部の高さを表示します。


刈高さ自動スイッチ
ランプ
入/切
オートクラッチ
低
高
クリーンファン
刈高さ調節
刈高さ
対地平行
脱こく
入
刈取脱こく
M-10058C
高さ調節ダイヤル
低
高
M-8796A

右方向に回すと高い側，
左方向に回すと低い側になる

【液晶表示】



低い ⟵ 刈高さ ⟶ 高い

補　足

＊自動制御がはたらいているときでも，SFワンレバーによる操作が優先されます。

＊高さ調節ダイヤルを低い側に調整すると，地面の状態により，デバイダの突込みを生じる場合があります。

＊刈始めに，切わらや土の盛上りをソリセンサが検知して刈取部が上昇する場合は，前進しながらSFワンレバーで，適正な高さに修正してください。

装置の名称と各部のはたらき

■対地平行自動刈高さ制御装置 （ロイヤルモンロー）

対地平行自動刈高さ制御装置は，うねの高さが異なるところで刈取作業を行なったとき，刈取部を自動的に異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持する装置です。

●対地平行自動スイッチ

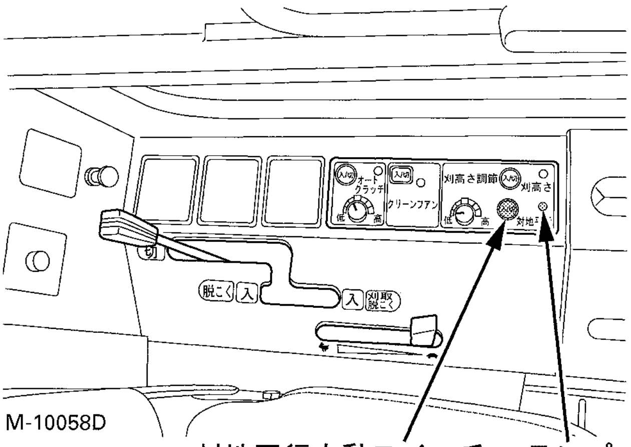
対地平行自動刈高さ制御の入／切をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに対地平行 **“入”** ／ **“切”** を一定時間表示します。

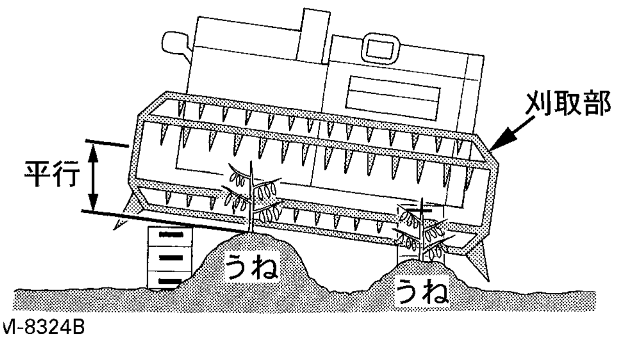
対地平行自動刈高さ制御 “入” …ランプが点灯し，対地平行自動刈高さ制御が作動します。

対地平行 入

対地平行自動刈高さ制御 “切” …ランプが消灯し，対地平行自動刈高さ制御が解除されます。

対地平行 切

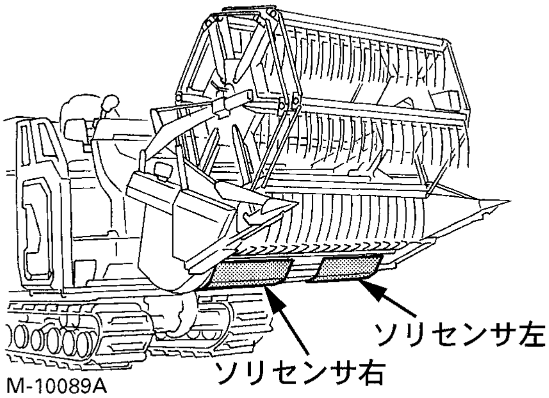

入/切
オートクラッチ
低
高
入/切
クリーンファン
刈高さ調節
入/切
刈高さ
低
高
入/切
対地平
切
脱こく
入
入
刈取脱こく
M-10058D
対地平行自動スイッチ
ランプ


刈取部
平行
うね
うね
M-8324B

補　足

＊対地平行制御がはたらいているときでも，SFワンレバーによる操作が優先されます。

＊刈取部下面のソリセンサ左，右がうねや地面に接触すると対地平行自動刈高さ制御がはたらき，離れると（非接触）水平制御が **“ON”** であれば自動車体水平制御がはたらきます。


ソリセンサ左
ソリセンサ右
M-10089A

■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にSFワンレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

●オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ “入” ／ “切”** を一定時間表示します。

オートクラッチ “入” …… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

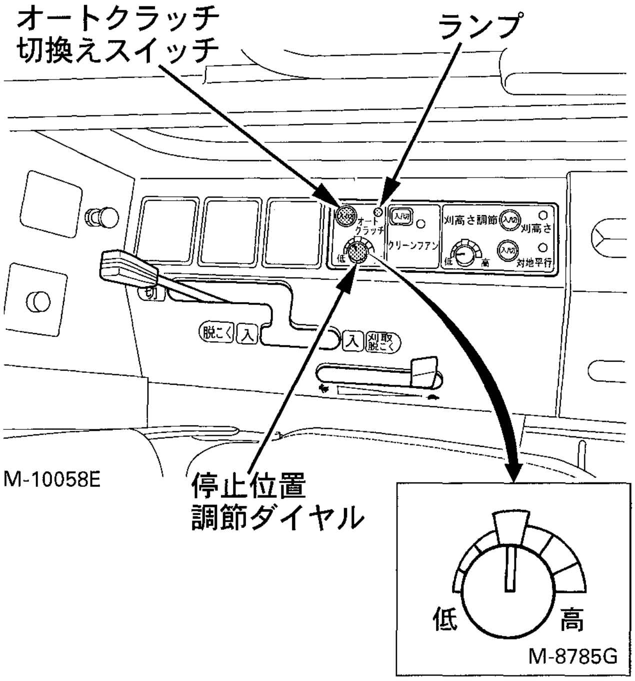
オートクラッチ 入

オートクラッチ “切” …… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

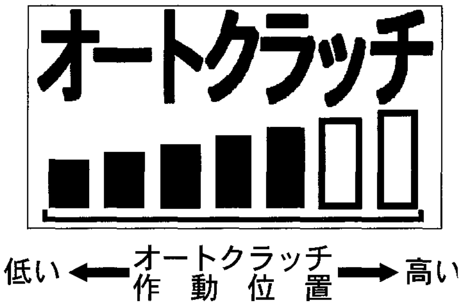
オートクラッチ 切

● 停止位置調節ダイヤル

オートクラッチが**入／切**する刈取部の高さ位置の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**右方向**に回すと**高く**なり，**左方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛でオートクラッチが**入／切**する位置を表示しますので，目標の高さに調節を行なってください。


オートクラッチ
切換えスイッチ
ランプ
入/切
オートクラッチ
クリーンファン
刈高さ調節
刈高さ
対地平行
脱こく
入
刈取脱こく
M-10058E
停止位置
調節ダイヤル
低
高
M-8785G

【液晶表示】


オートクラッチ
低い
オートクラッチ
作動位置
高い

◆グレンタンク関係

■アンローダ自動旋回制御装置

【グレンタンク仕様】

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

● アンローダ自動スイッチ

自動スイッチを押すと，アンローダが排出位置又は，収納位置まで自動旋回します。

補 足

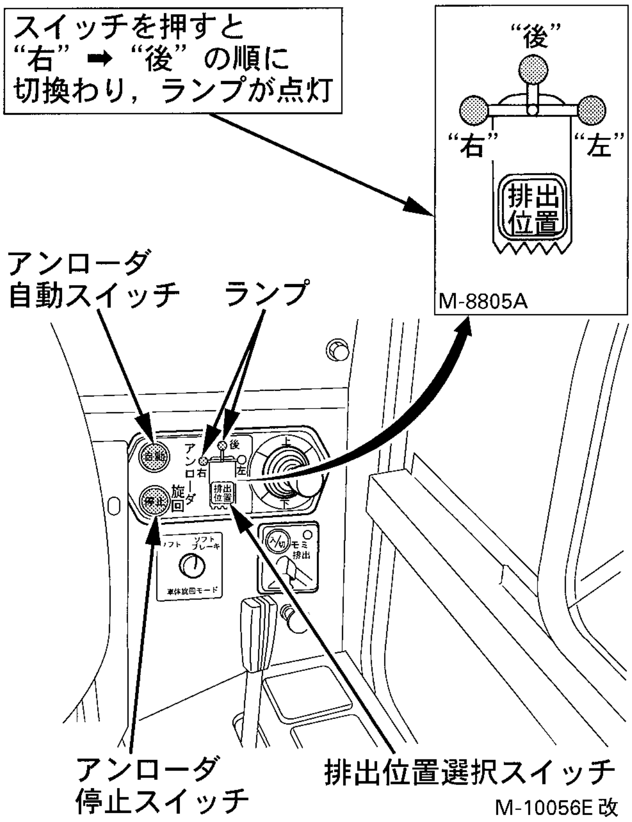
＊アンローダが動作開始範囲内で停止しているときに自動スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。

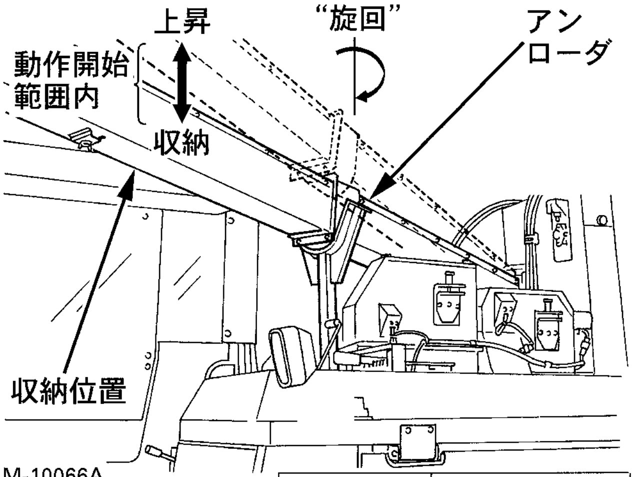
● アンローダ停止スイッチ

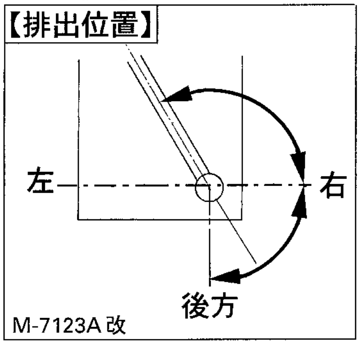
自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

● 排出位置選択スイッチ

自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**“右”**・**“後”**の２方向）の選択を行なうスイッチです。


スイッチを押すと
“右” ➡ “後” の順に
切換わり，ランプが点灯
“後”
“右”
“左”
排出位置
M-8805A
アンローダ
自動スイッチ
ランプ
自動
停止
アンローダ
旋回
後
右
左
上
下
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出
アンローダ
停止スイッチ
排出位置選択スイッチ
M-10056E 改


上昇
動作開始
範囲内
収納
“旋回”
アン
ローダ
収納位置
M-10066A


【排出位置】
左
右
後方
M-7123A 改

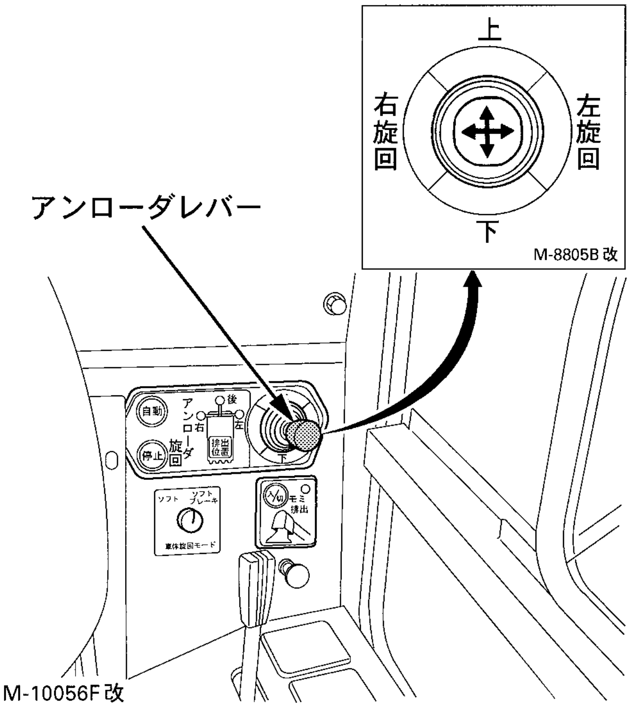
補　足

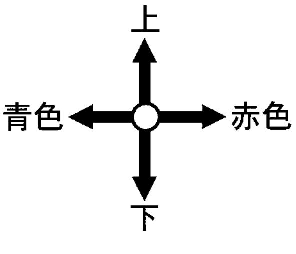
＊自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを１度押してから自動スイッチを押してください。

■アンローダレバー【グレンタンク仕様】

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。

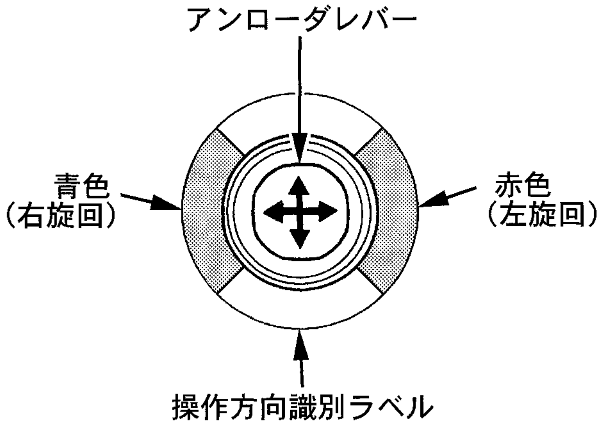

上
右
旋
回
左
旋
回
下
M-8805B 改
アンローダレバー
M-10056F 改



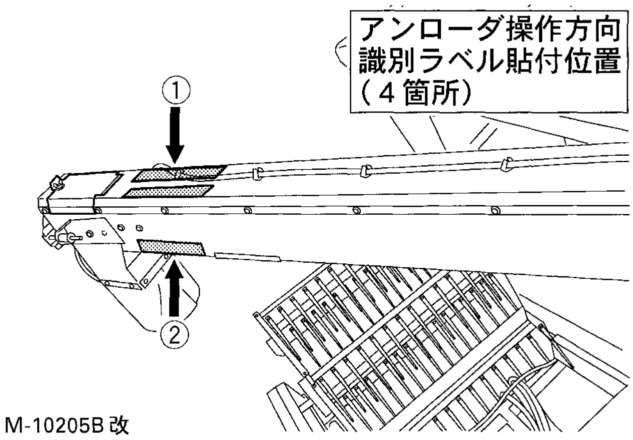
レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回り(反時計方向)に旋回
青色	右回り(時計方向)に旋回

補　足

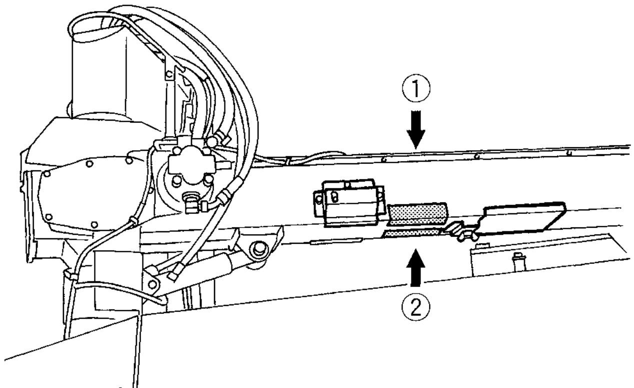
＊アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。


アンローダレバー
青色
（右旋回）
赤色
（左旋回）
操作方向識別ラベル

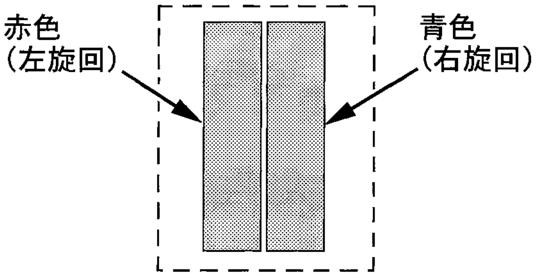
M-8805C改


アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置（4箇所）
①
②

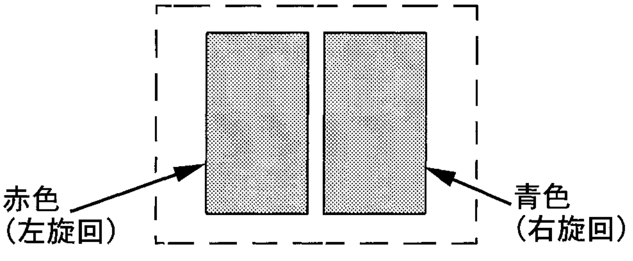
M-10205B改



M-10123C改


赤色
（左旋回）
青色
（右旋回）

M-10726A改　操作方向識別ラベル①


赤色
（左旋回）
青色
（右旋回）

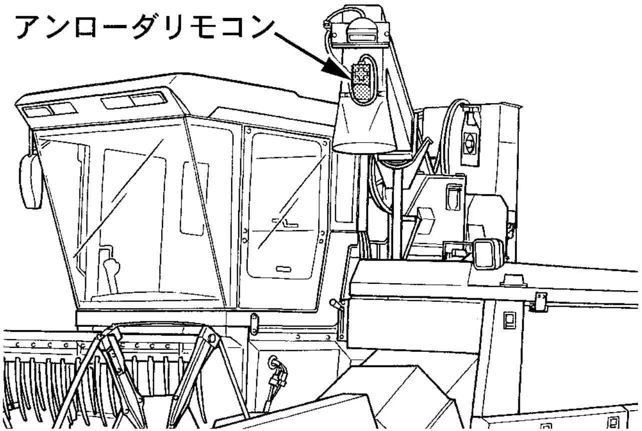
操作方向識別ラベル②

M-10727A改

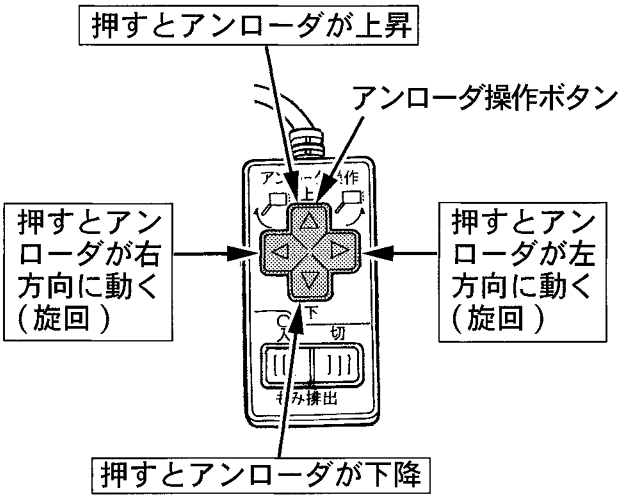
■アンローダリモコンスイッチ【グレンタンク仕様】

アンローダの吐出口（先端）からアンローダの上昇・下降及び旋回とグレンタンク内のこく粒の排出操作を行なうスイッチです。

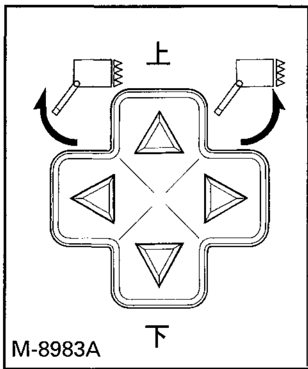
● 上昇・下降及び旋回操作



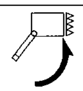
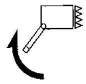
M-10042G


押すとアンローダが上昇
アンローダ操作ボタン
押すとアンローダが右方向に動く（旋回）
押すとアンローダが左方向に動く（旋回）
押すとアンローダが下降
アンローダ操作
上
下
入
切
もみ排出

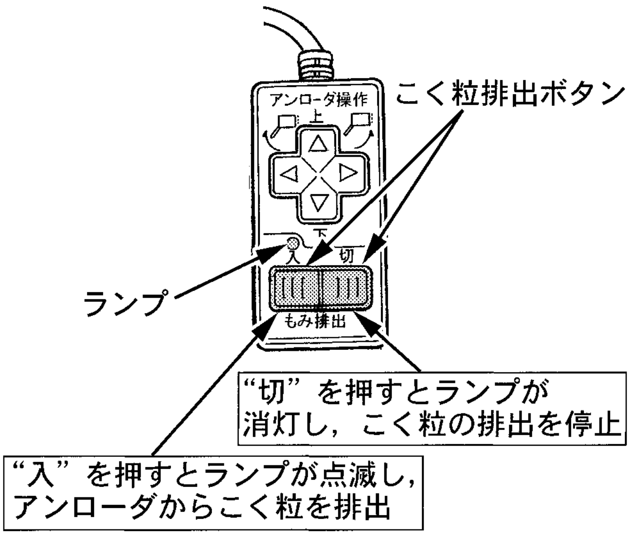
M-7930改A



M-8983A

操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
	左回り(反時計方向)に旋回
	右回り(時計方向)に旋回

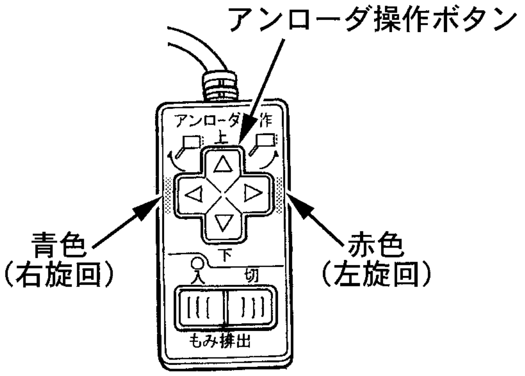
● こく粒の排出操作


こく粒排出ボタン
ランプ
アンローダ操作
上
下
入
切
もみ排出
"切" を押すとランプが消灯し，こく粒の排出を停止
"入" を押すとランプが点滅し，アンローダからこく粒を排出

M-7930改B

補　足

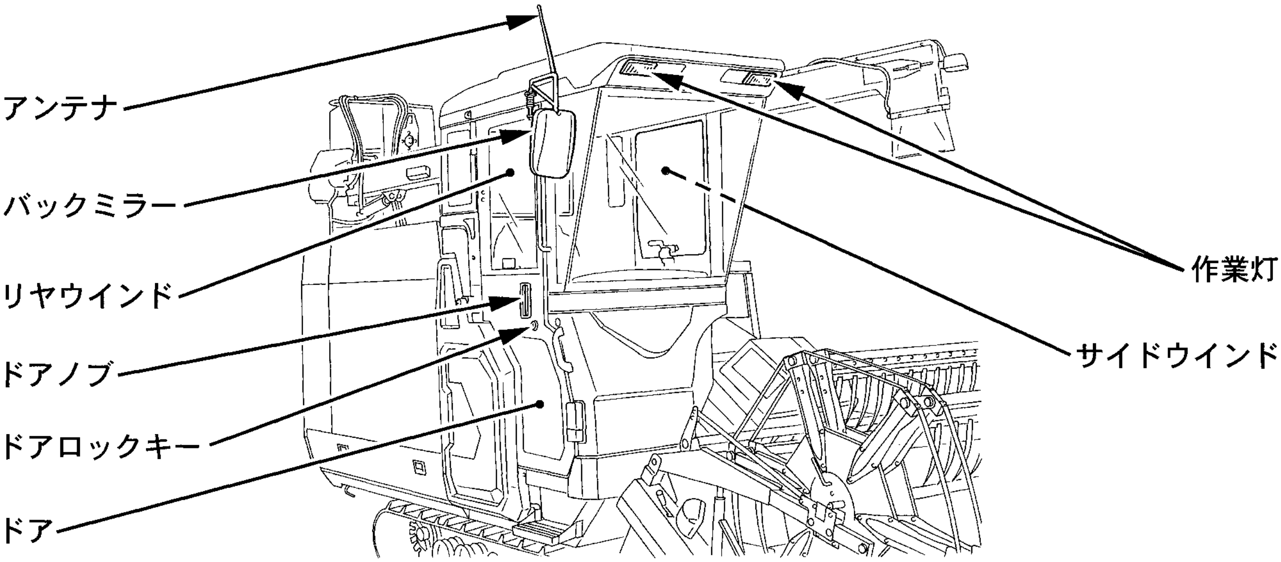
＊アンローダ操作ボタンとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ操作ボタンを操作してください。アンローダ操作ボタンを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ操作ボタンを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。


アンローダ操作ボタン
青色（右旋回）
赤色（左旋回）
アンローダ操作
上
下
入
切
もみ排出

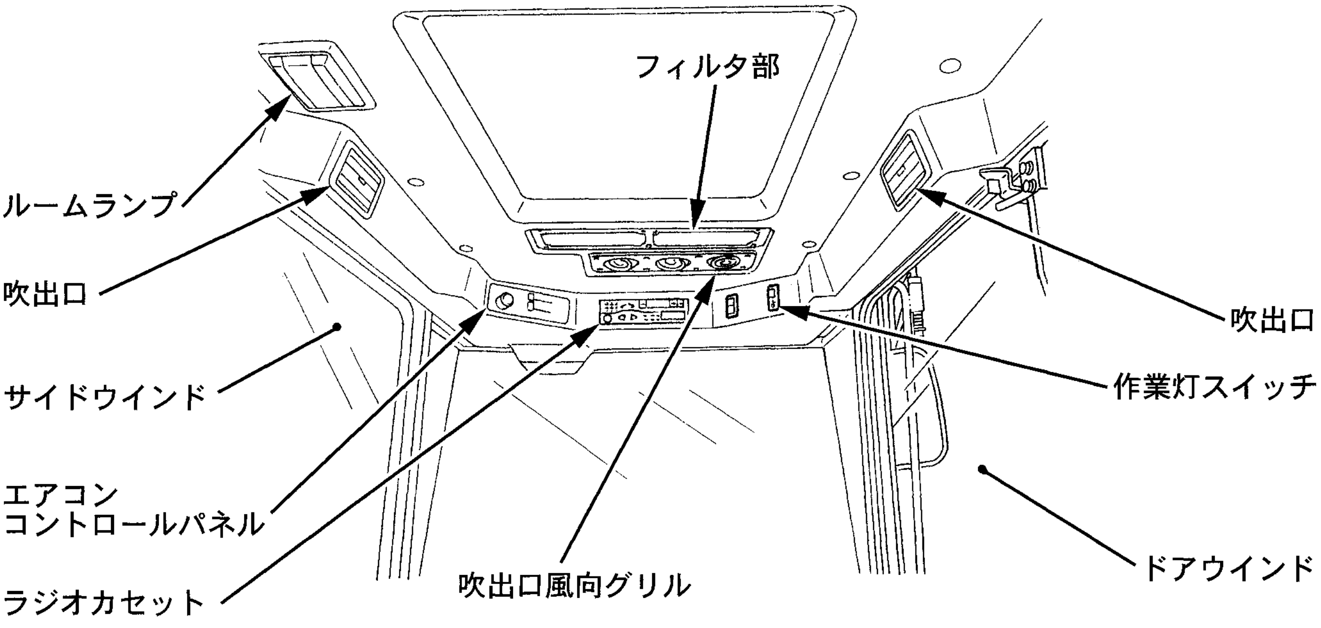
M-7930改C

キャビン装置の名称と取扱い【C仕様】

装置の名称


アンテナ
バックミラー
リヤウインド
ドアノブ
ドアロックキー
ドア
作業灯
サイドウインド

M-10086A


フィルタ部
ルームランプ
吹出口
サイドウインド
エアコン
コントロールパネル
ラジオカセット
吹出口風向グリル
吹出口
作業灯スイッチ
ドアウインド

M-10067A

各装置の取扱い

■ドアの開閉・ロックのしかた

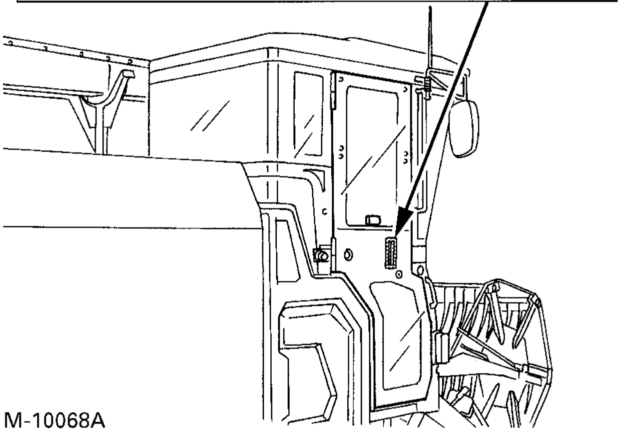
注　意

＊ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ドアの開閉のしかた

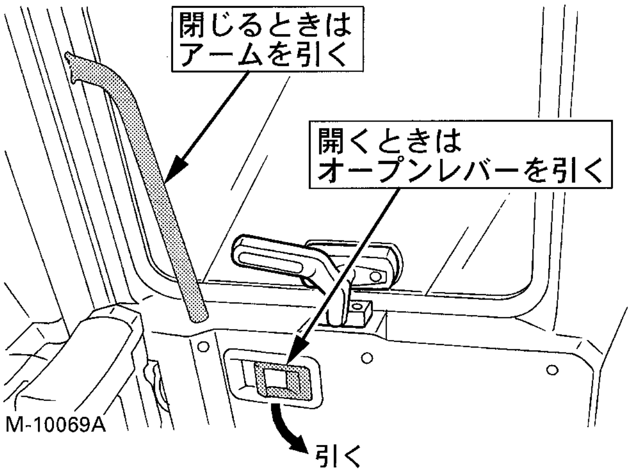
●室外から

ドアノブを“カチッ”と音がするまで引くと開き，閉じるときはドアノブを操作せずにドアを押す



M-10068A

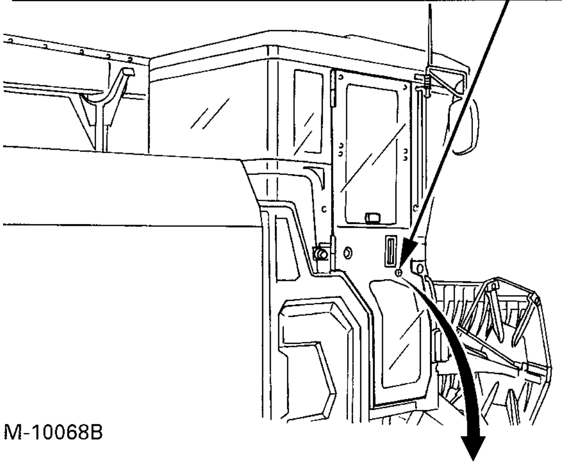
●室内から


閉じるときは
アームを引く
開くときは
オープンレバーを引く
引く

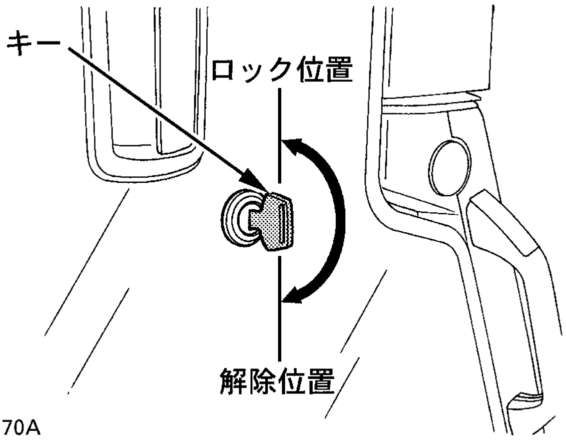
M-10069A

◆ドアのロック・解除のしかた

ドアが閉じている状態で，ドアロックキーにキャビン用キーを差込む



M-10068B


キー
ロック位置
解除位置

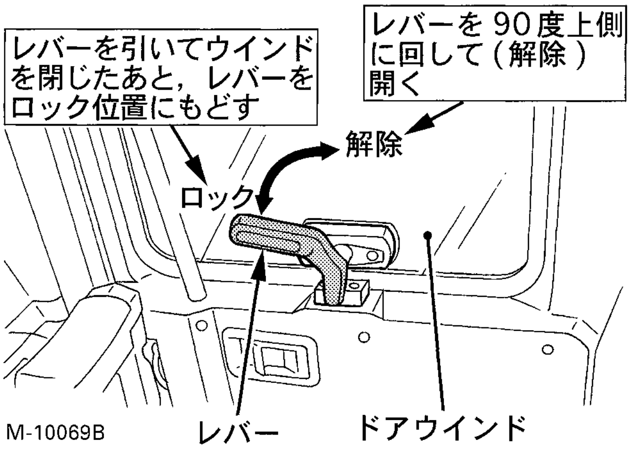
M-10070A

重　要

＊長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

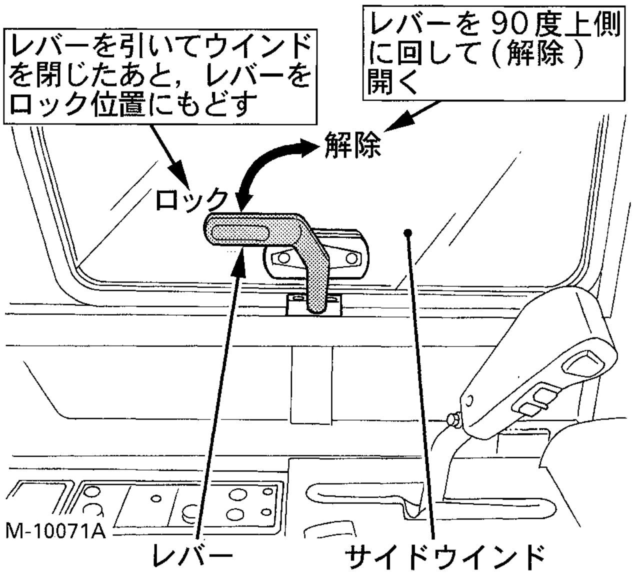
■各ウインドの開閉のしかた

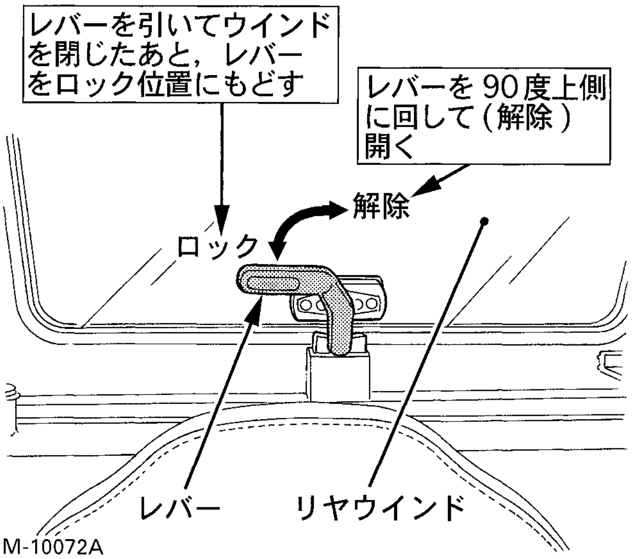
◆ドアウインド


レバーを引いてウインドを閉じたあと，レバーをロック位置にもどす
レバーを90度上側に回して（解除）開く
解除
ロック
M-10069B
レバー
ドアウインド

◆サイドウインド

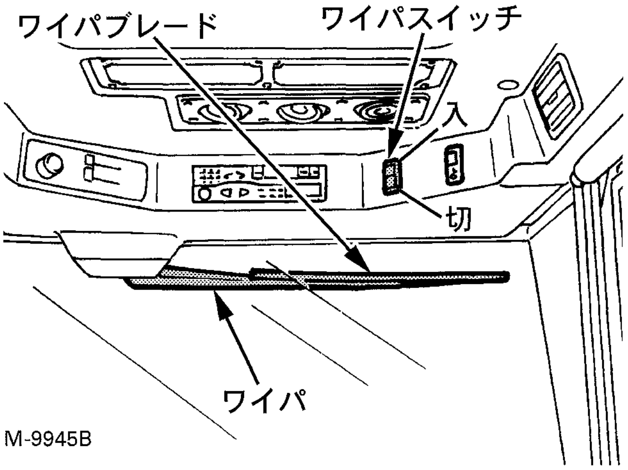
◆リヤウインド


レバーを引いてウインドを閉じたあと，レバーをロック位置にもどす
レバーを90度上側に回して（解除）開く
解除
ロック
M-10071A
レバー
サイドウインド


レバーを引いてウインドを閉じたあと，レバーをロック位置にもどす
レバーを90度上側に回して（解除）開く
解除
ロック
レバー
リヤウインド
M-10072A

■ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが“**入**”位置のとき，ワイパスイッチの上側を押すと作動（**入**）し，下側を押すと停止（**切**）します。


ワイパブレード
ワイパスイッチ
入
切
ワイパ
M-9945B

重　要

＊ガラス表面に泥などが付着している場合は，濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。

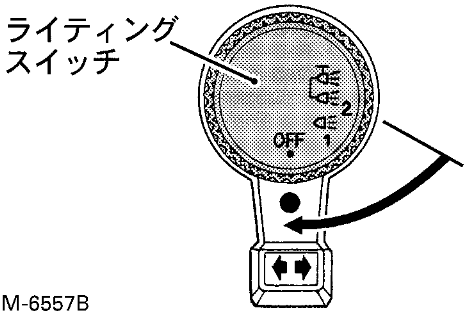
＊長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。

＊エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

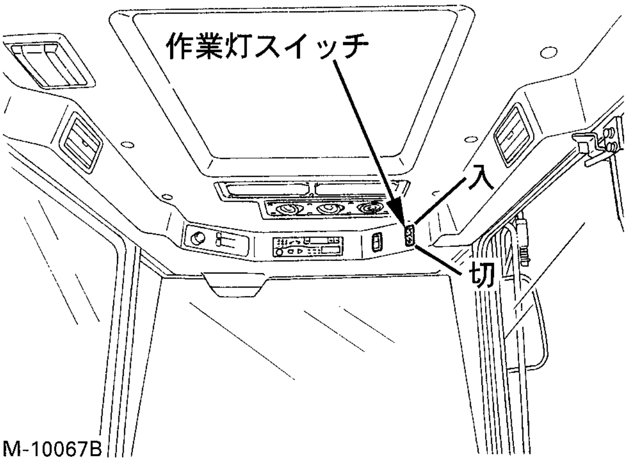
各装置の取扱い

■作業灯スイッチ

メインスイッチのキーが“入”位置のとき，ライティングスイッチを“2”位置（ヘッドランプ・作業灯点灯）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す（入）と作業灯が点灯し，下側に押す（切）と作業灯が消灯します。


ライティングスイッチ
2
OFF
1

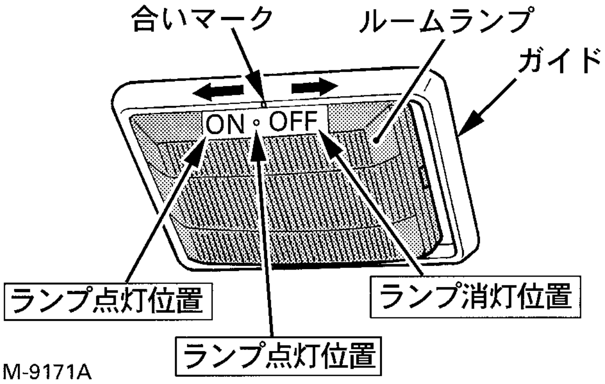
M-6557B



M-10067B

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが“入”位置のとき，ルームランプをスライドさせてガイドの**合いマーク**に合わせてください。


合いマーク
ルームランプ
ガイド
ON
OFF
ランプ点灯位置
ランプ消灯位置
ランプ点灯位置

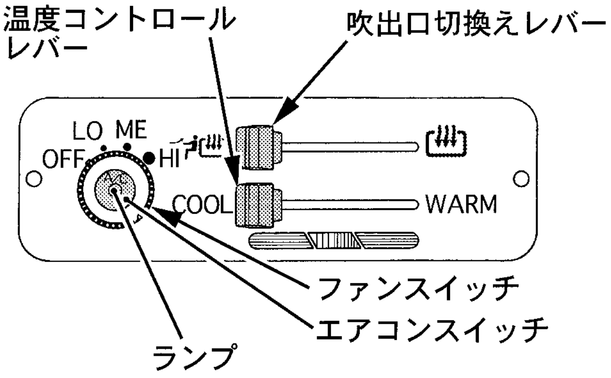
M-9171A

重　要

＊エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル


温度コントロールレバー
吹出口切換えレバー
LO
ME
OFF
HI
COOL
WARM
ファンスイッチ
エアコンスイッチ
ランプ

F-9317A

◆エアコンスイッチ

エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重　要

＊１週間以上又は，長期放置後にエアコンを使うとき，エンジン回転をアイドリングしてエアコンスイッチを“入”にしてください。
　エンジン回転が高いままで，エアコンスイッチを“入”にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊エアコンスイッチを押して“入”の状態で，ファンスイッチが“OFF”位置以外（送風状態）のときに，中央のランプ（青色）が点灯します。

◆ファンスイッチ

風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより３段階（LO(弱)←→ME(中)←→HI(強)）の調節が行なえます。

補　足

＊ファンスイッチが“OFF”位置のとき，送風が停止すると同時にエアコンの電源も切れます。（ランプ消灯）

◆温度コントロールレバー

温度を調整するレバーです。レバーを“COOL”（左側）に操作すると温度は低くなり，“WARM”（右側）に操作すると温度が上がります。

エアコンの取扱い

◆吹出口切換えレバー

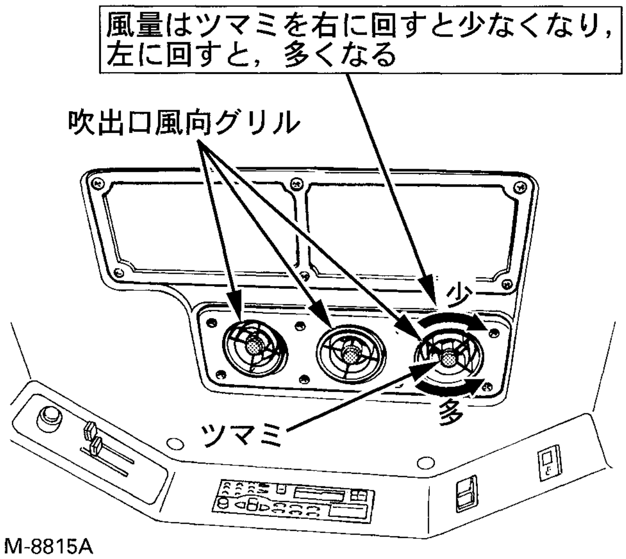
送風の吹出口を切換えるレバーです。

………吹出口風向グリル（上部）と吹出口（上部両横）より吹出します。

………吹出口風向グリル（上部）より吹出します。

● 吹出口風向グリルの調整のしかた

吹出口の風向グリルで風量の調整を行ないます。グリルの角度を変えて，風向きを調整してください。また，上部両横の吹出口からの風量を多くしたいときは，上部の吹出口からの風量を少なくしてください。



M-8815A

補　足

＊フロントガラスの曇りを除去するときは，グリルをフロントガラスに向けてください。

■エアコン冷暖房のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の位置に回します。
3. 温度コントロールレバーを希望の位置にします。

レバーが

- 暖房（WARM）位置のときは，エアコンスイッチを切位置にします。
- 冷房（COOL）位置のときは，エアコンスイッチを押して**入**位置（ランプ点灯）にします。

補　足

＊湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，レバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して入位置にして，除湿を行なってください。

＊健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して当てるのはさけてください。

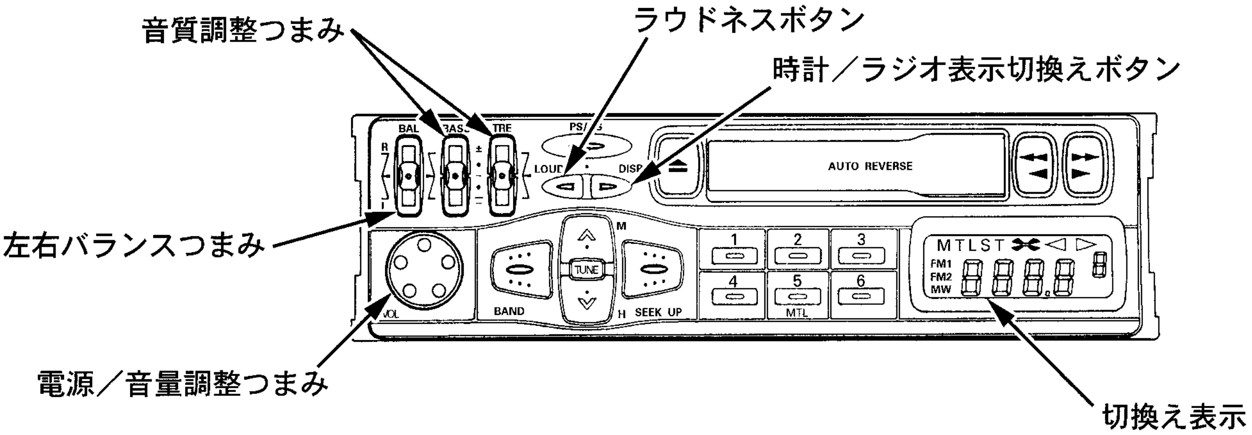
＊ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。

＊連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。

＊エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

■スイッチ・ツマミの取扱い


音質調整つまみ
ラウドネスボタン
時計／ラジオ表示切換えボタン
左右バランスつまみ
電源／音量調整つまみ
切換え表示
BAL
BASS
TRE
R
L
PS/AS
LOUD
DISP
AUTO REVERSE
M
TUNE
BAND
H SEEK UP
VOL
1
2
3
4
5
6
MTL
MTLST
FM1
FM2
MW

◆電源／音量調整つまみ

右に回すと電源がONします。更に右へ回すと音量が大きくなります。カセットテープが入っているときはテープ動作，入っていないときはラジオの状態になります。

◆左右バランスつまみ

バランスつまみを利用して左右の音量調整をします。L表示側につまみをスライドすると右側の音量が減衰し，R表示側につまみをスライドすると左側の音量が減衰します。

◆音質調整つまみ

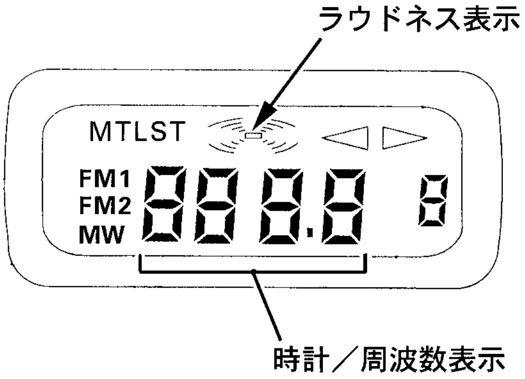
● BASS(低音)調整

低音調整つまみで低音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。⊕にスライドすると増強，⊖にスライドすると減衰します。

● TRE(高音)調整

高音調整つまみで高音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。⊕にスライドすると増強，⊖にスライドすると減衰します。

◆切換え表示


ラウドネス表示
MTLST
FM1
FM2
MW
時計／周波数表示

◆ラウドネスボタン

小音量で音楽を聞くと，低音が弱く感じます。ラウドネスボタンを押すと低音が強調されて，聞きやすい音質になります。解除するときはもう一度ボタンを押してください。

◆時計／ラジオ表示切換えボタン

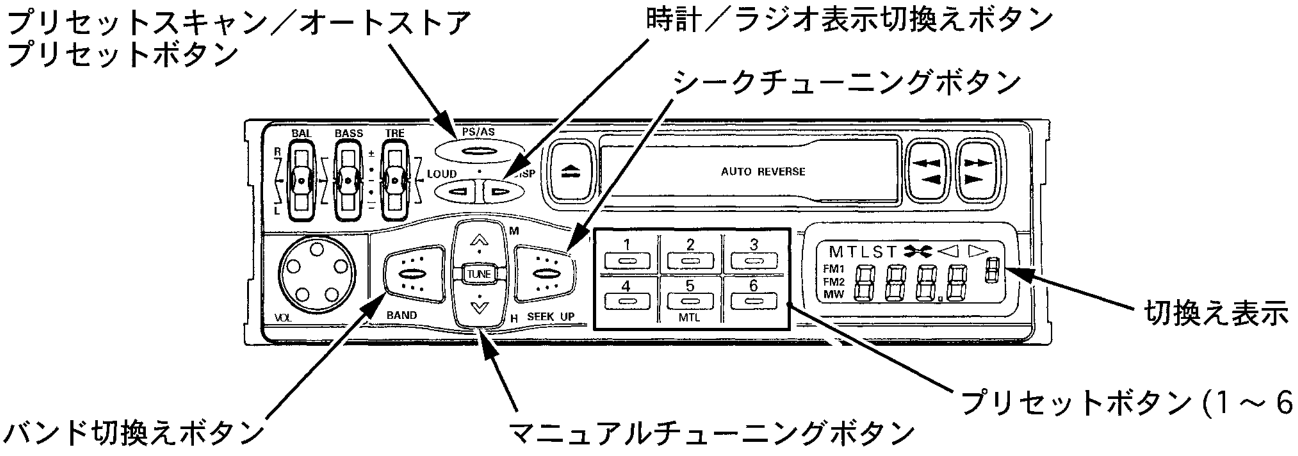
DISPボタンを押すとラジオ／時刻表示の切換えを行ないます。

◆時計セット

時刻修正は時刻表示の状態で行なえます。DISPボタンを押しながらTUNINGボタンの下側（H）を押すと時間，上側（M）を押すと分の時刻修正が行なえます。

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

■ラジオ操作


プリセットスキャン／オートストア
プリセットボタン
時計／ラジオ表示切換えボタン
シークチューニングボタン
BAL
BASS
TRE
PS/AS
LOUD
DISP
AUTO REVERSE
M
TUNE
VOL
BAND
H
SEEK UP
1
2
3
4
5
6
MTL
MTLST
FM1
FM2
MW
切換え表示
プリセットボタン（1～6）
バンド切換えボタン
マニュアルチューニングボタン

◆バンド切換え

受信周波数帯を変更するときに押します。

＊FM1/FM2/MW(AM 放送バンド)

◆マニュアルチューニング

手動にて選曲を行ないます。

上側ボタンを押すと受信周波数が高く，下側を押すと低くなります。

ボタンを押し続けていると速いペースで周波数が変化します。

◆シークチューニング

このボタンを押すと自動的に周波数が高いほうに変化して放送をさがします。受信可能な放送があると，その周波数で停止して継続受信します。

◆プリセットボタン　（1～6）

オートストアでメモリされた放送周波数を，1-6のボタンで単独に呼び出し，受信することができます。

1-6のボタンはFM及びAM共用で18局（FM12局，AM6局）の放送をセットできます。

◆マニュアルメモリ

メモリしたい放送局をマニュアルチューニングボタンかシークチューニングボタンで選局します。

周波数表示中にメモリしたい番号（1～6）を約2秒間押しつづけます。周波数表示が一回フラッシュして登録が終了します。

◆プリセットスキャン／オートストア

●プリセットスキャン

ラジオ受信中にこのボタンを押すと，現在受信中のバンドにプリセットされている放送局を，1番から6番まで5秒間づつ放送します。（その際ボタンを押す時間は2秒内です）

お聞きしたい局が受信したところで，もう一度このボタンを押してください。プリセットスキャンの作業を終了して，通常の放送に切換わります。

●オートストア

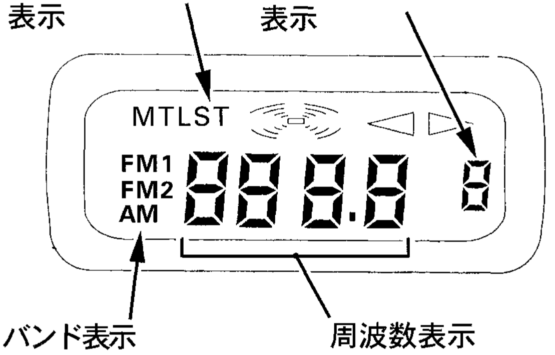
ラジオ受信中にこのボタンを2秒以上押すと，現在受信中のバンド内の放送を自動的に探して，その周波数をプリセットメモリに記憶します。この動作中，表示部の右側のチャンネル表示が変化します。

これは各メモリチャンネルに記録中を表わします。

補　足

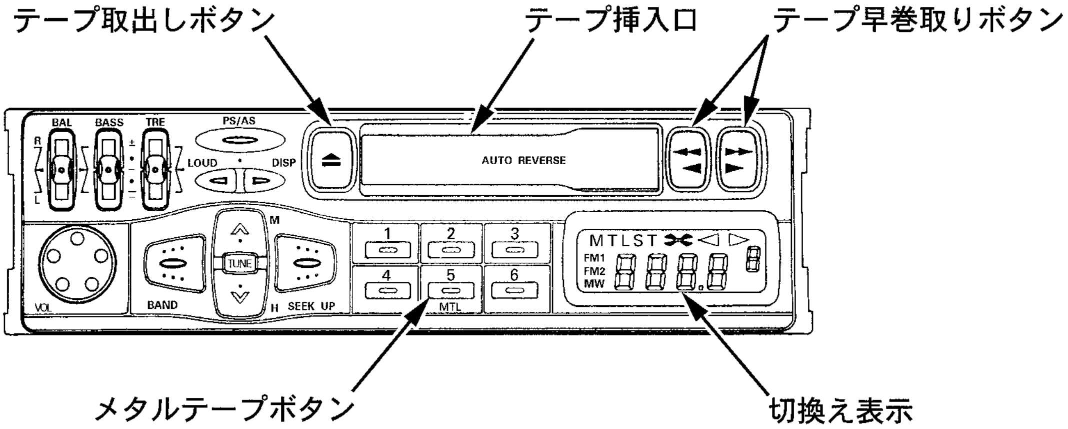
＊チャンネル表示がフラッシング中は，オートストア機能は使用出来ません。（フラッシング中はプリセットスキャン中です。）

◆切換え表示


FMステレオ受信
表示
プリセットチャンネル
表示
MTLST
FM1
FM2
AM
バンド表示
周波数表示

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

■カセット操作方法


テープ取出しボタン
テープ挿入口
テープ早巻取りボタン
BAL
BASS
TRE
PS/AS
LOUD
DISP
AUTO REVERSE
1
2
3
4
5
6
MTL
M
TUNE
H
BAND
SEEK UP
VOL
MTLST
FM1
FM2
MW
メタルテープボタン
切換え表示

◆テープ取出しボタン

テープ演奏を停止する際に奥まで押してください。カセットがイジェクトされラジオの状態になります。

◆メタルテープボタン
（プリセットボタン５番と共通です）

使用するテープの種類によって使分けてください。メタル／クロームテープ使用時は，ボタンを押してください。表示部にMTLが表示されます。解除するときはもう一度ボタンを押してください。

◆テープ早巻取りボタン（基本操作）

●早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンをロックするまで押します。

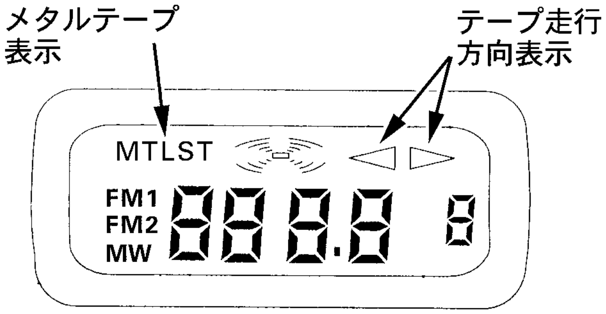
●巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンをロックするまで押します。

（早送り）（巻戻し）を中止するには，押込まれているボタンと逆のボタンを軽く押します。

演奏面を変えるときは，２つのボタンを同時に押してください。演奏面が変わると同時にテープ走行表示の点灯もかわります。本機はオートリバースメカを使用していますので，テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると，自動的にテープ走行が変わり，反対面のプログラムが再生されます。テープをいれたままにしておきますと，A面B面を繰返し演奏を続けます。

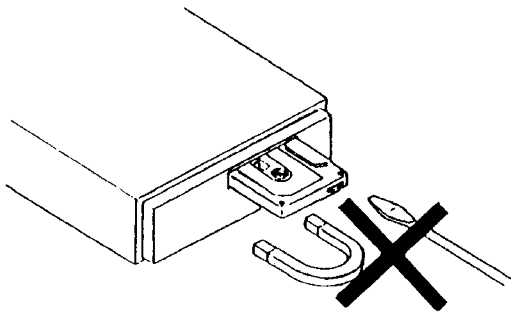
◆切換え表示


メタルテープ
表示
テープ走行
方向表示
MTLST
FM1
FM2
MW

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

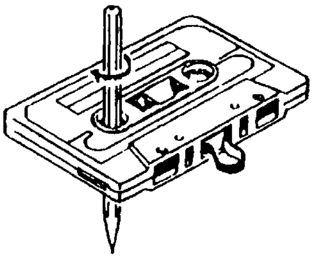
■取扱上の注意

1. ラジオカセットは，水分や高温，多湿を嫌いますので，キャビン内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに磁石やドライバなどを絶対に近付けないでください。



F-6627

3. カセットテープ挿入時にテープがたるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのたるみを直してからご使用ください。



F-6626

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押し挿入してください。
5. C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. キャビン内の温度に気をつけてください。極寒や酷暑のとき，とくに夏期はキャビン内の温度が大変高くなることがありますので，キャビン内の換気に注意し，適温で使用してください。また，コンバインを降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. ラジオカセット操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞える程度でお楽しみください。
10. ラジオカセットのお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，固くしぼってからご使用ください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所（シートの上など）への長時間放置もさけてください。
12. カセットテープ挿入口より多量のホコリが侵入しますと，テープやテープヘッドを傷め不具合となりますので，長時間ドアやウインドを開けた状態での運転はさけてください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，83ページを参照。）

警　告

＊平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の **"クボタ純オイル・スペアグリース"** を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部に排かんくずがたまっていないか点検します。

運転前の点検

日常点検項目

	〈ここを〉 →		〈点検し異常があれば〉 →	〈こうする（処置）〉	参照ページ
機体の周りを歩いて	機体各部		1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. 排かんくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼換える。	— — 115 90 ⚠-17
	刈刃		● 刃の損傷はないか。	● 交換する。	142
	クローラ		● たるみや損傷はないか。	● 調整又は，交換する。	154
	防じんあみ		● 詰まりはないか。	● 掃除する。	116
	反射器		● 汚れや損傷はないか。	● 調整又は，交換する。	153
エンジン回りを確認して	エンジンオイル		● 油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	● 規定量まで補給する。 …クボタ純オイル D30又は，D10W30	105
	ラジエータ	冷却水	● リザーブタンクの水量は規定量（タンクの**FULL線とLOW線の間**）あるか。	● 清水を規定量まで補給する。	112
	オイルクーラ コンデンサ**【C仕様】**	フィン	● 詰まりはないか。	● 掃除する。	116
	エアクリーナ		● エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	● 掃除又は，エレメントを交換する。	114
	ファン駆動ベルト		● たるみはないか。 ● 損傷はないか。	● 調整する。 ● 交換する。	126
	パイプ，ホース		● 油もれや水もれはないか。	● 取付部の締付け又は，交換する。	115
	配線コード		● コネクタの外れはないか。 ● 被覆の損傷はないか。	● 接続する。 ● 交換する。	150
メインスイッチを入れて	各ランプ		● 各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	● 球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	150,152
	液晶ディスプレイ		● 表示はされているか。 ● 切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。	● バッテリの充電又は交換する。	146
	燃料計		● 作業に必要な燃料はあるか。	● 軽油を補給する。	103
	ホーン		● スイッチを押すと鳴るか。	● ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	150,152
	バックブザー		● 主変速レバーを **“後進”** 位置にするとブザーが鳴るか		
エンジンを始動して	エンジン回転計		● 回転計の作動に異常はないか。	● 購入先に連絡してください。	—
	エンジン	マフラ	● 異音はしないか。 ● 排気ガスの色に異常はないか。	● 購入先に連絡してください。	—
	各レバー		● 各レバーの作動に異常はないか。	● 調整する。	122
	駐車ブレーキ		● 機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	● 調整する。	122
	エンジン停止スイッチ		● スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	● ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	10,150

重要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。

コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊高速での刈取作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

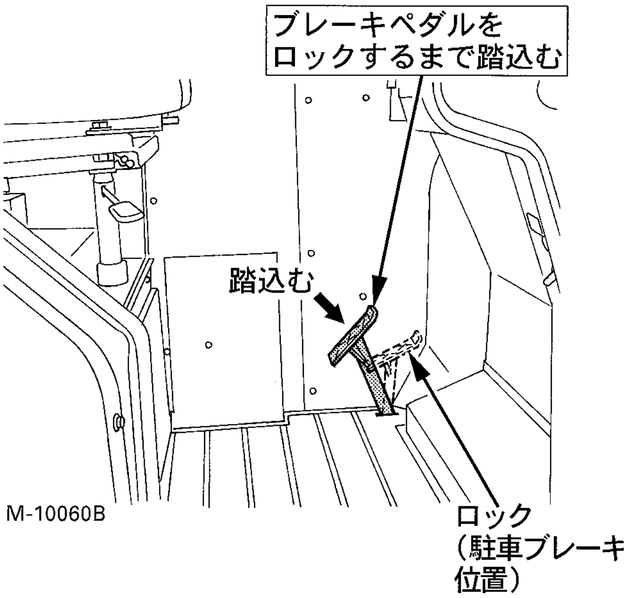
注　意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 運転をしやすい位置に運転席（シート）を調整します。

2. 駐車ブレーキを掛けます。

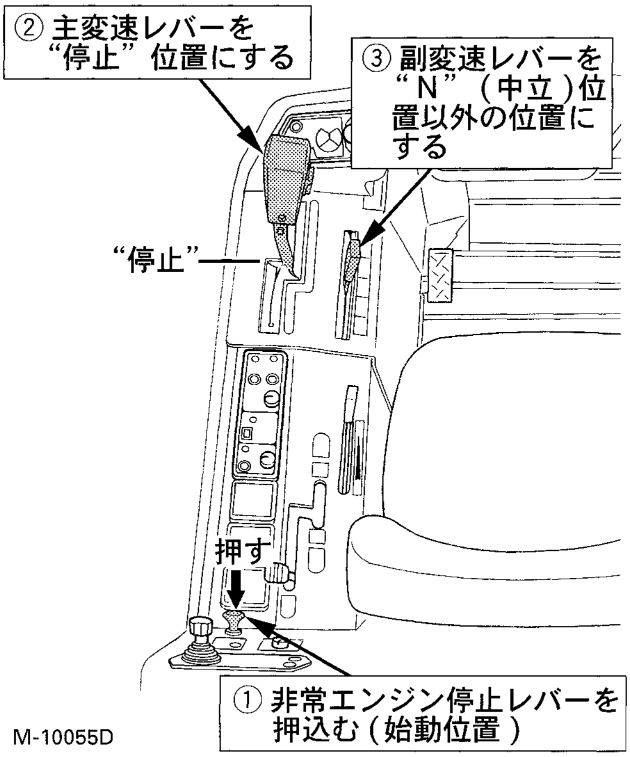


補　足

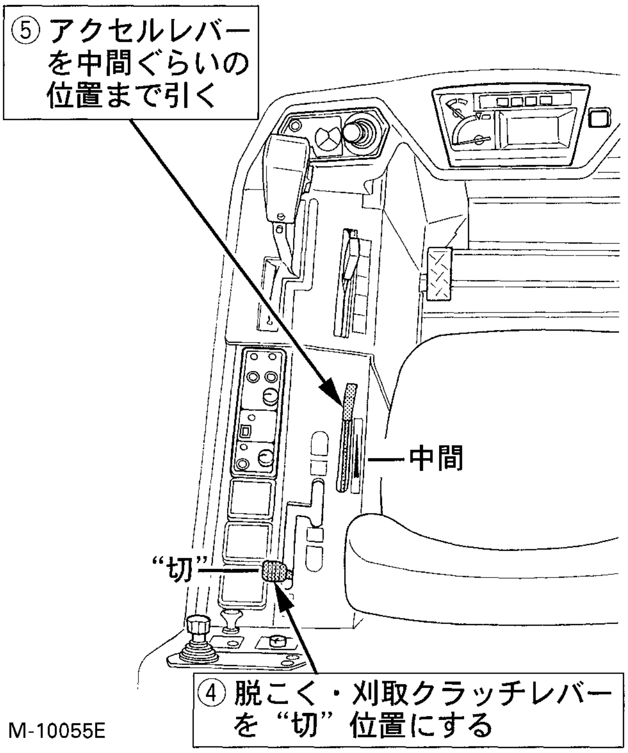
＊駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが“**停止**”位置に戻ります。また，ブレーキペダルが“**ロック**”位置の場合は，主変速レバーは動きません。
＊駐車ブレーキを掛けないとエンジンは始動しません。

エンジンの始動と停止のしかた

3. 各レバー位置の確認をします。


② 主変速レバーを“停止”位置にする
③ 副変速レバーを“N”（中立）位置以外の位置にする
“停止”
押す
① 非常エンジン停止レバーを押込む（始動位置）

M-10055D


⑤ アクセルレバーを中間ぐらいの位置まで引く
中間
“切”
④ 脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にする

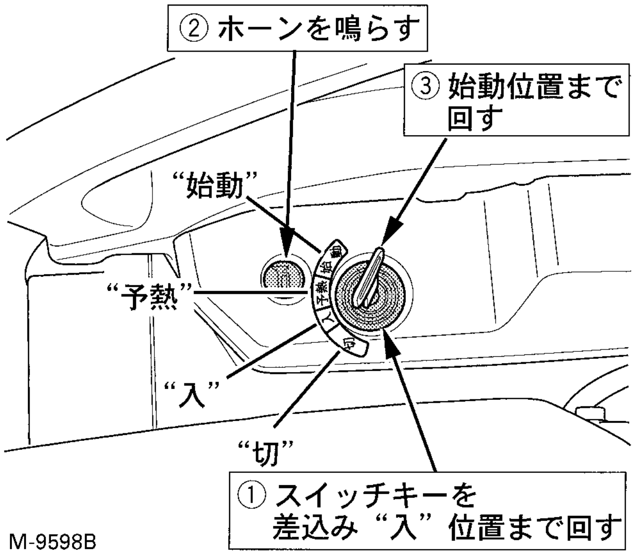
M-10055E

補　足

＊各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，スイッチキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

● 脱こくクラッチ切に	脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にする。
● 主変速中立に	主変速レバーを **“停止”**（**中立**）位置にする。
● 排出クラッチ切に	もみ排出スイッチを **“切”** 位置にする。
● ブレーキペダルを踏む	駐車ブレーキペダルを踏込む。

4. エンジンを始動します。



M-9598B

重　要

＊スイッチキーを **“始動”** 位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを **“切”** 位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，スイッチキーを **“始動”** 位置に回すと故障の原因になります。

補　足

＊スイッチキーを **“入”** 位置にすると，エアロナビの液晶ディスプレイに **アワーメータ・オイル（図柄）・充電（図柄）** が表示されますが，オイル又は，充電の図柄が表示されないときは，購入先に連絡してください。

＊駐車ブレーキが掛かっている状態でスイッチキーを **“入”** 位置にすると **駐車ブレーキ（P）** が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。

＊ホーンを鳴らすなど して始動の合図を周囲の人に送ってください。

◆暖機運転について

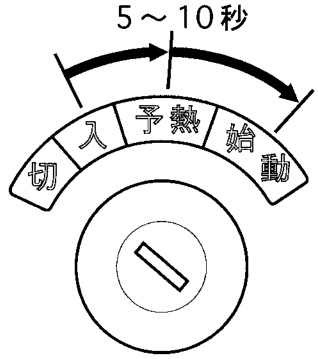
エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを **“予熱”** 位置で５～10秒間予熱したあと **“始動”** 位置に回してください。



M-9609A

重　要

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとSFワンレバーの操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを **“切”** 位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかたの1～4**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊スイッチキーを **“入”** 位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆バッテリが上がったときの始動のしかた

⚠ 危険

＊バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。（148ページ参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊接続するバッテリは，必ず12Vのものを利用してください。故障の原因となります。
＊バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの**⊕端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**⊖端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にします。
2. アクセルレバーを **“🐢”**（低回転）位置にします。
3. スイッチキーを **“切”** 位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊エンジン停止中でスイッチキーが **“入”** 位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。
＊スイッチキーを **“切”** 位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

このコンバインは，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注 意

＊ホッパ内又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。

＊安全のためヘルメットを着用してください。

＊運転者以外の人は乗せないでください。

＊10cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。

＊刈取部を上げてリールを下げ，刈取下降ロック金具で刈取部をロックして下降防止を行なってください。

＊水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にしてください。

＊あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，転倒しケガをするおそれがあるので下記事項を守ってください。

- ●副変速レバーを“低速”位置にし，エンジン回転を下げて低速で走行してください。
- ●上り方向は前進，下り方向は後進であぜや斜面に対して直角に走行してください。
- ●走行途中にSFワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダルの操作は行なわないでください。
- ●走行途中に停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。

＊下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。

- ●両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩
- ●道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）
- ●路肩の弱い道路
- ●路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

移動走行と輸送

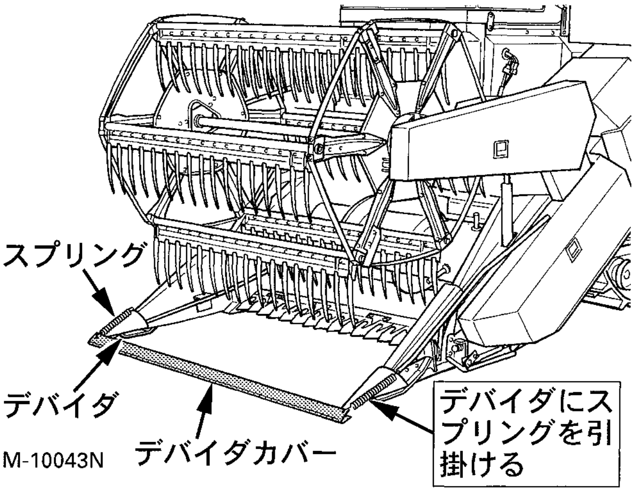
移動走行について

■走行前の準備

注　意

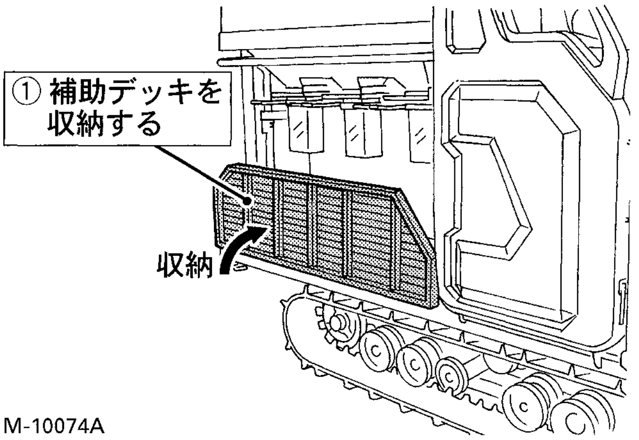
＊平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

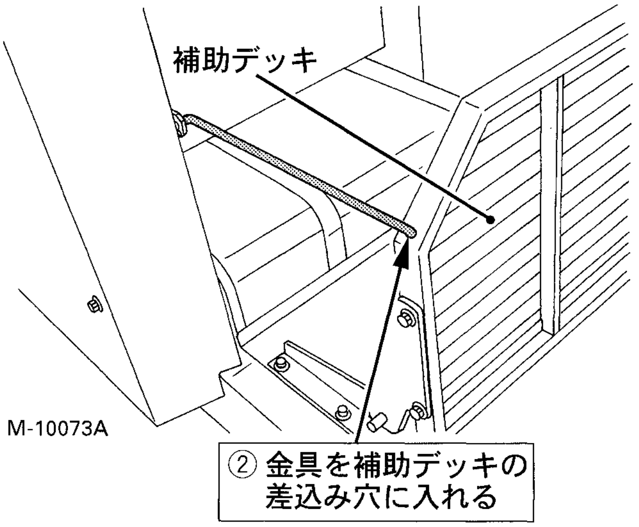
1. ホッパ内又は，グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。
　(65，66ページ参照)
2. 左，右のデバイダにスプリングを引掛けて，デバイダカバーを取付けます。


スプリング
デバイダ
デバイダカバー
デバイダにスプリングを引掛ける
M-10043N

ホッパ仕様

3. 補助デッキを収納したあと，金具を補助デッキの取付け穴に差込んで固定します。

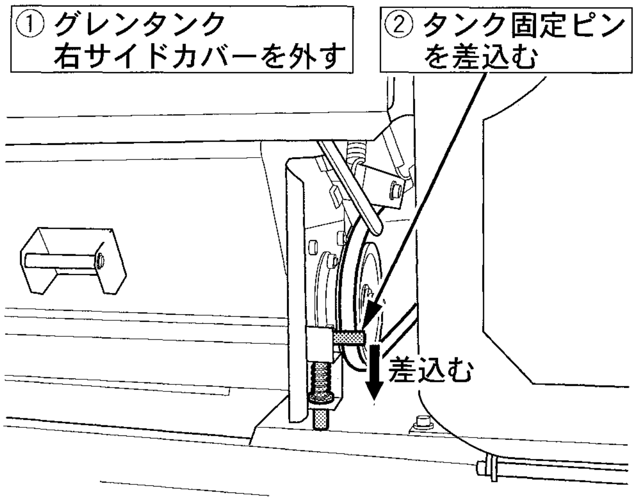

① 補助デッキを収納する
収納
M-10074A

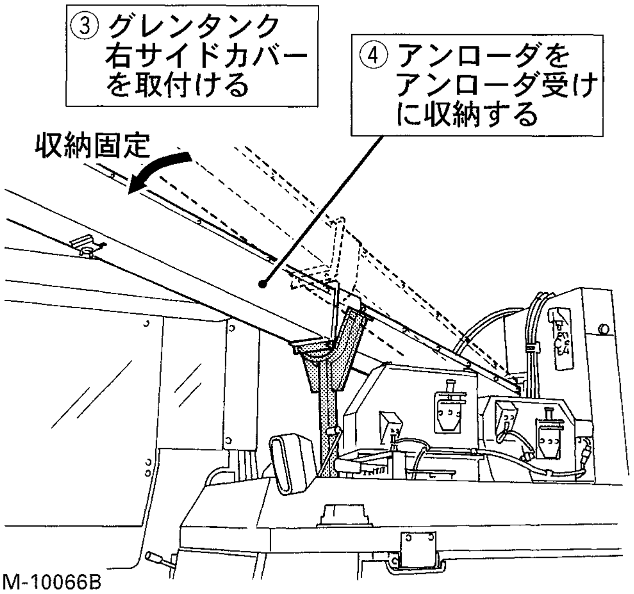

補助デッキ
② 金具を補助デッキの差込み穴に入れる
M-10073A

ホッパ仕様

グレンタンク仕様

3. グレンタンクを固定します。


① グレンタンク右サイドカバーを外す
② タンク固定ピンを差込む
差込む
M-9610A


③ グレンタンク右サイドカバーを取付ける
④ アンローダをアンローダ受けに収納する
収納固定
M-10066B

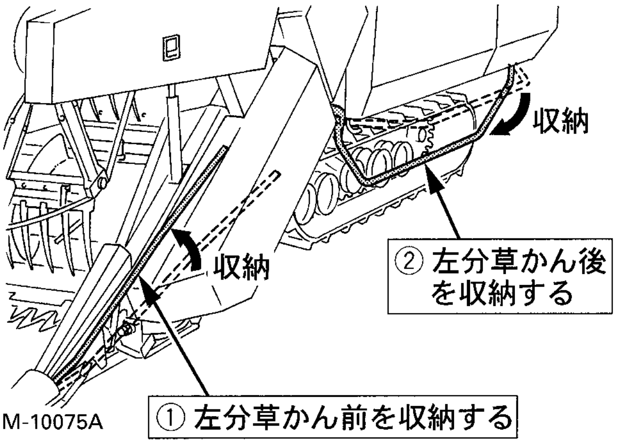
移動走行について

補　足

＊アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

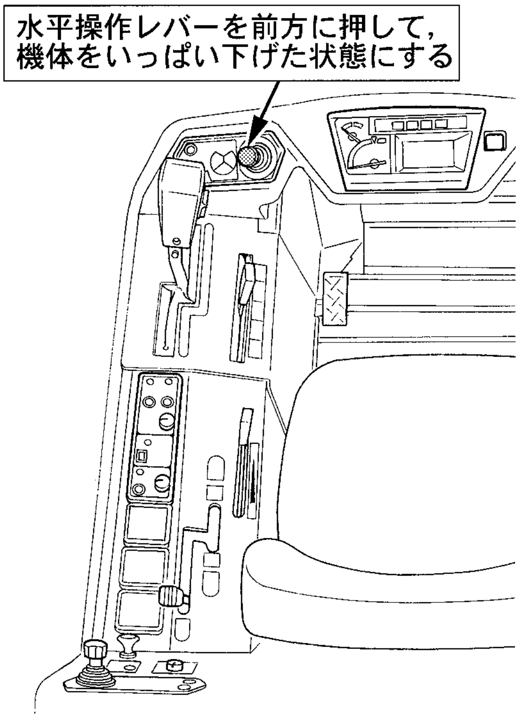
グレンタンク仕様

4. 左分草かん前・後を収納します。


収納
収納
② 左分草かん後を収納する
① 左分草かん前を収納する

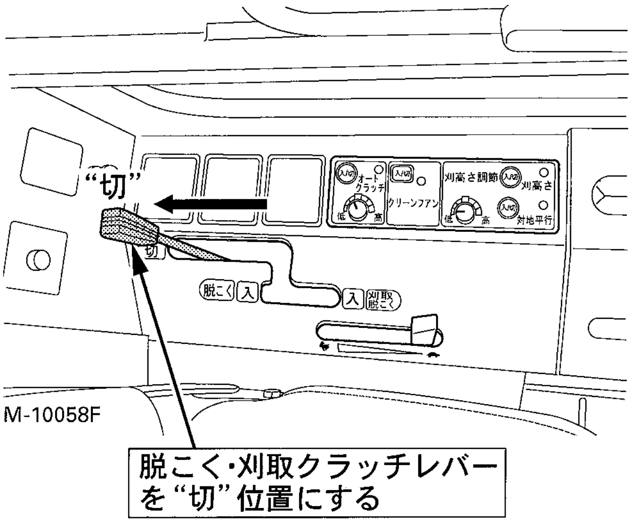
M-10075A

5. 自動車体水平制御スイッチを **“切”** にし，水平操作レバーで機体をいっぱい下げます。


水平操作レバーを前方に押して，機体をいっぱい下げた状態にする

M-10055F

6. 脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にします。


“切”
入/切
オートクラッチ
低
高
入/切
クリーンファン
刈高さ調節
入/切
刈高さ
低
高
入/切
対地平行
切
脱こく
入
入
刈取脱こく
脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にする

M-10058F

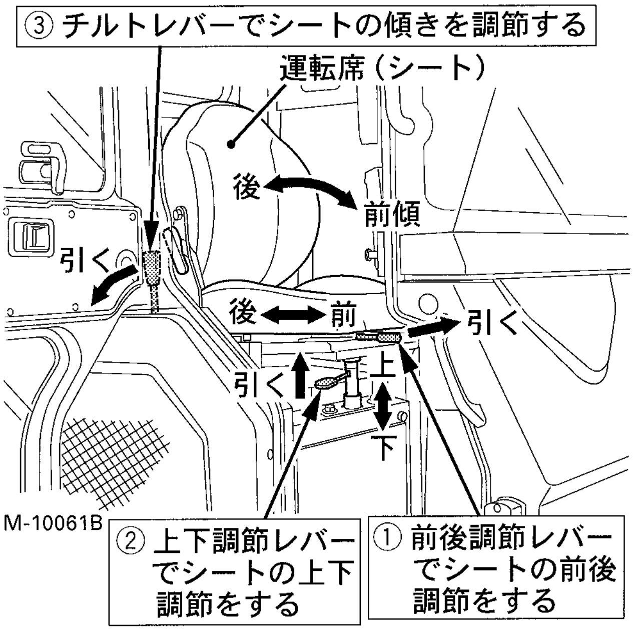
■発進のしかた

注 意

＊発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

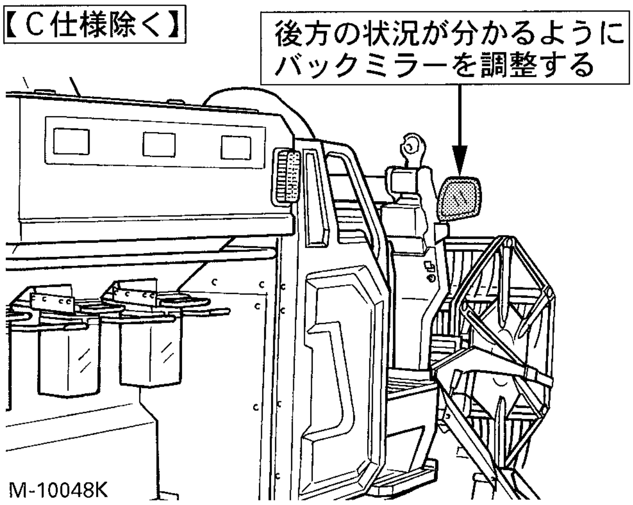
1. 運転席の調整を行ないます。


③ チルトレバーでシートの傾きを調節する
運転席（シート）
後
前傾
引く
後
前
引く
引く
上
下
② 上下調節レバーでシートの上下調節をする
① 前後調節レバーでシートの前後調節をする

M-10061B

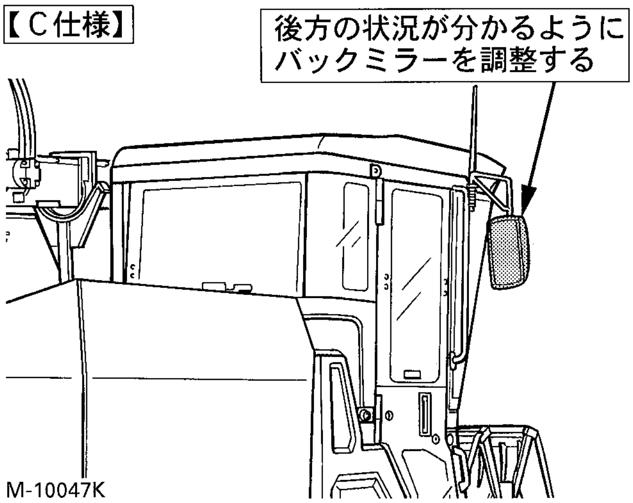
2. バックミラーを調整します。

【C仕様除く】


後方の状況が分かるようにバックミラーを調整する

M-10048K

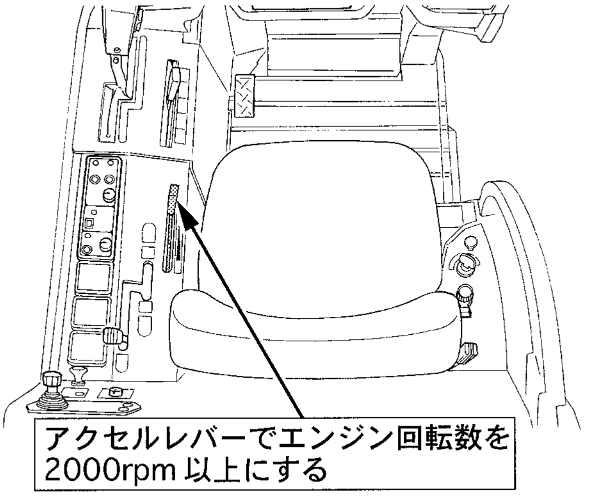
【C仕様】


後方の状況が分かるようにバックミラーを調整する

M-10047K

3. アクセルレバーを操作します。

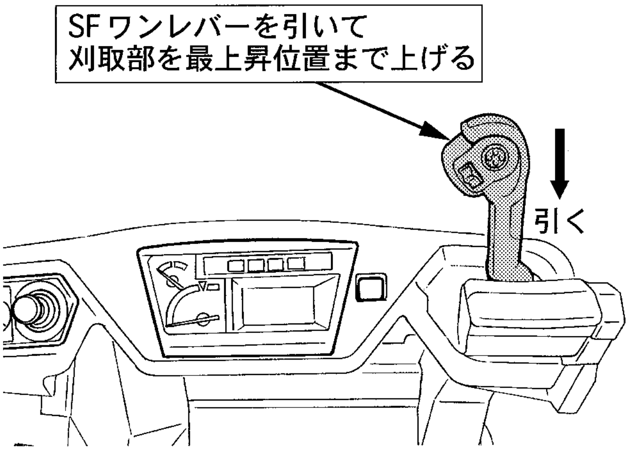
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。


アクセルレバーでエンジン回転数を2000rpm以上にする

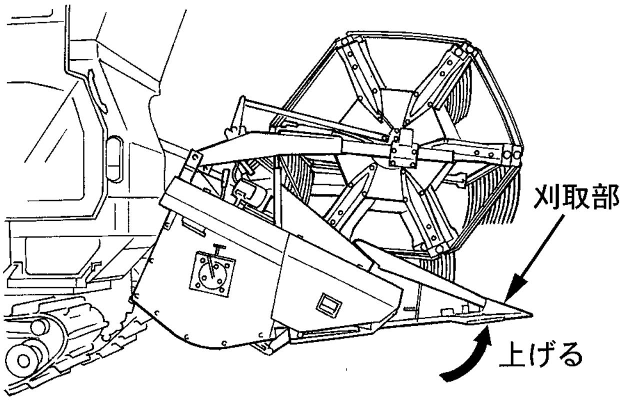
M-10055G

移動走行について

4. 刈取部を上げます。


SFワンレバーを引いて
刈取部を最上昇位置まで上げる

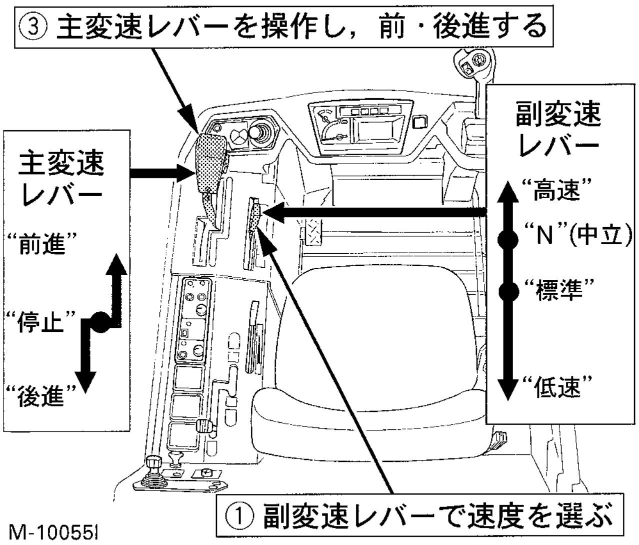
M-10055L



M-10076E

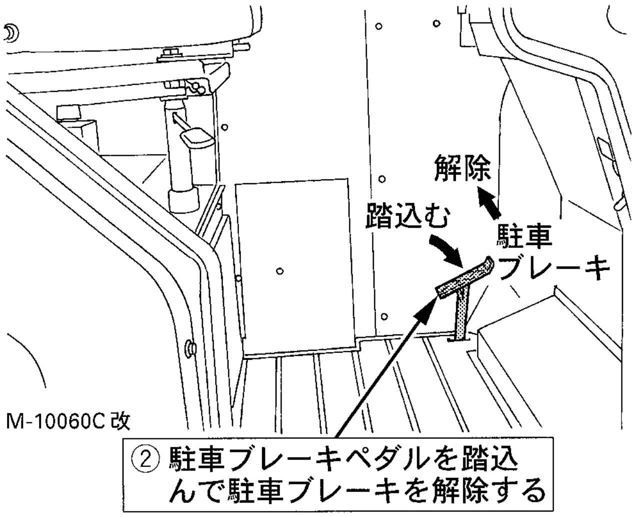
5. 走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを **“停止”** 位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。


③ 主変速レバーを操作し，前・後進する

① 副変速レバーで速度を選ぶ

M-10055I


② 駐車ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除する

M-10060C 改

重　要

＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを **“停止”** 位置にして駐車ブレーキを解除してください。

＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを **“停止”** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

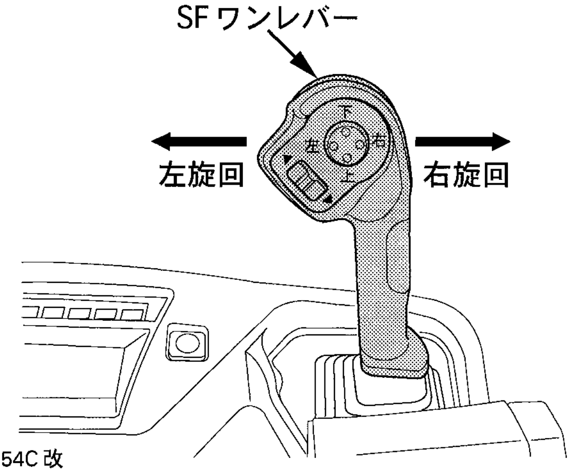
＊副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し **“前進”** 側に動かして停止に戻してから切換えてください。

■旋回のしかた

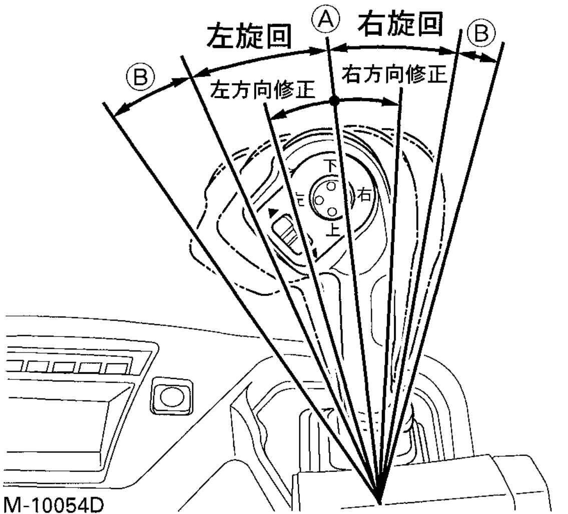
注 意

＊高速走行時，SFワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にSFワンレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



M-10054C 改



M-10054D

Ⓐ：ソフトターン範囲
Ⓑ：ブレーキターン範囲

重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

補 足

＊車体旋回モード切換えスイッチを **“ソフト・ブレーキ”** 位置に選択するとⒶからⒷの範囲に切換わるとブレーキターンとなります。

■停車・駐車のしかた

注 意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。

＊やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを **“停止”** 位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重 要

＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを **“🐢”** (低回転) 位置にします。
4. 刈取部を接地します。
5. エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。
6. **【C仕様】** はキャビンのドアをロックします。

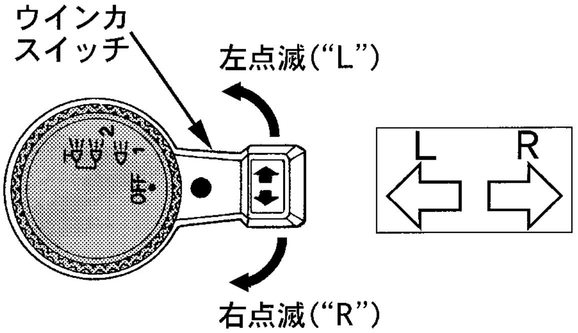
■移動走行について

移動走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を知らせてください。

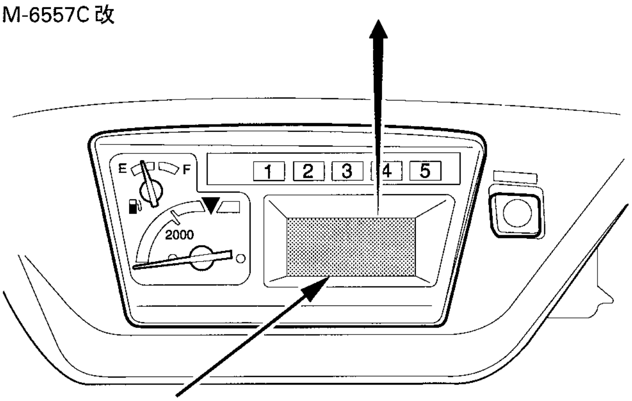
移動走行について

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，エアロナビの液晶ディスプレイに **“L”**（**左方向**）又は，**“R”**（**右方向**）方向を示す矢印が点滅表示します。



M-6557C改



M-9597C

補　足

＊旋回が終わったらウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊積込み・積降ろしは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（55cm以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	55cm以上
数　量	2枚
強　度	1枚が2800kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

こく粒をすべて排出し，アンローダを収納後，脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にし，自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ，補助デッキ【**ホッパ仕様**】や左分草かん前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。（46ページ参照）

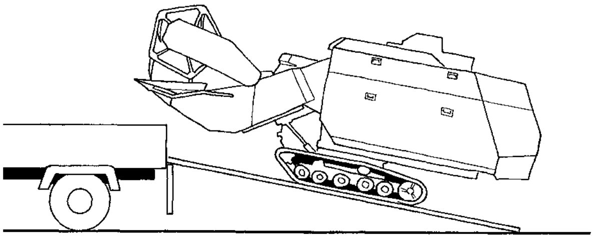
輸送について

■コンバインの積込み・積降ろしのしかた

注　意

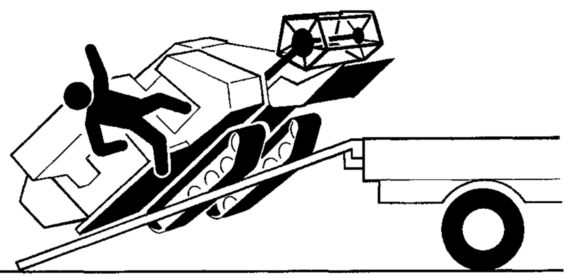
＊積込みは前進で，積降ろしは後進で行なってください。

＊平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前に人を近づけないでください。



M-4130

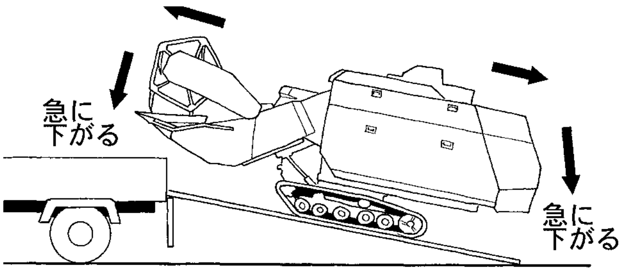
＊あゆみ板の途中でSFワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



M-8215

＊あゆみ板の途中で停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず，必ず主変速レバーを操作して停止してください。

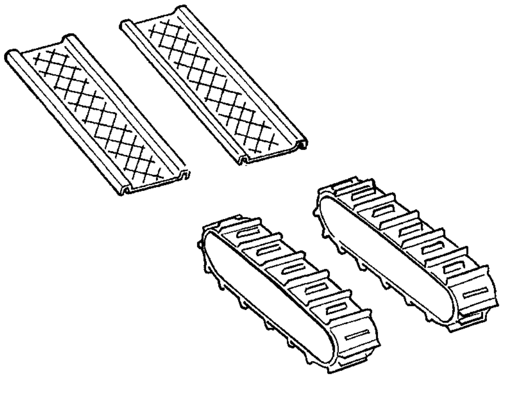
＊機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M-4130改

◆操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを **“切”** 位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. SFワンレバーで刈取部を上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上にし，副変速レバーを **“低速”** 位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降ろしをしてください。



M-8346A 改

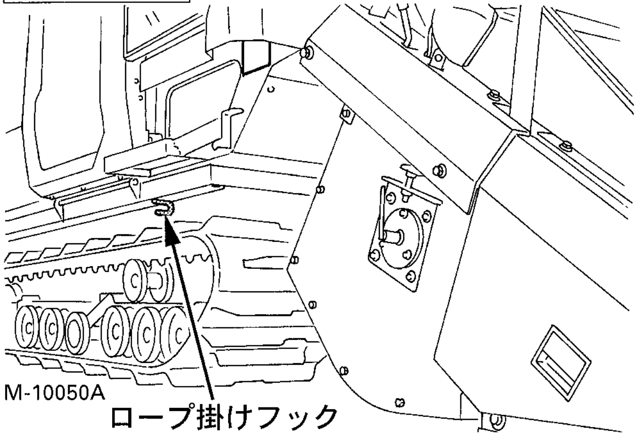
6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注　意

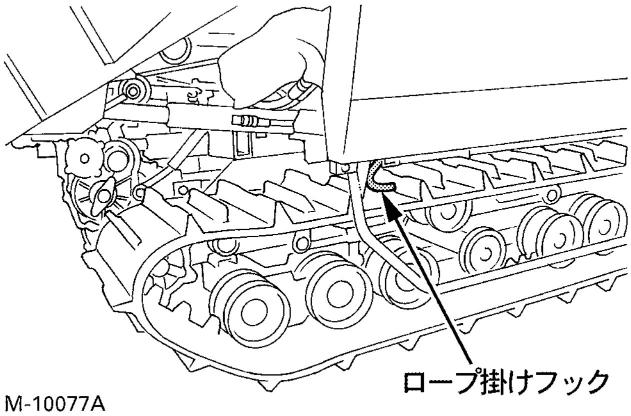
＊刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

【運転席下側】



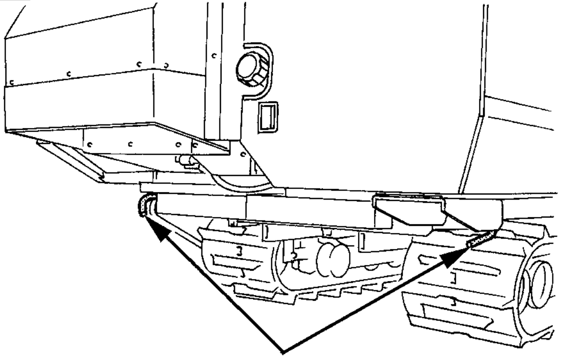
M-10050A

【左前側】

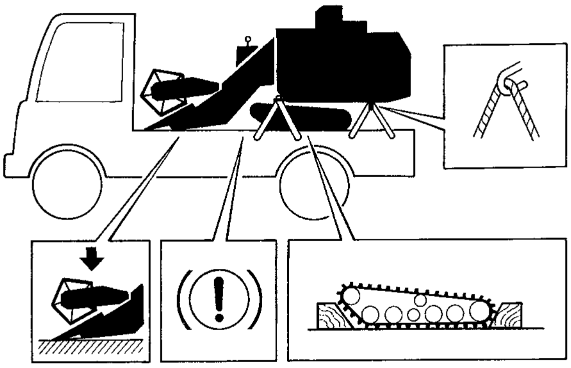


M-10077A

【後側】



M-10078A



M-8216

重　要

＊フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の収穫量を上げるにはコンバインに合わせた，ほ場のうね作り・排水管理や作付け・栽培管理及び，適期収穫についてそれぞれ適した作業を行なってください。

補　足

＊作物の品種・収穫時期・栽培管理やほ場の管理のしかたなどは，最寄りの指導機関（JA農協や普及センターなど）や経験者に相談してください。

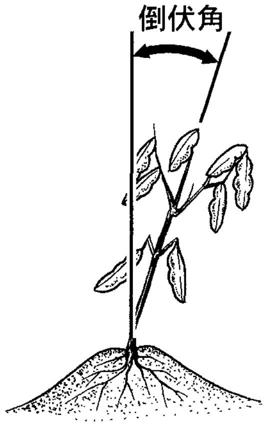
■作物の倒伏とほ場の傾き

◆作物の倒伏

刈取れる倒伏作物は，倒れかた(倒伏角)により異なります。

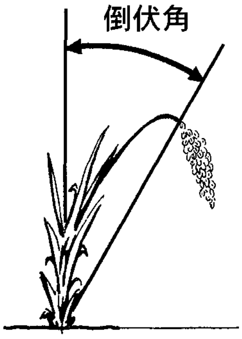
刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	70度以下
向い刈り	80度以下

【大豆】



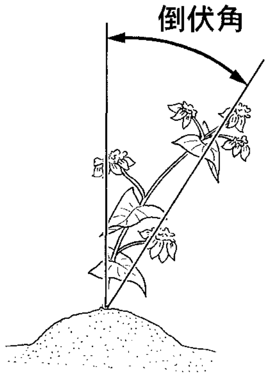
M-4146A改

【麦】



M-0138X

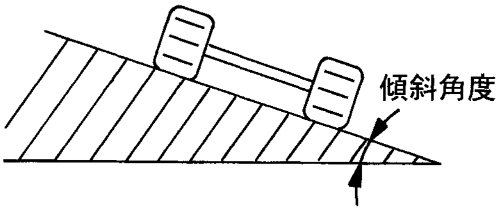
【そば】



M-8329

◆ほ場の斜き

傾斜角度５度以上では，作業できません。



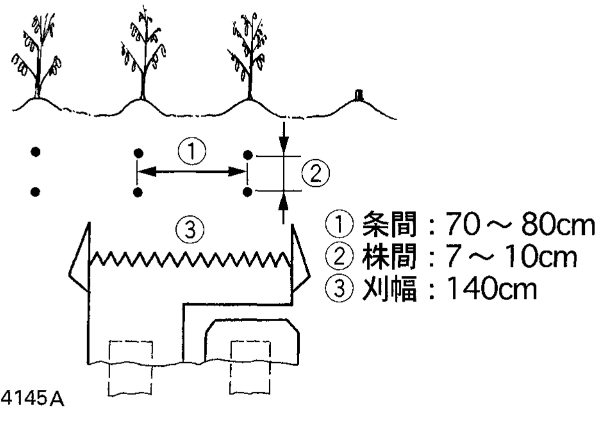
M-0487改

◆ほ場について【大豆】

水はけを良くし，コンバインの刈幅に合わせたうね作りを行なってください。また，このときクローラとうね幅・排水溝の幅は合わせてください。

補　足

＊うねの条間は70～80cmにし（２条刈り基本），株間は７～10cmにしてください。

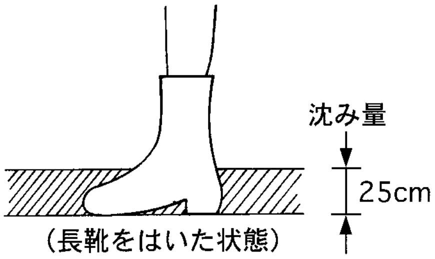


M-4145A

作物とほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ【麦】

足の沈み量を測って目安にしてください。


沈み量
25cm
（長靴をはいた状態）

M-0218

◆作物について

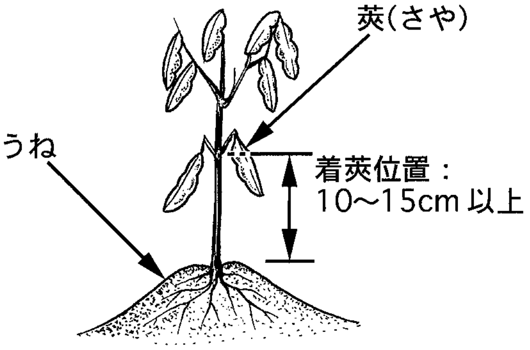
【大豆】

● 栽培管理

コンバインでの刈取りに適した品種を選んで栽培を行なってください。また，刈取作業前には雑草や腐った作物などは，取除いてください。

補　足

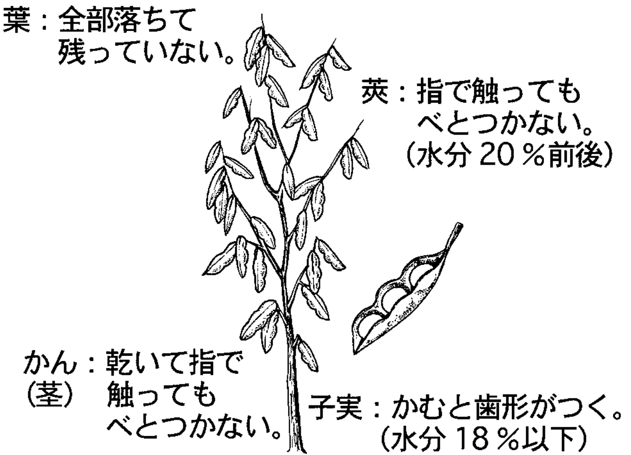
＊着莢（ちゃっきょう）位置が，うね上面から10〜15cm以上で，倒伏や裂莢（れっきょう）のしにくい品種を選んでください。


莢(さや)
うね
着莢位置：
10〜15cm 以上

M-4146B

● 収穫適期

成熟期から約１〜２週間後を目安とし，莢（さや）・かん（茎）を手でさわってもべとつかず，子実を歯でかむと歯形が少し残る状態が収穫の適期です。（このとき，水分は子実で18％以下・莢で20％前後・かん（茎）で50％以下）


葉：全部落ちて
残っていない。
莢：指で触っても
べとつかない。
（水分 20％前後）
かん：乾いて指で
（茎）　触っても
べとつかない。
子実：かむと歯形がつく。
（水分 18％以下）

M-4147A

補　足

＊成熟期になると，葉が完全に落ちて莢の80〜90％が変色し，子実も品種特有の色となり，振るとカラカラと音がします。

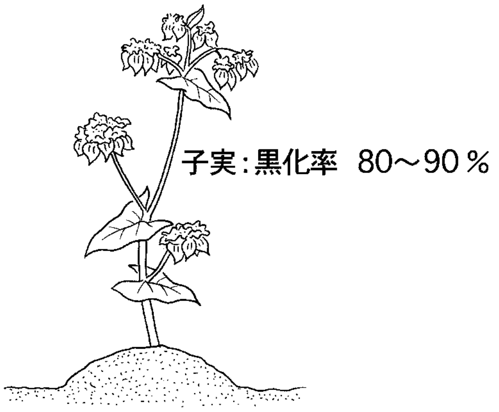
＊刈取作業は，子実や莢が乾いて収穫に適した水分になる時間（午前10時〜夕方）で行なってください。

＊収穫適期が，早すぎる（青立大豆）と汚粒が増えたり，莢が割れずに子実が収穫されないまま３番出口から放出される３番ロスが増えます。また遅すぎると刈取部での脱粒ロスがふえます。

【そば】

● 収穫適期

慣行よりも２〜３週間後を目安とし，子実の80〜90％が黒化している状態が収穫の適期です。



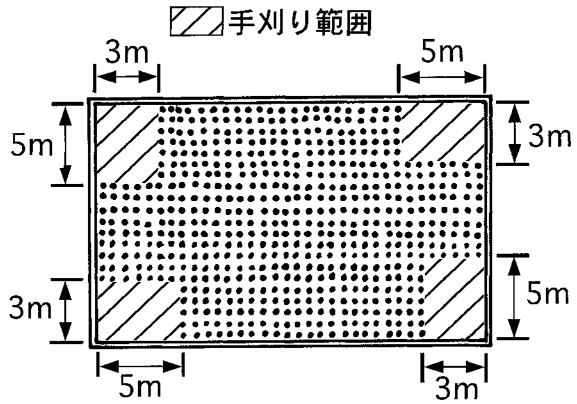
M-8330

補　足

＊収穫適期が，早すぎると収穫量が減ったり，葉やかん（茎）に水分が多いと選別部の目詰まりの原因となります。また，遅すぎると風雨で子実が落ちたり，刈取部での脱粒ロスが増えます。

ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。


▨手刈り範囲
3m
5m
5m
3m
3m
5m
5m
3m

M-0144A

コンバインの準備

警 告

＊平坦な場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

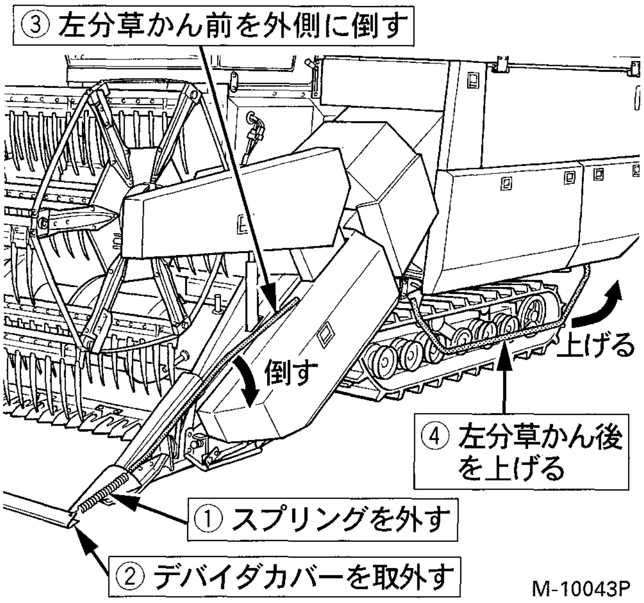
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。（96ページ参照）

2. デバイダカバーの取外し

左，右のスプリング２箇所を外してデバイダカバーを取外します。

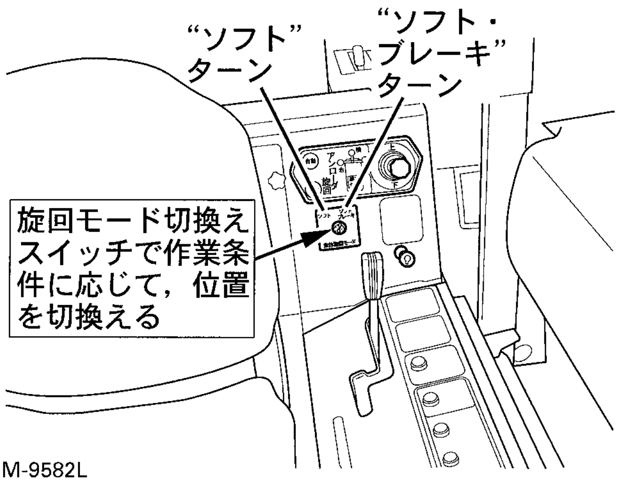
3. 左分草かんのセット

左分草かん前を外側に倒し，左分草かん後を上げます。

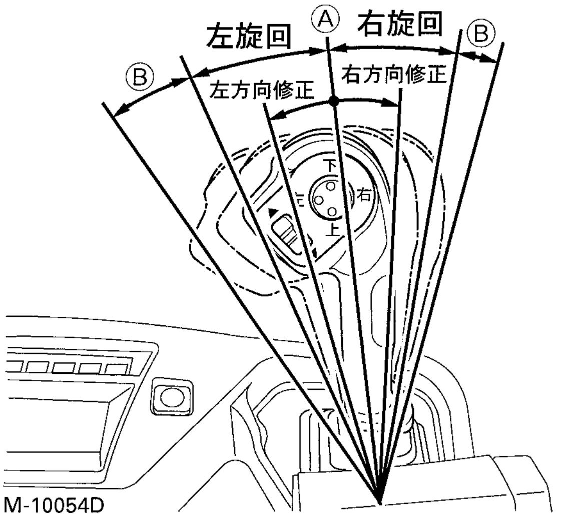

③ 左分草かん前を外側に倒す
倒す
上げる
④ 左分草かん後を上げる
① スプリングを外す
② デバイダカバーを取外す

M-10043P

4. 車体旋回モード切換えスイッチの選択


“ソフト”
ターン
“ソフト・
ブレーキ”
ターン
旋回モード切換え
スイッチで作業条
件に応じて，位置
を切換える

M-9582L


左旋回
Ⓐ
右旋回
Ⓑ
Ⓑ
左方向修正
右方向修正
下
右
上
“運転席にすわって
操作する方向”

M-10054D

Ⓐ：ソフトターン範囲
Ⓑ：ブレーキターン範囲

補　足

＊ **“ソフト・ブレーキターン”** 位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいとき，湿田での作業，ほ場の荒れが大きいときなど，**“ソフトターン”** 位置に切換えてください。

刈取作業のしかた

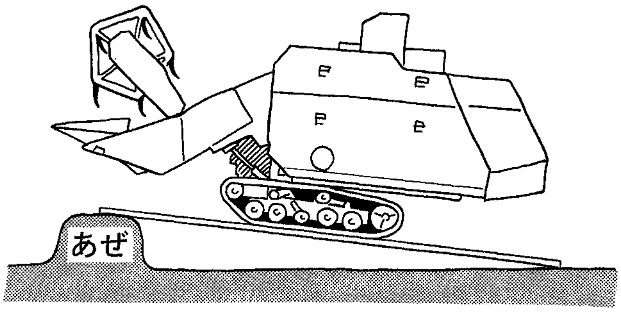
■ほ場の出入りのしかた

注　意

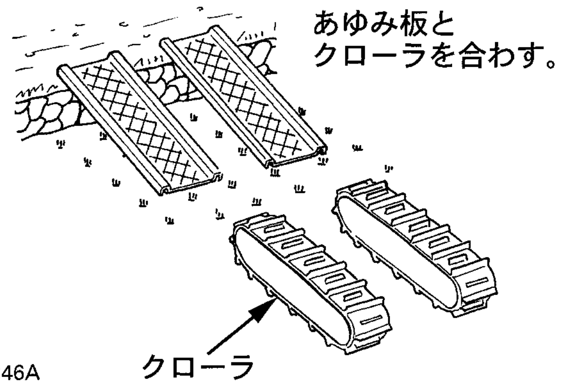
＊10㎝以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。
＊あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

◆10cm以上の段差があるとき

1. ほ場の四すみを手刈り（枕刈り）をします。（56ページ参照）
2. あゆみ板を準備し，アクセルレバーを操作してエンジン回転を2000rpm以上にします。
3. 副変速レバーを**“低速”**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で前進します。
4. いったん停車したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してからほ場へ進入します。



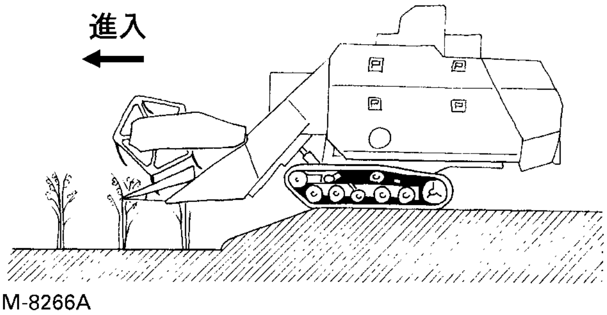
M-8345A


あゆみ板と
クローラを合わす。
クローラ

M-8346A

◆段差が低いとき，進入口があるとき

刈取りが行なえる状態（58ページ参照）にし，副変速レバーを**“低速”**位置にして，ゆっくりと前進でほ場に進入します。



M-8266A

■刈取作業の手順

警　告

＊コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。

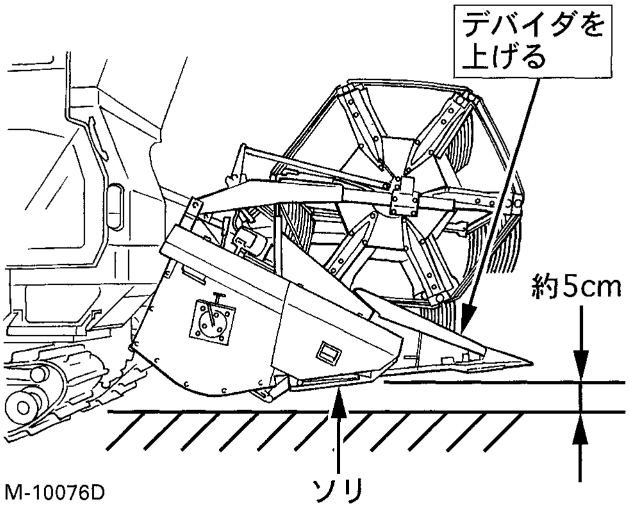
注　意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重　要

＊作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンのオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊副変速レバーを**“走行”**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. SFワンレバーを操作し，通常はソリ部が軽く接する位置から少し上げます。



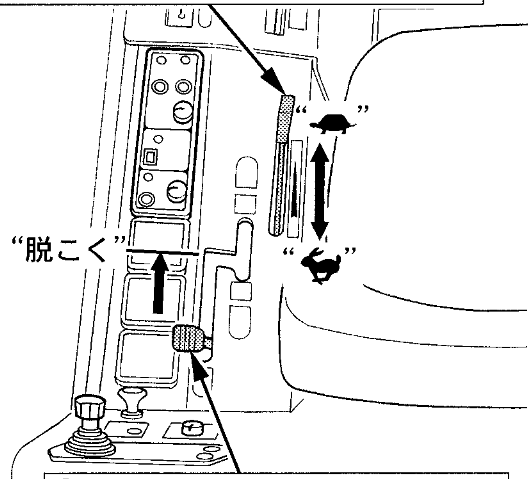
M-10076D

刈取作業のしかた

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

① こぎ室送じん，シーブ前・後，トウミ調節各レバー位置を標準位置にセットします。(71 ページ参照)

② アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を約 2000rpm にする

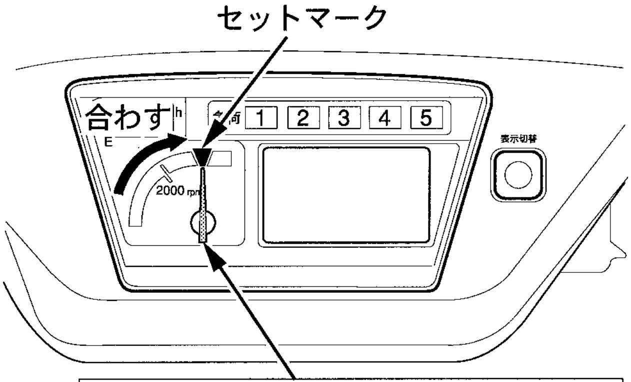


③ 脱こく・刈取クラッチレバーをゆっくりと“脱こく”位置にする

M-10055N

重　要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。



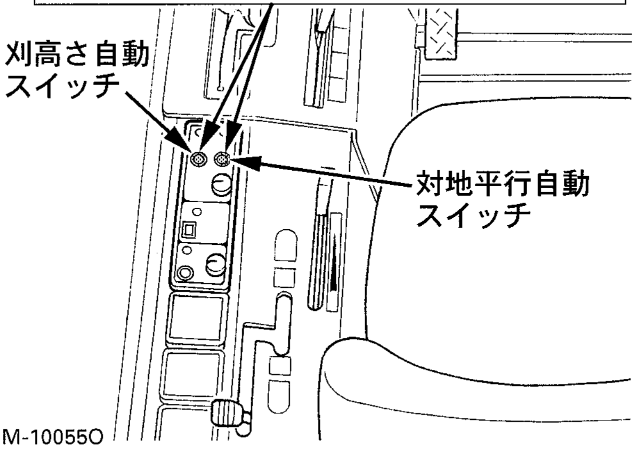
④ アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を回転計のセットマークの中央の位置に指針を合わせる

M-9631K改

補　足

＊エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを **“脱こく”** 位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

⑤ どちらかのスイッチを押して自動入りにする



M-10055O

補　足

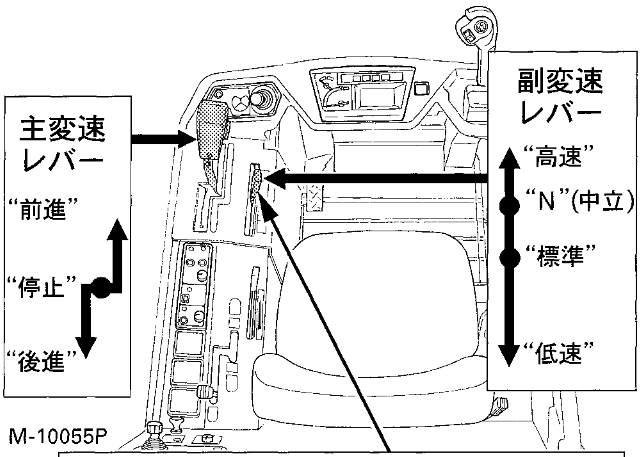
＊自動スイッチは，どちらか一方を押すと切換わり**点灯**状態となります。

＊自動車体水平制御は，刈取作業以外（特に移動走行時，運搬時，格納時）は，機体を一番下まで下げてください。

＊傾斜地では使用しないでください。

＊刈取部の底板と，ソリセンサの間に土が入り込むと，自動刈高さ制御が正しく作動しません。土が入らないように作業し，入った場合は，作業を停止し，エンジンを停止したあと刈取部を上げて確実に取除いてください。

＊枕地の刈取りは，自動刈高さ制御又は，対地平行自動刈高さ制御を**自動切り**位置にして手動操作で行なってください。



M-10055P

⑥ 副変速レバーを作物の条件に合わせて，“標準”又は，“低速”の位置にする

重　要

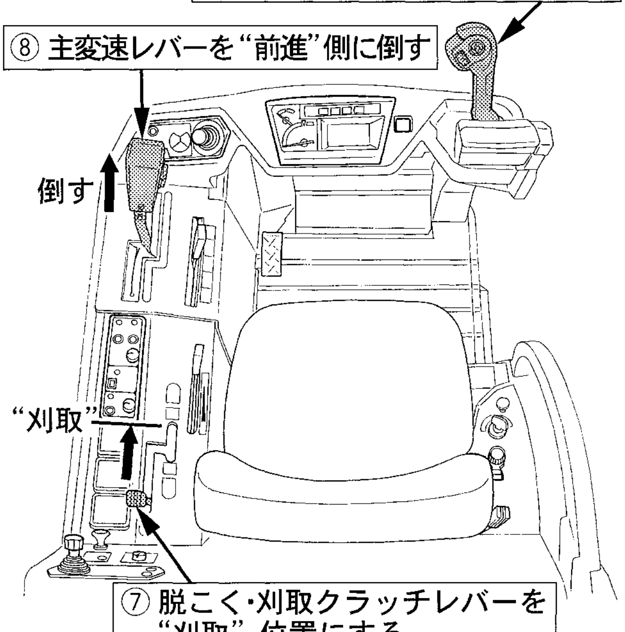
- ＊副変速レバー **“高速”** 位置での刈取作業はトラブルの原因になりますので,使用しないでください。
- ＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを **“停止”** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。

補　足

- ＊副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し **“前進”** 側に動かして停止に戻してから切換えてください。
- ＊機械が動かないように，ペダルの踏込み量を確認してから，副変速レバーを操作すると変速しやすくなります。
- ＊刈始めや第１周目の回り刈りを行なうときは，**“低速”** 位置にして刈取りを行なってください。

⑨SF ワンレバーで刈高さを合わす

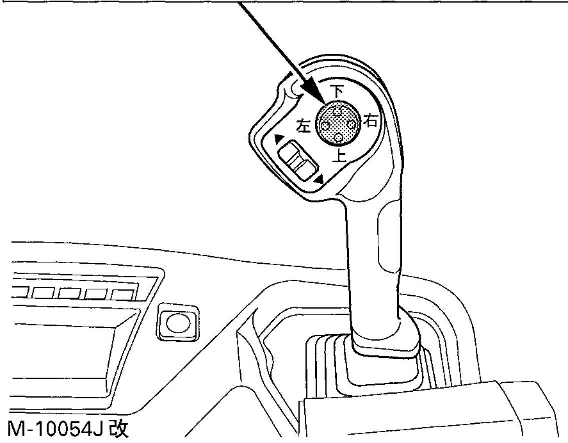
⑧ 主変速レバーを“前進”側に倒す



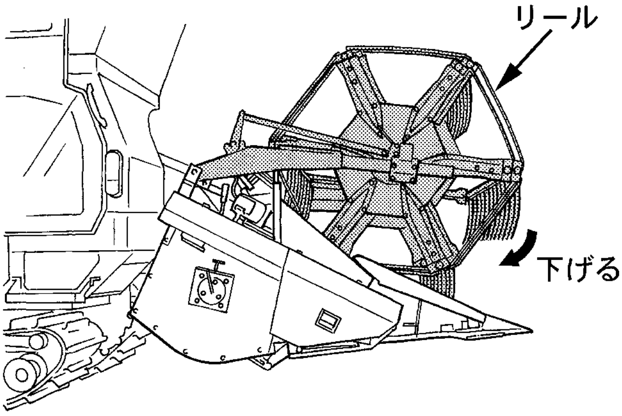
⑦ 脱こく･刈取クラッチレバーを“刈取” 位置にする

M-10055Q

⑩リール上下スイッチでリールを最下降位置にする



M-10054J 改



M-10076G

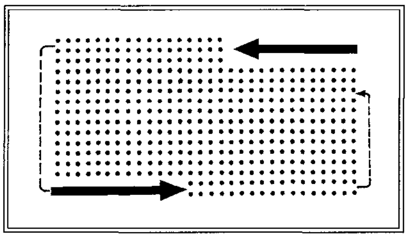
補　足

- ＊刈取部が地面に接地している状態で，脱こくクラッチレバーが **“入”** 位置のとき，主変速レバーを **“後進”** 位置にすると刈取部が自動的に上昇します。　**(バックアップ機能)**

3. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（71ページ参照）を行なってください。
4. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを **“脱こく”** 位置にし，脱こくが終わりこく粒が全てホッパ内又はグレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈り（大豆は２条刈り）で左回りの２方向刈りを行なってください。

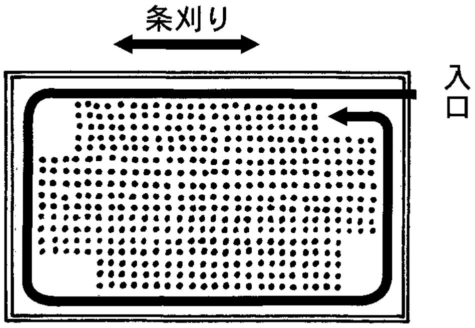


M-3461A改

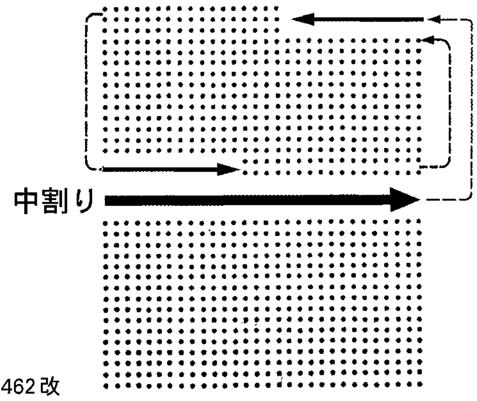
補　足

＊ほ場への進入時や１周目の回り刈り，広いほ場で中割り刈りをして分割するときは，副変速レバーを **“低速”** 位置で行なってください。

＊枕地などあぜぎわを刈取るときは，自動刈高さ制御を**自動切り**にして手動で行なってください。



M-0144A改

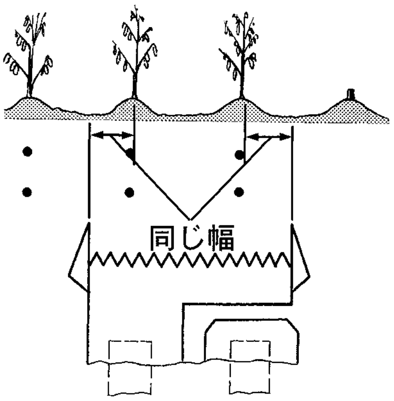


M-3462改

＊中割り刈りなど補助デッキが作物に接触するときは，補助デッキを収納してください。
【ホッパ仕様】

◆デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた【大豆】

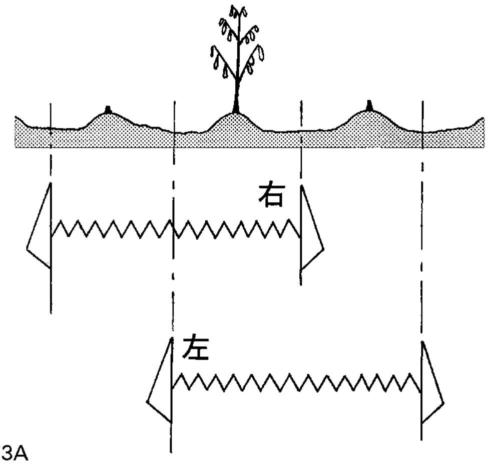
条合わせをするときは，コンバインの速度を落とし，下図のように作物とデバイダを同じ幅に合わせてください。



M-4145M

補　足

＊自動刈高さ制御がはたらいているときに１条刈りを行なうときは，２条刈りを行なうときと同じように，作物とデバイダの幅を合わせてください。作物を中央で刈取ると，機体が傾くことがあります。



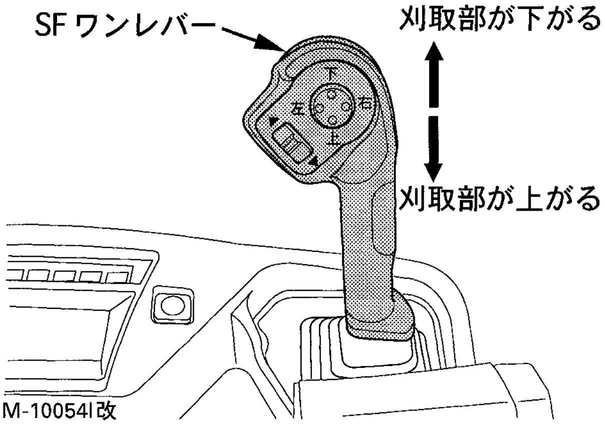
M-5273A

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

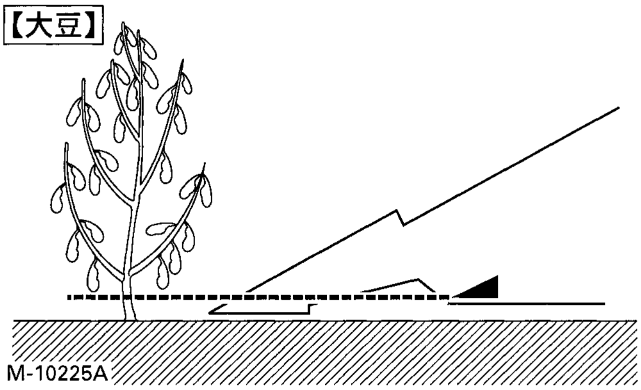
◆刈高さの合わせかた

SFワンレバーを操作して低くたれさがった莢を刈り残さない刈高さに調節します。


SFワンレバー
刈取部が下がる
刈取部が上がる
下
左
右
上

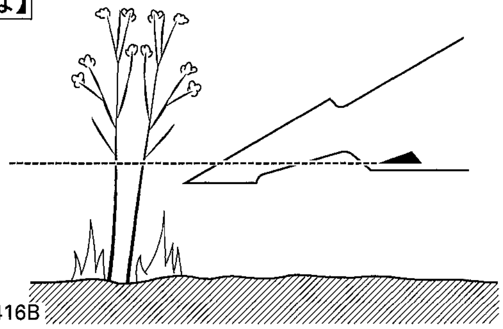
M-10054I改

【大豆】



M-10225A

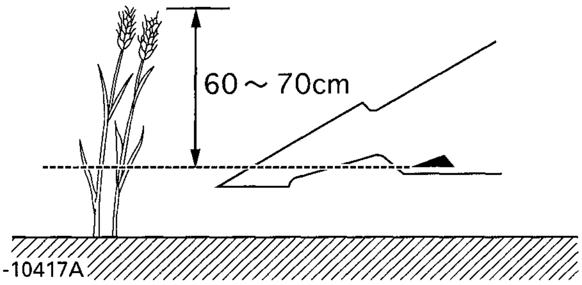
【そば】



M-10416B

【麦】

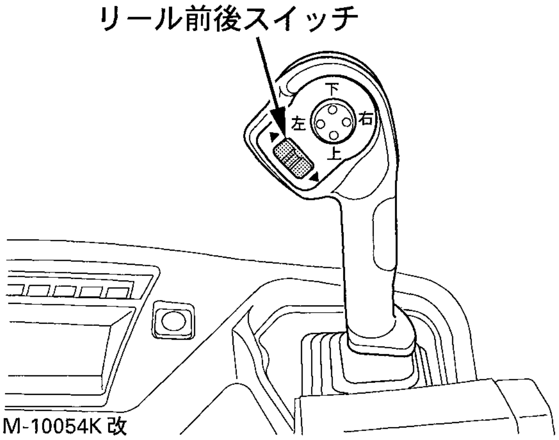
刈刃の高さは，穂先から60～70cm程度が適正です。低刈をする場合は，刈幅を狭くしてください。



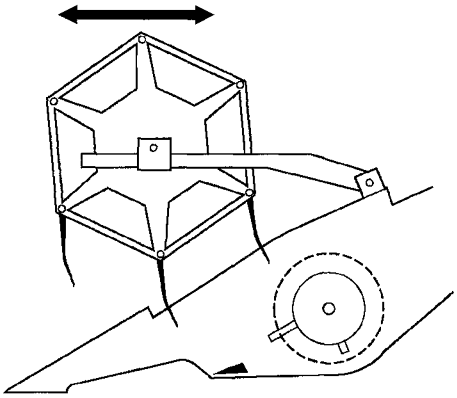
M-10417A

◆リール前後の合わせかた

リール前後スイッチでリールの前後位置を調節します。


リール前後スイッチ
下
左
右
上

M-10054K 改



M-10226A

補　足

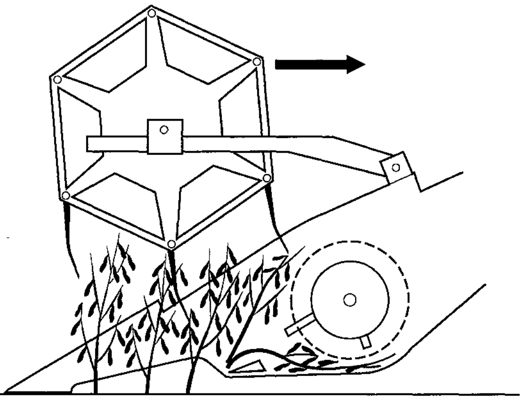
＊リールを前後調節するときは，リールが回転しているときに必ず行なってください。

＊リールは約10cm前後します。

● 立毛した作物の場合

いちばん後ろの位置にします。

立毛した作物の場合



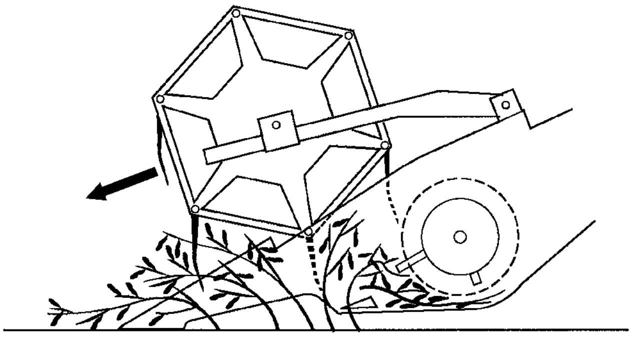
M-10227A

刈取作業のしかた

●倒伏した作物の場合

前方に出すことにより，リールの作用位置がより低くなり，引起し性能が良くなります。

倒伏した作物の場合



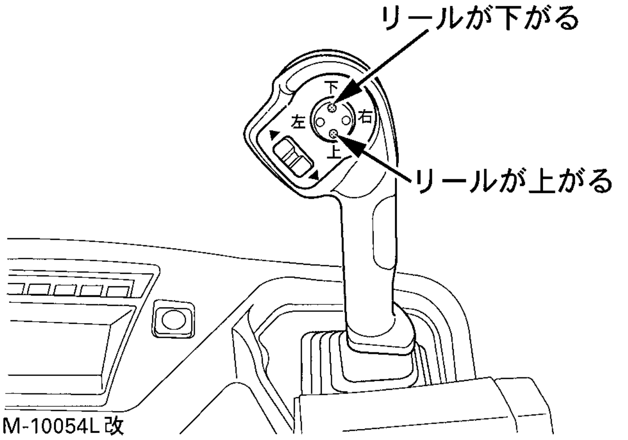
M-10228A

補　足

＊リール位置が前すぎると，こく粒損失が増加します。
また，これとは別にオーガへの送り込みが断続的になり，断続的な過負荷の原因になります。
できるだけ後ろの位置に調節してください。

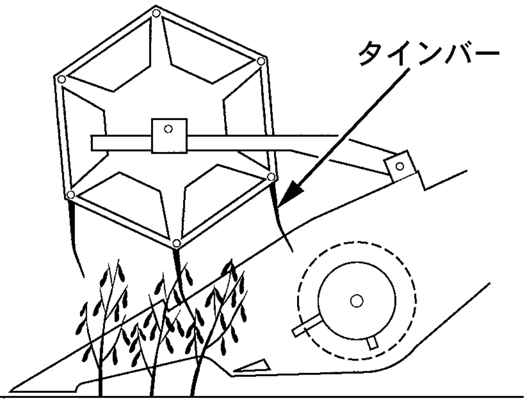
◆リールの高さの合わせかた

リール上下スイッチでタインバーが莢の下の茎かんに当って作物を捕える位置にリールを調節します。



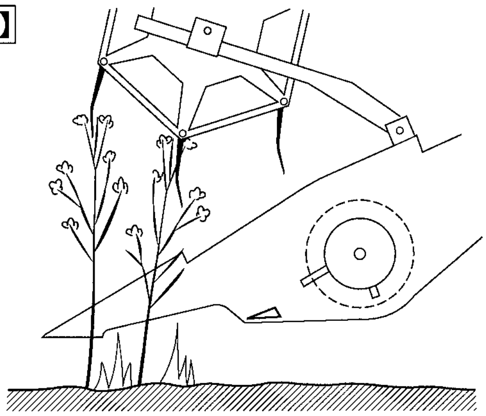
M-10054L改

【大豆】



M-10229A

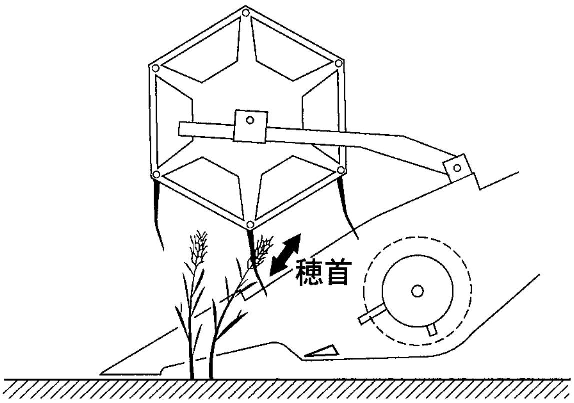
【そば】



M-10418B

【麦】

リール上下スイッチで，タインバーが穂首のやや下を通る位置に，リールを調節します。



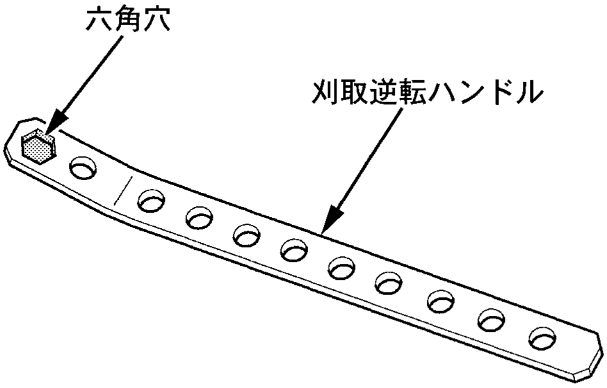
M-10419A

補　足

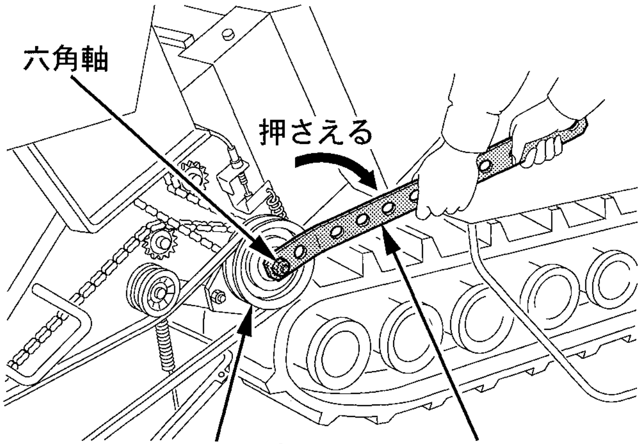
＊前方へかんがころげ落ちたり，倒伏している場合はリールをいっぱいまで下げてください。

＊刈り終わりに，リールを下げると，刈取部から作物の落下を防止することができます。

＊刈取部に作物が詰まったときは，付属部品の刈取逆転ハンドルを使用して詰まった作物を取除いてください。詰まった作物を取除くときは，エンジンを停止したあと，刈取左サイドカバーを外して刈刃駆動プーリの六角軸に刈取逆転ハンドルの六角穴部を差込み，両手でハンドルを持ちながら時計（右）方向に押さえてください。



M-10596A



M-10597A

◆旋回のしかた

刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

重 要

＊エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補 足

＊刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

＊エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

＊SFワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

◆悪条件下での作業のしかた

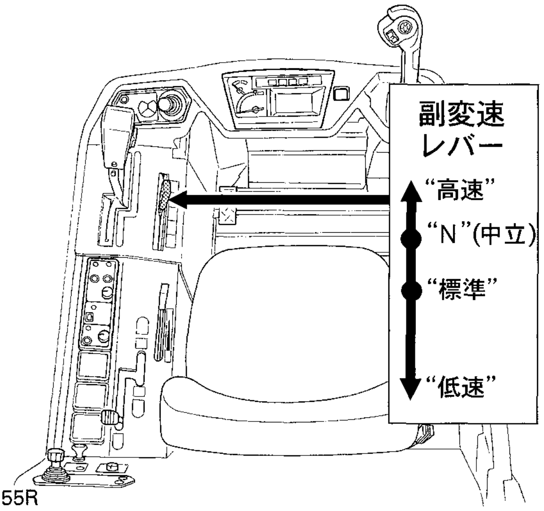
水分の高い作物や茎が青い状態の作物をやむを得ず刈取る場合は，刈取速度を通常より落としてください。また，定期的に網枠や棚を点検し，目詰まりしているときは掃除してください。

■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度を選んでください。

◆作業変速の選び方

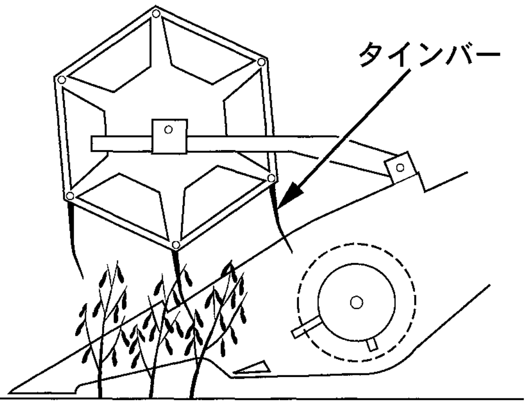
作物の倒伏状態に合わせて副変速レバーの位置を合わせてください。



M-10055R

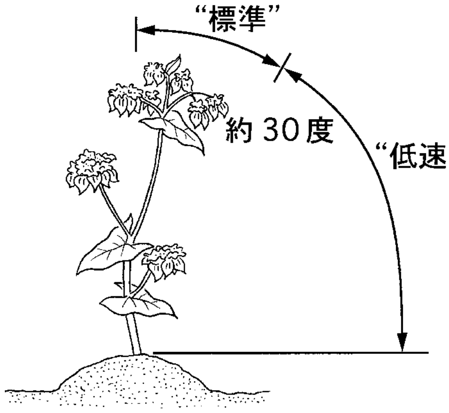
	倒　伏　角	
	30度以下	30度以上
副変速レバー位置	**“標準”**	**“低速”**

【大豆】



M-10229A

【そば】



M-8330

補　足

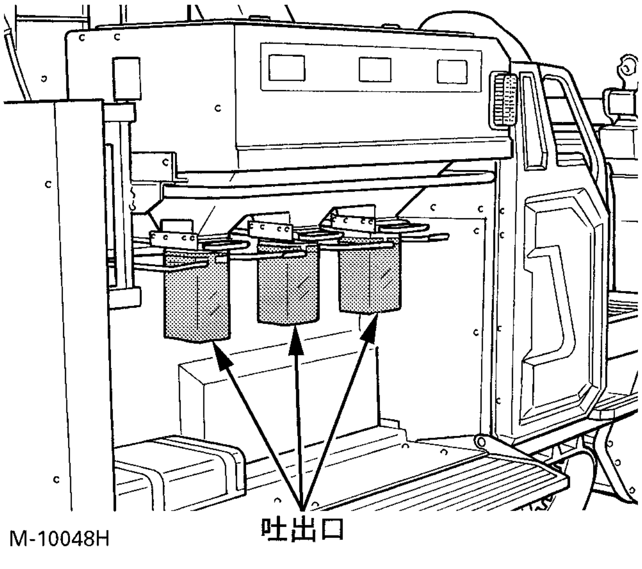
＊リールの回転数は車速0.5m/sまでは一定回転，0.5m/s以上では車速に合わせて変化します。（車速同調）

＊収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。上表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

■こく粒の排出のしかた【ホッパ仕様】

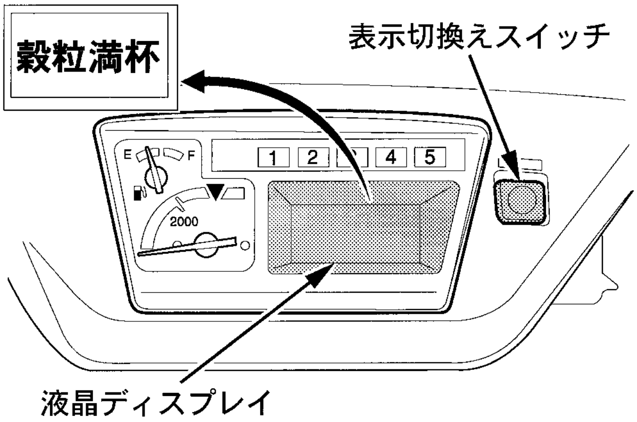
注　意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。



M-10048H

1. ホッパが満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが **穀粒満杯** と表示すると同時にブザーが鳴ります。


穀粒満杯
表示切換えスイッチ
E
F
1
2
4
5
2000
液晶ディスプレイ

M-9597D

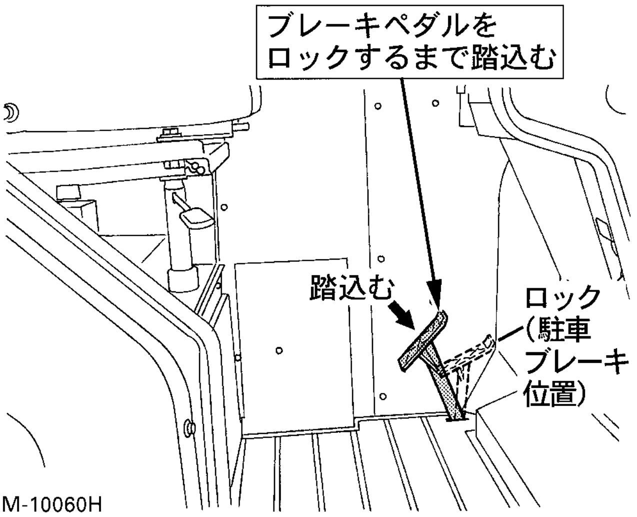
重　要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

＊表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。

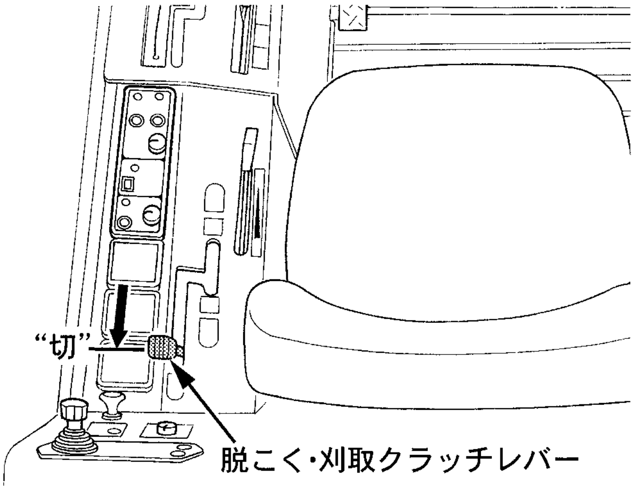

ブレーキペダルを
ロックするまで踏込む
踏込む
ロック
(駐車
ブレーキ
位置)

M-10060H

補　足

＊駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが **“停止”** 位置に戻ります。また，ブレーキペダルが **“ロック”** 位置の場合は，主変速レバーは動きません。

3. 20～30秒待ったあと脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にします。

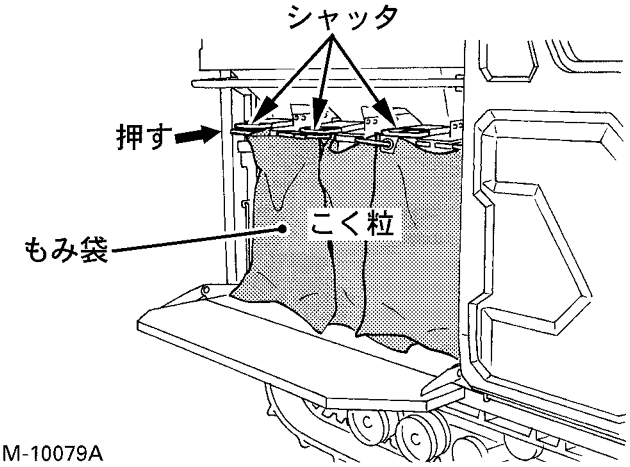


M-10055S

補　足

＊走行停止後20～30秒経過して行なってください。選別不良の原因となります。

4. シャッタを押して（閉じて），新しい（空の）もみ袋と交換したあと，シャッタを引き（開き）ます。



M-10079A

補　足

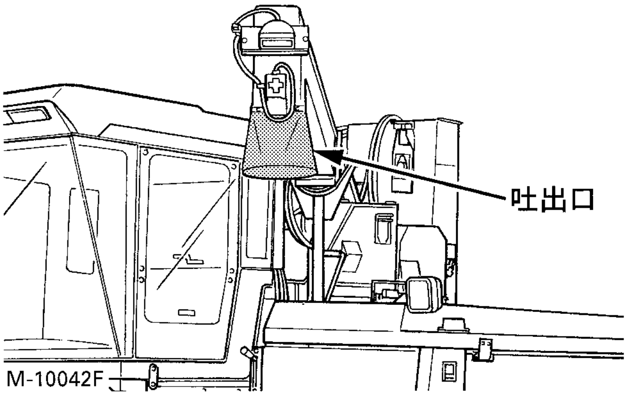
＊こく粒を排出すると，液晶表示の 穀粒満杯 表示は消えます。

5. 駐車ブレーキを解除したあと作業を始めてください。

■こく粒の排出のしかた【グレンタンク仕様】

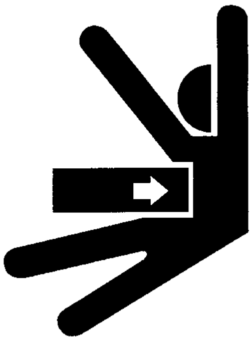
注　意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。



M-10042F

＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

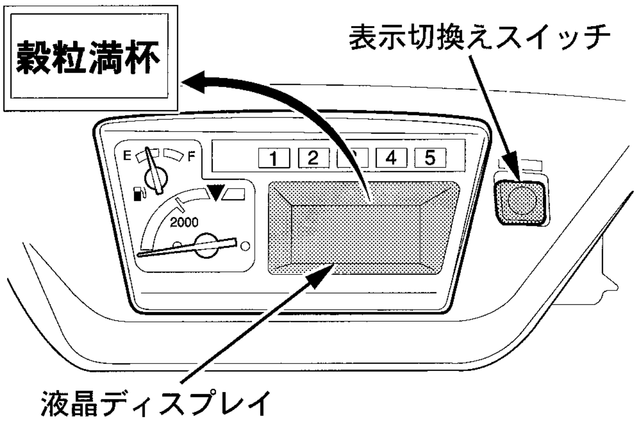


M-7886

＊排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にしてから排出作業を行なってください。

刈取作業のしかた

1. グレンタンクが満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが 穀粒満杯 と表示すると同時にブザーが鳴ります。


穀粒満杯
表示切換えスイッチ
液晶ディスプレイ
E
F
1
2
4
5
2000

M-9597D

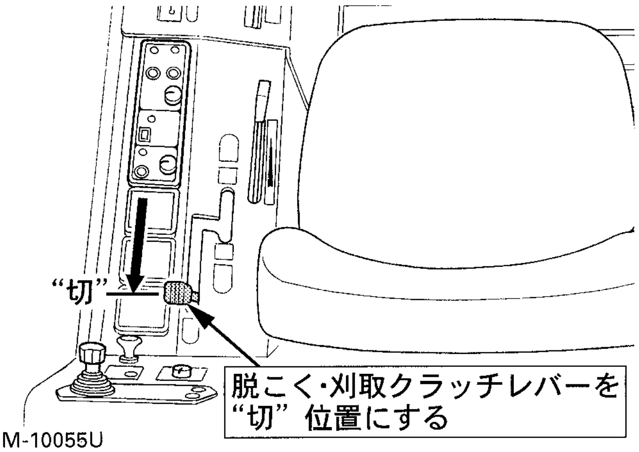
重　要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

＊表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

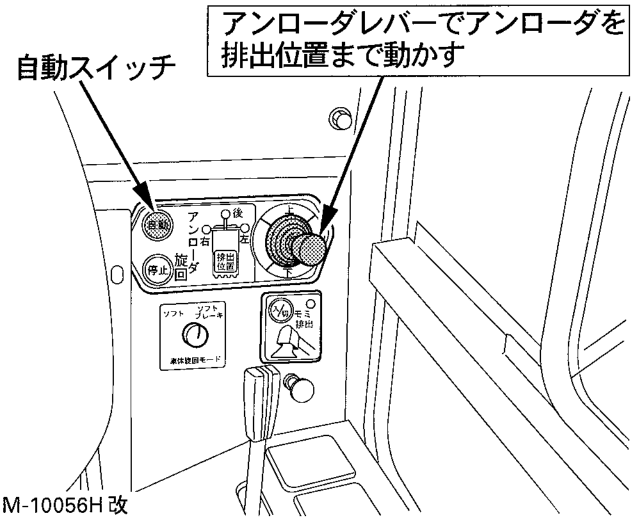
2. 脱こくが終わりこく粒が全て，グレンタンク内に入ったことを確認し，脱こく・刈取クラッチレバーを **"切"** 位置にして，所定の排出位置に移動します。


"切"
脱こく･刈取クラッチレバーを
"切" 位置にする

M-10055U

3. 主変速レバーを **"停止"** 位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。


自動スイッチ
アンローダレバーでアンローダを
排出位置まで動かす
自動
停止
アンローダ
旋回
後
右
左
排出位置
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出

M-10056H改

重　要

＊走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）の原因になります。

＊自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

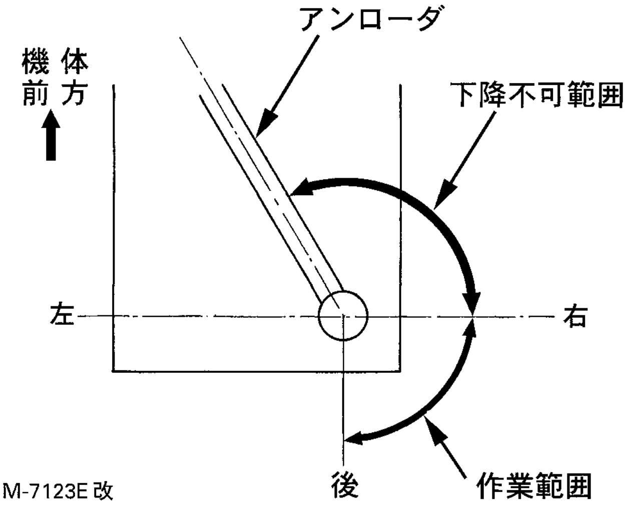
補　足

＊自動制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動制御が作動します。

＊自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに アンローダを上げる と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。

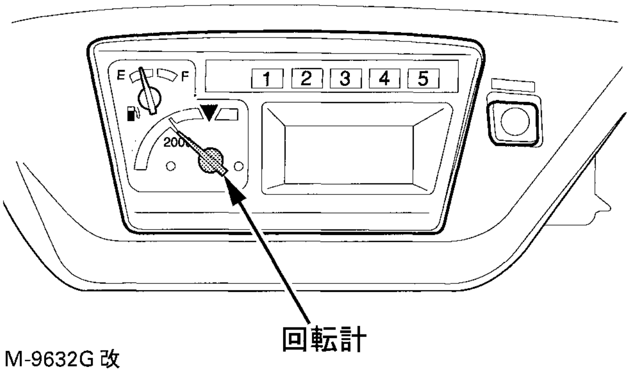
＊アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲内**には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに アンローダを上げる と表示します。


アンローダ
機体前方
下降不可範囲
左
右
後
作業範囲

M-7123E改

＊アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。（28ページ参照）

5. エンジン回転数を**【大豆】**のときは**1600～2000rpm**，**【そば】**又は，**【麦】**のときは**2200～3000rpm**に合わせます。

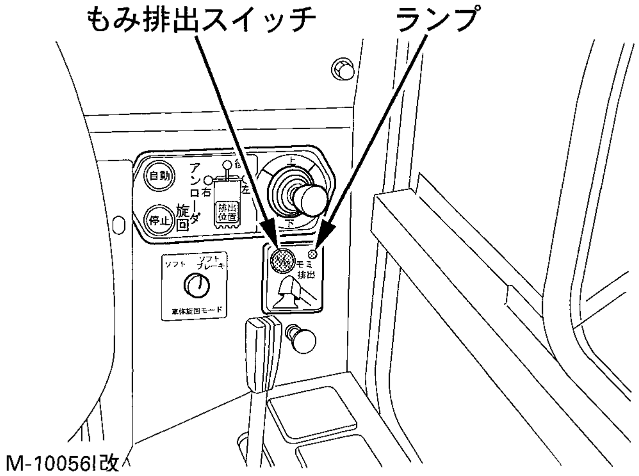

E
F
1
2
3
4
5
200
回転計

M-9632G改

補　足

＊損傷しやすい作物は，エンジン回転数を下げてください。

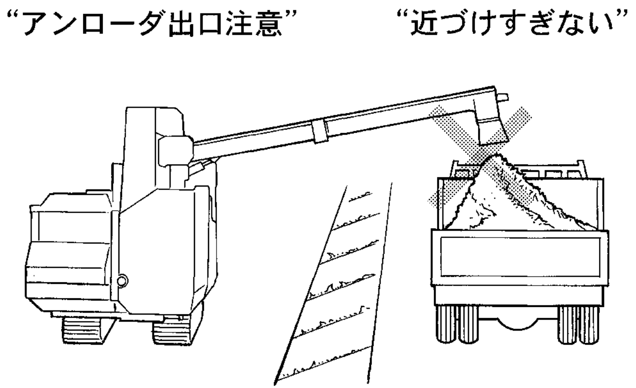
6. もみ排出スイッチを押すとランプが点滅し（スイッチ **“入”**），こく粒を排出します。


もみ排出スイッチ
ランプ
自動
停止
アンローダ旋回
右
左
排出位置
上
下
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出

M-10056I改

重　要

＊吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

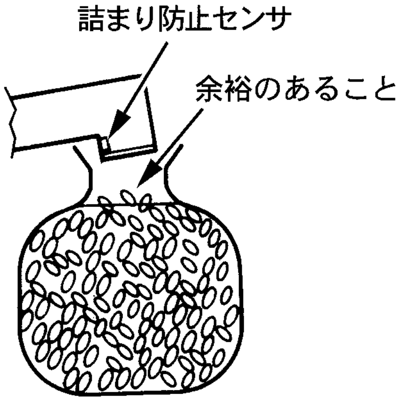

“アンローダ出口注意”
“近づけすぎない”

M-10088A

＊アンローダには，絶対物を吊るさないでください。

刈取作業のしかた

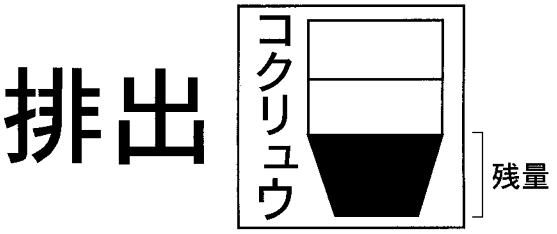
＊アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間こく粒が接触するとセンサがはたらいてこく粒の排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出スイッチを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



M-9162D

補　足

＊こく粒排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のこく粒の残量を表示します。



7. 排出が終わると，もみ排出スイッチを押し（**“切”**），アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。

＊アンローダ内にこく粒が残っていると，こく粒がこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

重　要

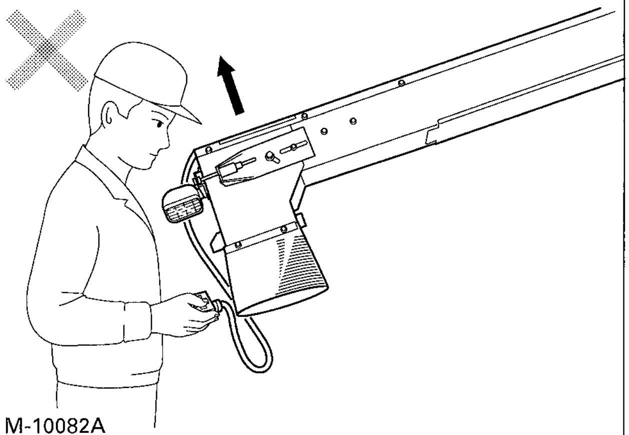
＊吐出口ブーツが破損したときは，必ず交換してください。

◆アンローダリモコンについて

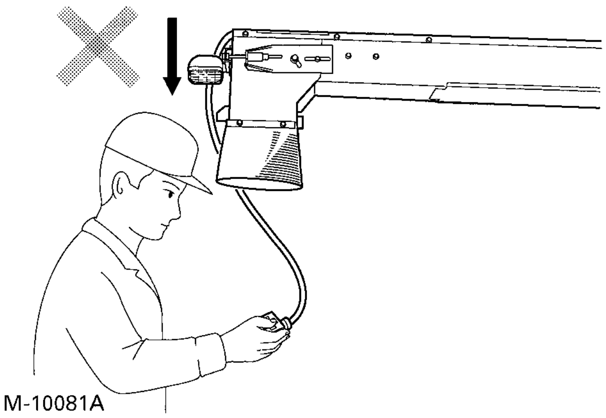
警　告

＊共同作業を行なうときは，合図を徹底させて行なってください。

＊アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。リモコンスイッチの誤操作により，不意に動いてケガをするおそれがあります。



M-10082A



M-10081A

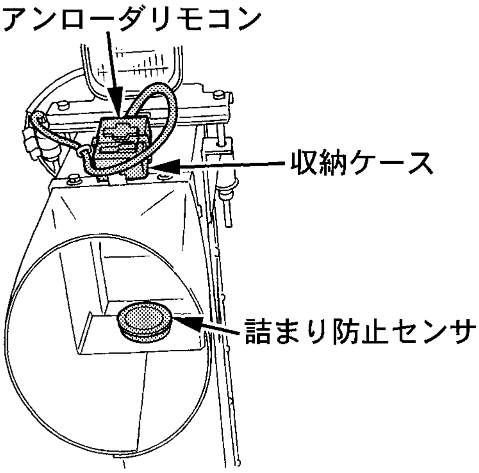
＊アンローダリモコンの操作中に，運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重　要

＊アンローダが水平位置より低いところで操作するときは，アンローダ受けに接触させないでください。

刈取作業のしかた

1. アンローダの自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置に移動します。
2. 操作収納ケースからアンローダリモコンを取外したあと，アンローダ操作ボタンを操作します。



M-10083A

補　足

＊詰まり防止センサは，排出時のこく粒の損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは，余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
＊もみ袋に排出するときは，もみ袋が倒れないように，共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
＊アンローダをゆっくり動かすときは，スイッチを小刻みに押し，大きく動かすときは，スイッチを押し続けてください。

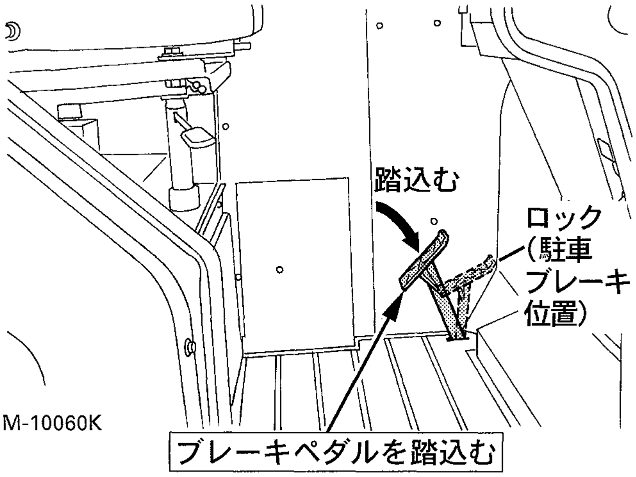
3. もみ排出ボタンの **“入”** を押すとランプが点滅し，こく粒を排出します。
4. こく粒の排出が終わると，もみ排出ボタンの **“切”** を押してこく粒の排出を止めます。このとき，ランプが消灯します。
5. 作業が終わるとリモコンを収納ケースに収納します。

■手刈り（枕刈り）作物の投げ込み脱こくのしかた

警 告

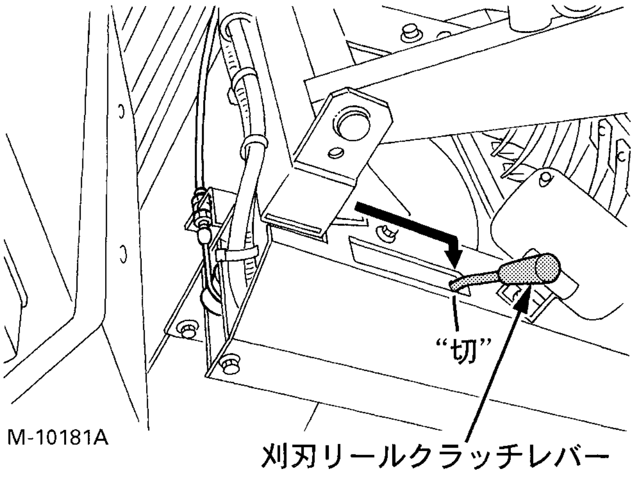
＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。
＊刈刃，リール各クラッチレバーを “切” 位置にしてください。リールに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ投げ込んでください。

1. 駐車ブレーキを掛けます。



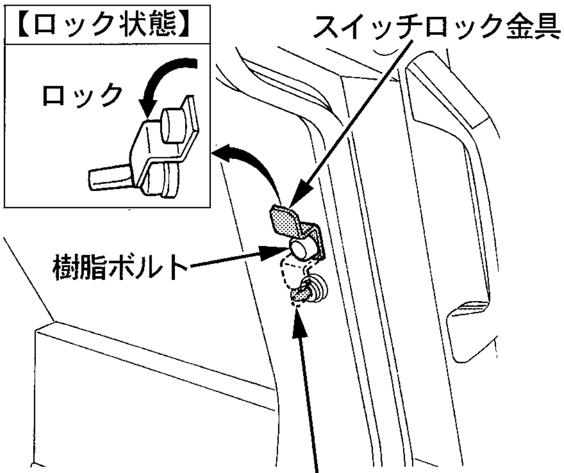
M-10060K

2. 刈刃リールクラッチレバーを **“切”** 位置にします。



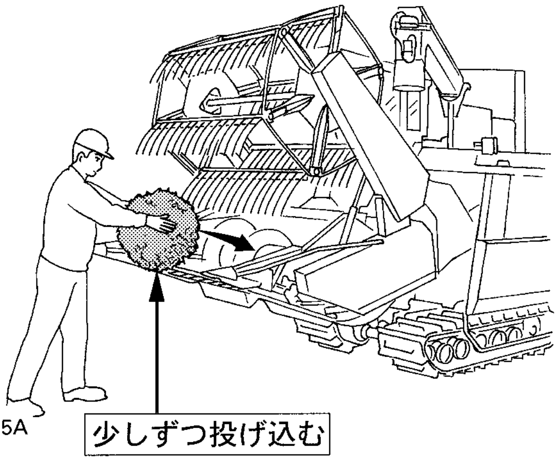
M-10181A

3. 刈取部及びリールをそれぞれ**最上昇位置**にしたあと，刈取下降ロックスイッチを **“ロック”** 位置にして刈取部及びリールの下降防止を行ないます。



M-10059F

4. 脱こく・刈取クラッチレバーを **“刈取”** 位置にします。
5. 手刈りした作物を少しずつ投げ込みます。



M-10085A

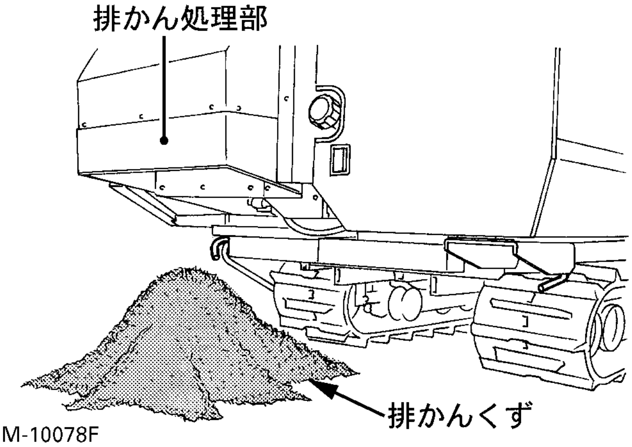
補　足

＊一度に投入する量は5束以下にしてください。多量に投入すると詰まりの原因となります。

重　要

＊作物は一度に多量の投入はしないでください。フィーダや脱こくロータでの詰まりの原因となります。

＊走行を停止した状態で多量の脱こくを行なうと，排かん処理部の下に切断された排かんくずが堆積し，排かん処理部が詰まったり，火災の原因となりますので，機体を移動させる又は，堆積した排かんくずを取除いてください。


排かん処理部
排かんくず

M-10078F

■作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

警　告

＊調整時は必ずエンジンを止めてください。

＊衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

＊水平で平坦な場所で行なってください。

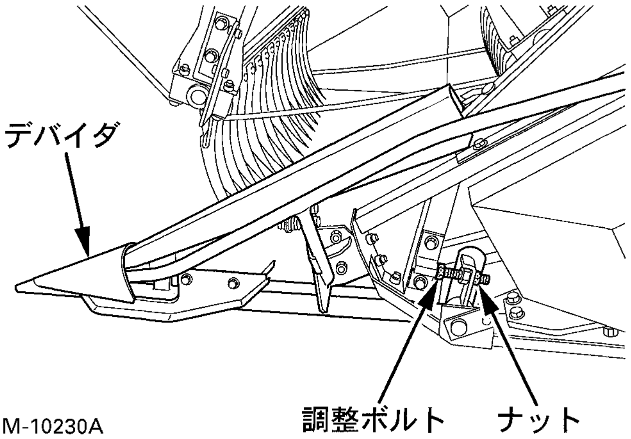
＊コンバインを停止するときは，排かんくずの上に止めないでください。マフラ排気口に排かんくずが触れると，火災のおそれがあります。

◆刈取部

1. デバイダの上・下調整

雑草の多いほ場では，刈株よりやや高めにして雑草が引っ掛からないようにしてください。また，倒伏時は，デバイダの先端が，地面に軽く接地する程度に調節を行なってください。

1. 刈取部を接地させてエンジンを停止します。
2. ロックナットをゆるめます。
3. 調整ボルトを回して調整を行ないます。
   調整ボルトを締付けるとデバイダ先端部は上がり，ゆるめると下がります。
4. ロックナットを締付けます。

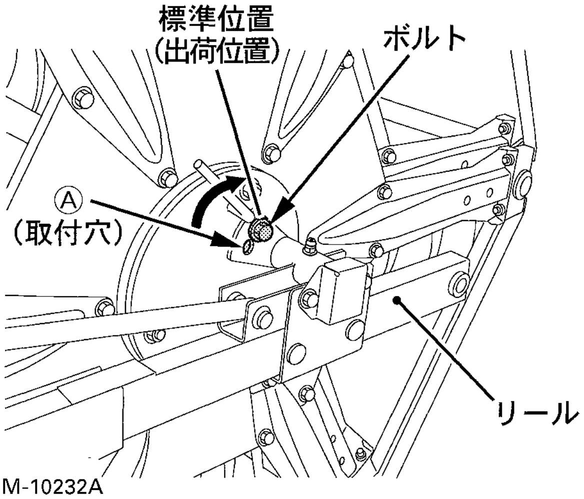


M-10230A

2. リールタインの角度調節

かんの持ち回りがひどいときは，リールを少し上げてください。

1. リールを下降し，エンジンを停止します。
2. ボルトを取外します。
3. リールを動かしてⒶの位置にボルトを締付けます。



M-10232A

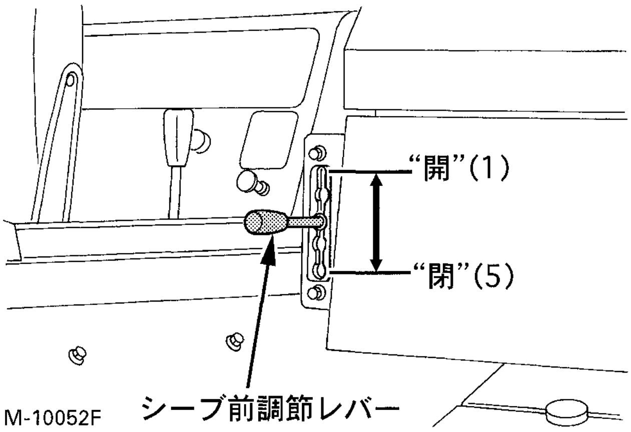
◆脱こく部

3. シーブ前（選別板のすき間）の開度の調節

作物に合わせ，表を参照してシーブ前調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
“閉” ↑	●選別が悪い
標準位置	
↓ “開”	●損傷粒が多い ●排じんロスが多い

作　物	**標準位置**（使用範囲）
大豆	2(1～3)
そば	5(4～5)
麦	2(1～3)



M-10052F

補　足

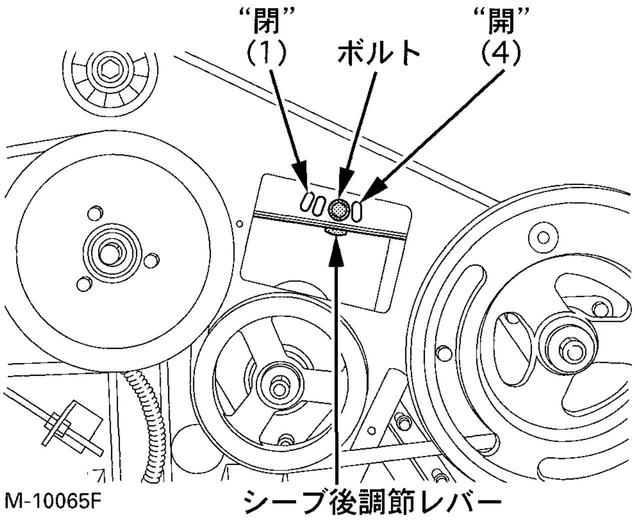
＊そば・麦はそば・麦用キット装着時です。
＊調節は，使用範囲内で行なってください。

4. シーブ後（選別板のすき間）の調節

作物の飛散状態に合わせ，表を参照してボルトを取外してシーブ後調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
“閉” ↑	● ２番が詰まりやすい
標準位置 ↓ **“開”**	●排じんロスが多い

作　物	**標準位置**（使用範囲）
大豆	**2**(2～3)
そば	**1**(1～2)
麦	**3**(3～4)


“閉”
(1)
ボルト
“開”
(4)
M-10065F
シーブ後調節レバー

補　足

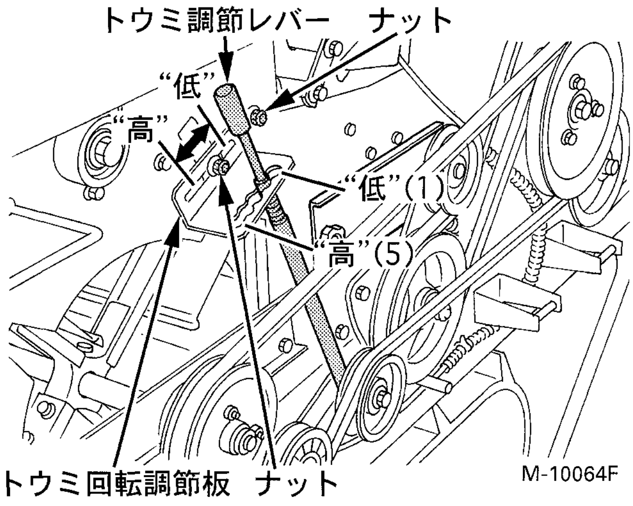
＊そば・麦はそば・麦用キット装着時です。
＊調節は，使用範囲内で行なってください。

● トウミ調節レバー・調節板の調節

作物の飛散状態に合わせ，表を参照してトウミ調節で調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
“高” ↑	●選別が悪い
標準位置 ↓ **“低”**	●排じんロスが多い

作　物	**標準位置**（使用範囲）	
大豆	調節板	**高位置**
	レバー	**3**（1～5）
そば	調節板	**低位置**
	レバー	**1**（1～2）
麦	調節板	**高位置**
	レバー	**1**（1～2）


トウミ調節レバー
ナット
“低”
“高”
“低”(1)
“高”(5)
トウミ回転調節板
ナット
M-10064F

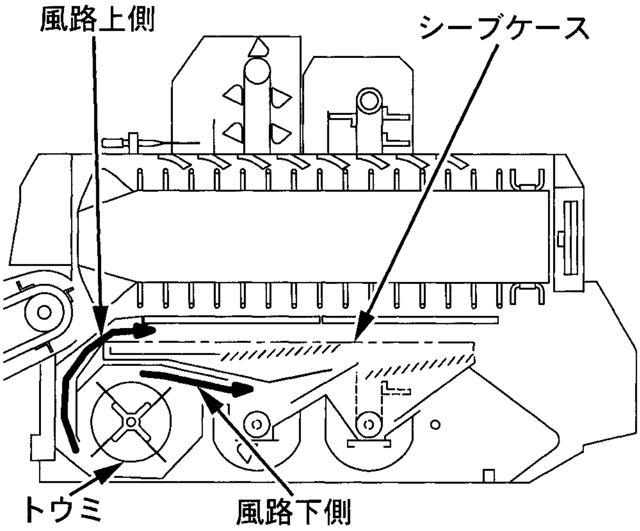
補　足

＊そば・麦はそば・麦用キット装着時です。
＊調節は，使用範囲内で行なってください。
＊かんの水分が多く調節レバーを **“高”** (5)位置にしても選別が悪いときは，トウミ回転調節板の取付けナット２個をゆるめ，調節板を **“高”** 側にスライドさせてください。

- **トウミ風路の切換え**

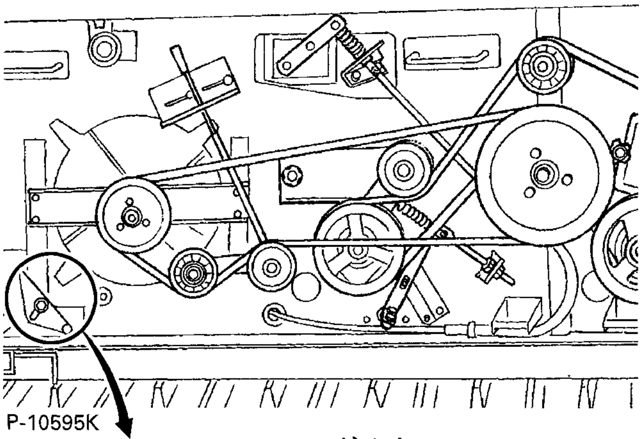
作物の選別状態に合わせ，トウミ風路切換えレバーでトウミの風路を切換えてください。

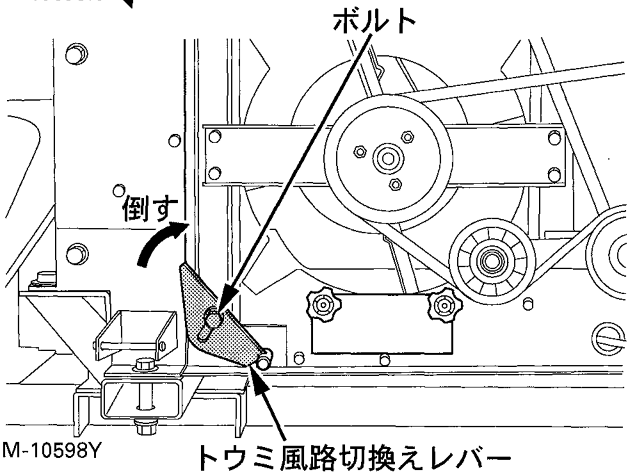
風路は通常，選別板上とシーブケース下側を分流しています。トウミの風力を最強にしても選別がよくならないときは，トウミ風路をシーブケース下側のみに風路を切換えると，風量がさらに増加して選別を良くします。


風路上側
シーブケース
トウミ
風路下側

P-10599A

1. 脱こく左サイドカバーを取外します。
2. トウミ風路切換えレバーを取付けているボルトをゆるめます。
3. トウミ風路切換えレバーを右側いっぱいまで倒すと，シーブケース下側のみの風路に切換わります。


P-10595K


ボルト
倒す
トウミ風路切換えレバー

M-10598Y

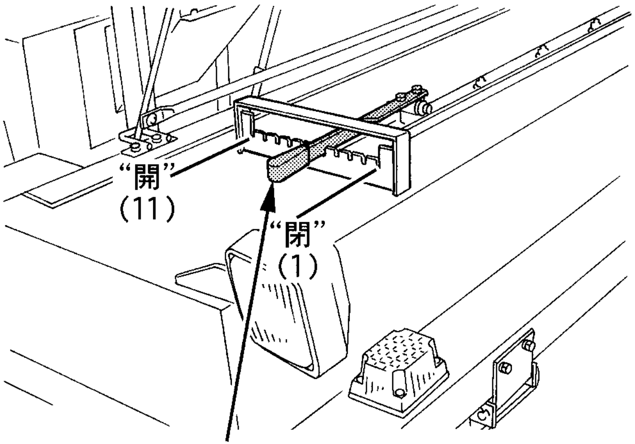
4. ボルトを締付けたあと，脱こく左サイドカバーを取付けます。

5. こぎ室送じんレバーの調節

下表を参照してこぎ室送じんレバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
“開” ↑	● ゴトゴトと大きな異音がする （こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り
標準位置	
↓ **“閉”**	● 未脱粒が多い ● こぎ残し，さや付き粒が多い ● 排じんロスが多い

作　物	**標準位置**（使用範囲）
大豆	4（3～5）
そば	8（6～11）
麦	8（5～11）


“開”
(11)
“閉”
(1)
M-10080F
こぎ室送じんレバー

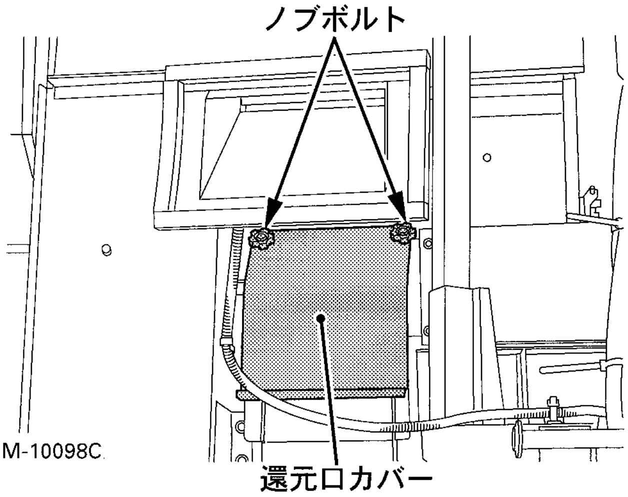
補　足

＊そば・麦はそば・麦用キット装着時です。
＊調節は，使用範囲内で行なってください。

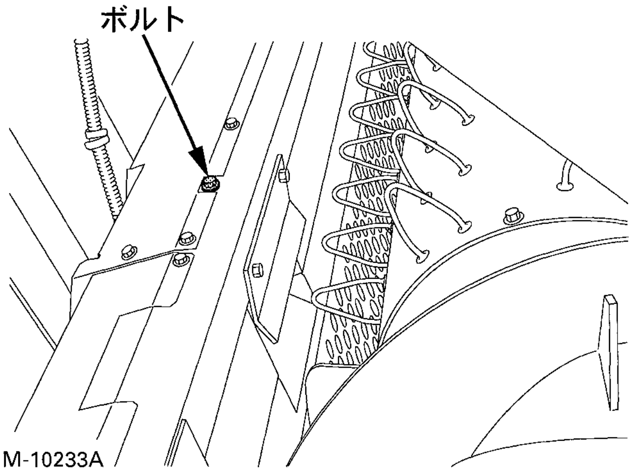
6. 2番還元の調節

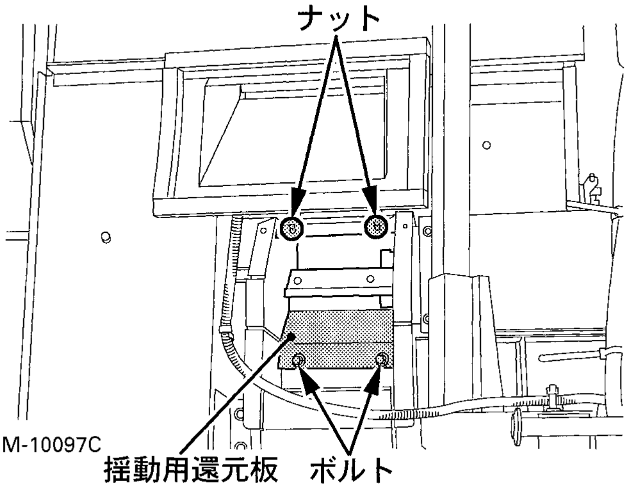
大豆刈りで莢付粒が多いとき及び，そば，麦の刈取時には，付属品のこぎ胴用還元板を取付けて2番還元口をこぎ胴に還元してください。

1. グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンし，ホッパ仕様はホッパオープンをしたあと，脱こく右サイドカバー前，後を取外します。
2. ノブボルト2個を取外して，還元口カバーを外します。

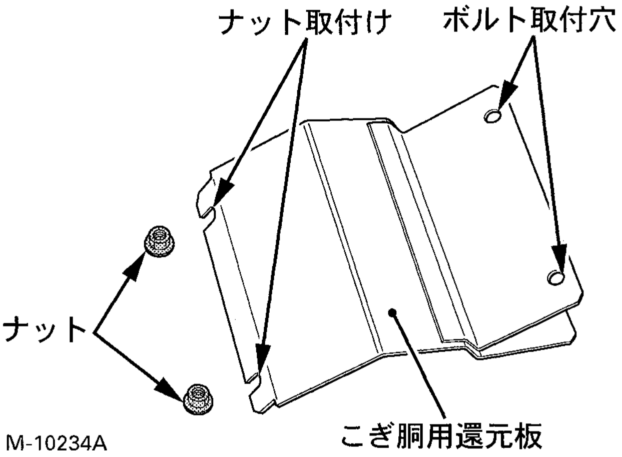

ノブボルト
M-10098C
還元口カバー

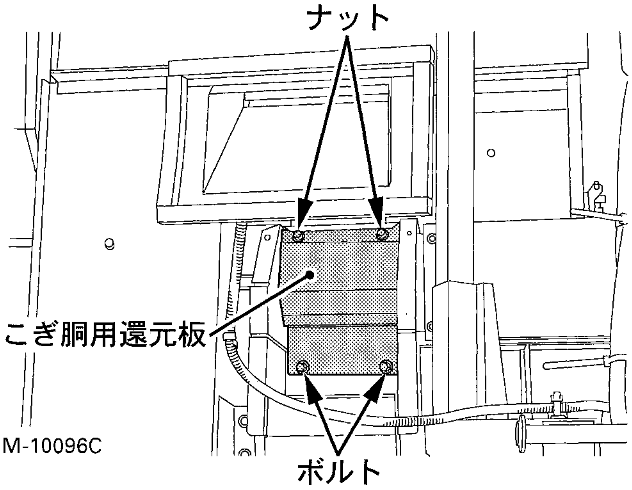
3. 脱こく上部カバーをオープンし，ボルト３本を取外し，揺動用還元板を取外します。
4. 機械に付いているナットＲ２個を取外します。


ボルト
M-10233A


ナット
M-10097C
揺動用還元板
ボルト

5. ３の工程で取外したボルト２本とナット２個でこぎ胴用還元板を取付けます。


ナット取付け
ボルト取付穴
ナット
M-10234A
こぎ胴用還元板


ナット
こぎ胴用還元板
M-10096C
ボルト

6. 還元口カバーを取付けたあと，グレンタンク仕様はグレンタンクを閉じて，ホッパ仕様は脱こく右サイドカバー前，後を取付けてホッパを閉じます。
7. 脱こく上部カバーを閉じます。

補　足

＊水分の多い大豆，小豆，そばの刈取時に，２番還元口出口で詰まりが発生するときは，揺動用とこぎ胴用の両方の還元板を取外してください。

■エアロナビによる異常と処置

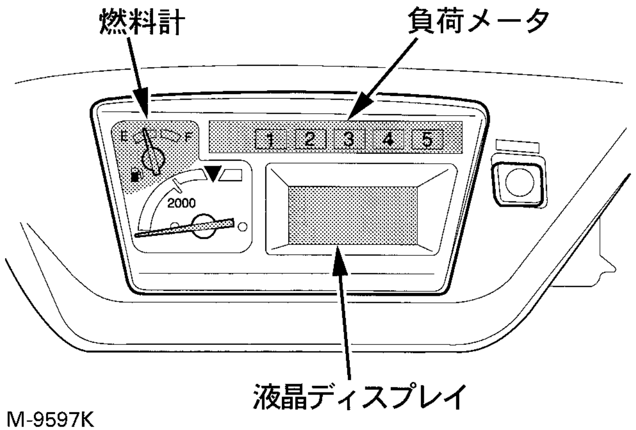
警　告

- ＊**各部の点検や排かん詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。**
- ＊**各搬送チェーンなどには注意してください。ケガをするおそれがあります。**

注　意

- ＊**エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがります。**
- ＊**取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

エアロナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



M-9597K

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現　　象	処　　置	参照ページ
	異常内容（表示時間）	処置内容				
燃料警報	**燃料を給油** （約５秒後消灯）		○ 断続 （約５秒後停止）	●燃料が少なくなっています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	●燃料を補給します。	103
油圧警報	**エンジン油圧異常** （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停止）	●エンジンオイルの圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ●バンドの増締めをします。 ●購入先へ連絡してください。	105 — — —

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	異常内容（表示時間）	処置内容				
オーバーヒート警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**アイドリングに**	○ 断続 （処置後停止）	● エンジンの冷却水温が上昇しています。	● **アイドリングに** を表示すると… アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を**最低回転**位置にします。	10
	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**冷却後点検**			● **冷却後点検** を表示すると… エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。	112
	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**エンジンを停止する** ↕ **冷却後点検**			● **エンジンを停止する** ⟷ **冷却後点検** を表示すると… エンジンを**直ちに停止**し，30分以上たってから点検と処置をします。	112
					● **点検と処置** ①冷却水量の点検 不足…………ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給	112
					水もれ………排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め	115
					②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ………張り調整	126
					破損など……交換・調整	126
					③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	116
				● そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	● 購入先へ連絡してください。	—
負荷警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **負荷** （処置後消灯）	**速度を落とす**	○ 断続 （処置後停止）	● エンジンや脱こく部に負担がかかっています。	● 作業速度を落としてください。 ● 作業条件に合った調節や調整を行なってください。	11,59 64,73
				● そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**		—

刈取作業のしかた

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	異常内容（表示時間）	処置内容				
充電警報	**充電系 異常** 🔋 （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停止）	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ………張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	126 126 148 148
こく粒満杯警報	**穀粒満杯** （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	●ホッパ又は，グレンタンク内のこく粒が満杯です。 ●そのまま作業を続けると… **ホッパ又は，グレンタンクからこく粒があふれます。又は，1番スクリュが詰まります。**	●刈取作業を中止し，こく粒を排出します。	65,66 —
1番警報	← **交互に表示** → **1番** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**	○ 断続 （処置後停止）	●１番バケット内が詰まっています。 ●そのまま作業を続けると… **ベルトの焼付きやベルト切れとなります。**	●１番バケットを掃除します。	93
2番警報	← **交互に表示** → **2番** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**	○ 断続 （処置後停止）	●バケット，２番バケット内が詰まっています。 ●そのまま作業を続けると… **ベルトの焼付きやベルト切れとなります。**	●バケット，２番バケットを掃除します。	93,94 —
オーガ警報	← **交互に表示** → **オーガ**	**詰まりを取り除く**	○ 断続 （約35秒後停止）	●アンローダ又は排出バケットが詰まっています。	●アンローダ又は排出バケットを掃除します。	93,94 95

■エアロナビによる故障と処置

故障が発生すると，液晶表示部に異常内容のみの表示と，故障しても応急的に手動操作可能な場合に，異常内容と処置内容を交互に表示します。故障が発生したときは，必ず購入先に連絡して処置してください。

1．異常内容と処置内容を交互に表示した場合

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示 異常内容 ⟷	処置内容			
モンロ右センサ 異常 モンロ左センサ 異常	点滅中の 自動切に 点滅中の 自動切に	水平制御及び対地平行自動刈高さ制御が故障しています。	手動操作で機体を下限にして作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチ，対地平行スイッチを **"切"**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	23
ローリングセンサ 異常	水平自動 切に	水平制御が故障しています。	手動操作で機体を下限にして作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチを **"切"**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	23
オートクラッチVR 異常	標準設定 で作動中	刈取オートクラッチの停止位置の調節ができません。	作業を続けて行なうことができます。このとき，刈取オートクラッチの停止位置は標準位置ではたらきます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	25
刈高 VR 異常 刈高センサ右 異常 刈高センサ左 異常	点滅中の 自動切に 点滅中の 自動切に 点滅中の 自動切に	自動刈高さ制御・対地平行自動刈高さ制御が故障しています。	手動操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は刈高さ，対地平行自動スイッチを **"切"**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	25
刈高レバーVR 異常	ポジピタ SW で操作	SFワンレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができます。また異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	12
オーガ位置 異常 オーガ上限 異常	手動レバー で操作 手動レバー で操作	アンローダ自動旋回制御が故障しています。	アンローダレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，運転席の上部（頭上）に注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	27

2．異常内容のみの表示の場合

液晶表示(液晶ディスプレイ)	異常内容	処置	参照ページ
異常内容			
エンジン回転 異常	負荷警報制御が故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，刈取速度に注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	11
シフトレバーSW 異常	主変速レバーのスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができます。 また異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	11
刈取位置 異常	刈取オートクラッチ，自動刈高さ制御，対地平行自動刈高さ制御がはたらきません。	SFワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈高さに注意してください。	12,25
方向レバーVR 異常	SFワンレバーを左右に操作しても機体の操向操作ができません。	方向微調整スイッチを旋回方向に押しながらSFワンレバーを旋回方向に倒すと機体は旋回しますが，購入先に連絡して処置してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと通常表示に切換わります。	13
旋回センサ 異常 旋回作動 異常	機体の操向操作ができません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
水平作動 異常 水平ユニット 異常	水平制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—

刈取作業のしかた

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
オーガ作動異常	●アンローダの昇降・旋回操作が行なえません。**【グレンタンク仕様】** ●リフトアップタンクの昇降・排出作業が行なえません。**【リフトアップタンク仕様】**	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
オーガユニット異常			
リール作動異常	リールの昇降操作が行なえません。		
油圧作動異常	油圧装置が故障しています。		
パネルユニット異常	マイコンに異常が発生しています。		
メータ・CU通信異常			
CU・LU通信異常			
微調データ異常			
機種設定異常			
型式設定異常			
センサ電源異常			

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた

警 告

＊平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注 意

＊傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。

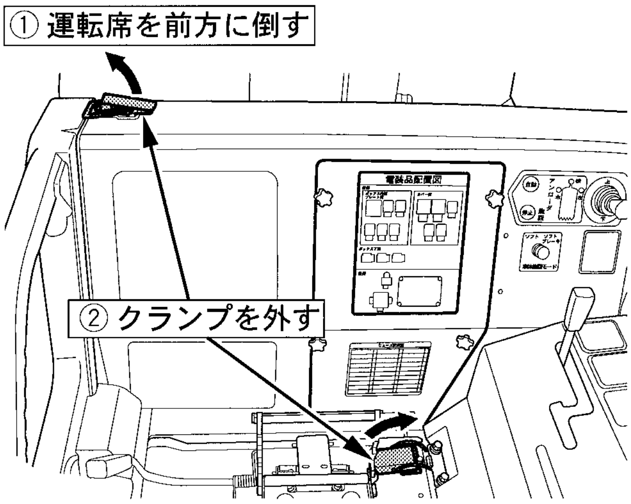
■エンジンルームオープン【C仕様除く】

注 意

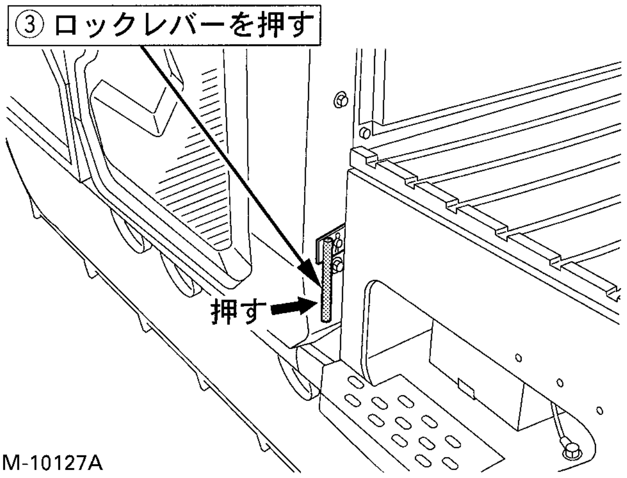
＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. 作業を中止する。
2. エンジンを約5分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
3. エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
4. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

＊エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

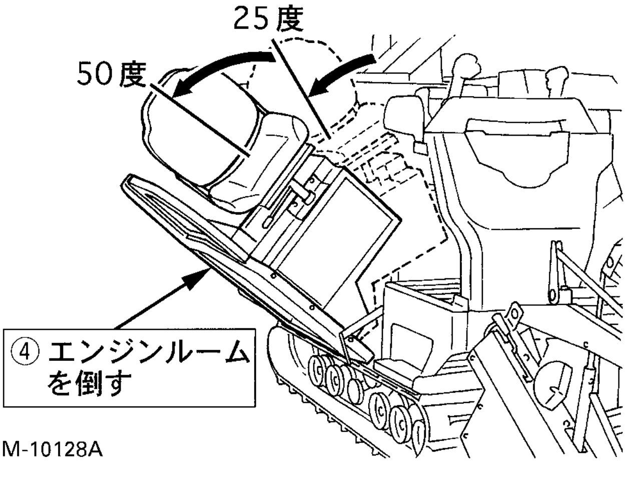
◆開きかた


① 運転席を前方に倒す
② クランプを外す

M-9642A ※イラストはグレンタンク仕様


③ ロックレバーを押す
押す

M-10127A


25度
50度
④ エンジンルームを倒す

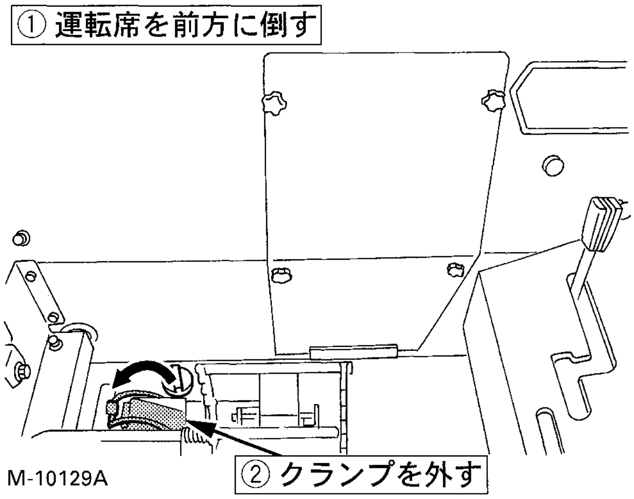
M-10128A

補 足

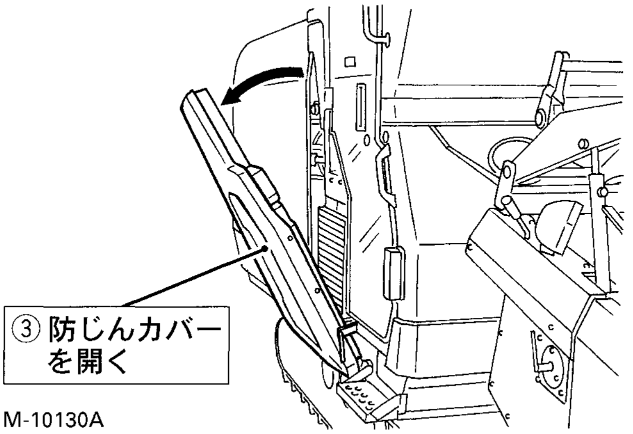
＊エンジンルームは，25度と50度の2段階開きます。25度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと50度まで開きます。

■防じんカバーオープン【C仕様】

◆開きかた


① 運転席を前方に倒す
② クランプを外す

M-10129A


③ 防じんカバーを開く

M-10130A

重　要

＊防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

◆閉じかた

防じんカバーを閉じたあと，クランプをロックしてください。

■運転席下カバー及び運転席下側板の脱着【C仕様】

注　意

＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

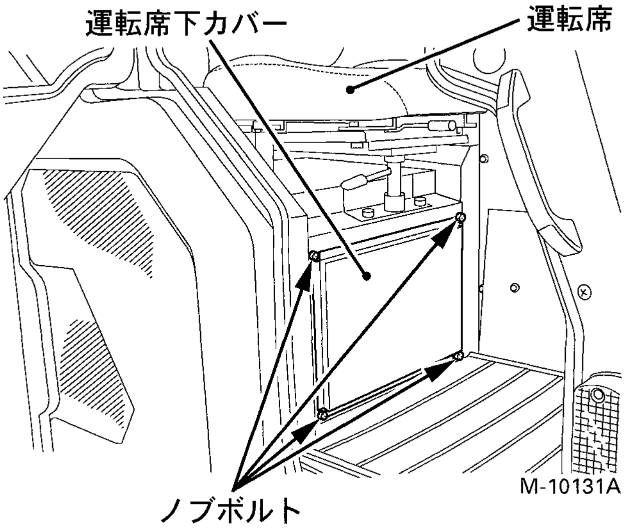
1. 作業を中止する。
2. エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
3. エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
4. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

＊エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆取外しかた

● **運転席下カバー**

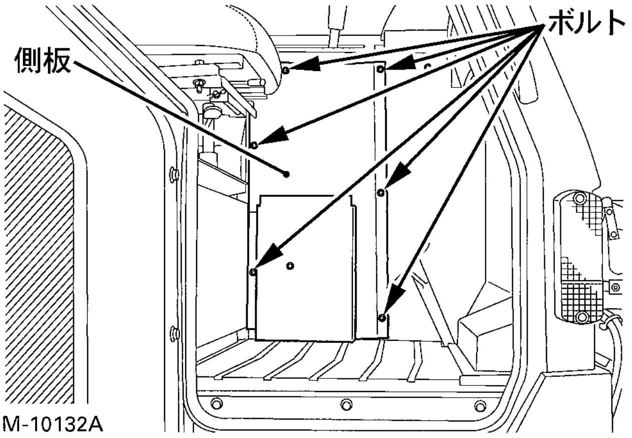
樹脂ボルト４本を外して取外します。


運転席下カバー
運転席
ノブボルト

M-10131A

●運転席下側板

ボルト６本を外して側板を取外します。



M-10132A

◆取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

■こぎ胴上部カバーオープン

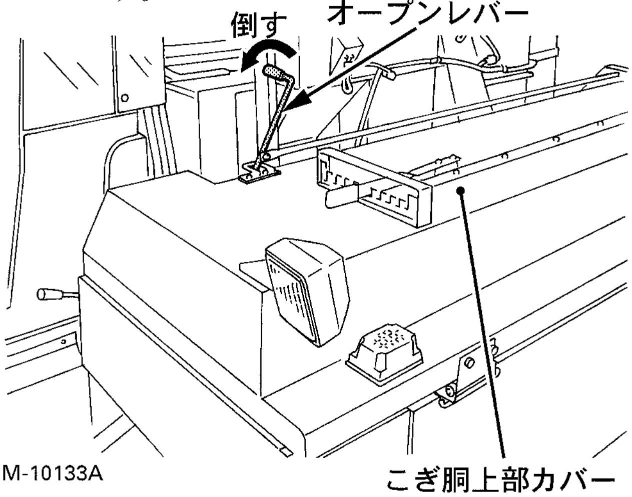
注 意

＊エンジン停止直後は，オープンしないでください。惰性でこぎ胴が回転しているおそれがあり，ケガをするおそれがあります。

＊手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，こぎ胴上部カバーはゆっくりと開閉してください。

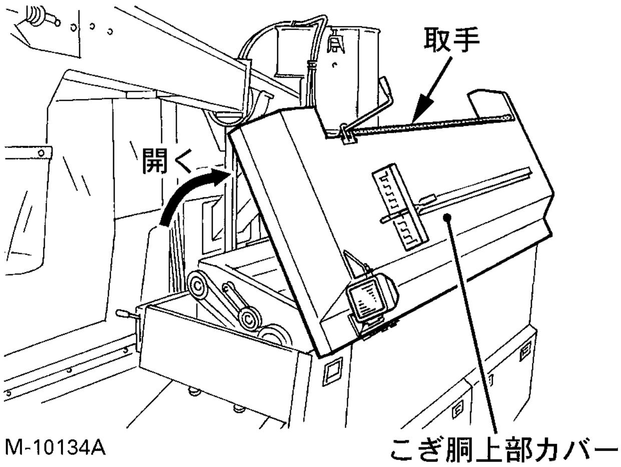
◆開きかた

1. オープンレバーを前方に倒してロックを解除します。


倒す
オープンレバー
こぎ胴上部カバー

M-10133A

2. 取手を持ち，こぎ胴カバーを左上方に開きます。


取手
開く
こぎ胴上部カバー

M-10134A

◆閉じかた

開き方の逆の手順で取付けます。

補 足

＊閉じたあとは，オープンレバーを後方に倒してロックしてください。

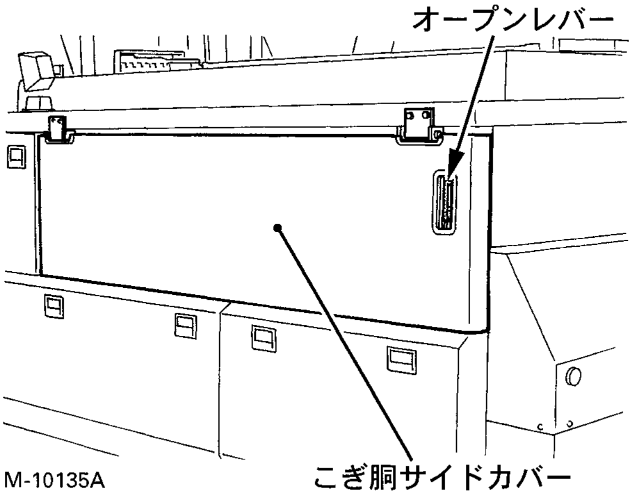
■こぎ胴サイドカバーオープン

注 意

＊エンジン停止直後は，オープンしないでください。惰性でこぎ胴が回転しているおそれがあり，ケガをするおそれがあります。

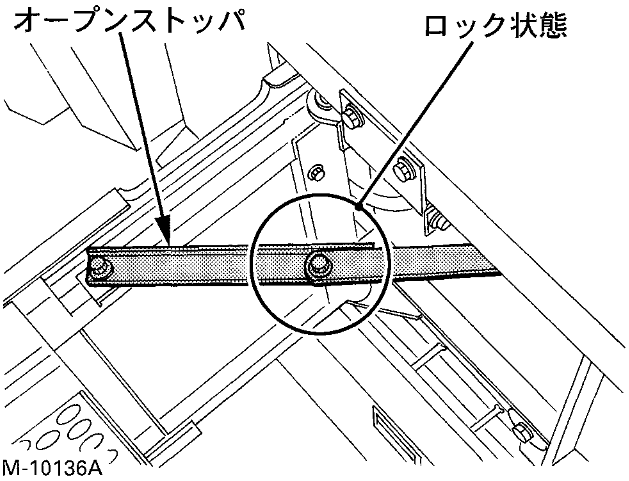
◆開きかた

1. オープンレバーを引き，ロックを解除します。

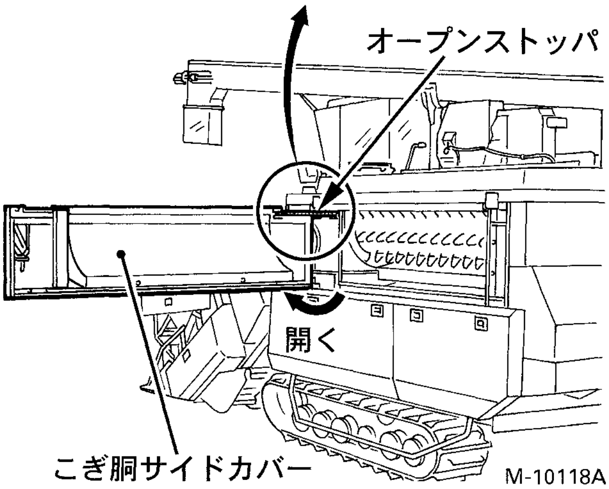

オープンレバー
こぎ胴サイドカバー

M-10135A

2. オープンレバーをそのまま引いて，こぎ胴サイドカバーをいっぱいまで開いたあと，オープンストッパを確実に行ないます。


オープンストッパ
ロック状態

M-10136A


オープンストッパ
開く
こぎ胴サイドカバー

M-10118A

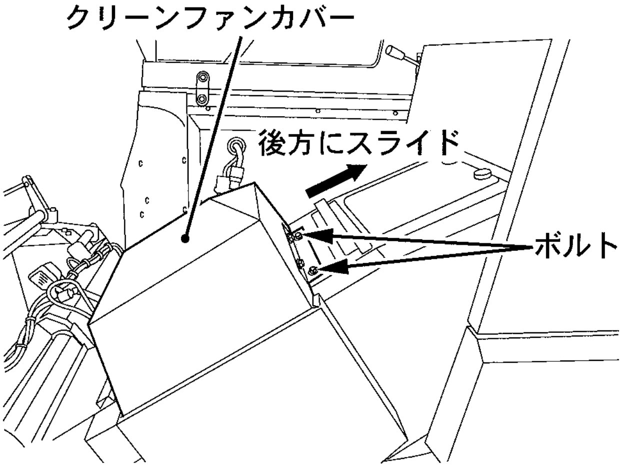
◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

■クリーンファンカバーオープン

◆開きかた

1. 刈取部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. クリーンファンカバーを固定しているボルト２本を取外します。
3. クリーンファンカバーを後方にスライドして下側の差込み部から抜取ります。



M-10092B

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

補　足

＊ボルトを締め忘れると，ほこりが漏れるので確実に締付けてください。

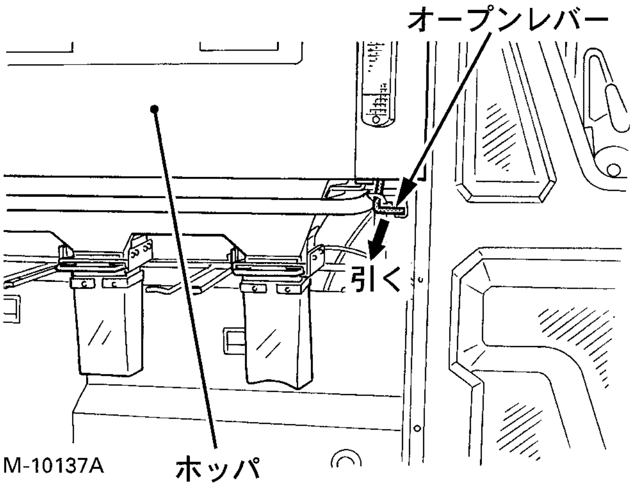
■ホッパオープン【ホッパ仕様】

注　意

＊ホッパに体がはさまれるおそれがあるので必ず平坦な場所で行なってください。
＊開閉時は周囲に人がいないことを確認してください。

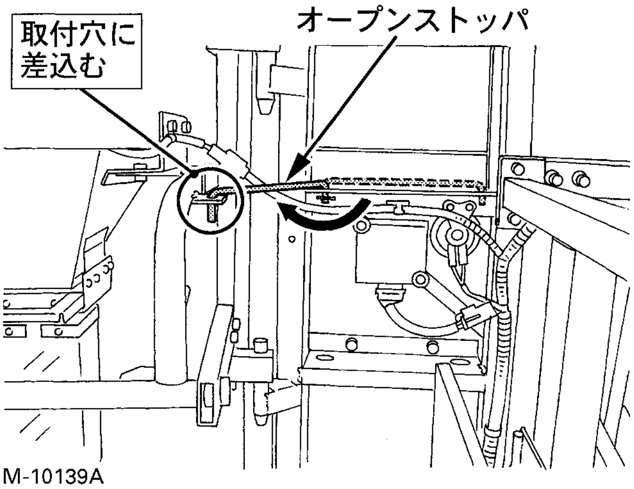
◆開きかた

1. オープンレバーを引き，ゆっくりとホッパを開きます。

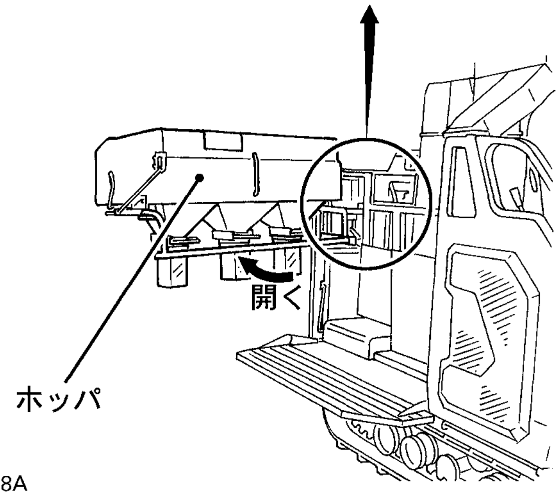


M-10137A

2. ホッパをいっぱいまで開いたあと，オープンストッパをホッパ側の取付け穴に差込みます。


取付穴に
差込む
オープンストッパ

M-10139A



M-10138A

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

■グレンタンクオープン【グレンタンク仕様】

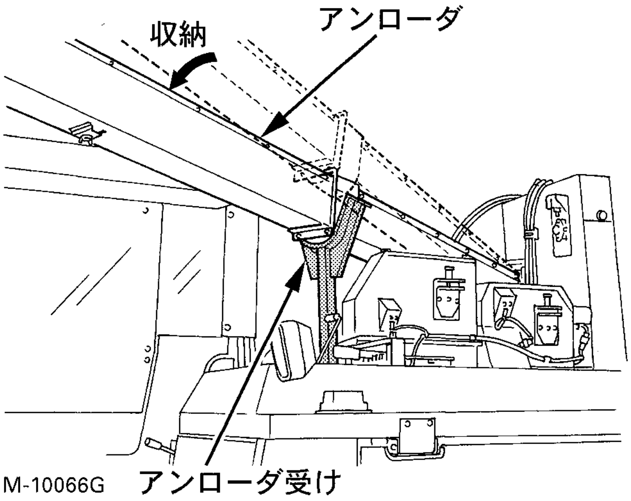
注　意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

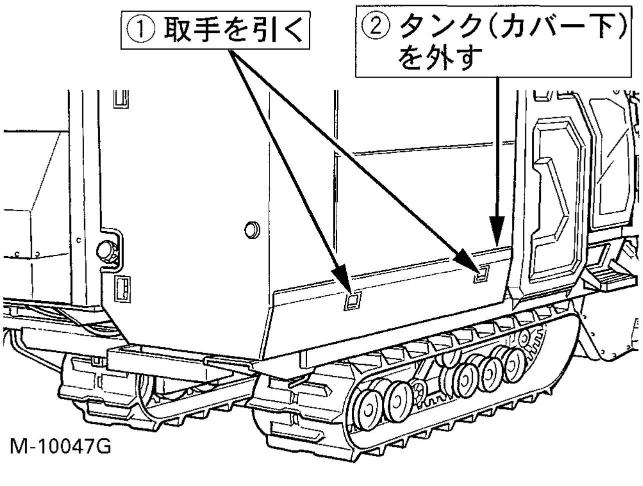
◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。
2. 主変速レバーを **“停止”** 位置，副変速レバーを **“N”**（中立）位置にし，各作業クラッチレバーを **“切”** 位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

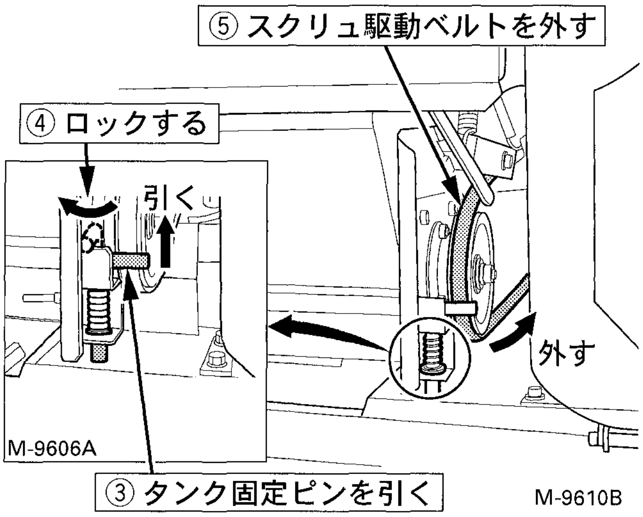

収納
アンローダ
アンローダ受け

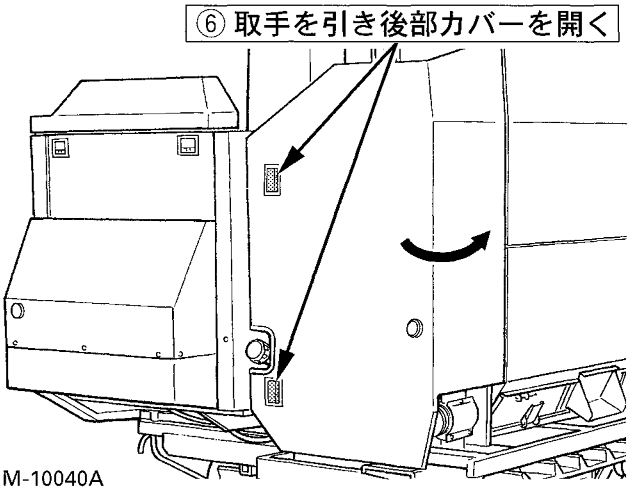
M-10066G

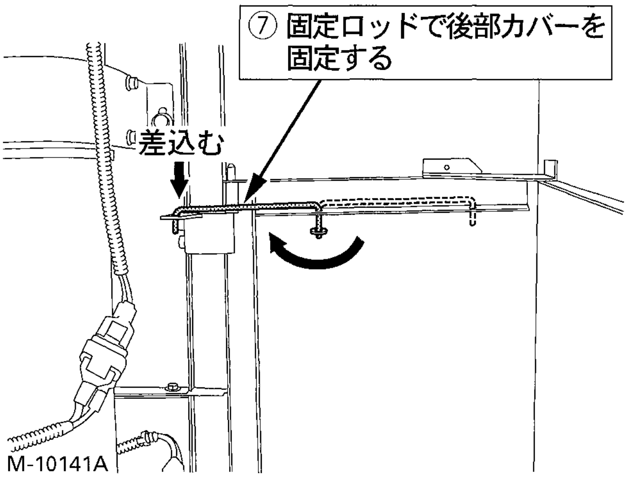
4. グレンタンクをオープンします。

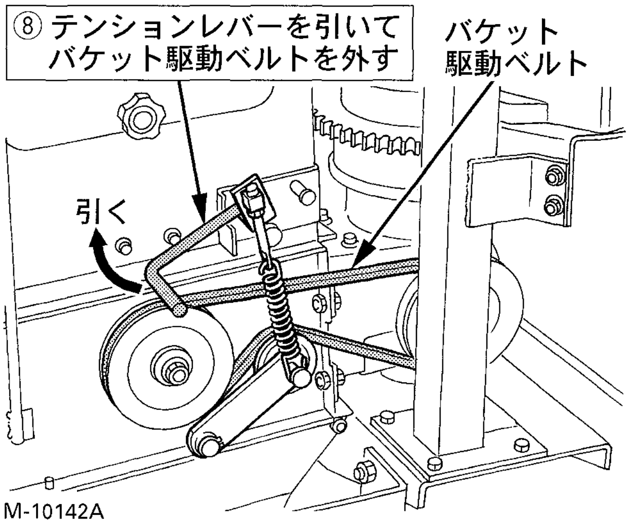

① 取手を引く
② タンク(カバー下)を外す

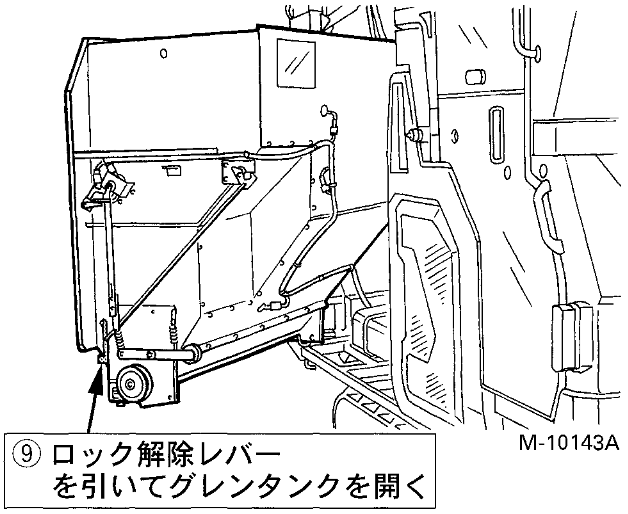
M-10047G


⑤ スクリュ駆動ベルトを外す
④ ロックする
引く
外す
M-9606A
③ タンク固定ピンを引く
M-9610B


⑥ 取手を引き後部カバーを開く
M-10040A


⑦ 固定ロッドで後部カバーを固定する
差込む
M-10141A


⑧ テンションレバーを引いて バケット駆動ベルトを外す
バケット駆動ベルト
引く
M-10142A


⑨ ロック解除レバー を引いてグレンタンクを開く
M-10143A

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊スクリュ駆動ベルト及びバケット駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，こく粒を排出しません。また，ベルトを破損するおそれがあります。

＊グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊エンジンを必ず止めてください。
＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊各搬送チェーンや刃部には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊刈取部やリールを上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック装置で必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して刈取部落下防止の歯止めをしてください。
＊空運転するときには必ず各カバーを閉じてください。
＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊刈刃の掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

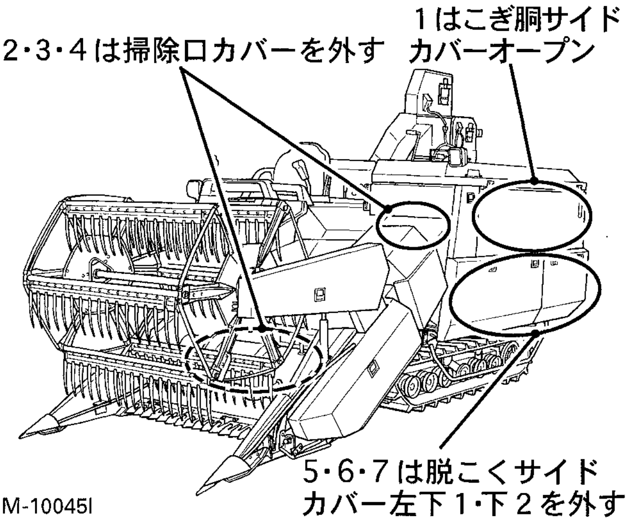
■各部の掃除

品種の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約3分間空運転します。そのあと，脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン（開閉）又は，掃除口を開いてください。

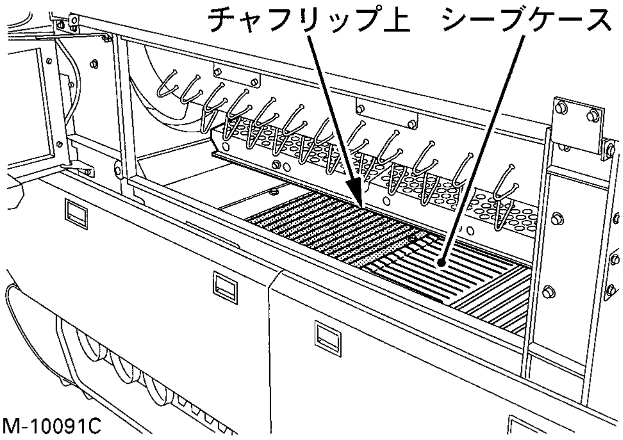
◆掃除箇所


1はこぎ胴サイドカバーオープン
2・3・4は掃除口カバーを外す
5・6・7は脱こくサイドカバー左下1・下2を外す
M-10045I

各部の掃除と注油のしかた

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

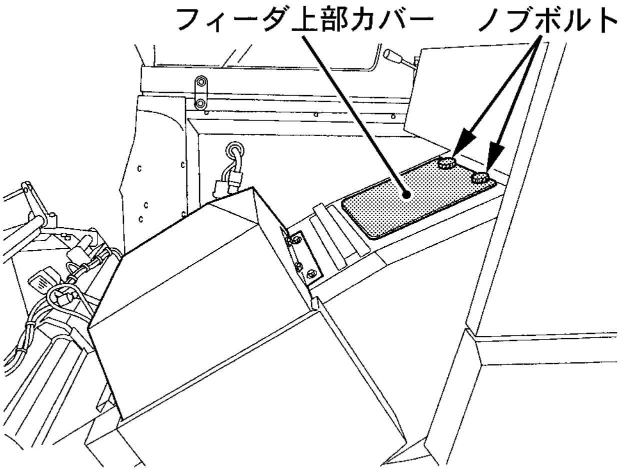
受あみ（前，後）を取外してください。


チャフリップ上
シーブケース

M-10091C

2. フィーダ上部カバー内

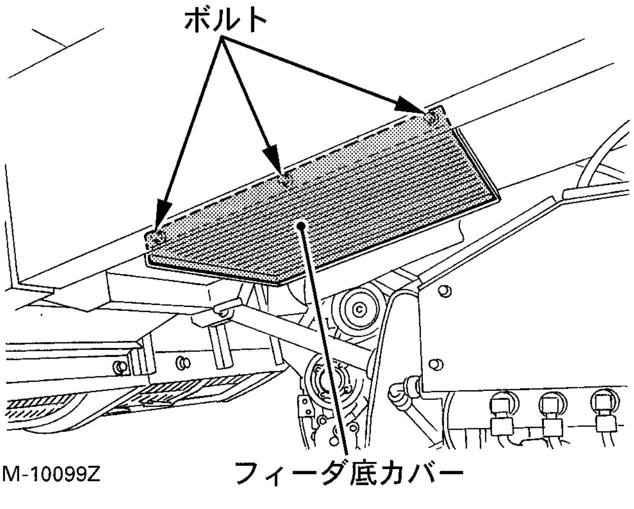
刈取部を下降したあとエンジンを止め，ノブボルト２本を取外してフィーダ上部カバーを取外してください。


フィーダ上部カバー
ノブボルト

M-10092C

3. フィーダ底カバーの脱着

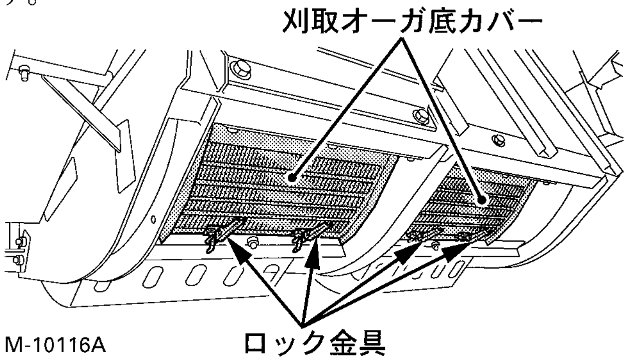
ボルト３本を取外してフィーダ底カバーを引出します。


ボルト
フィーダ底カバー

M-10099Z

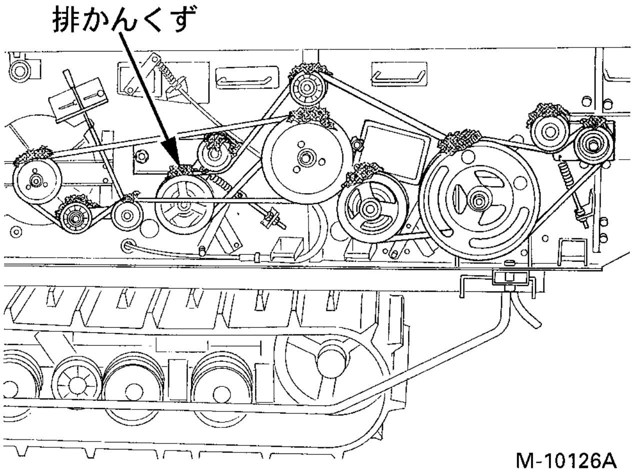
4. 刈取オーガ底カバーの脱着

ロック金具を外し，刈取オーガ底カバーを取外します。


刈取オーガ底カバー
ロック金具

M-10116A

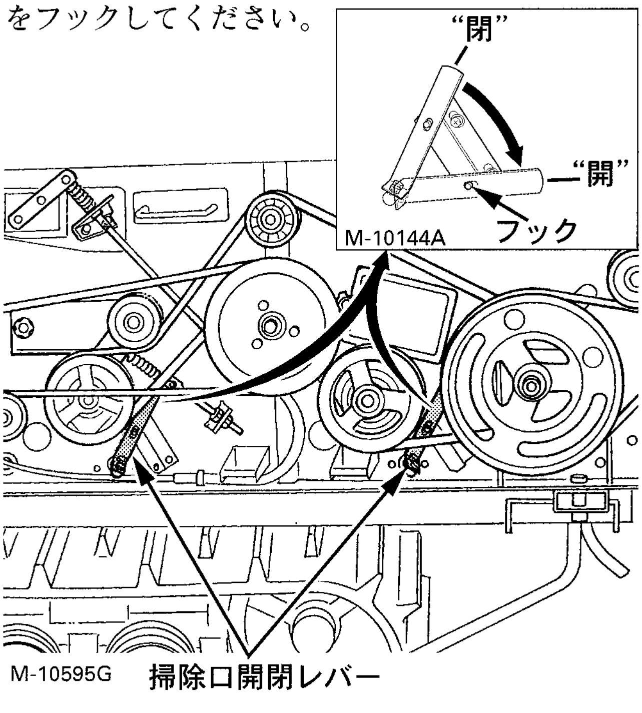
5. ベルトカバー内



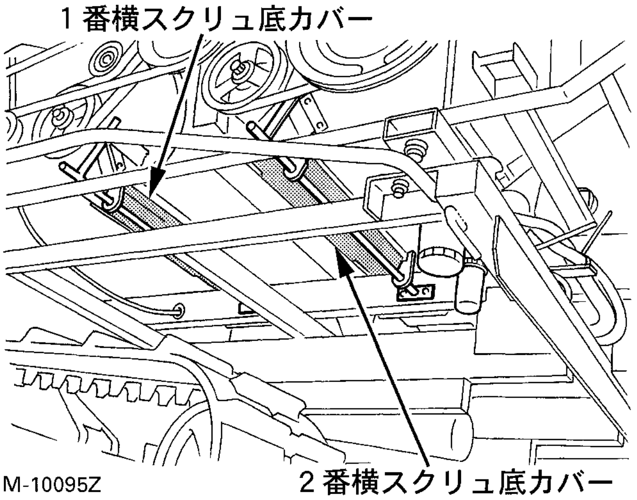
M-10126A

6. 1・2番横スクリュ底カバーの脱着

掃除口開閉レバーを**“開”**方向に操作して，１・２番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを外してください。付けるときは，必ず開閉レバーをフックしてください。


“閉”
“開”
フック
M-10144A
掃除口開閉レバー

M-10595G


1番横スクリュ底カバー
2番横スクリュ底カバー

M-10095Z

重　要

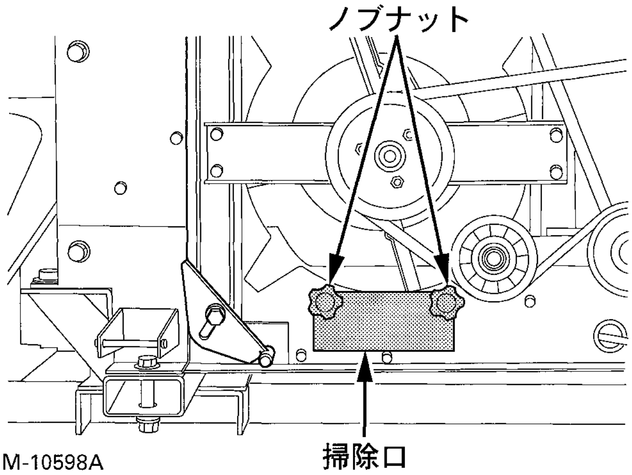
＊掃除口開閉レバーを使用しないときは，閉位置にフックしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

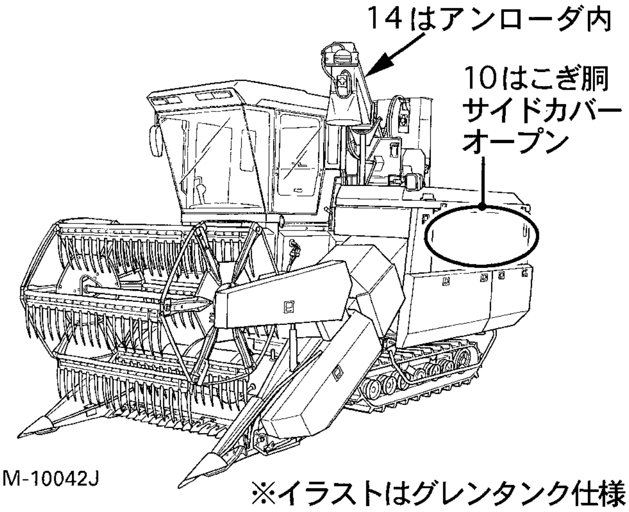
＊クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉レバーに接触し，開閉しなくなります。

7. トウミ部

ノブナットを取外し，掃除口カバーを取外します。

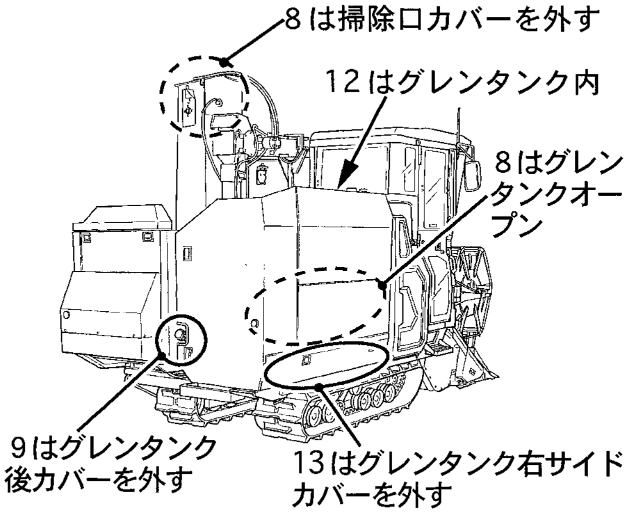


M-10598A


14はアンローダ内
10はこぎ胴サイドカバーオープン

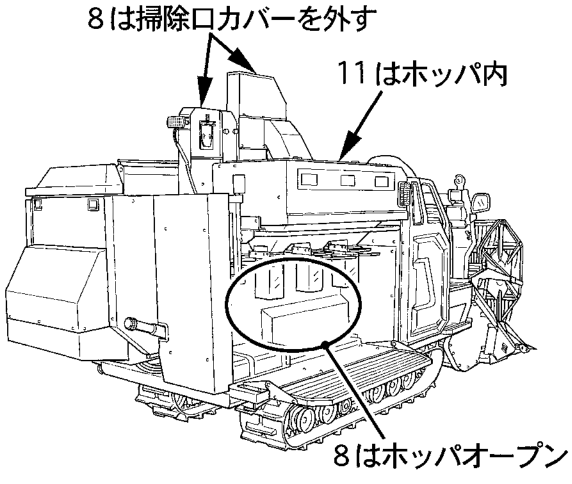
M-10042J

※イラストはグレンタンク仕様


8は掃除口カバーを外す
12はグレンタンク内
8はグレンタンクオープン
9はグレンタンク後カバーを外す
13はグレンタンク右サイドカバーを外す

M-10047M

※イラストはグレンタンク仕様


8は掃除口カバーを外す
11はホッパ内
8はホッパオープン

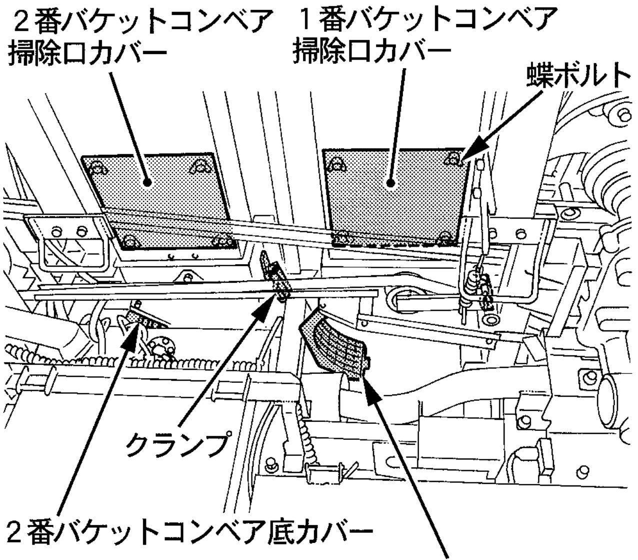
M-10048J

※イラストはホッパ仕様

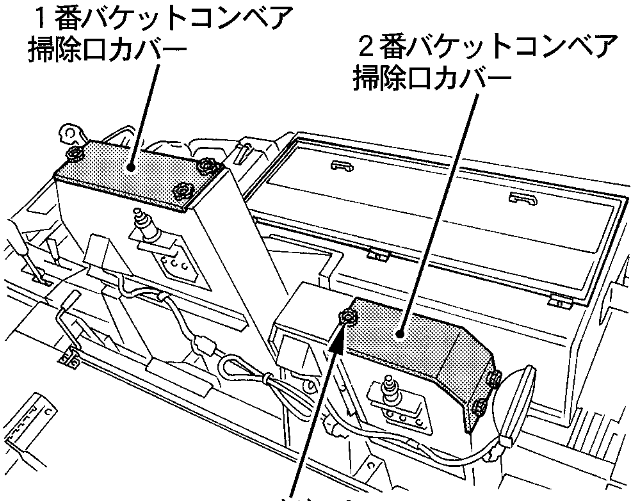
8. １番・２番バケットコンベア掃除口

9. 排出バケットコンベア掃除口 【グレンタンク仕様】

各掃除口カバーは，蝶ボルト及びノブボルトを取外したあと，カバーを少し上げて取外します。また，１番・２番・排出各バケットコンベアの底カバーは，クランプを取外して開いてください。

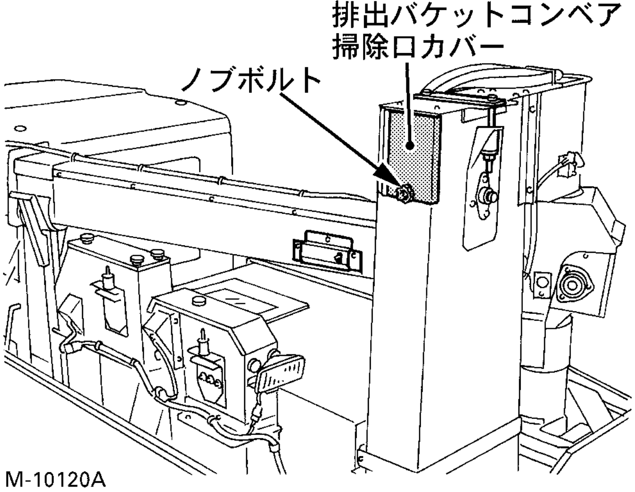

２番バケットコンベア
掃除口カバー
１番バケットコンベア
掃除口カバー
蝶ボルト
クランプ
２番バケットコンベア底カバー
１番バケットコンベア底カバー

M-10094B

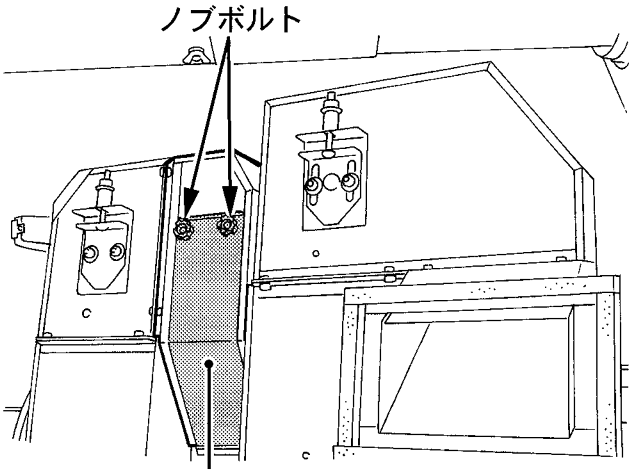

１番バケットコンベア
掃除口カバー
２番バケットコンベア
掃除口カバー
ノブボルト

M-10125A

【グレンタンク仕様】


排出バケットコンベア
掃除口カバー
ノブボルト

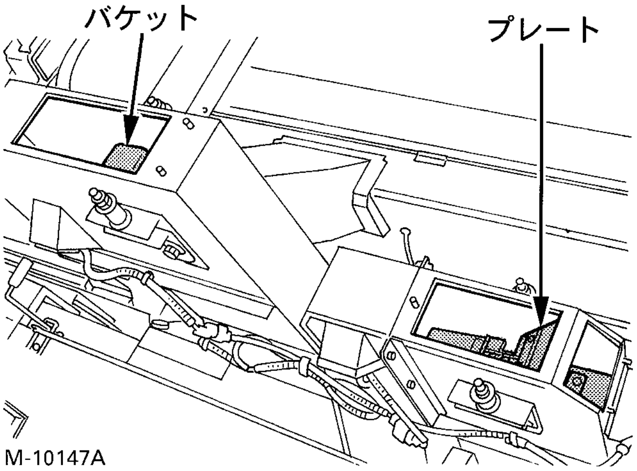
M-10120A


ノブボルト
２番バケットコンベア掃除口カバー

M-10146A

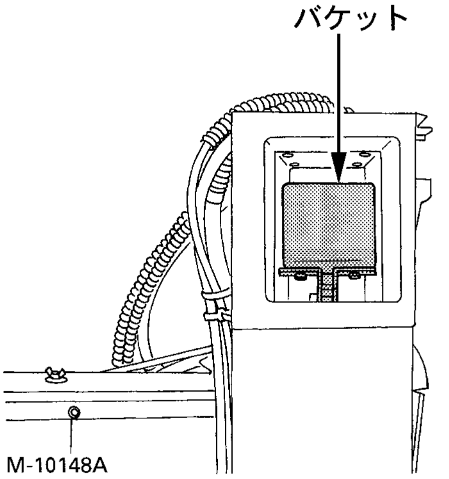
補　足

＊バケット及びプレートの汚れを布などで拭取ってください。



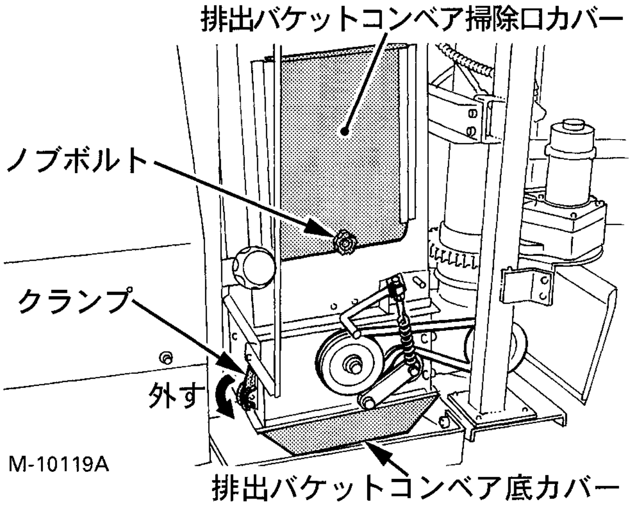
M-10147A

【グレンタンク仕様】



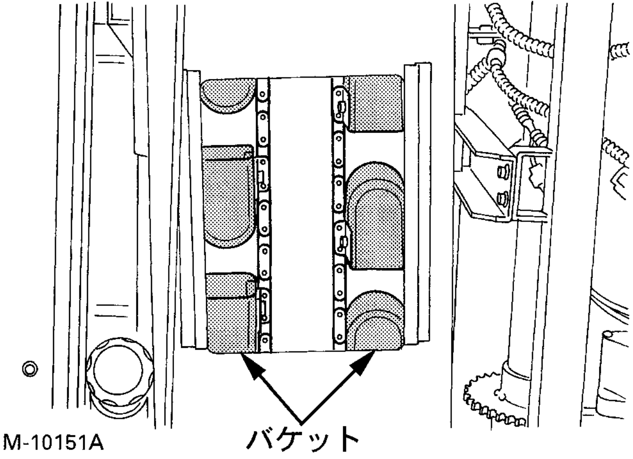
M-10148A

【グレンタンク仕様】


排出バケットコンベア掃除口カバー
ノブボルト
クランプ
外す
排出バケットコンベア底カバー

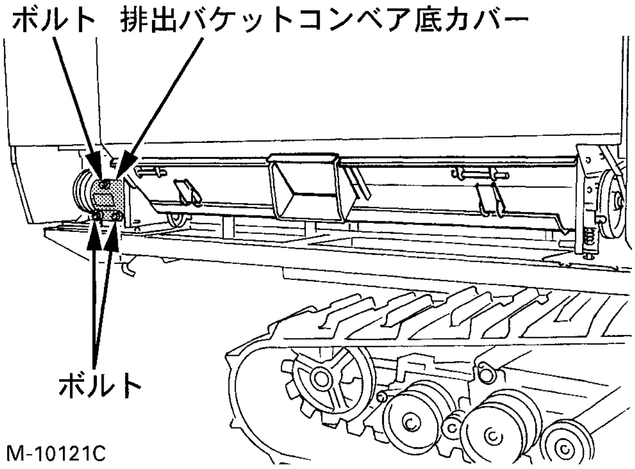
M-10119A

【グレンタンク仕様】



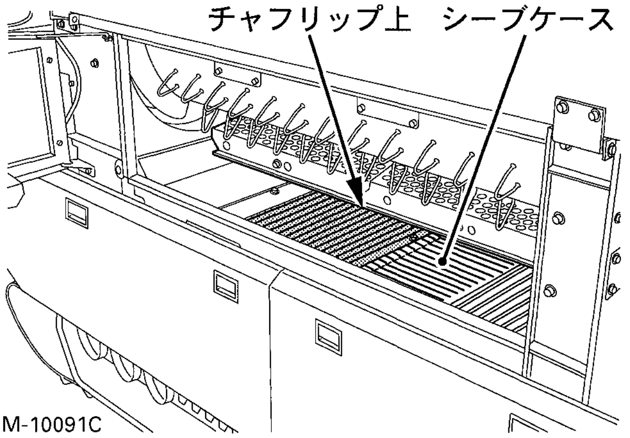
M-10151A

【グレンタンク仕様】


ボルト
排出バケットコンベア底カバー
ボルト

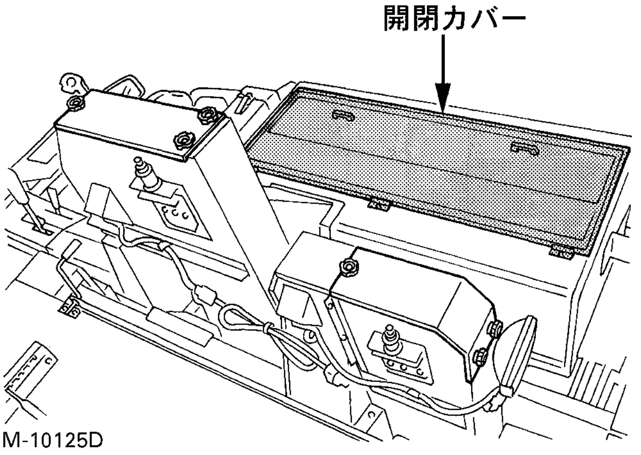
M-10121C

10. 脱こく部内
チャフリップ上面，チャフ底板や周辺を掃除してください。


チャフリップ上
シーブケース

M-10091C

11. ホッパ内【ホッパ仕様】
開閉カバーを開いてください。

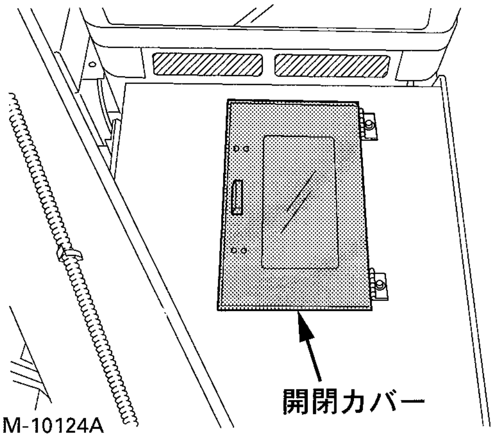


M-10125D

各部の掃除と注油のしかた

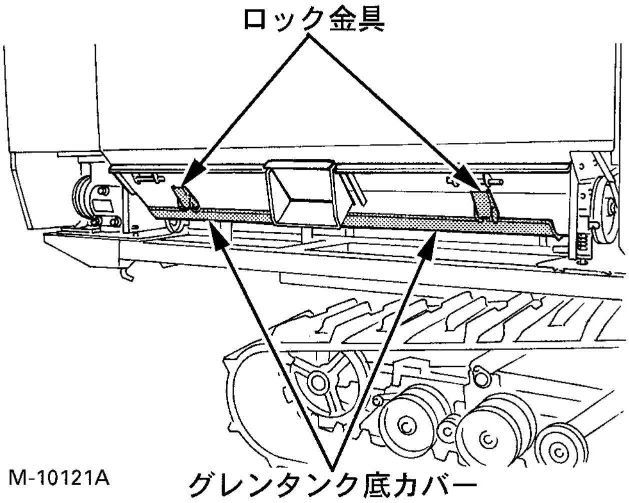
12. グレンタンク内【グレンタンク仕様】

開閉カバーを開いてください。


開閉カバー
M-10124A

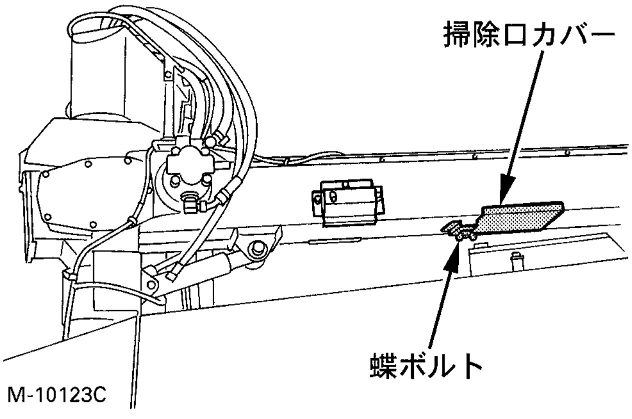
13. グレンタンク下部掃除口【グレンタンク仕様】

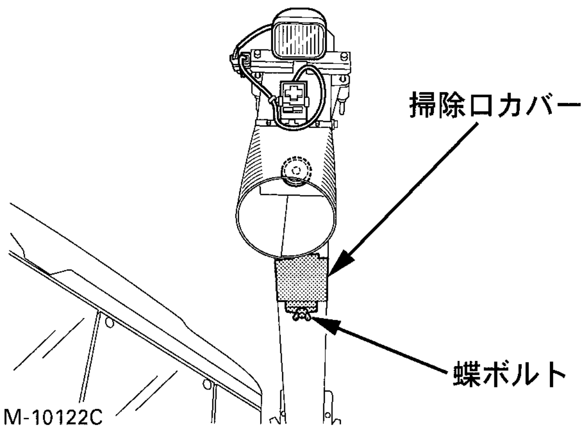
ロック金具を外してグレンタンク底カバーを取外してください。

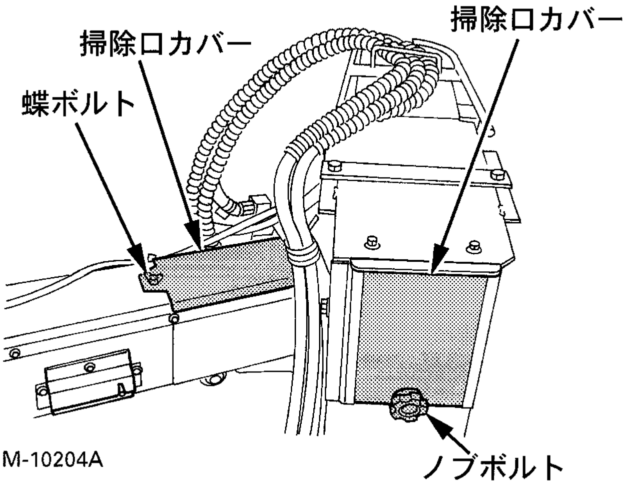

ロック金具
M-10121A
グレンタンク底カバー

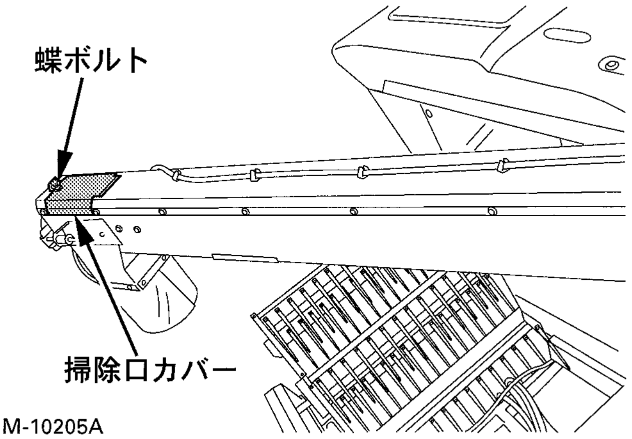
14. アンローダ内【グレンタンク仕様】

蝶ボルト又は，ノブボルトを外し，掃除口カバーを取外してください。


掃除口カバー
蝶ボルト
M-10123C


掃除口カバー
蝶ボルト
M-10122C


掃除口カバー
掃除口カバー
蝶ボルト
M-10204A
ノブボルト


蝶ボルト
掃除口カバー
M-10205A

◆掃除後の処置

掃除終了後は，取外したり，オープンした掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

■各部の注油

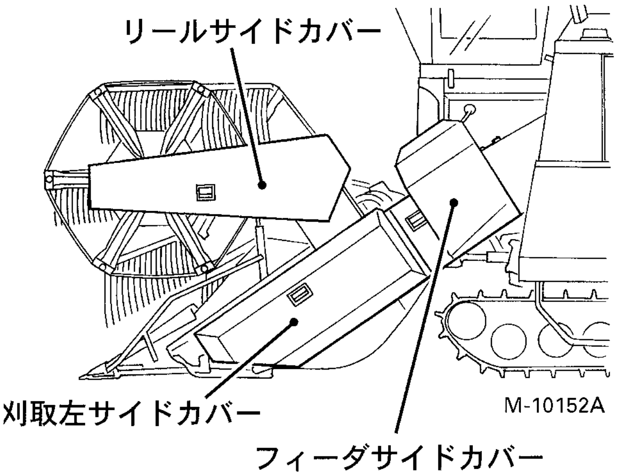
機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

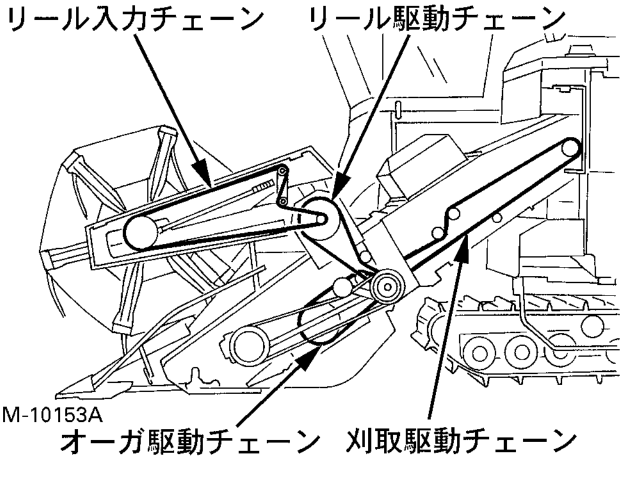
◆注油のしかた

平坦な場所に刈取部を接地させたあと，駐車ブレーキを掛けます。

- **刈取駆動チェーン（注油）**
- **オーガ駆動チェーン（注油）**
- **リール駆動チェーン（注油）**
- **リール入力チェーン（注油）**

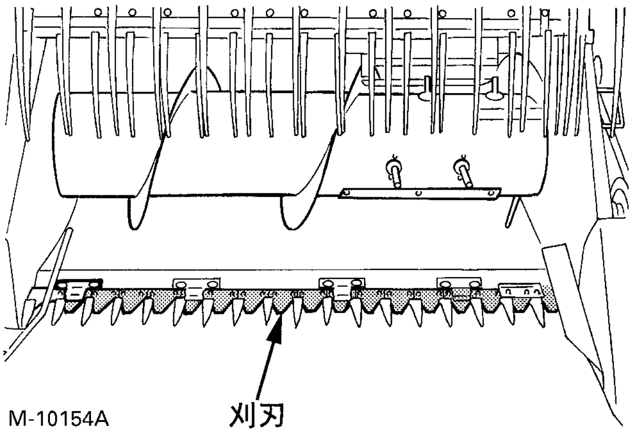
刈取左サイドカバー，フィーダサイドカバー及びリールサイドカバーを取外してください。


リールサイドカバー
刈取左サイドカバー
M-10152A
フィーダサイドカバー


リール入力チェーン
リール駆動チェーン
M-10153A
オーガ駆動チェーン
刈取駆動チェーン

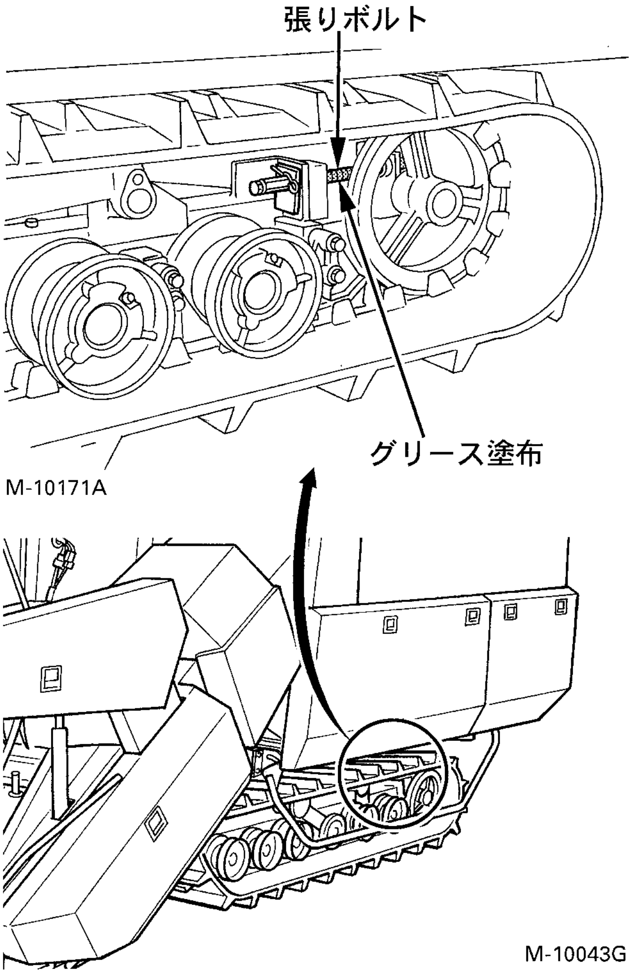
- **刈刃（注油）**

リールを上げてロックスイッチをロックし，下降防止をし，刈刃全体に注油してください。



- **クローラ張りボルト（左，右）**

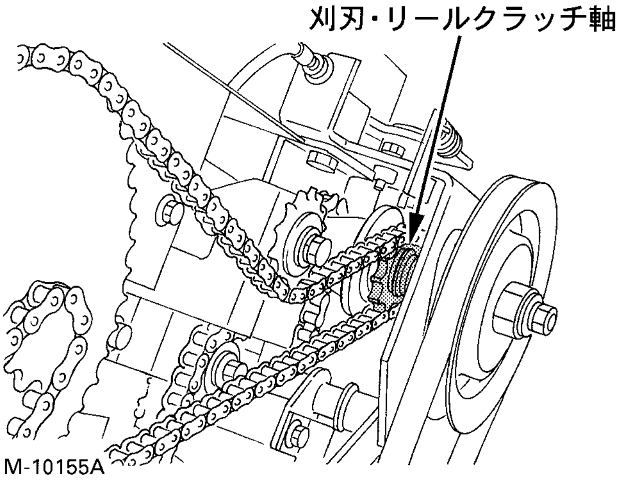
グリースを塗布してください。


張りボルト
グリース塗布
M-10171A
M-10043G

各部の掃除と注油のしかた

● 刈刃・リールクラッチ軸

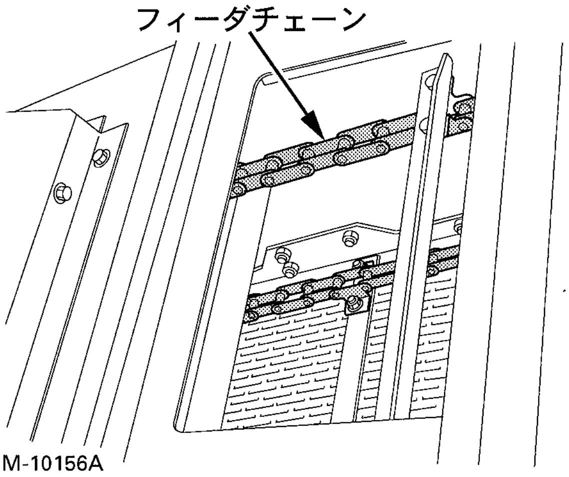
刈取左サイドカバーを取外してください。


刈刃・リールクラッチ軸
M-10155A

● フィーダチェーン

フィーダ上部カバーを取外してください。

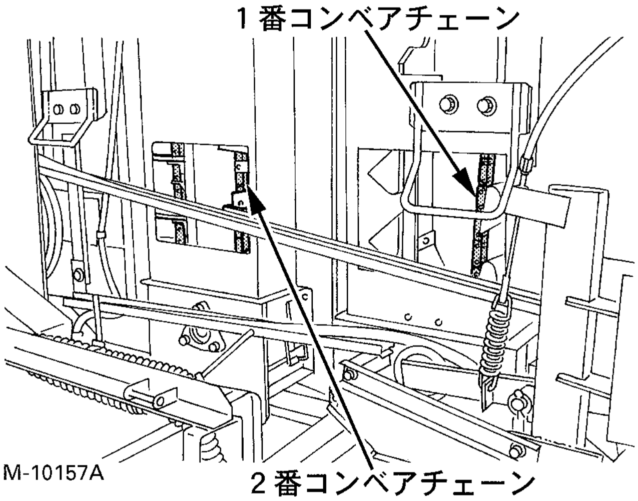
（91ページ参照）


フィーダチェーン
M-10156A

● 1番・2番コンベアチェーン

1番・2番掃除口カバーを取外してください。

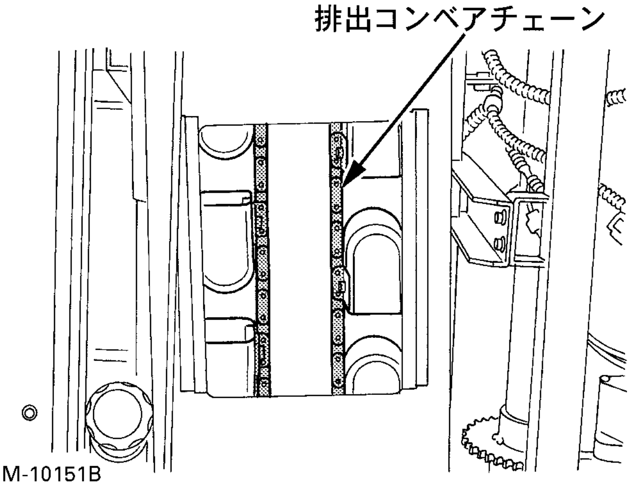
（93ページ参照）


1番コンベアチェーン
2番コンベアチェーン
M-10157A

● 排出コンベアチェーン【グレンタンク仕様】

排出コンベア掃除口カバーを取外してください。

（94ページ参照）


排出コンベアチェーン
M-10151B

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

＊エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。

＊オイル交換中は火気厳禁。

＊刈刃の掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

＊機械は平坦で，周りに排かんくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。

＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は，50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

＊廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときはご購入先に連絡してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

定期点検

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間	点検・交換時期																						参照ページ
			アワメータ表示時間（時間）																				それ以降(時間:H)		
		点検と処置	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換	
エンジン部	ファン駆動ベルト	調整/交換		●		○		△	●		○		△	●		○		△	●		○		△	50H又は, 100Hごと	250Hごと	126 ☆
	エアクリーナエレメント	掃除/交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	50Hごと	300Hごと	114
			（点検・掃除が6回目のときに交換）																							
	インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け/交換				○			○			○			○			○			○			注 1	2年ごと	115
			（注1：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検）																							
	フューエルフィルタエレメント	掃除/交換			○		○		○		△		○		○		○		△		○		○	100Hごと	400Hごと	118
	フューエルフィルタカートリッジ	−/交換									△								△					−	400Hごと	118
	オイルフィルタカートリッジ	−/交換		▲			△				△				△				△				△	−	200Hごと	119
			（エンジンオイル交換が2回目のとき，同時に交換）																							
	フューエルパイプ	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注 2	注 3	115 ☆
			（注2：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検） （注3：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換）																							
	燃料こしあみ	掃除/−			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	−	104
	オイルドレーンゴムホース	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注 4	注 5	115 ☆
			（注4：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検） （注5：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換）																							
	ラジエータホース	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注 6	注 7	115 ☆
			（注6：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検） （注7：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換）																							
	防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィン【C仕様】	掃除/−		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50Hごと	−	116
走行・操作部	走行（ミッション）駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20H又は， 100Hごと	300Hごと	127 ☆
	（駐車）ブレーキワイヤ	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○	50H又は， 100Hごと	300Hごと	122 ☆
	ブレーキシュー	−/交換											△										△	−	注8	☆
			（注8：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換）																							
	SFワンレバーリリーフワイヤ	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は， 100Hごと	注9	122 ☆
			（注9：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換）																							
	クローラ	調整/交換	●		○		○		○		○		△/●(520)		○		○		○		○		△	20H又は， 100Hごと	500Hごと	154 ☆
	HSTオイルフィルタカートリッジ	−/交換		▲					△						△						△			−	300Hごと	120 ☆
	HST吸入フィルタ	洗浄/交換							○						△						○			300Hごと	600Hごと	☆

＊参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

定期点検

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間	点検・交換時期																							参照ページ
			アワメータ表示時間（時間）																					それ以降(時間:H)		
		点検と処置	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換	
走行・操作部	油圧オイルタンクフィルタ	－/交換		▲					△						△						△			—	300Hごと	120 ☆
	車軸・転輪・後輪各シール・ベアリング	－/交換	（注10：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換）										△										△	—	注10	☆
	キャリアローラシール・ベアリング	－/交換	（注11：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換）										△										△	—	注11	☆
	後輪・ドライブスプロケット	－/交換							△						△						△			—	300Hごと	☆
刈取部	フィーダ駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	132 ☆
	刈取駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	127 ☆
	刈刃駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	132 ☆
	リール駆動チェーン	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	136 ☆
	オーガ駆動チェーン	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	136 ☆
	リール入力チェーン	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	137 ☆
	刈取駆動チェーン	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	137 ☆
	フィーダチェーン	調整/交換	●	○	○	○	○	○	△/●(320)	○	○	○	○	○	△/●(620)	○	○	○	○	○	△/●(920)	○	○	20又は，50Hごと	300Hごと	136 ☆
	刈刃	調整/交換			○		○		△		○		○		△		○		○		△		○	100Hごと	300Hごと	142 ☆
	フィンガガイド	－/交換						△					△					△					△	—	250Hごと	143 ☆
	オーガドラム・フィンガ	調整/－			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	—	143 ☆
	刈刃アーム・リンクボール取付ボルト，ナットの点検	調整/－			○		○		○		○		○		○		○		○		△		○	100Hごと	—	☆
脱こく部	ギヤケース駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	133 ☆
	脱こく駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	134 ☆
	脱こくカウンタベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	128 ☆
	こぎ胴駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	128 ☆
	揺動駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	129 ☆
	1番・2番スクリュ駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△/●(320)		○		○		△/●(620)		○		○		△/●(920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	129 ☆

＊参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

定期点検

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間	点検・交換時期																							参照ページ
			アワメータ表示時間（時間）																					それ以降(時間:H)		
		点検と処置	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換	
脱こく部	トウミ駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		○		△ ● (920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	130 ☆
	2番還元スクリュベルト	調整/交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		○		△ ● (920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	130 ☆
	1番・2番バケットコンベアチェーン	調整/交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		○		△ ● (920)		○	20又は，100Hごと	300Hごと	137 ☆
	1番・2番バケットカップ	点検/交換		●	○		○		△		○		○		△		○		○		△		○	50又は，100Hごと	300Hごと	137 ☆
	各ハンプ・スポンジ	－/交換							△						△						△			—	300Hごと	☆
グレンタンク部【グレンタンク仕様】	底スクリュ駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		△ ● (420)		○		○		○		△ ● (820)		○		○	20又は，100Hごと	400Hごと	131 ☆
	バケット駆動ベルト	点検/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50又は，100Hごと	500Hごと	131 ☆
	排出バケットコンベアチェーン	点検/交換	●		○		○		○		○		△ ● (520)		○		○		○		○		△ ● (1020)	20又は，100Hごと	500Hごと	139 ☆
	排出バケット	点検/交換			○		○		○		○		△		○		○		○		○		○	100Hごと	500Hごと	139 ☆
	アンローダ搬送コンベアベルト	点検/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50又は，100Hごと	500Hごと	140 ☆
	オイルポンプ駆動ベルト	点検/交換	●		○		○		○		○		△ ● (520)		○		○		○		○		△ ● (1020)	20又は，100Hごと	500Hごと	133 ☆
キャビン	コンプレッサ駆動ベルト	調整/交換	（注９：作業シーズン前又は，後に調整）																					注９	2年ごと	☆
	冷媒ガス	点検/－	（注10：作業シーズン前又は，後に点検）																					注10	—	145
	フィルタ	掃除/－	（注11：使用時間が30時間ごとで掃除）																					注11	—	144
	コンデンサ防じんネット	掃除/－		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		50Hごと	—	116
電装部	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検/－	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50Hごと	2年ごと	147,150 ☆
	ヒューズ・スローブローヒューズ	点検/－			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	2年ごと	150
	ランプ（電球）	点検/－			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	2年ごと	152
	ホーンスイッチ	点検/－			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	2年ごと	152
	バッテリ	充電/－	（注12：セルモータが回りにくいとき充電）																					注12	—	152
	バッテリ　コード	点検/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50Hごと	注13	152
	ワイヤハーネス		（注13：破損しているとき交換）																							150

＊参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

定期点検

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	補給	作業前又は，作業後	—	● 容量…………約40	ディーゼル軽油	103
オイル	エンジン	補給・交換		● 初回…50時間目 ● 2回目以降…100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの **下限と上限の間** ………………4.2～6.0	クボタ純オイル D30又は，D10W30	105
	トランスミッションケース	補給・交換	100時間ごと	● 初回…50時間目 ● 2回目以降…100時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで …………………6.8	クボタ純オイル NEW·UDT又は，スーパーUDT	107
	油圧オイルタンク	補給・交換		● 初回…50時間目 ● 2回目以降…300時間ごと	＊規定量 オイルゲージの下限と上限の間 …………10.6～11.2		107
	アンローダ駆動用油圧オイルタンク **【グレンタンク仕様】**	補給・交換		● 初回…50時間目 ● 2回目以降…300時間ごと	＊規定量 オイルゲージの **下限と上限の間** ………………4.0～4.2	クボタ純オイル NEW·UDT又は，スーパーUDT	108
	刈刃駆動ギヤケース	補給		—	● 規定量…………1.0	クボタ純オイル M80B又は，M90	109
	カウンタギヤケース			—	● 規定量…………1.5		109
	こぎ胴駆動ギヤケース			—	● 規定量…………0.3		110
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は，作業後	冬期停止時は排出又は，不凍液を入れる	＊規定量 タンク側面の**L**(下限)と**F**(上限)の間 **L**(LOW)……0.15 **F**(FULL)……1.1	清水	112
グリース	走行部 転輪部	補給	作業シーズン前後	—	適量	クボタ スペアグリース	110
	走行部 スイングアーム部						
	走行部 フレーム部						
	刈取部 リール支点部						111
	刈取部 リールアーム支点部						
	刈取部 リール前後支点部						
	刈取部 フィーダ支点部						
	アンローダ部 旋回モータベース部						☆
	アンローダ部 アンローダホルダ部						
	アンローダ部 アンローダケース1		分解時				
	アンローダ部 アンローダベルトコンベア駆動チェーンケース						

＊参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要 〔各部への補給と交換〕
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

注　意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

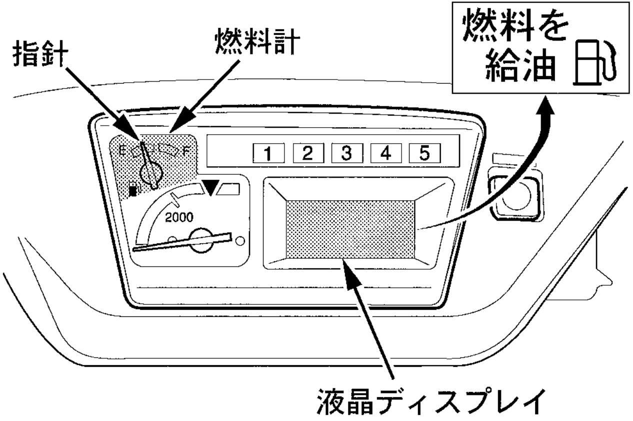
重　要

＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル・グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

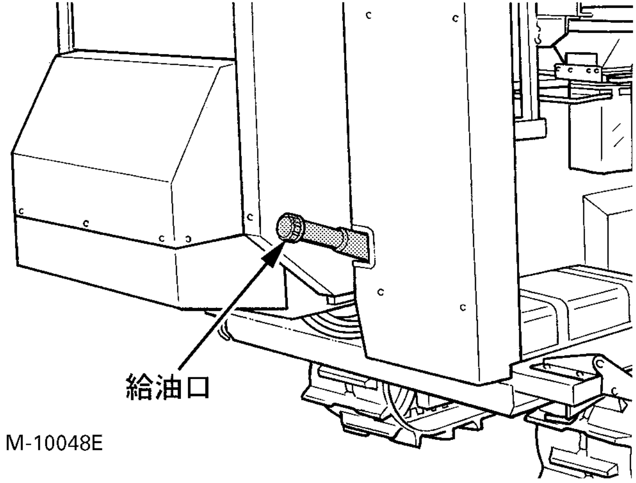
1. 燃料

燃料計の指針が **“E”**（空）に近づくと，エアロナビの液晶ディスプレイに **燃料を給油** と表示し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



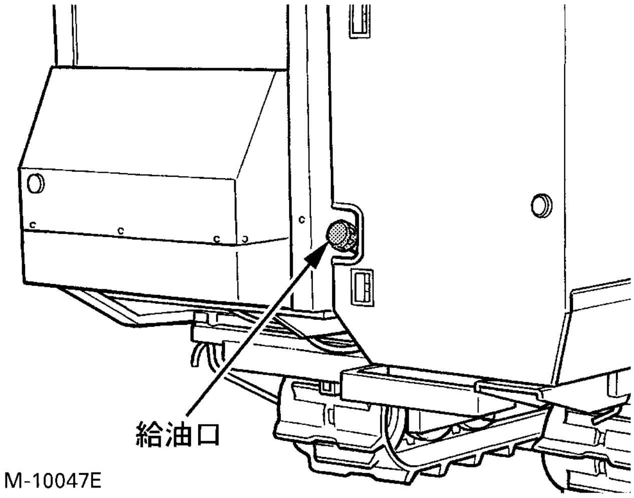
M-9597P

【ホッパ仕様】



M-10048E

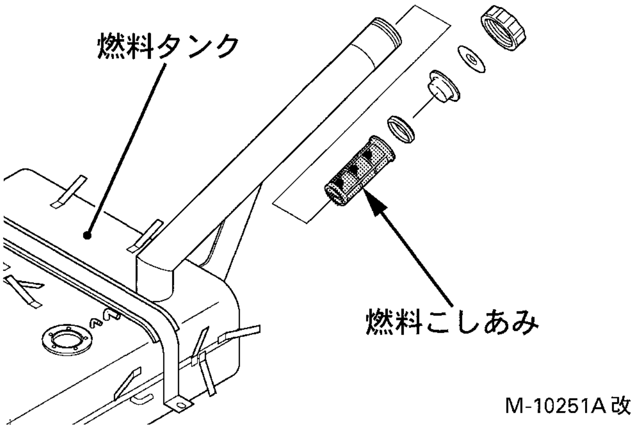
【グレンタンク仕様】



M-10047E

重　要

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



M-10251A改

◆給油

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを **“入”** 位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。また，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに **燃料満タン** と表示します。

補　足

＊**満タンお知らせ機能**は，ブザーが5回鳴ると停止します。

＊ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。

＊**満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。

- エンジン停止後約20秒間
- 給油中に機体を揺らしたり,急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき

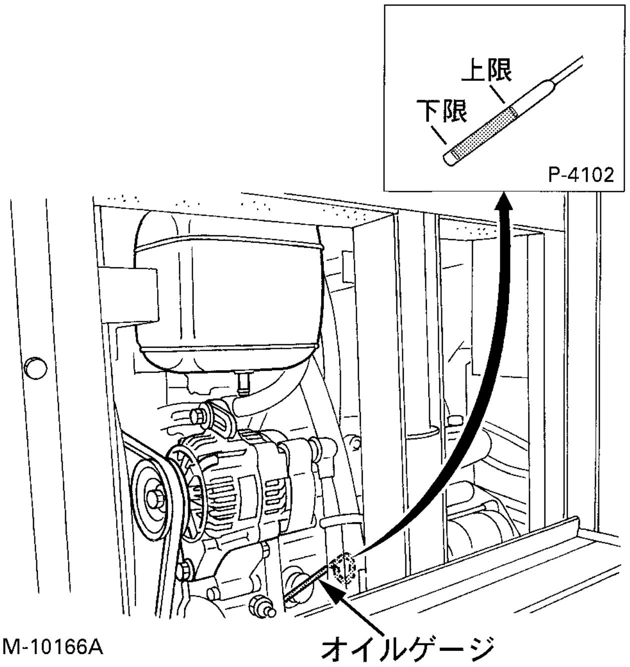
2．エンジンオイル

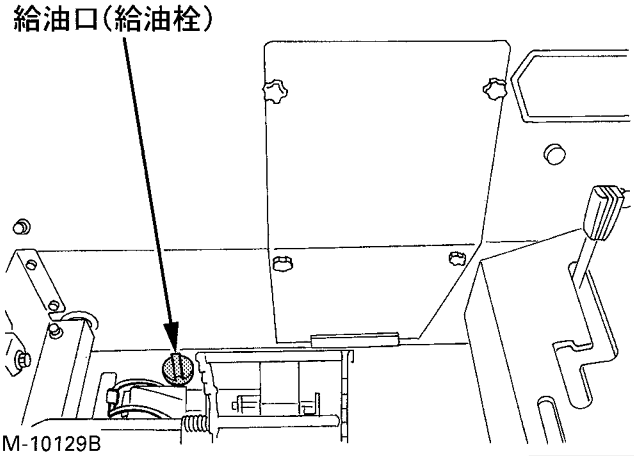
【C仕様除く】はエンジンルームをオープンし，【C仕様】は運転席下カバーを取外してください。

◆点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

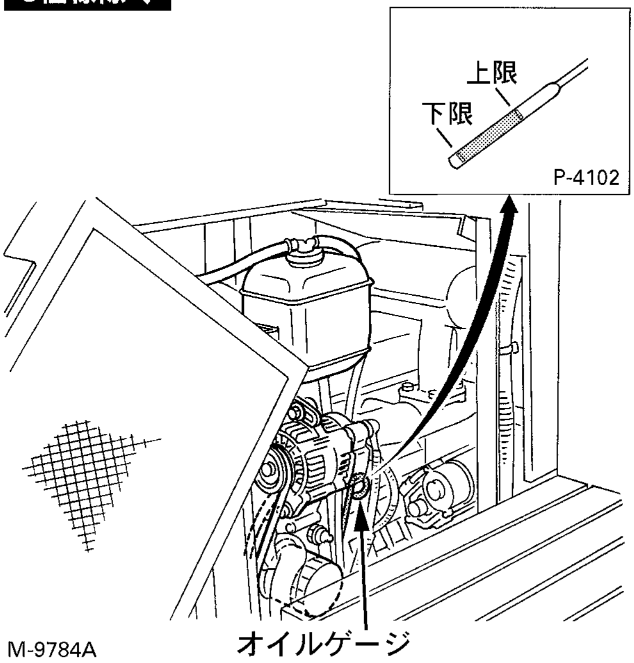
C仕様

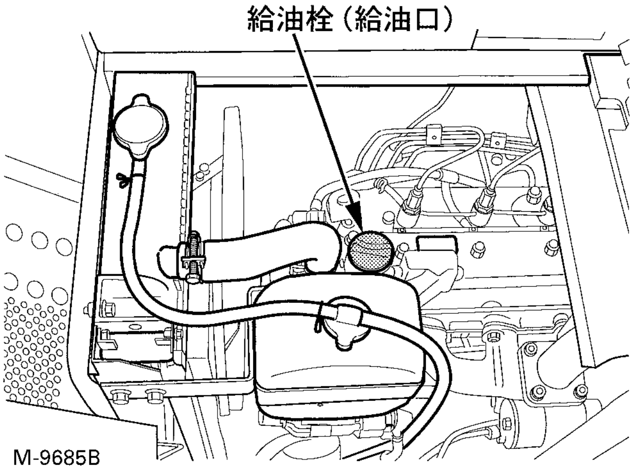

上限
下限
P-4102
M-10166A
オイルゲージ


給油口（給油栓）
M-10129B

C仕様

C仕様除く


上限
下限
P-4102
M-9784A
オイルゲージ

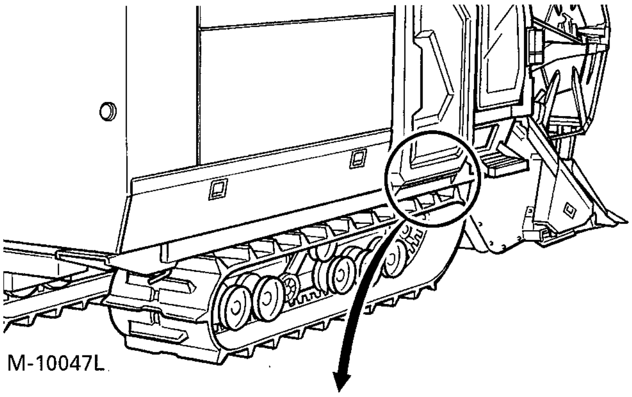

給油栓（給油口）
M-9685B

C仕様除く

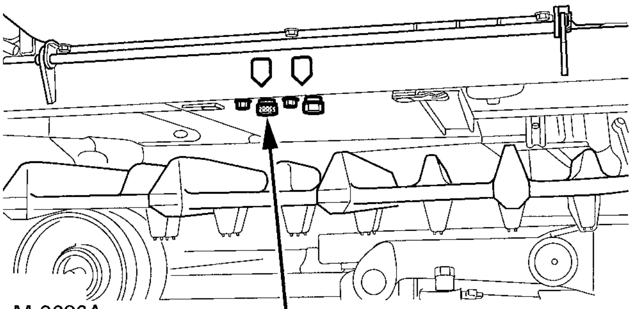
◆交換

●排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 給油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。



M-10047L



M-9686A

3. 排油プラグを取付けたあと，給油栓を取付けます。

重　要

＊排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30	● 上限線…約6.0L ● 下限線…約4.2L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API分類でCC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気　温	オイルの種類
15℃未満	10W-30
15℃以上	SAE30又は，10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

3. トランスミッションオイル

警　告

＊点検・補給・交換するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

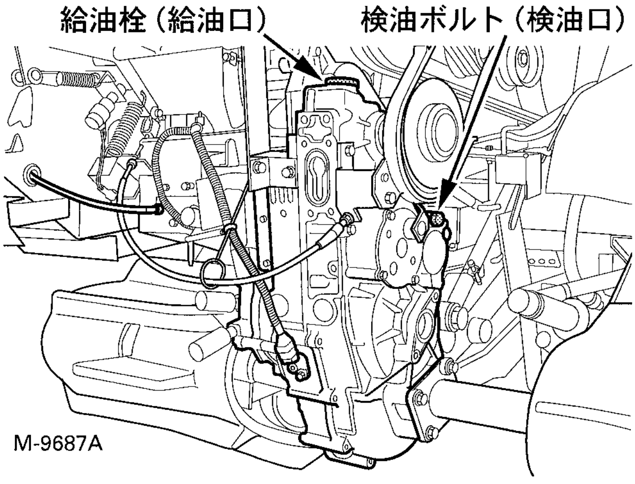
◆交換

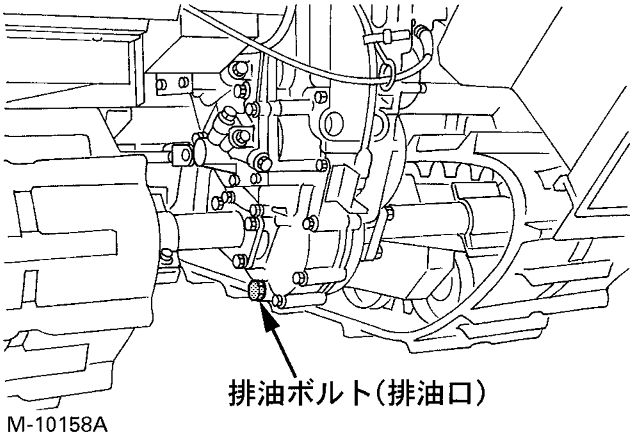
●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT又は，スーパーUDT	約6.8L

重　要

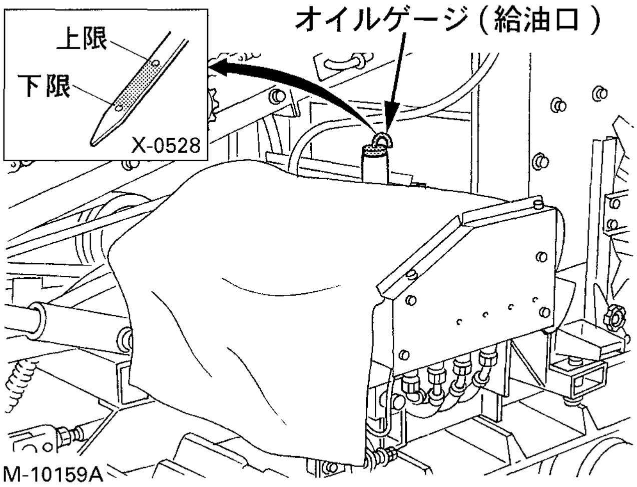
＊給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

4. 油圧オイルタンクオイル

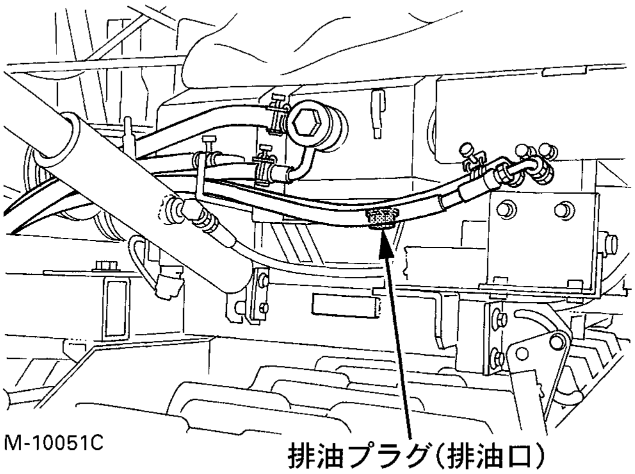
左サイドカバー上，下を取外してください。

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



M-10159A



M-10051C

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	● 上限線…約11.2L ● 下限線…約10.6L

重 要

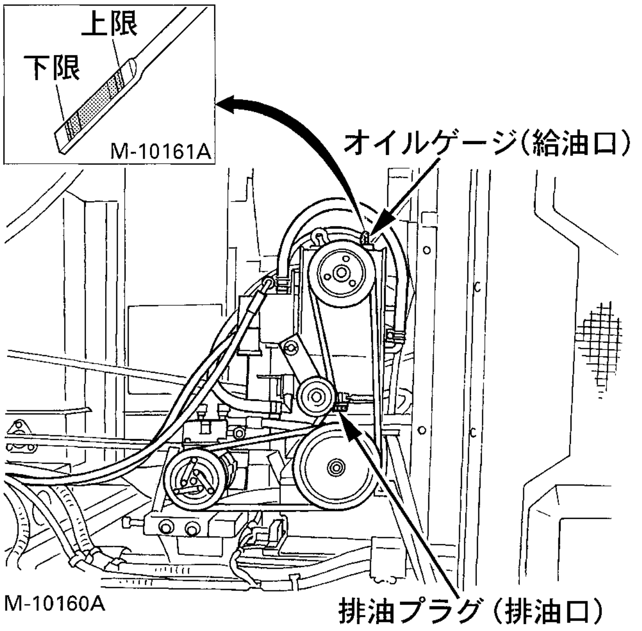
＊オイル交換後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて1分間以上は負荷をかけずに運転を行なってください。

5. アンローダコンベア駆動用油圧オイルタンクオイル【グレンタンク仕様】

グレンタンクをオープンしてください。

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



M-10160A

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	● 上限線…約4.0L ● 下限線…約4.2L

重 要

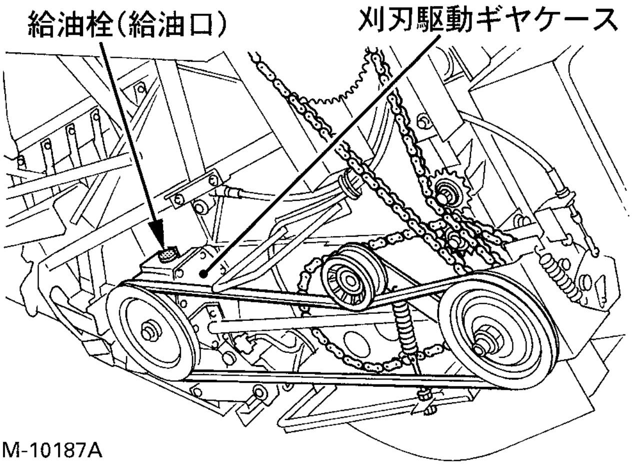
＊オイル交換後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて1分間以上は負荷をかけずに運転を行なってください。

6. 刈刃駆動ギヤケースのオイル

刈取左サイドカバーを取外してください。

◆補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。


給油栓(給油口)
刈刃駆動ギヤケース

M-10187A

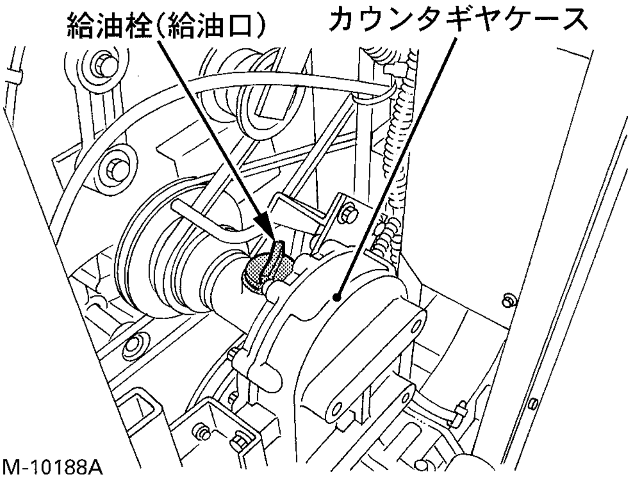
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又は，M80B	1.0L

7. カウンタギヤケースのオイル

【グレンタンク仕様】はグレンタンクをオープンし，**【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前後を取外してください。

◆補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。


給油栓(給油口)
カウンタギヤケース

M-10188A

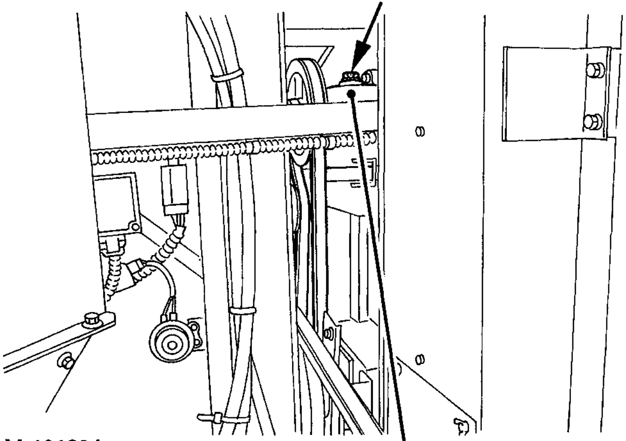
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又は，M80B	1.5L

8. こぎ胴駆動ギヤケースのオイル

【グレンタンク仕様】はグレンタンクをオープンし，**【ホッパ仕様】**はホッパオープンをしてください。

◆補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。


給油栓(給油口)
こぎ胴駆動ギヤケース

M-10189A

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又は，M80B	0.3L

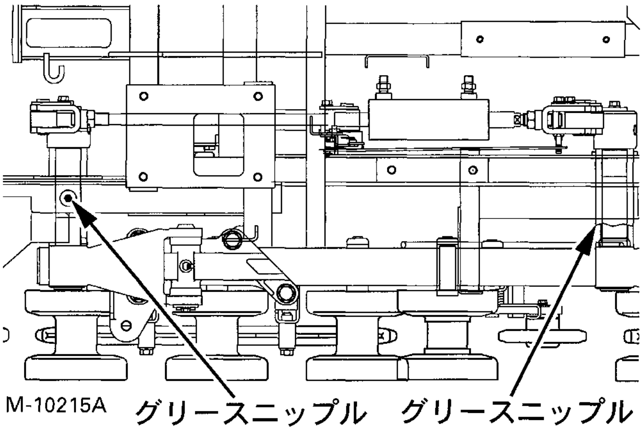
9. 各部のグリース

クボタスペアグリースをグリースニップルから補給してください。

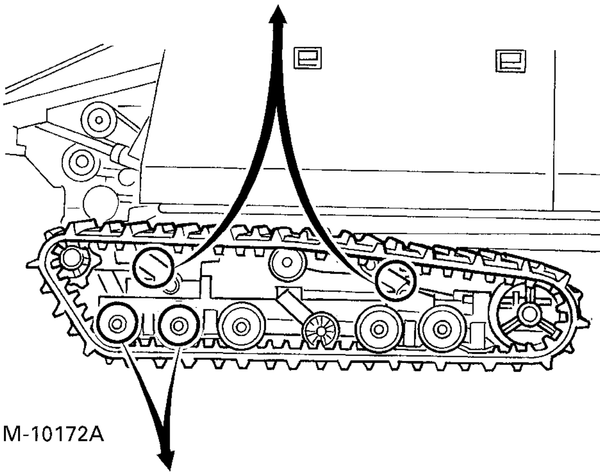
◆各転輪部（左，右 5 箇所）

◆スイングアーム部（左，右各 2 箇所）

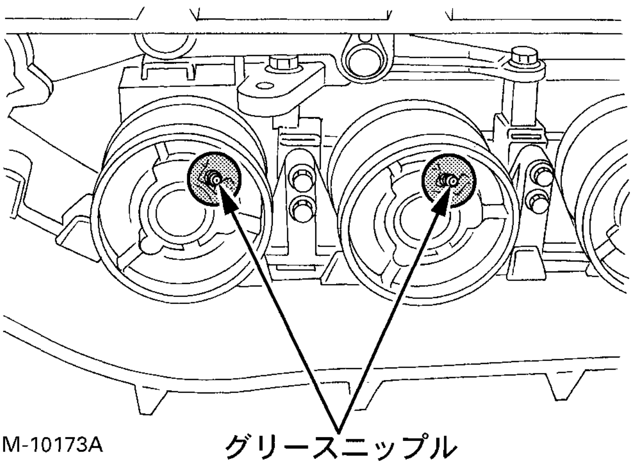
◆フレーム部（左，右 2 箇所）


グリースニップル
グリースニップル

M-10215A



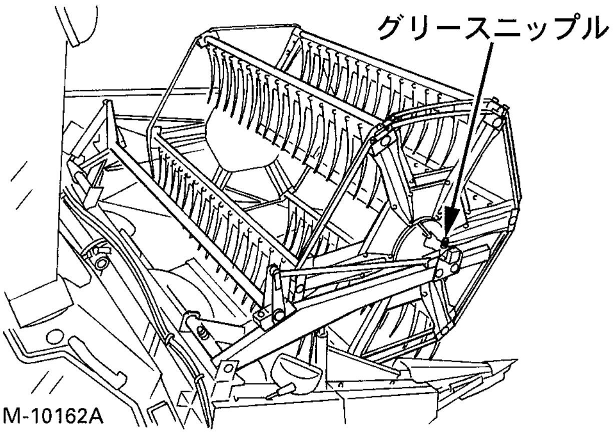
M-10172A



M-10173A

定期点検

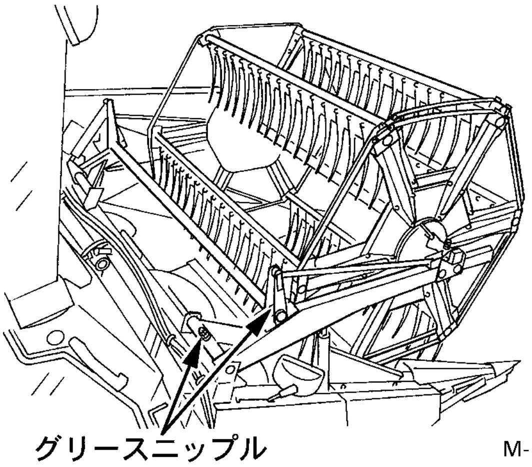
◆リール支点部（左，右 2 箇所）



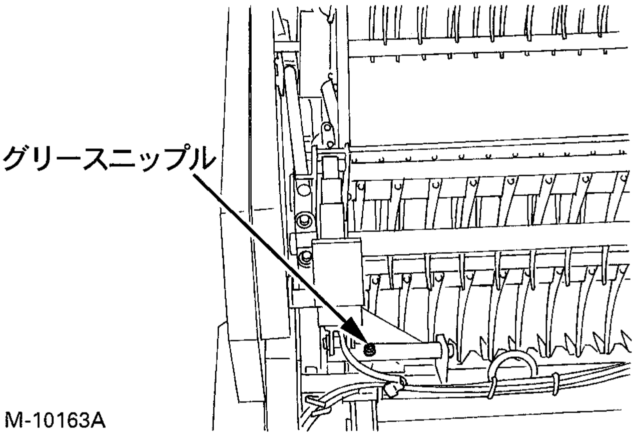
M-10162A

◆リールアーム支点部（左，右 2 箇所）

◆リール前後支点部



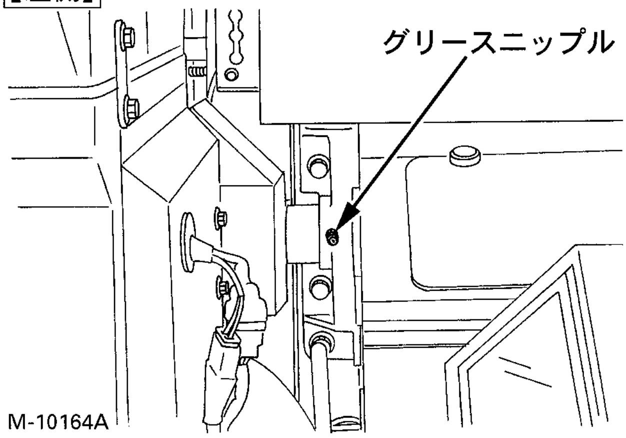
M-10162B



M-10163A

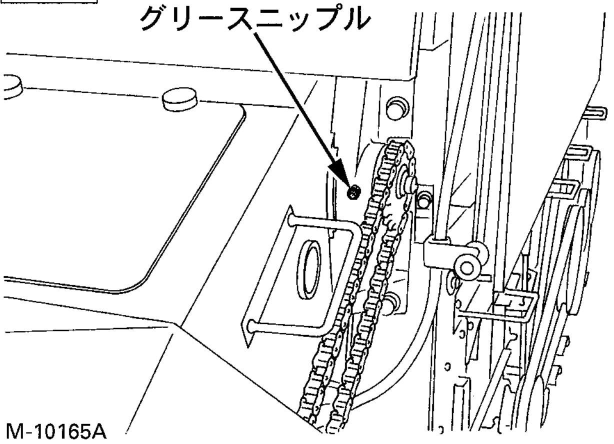
◆フィーダ支点部

【左側】



M-10164A

【右側】



M-10165A

■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

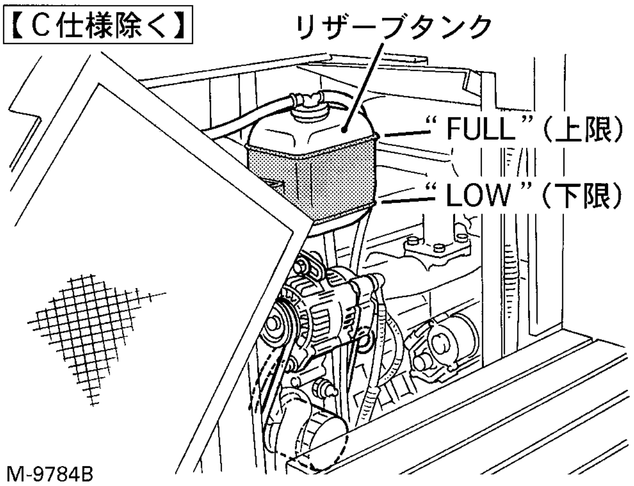
＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

＊異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆点検

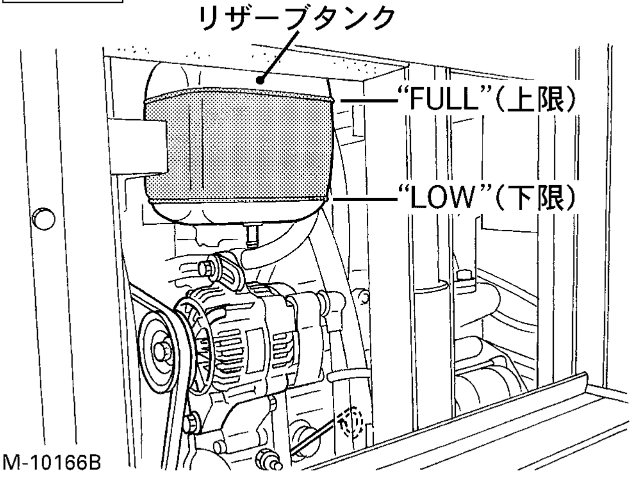
【C仕様除く】は，エンジンルームをオープンし，**【C仕様】**は運転席下カバーを取外したあと，水量が**“LOW”**（下限）と**“FULL”**（上限）の間にあるか確かめます。**“LOW”**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

【C仕様除く】


リザーブタンク
“FULL”（上限）
“LOW”（下限）

M-9784B

【C仕様】


リザーブタンク
“FULL”（上限）
“LOW”（下限）

M-10166B

重　要

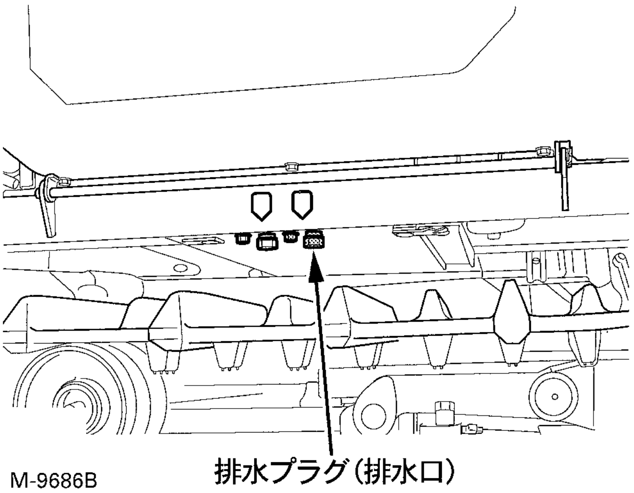
＊冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

＊**“FULL”**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆交換

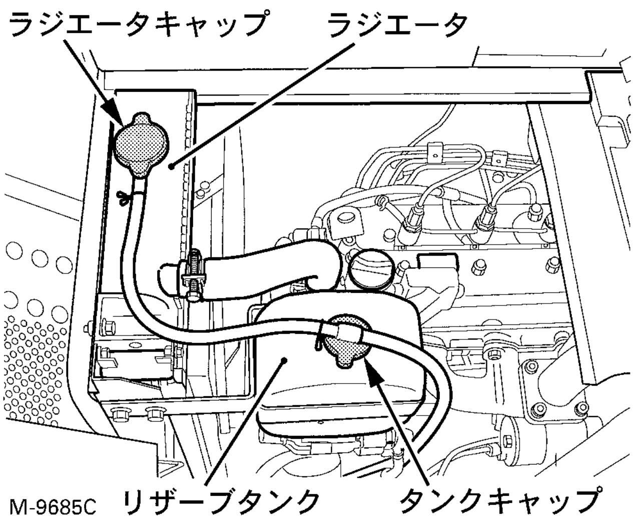
1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。



M-9686B

2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

C仕様除く

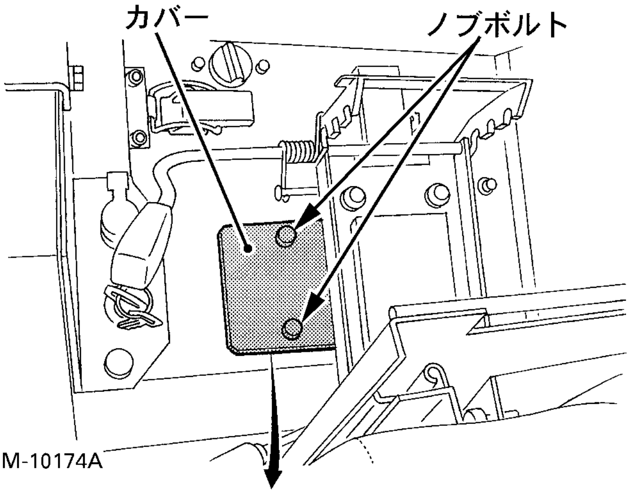

ラジエータキャップ
ラジエータ
リザーブタンク
タンクキャップ

M-9685C

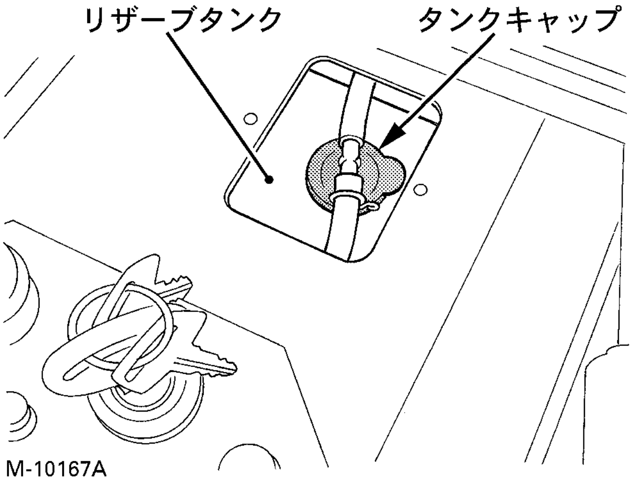
C仕様除く

C仕様

ノブボルト２個を外してカバーを取外します。

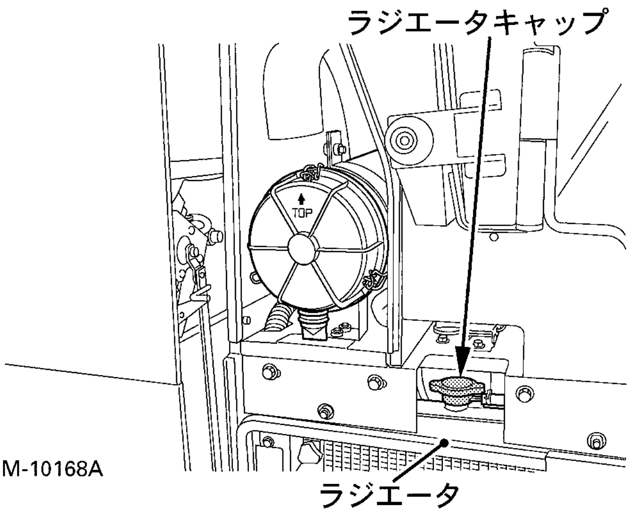


M-10174A



M-10167A

防じんあみをオープンします。



M-10168A

C仕様

4. 排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

＊排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水　（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準 不凍液35%（北海道向け：50%）

※ラジエータ容量……3.7L（リザーブタンク容量は含まない）

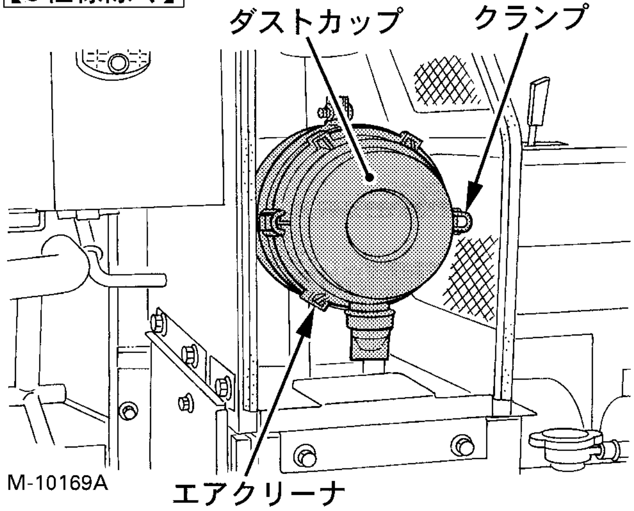
※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

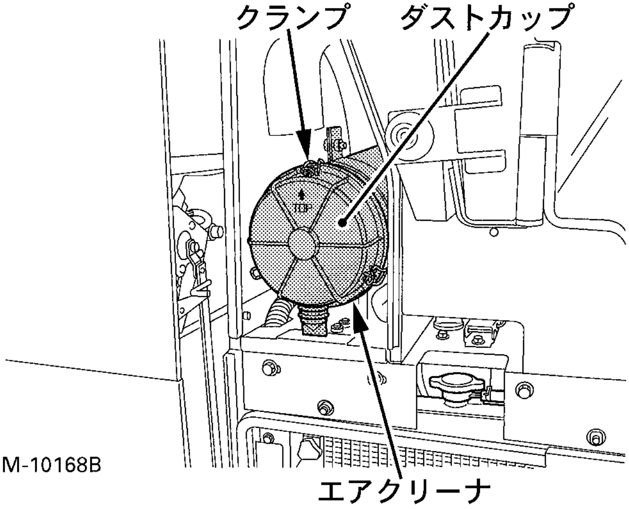
【C仕様】は防じんあみをオープンし，**【C仕様除く】**はエンジンルームをオープンし，クランプ３箇所を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。

【C仕様除く】

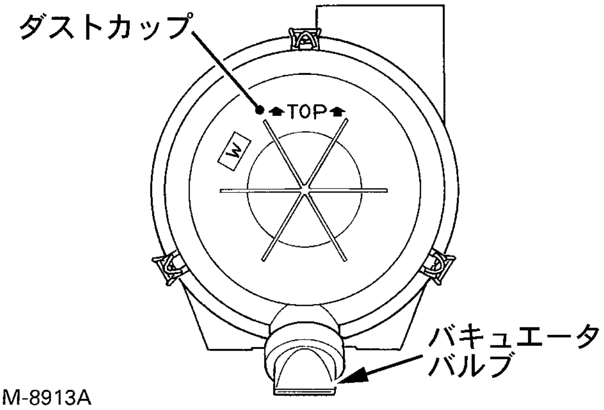

ダストカップ
クランプ
エアクリーナ

M-10169A

【C仕様】


クランプ
ダストカップ
エアクリーナ

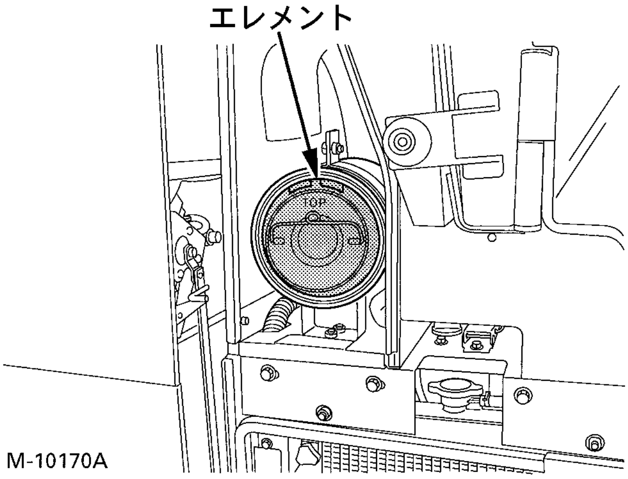
M-10168B


ダストカップ
TOP
W
バキュエータ
バルブ

M-8913A

◆点検・掃除・交換

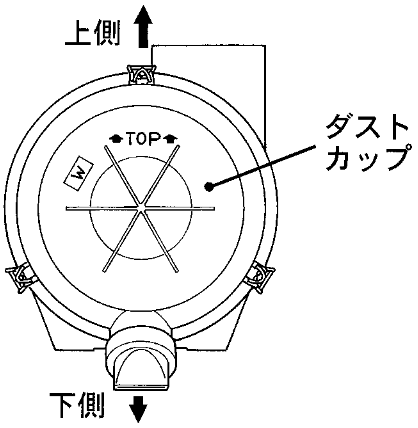
エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。



M-10170A

重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。



M-8913B

＊エレメントを掃除する場合，エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/㎠)をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。
＊カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

補　足

＊エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■パイプ・ホース類の点検・交換

注　意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

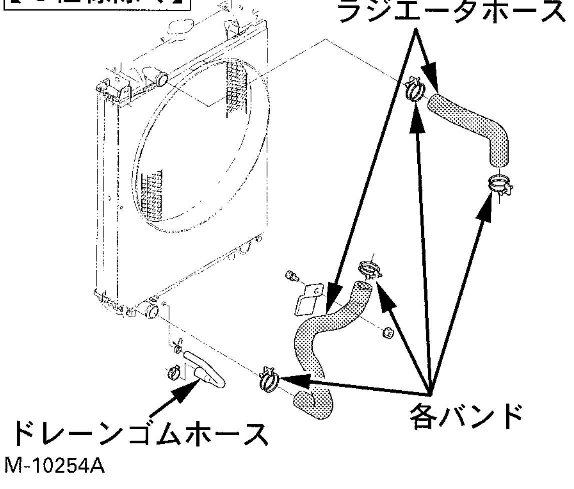
重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補　足

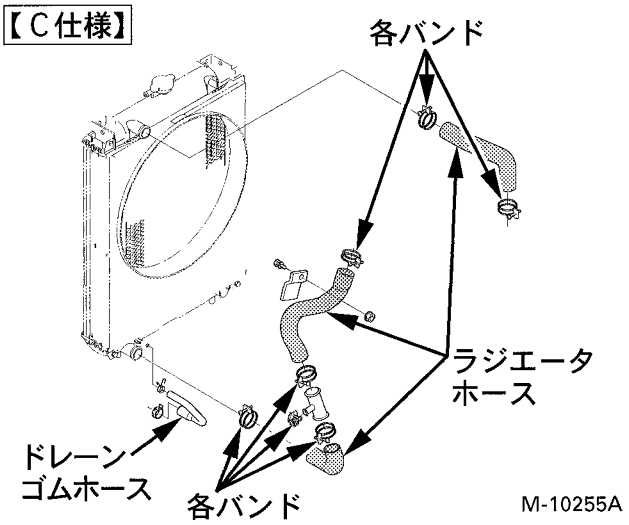
＊交換を行なうときは，購入先に連絡してください。
＊フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを“入”位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

【C仕様除く】

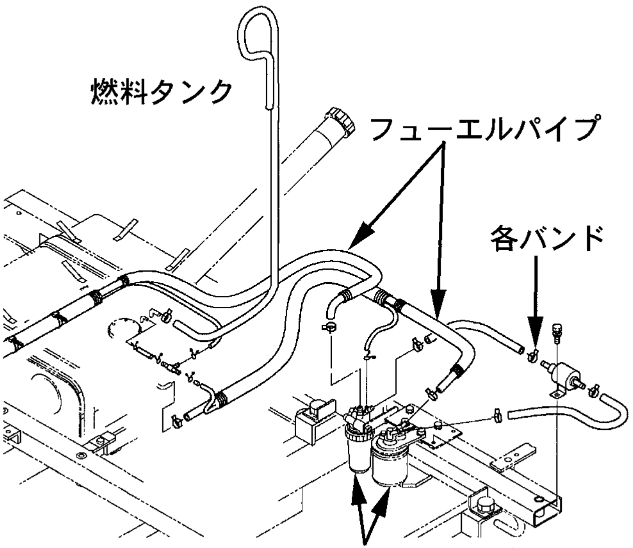


M-10254A

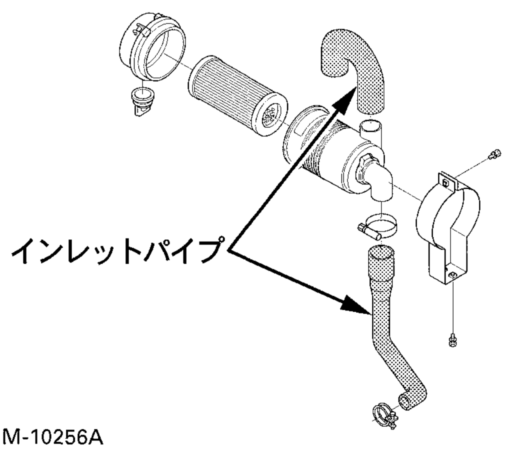
【C仕様】


各バンド
ラジエータ
ホース
ドレーン
ゴムホース
各バンド

M-10255A


燃料タンク
フューエルパイプ
各バンド
フューエルフィルタ

M-10252A改



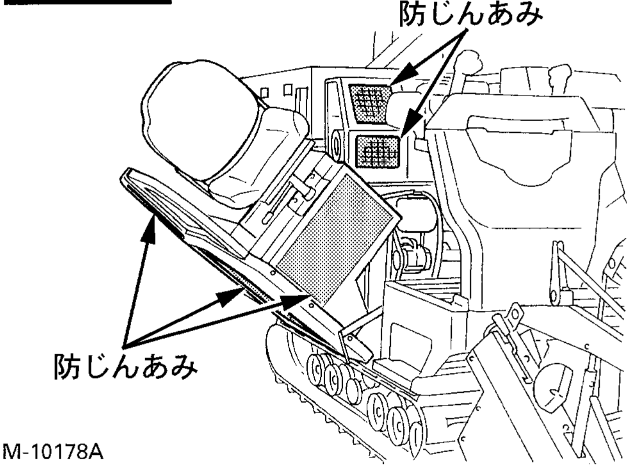
M-10256A

■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除
■オイルクーラフィンの掃除
■コンデンサフィンの掃除【C仕様】

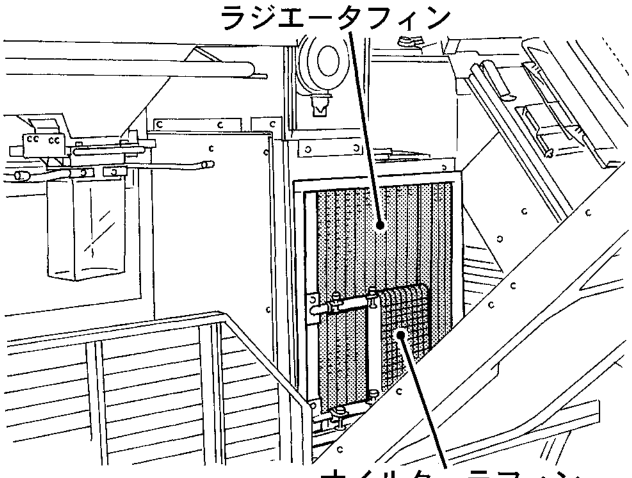
◆掃除

【C仕様除く】はエンジンルームをオープンし，**【C仕様】**は防じんカバーをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

C仕様除く


防じんあみ
防じんあみ

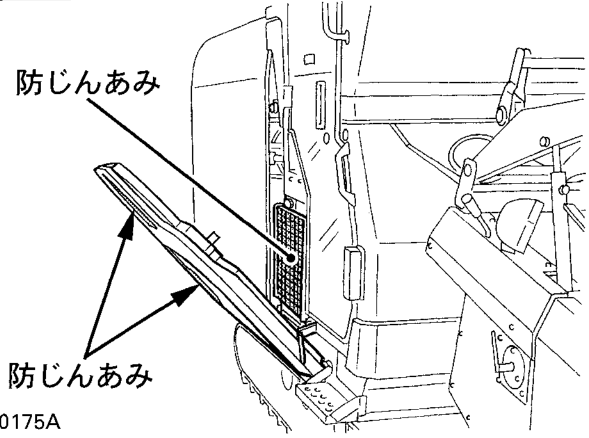
M-10178A


ラジエータフィン
オイルクーラフィン

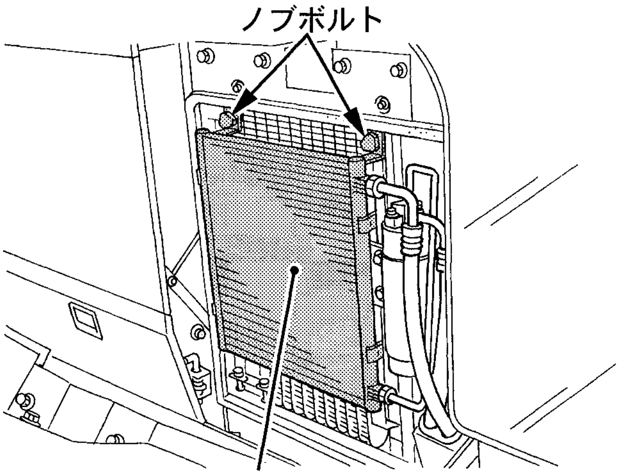
M-10179A

C仕様除く

C仕様

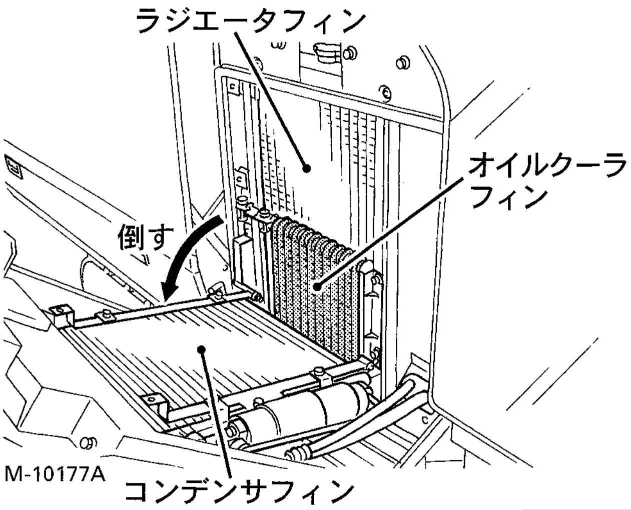

防じんあみ
防じんあみ

M-10175A


ノブボルト
コンデンサフィン

M-10176A

ノブボルト２本を取外してコンデンサを倒します。


ラジエータフィン
オイルクーラ
フィン
倒す
コンデンサフィン

M-10177A

C仕様

重　要

＊ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補　足

＊ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

■フューエルフィルタカートリッジ・フューエルフィルタアッシの掃除，フィルタエレメントの交換

交換は燃料を給油する前に行なってください。

重　要

＊燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊交換後は，スイッチキーを **“入”** 位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

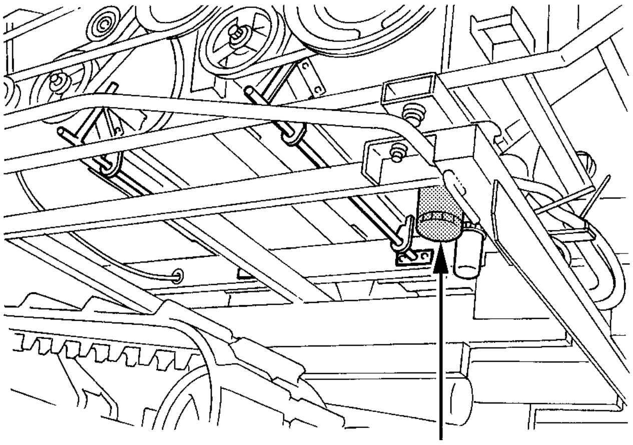
◆フューエルフィルタカートリッジの交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

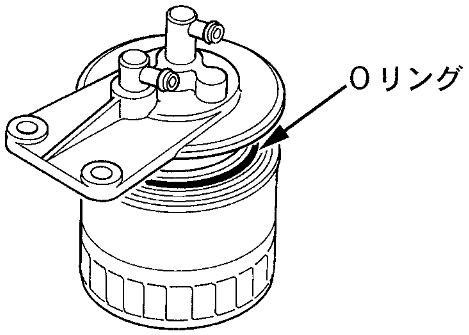
補 足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。


フューエルフィルタカートリッジ

M-10095B



M-8269A

重 要

＊Oリングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

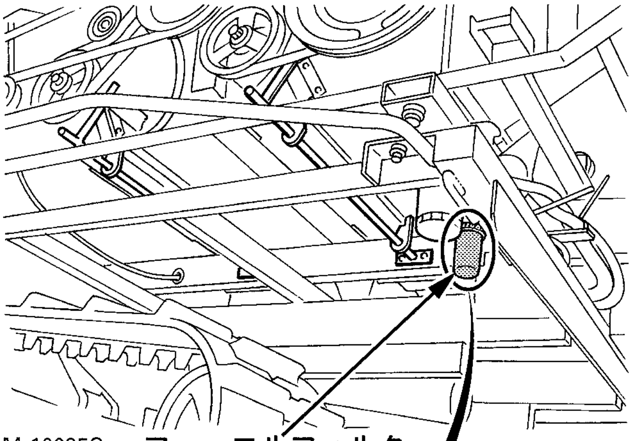
◆フューエルフィルタアッシの掃除，フィルタエレメントの交換

重 要

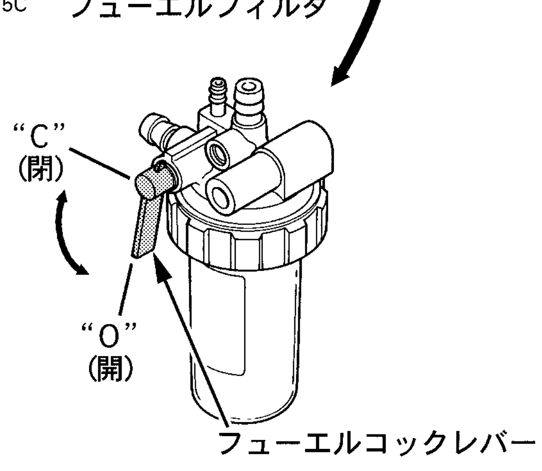
＊フィルタ下部に水が溜まっているときは，早めに掃除又は，交換してください。

＊燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

1. フューエルコックレバーを **“O”（開）**位置から **“C”（閉）**位置にします。

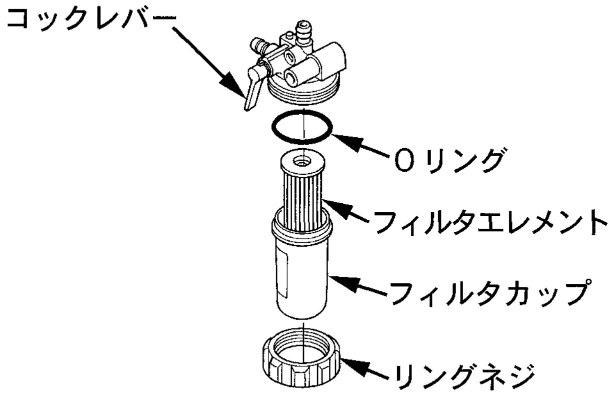


M-10095C


“C”
(閉)
“O”
(開)
フューエルコックレバー

F-5272A

2. リングネジをゆるめてフィルタカップを外します。
3. フィルタエレメントを取出して**軽油**でOリングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が400時間経過しているときは交換してください。



M-8177B

重　要

＊Oリングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

4. Oリングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊Oリングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ゴミが燃料内に混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルの交換（105ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。**【C仕様除く】**

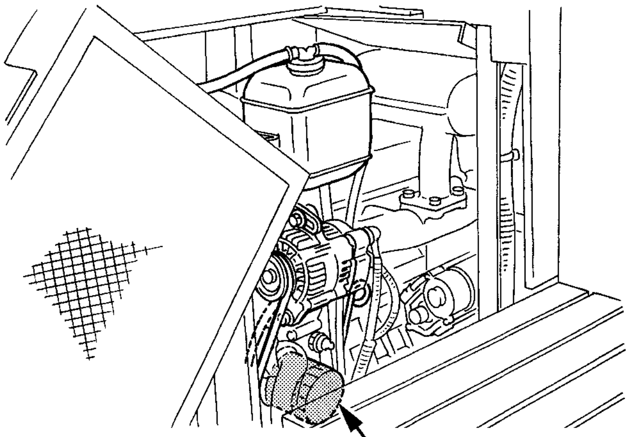
◆交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



M-9784C

重　要

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■HSTオイルフィルタカートリッジの交換・油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換

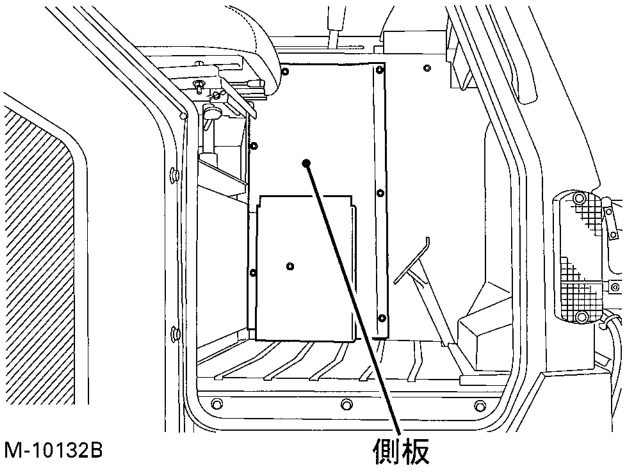
HSTオイルフィルタカートリッジの交換と油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は，交換は同時に行なってください。

◆交換

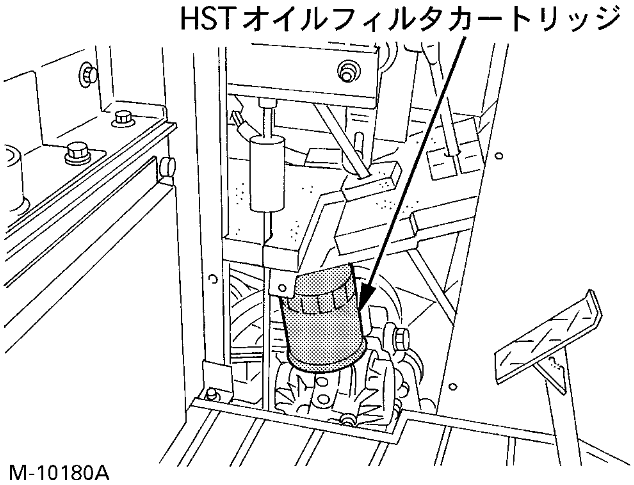
1. ステップ左側の側板を取外します。
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。
3. 専用工具を使ってHSTオイルフィルタカートリッジを取外します。

補 足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。



M-10132B



M-10180A

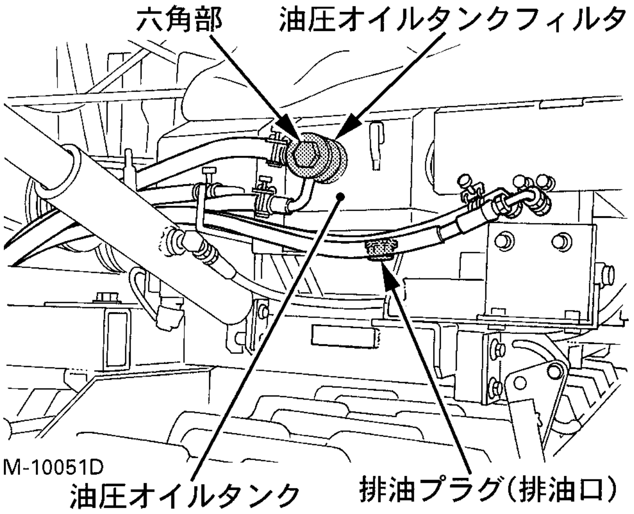
4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

重 要

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊HSTオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HSTの故障の原因となります。

5. 排油プラグを締付けます。
6. 油圧オイルタンクフィルタの六角部をスパナでゆるめて，フィルタを抜きます。
7. 油圧オイルタンクフィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。



M-10051D

8. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタを取付けます。

重 要

＊給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

9. 108ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。
10. ステップ左側の側板を取付けます。

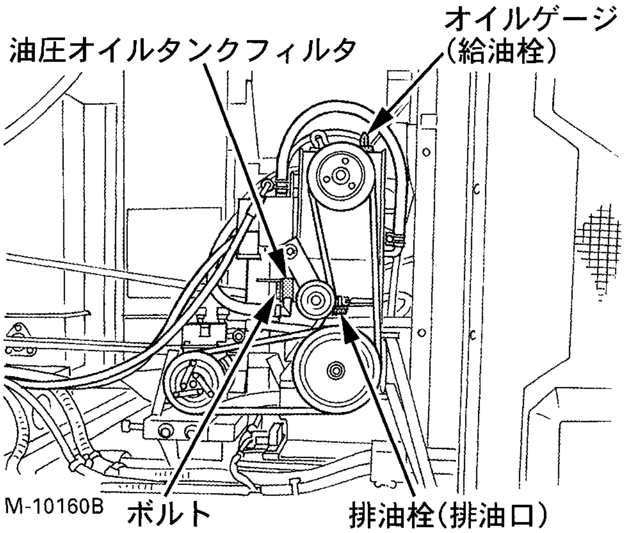
■アンローダコンベア駆動油圧オイルタンクフィルタの洗浄・交換

【グレンタンク仕様】

グレンタンクをオープンしてください。

◆交換

1. 油圧オイルタンクのオイルゲージ（給油栓）を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。
2. 排油プラグを締付けます。
3. 油圧オイルタンクフィルタのボルトを取外してオイルフィルタを抜きます。
4. 油圧オイルタンクフィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。



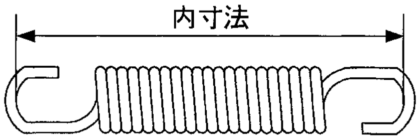
M-10160B

5. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタを取付けます。
6. 108ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。

■各部ワイヤの点検・調整

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

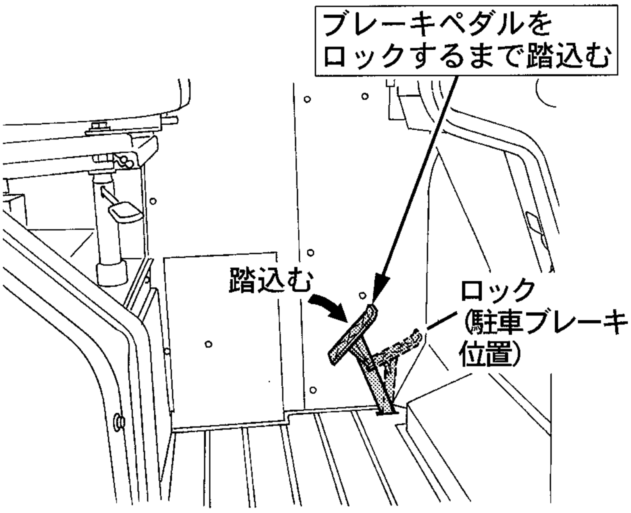


M-7640A

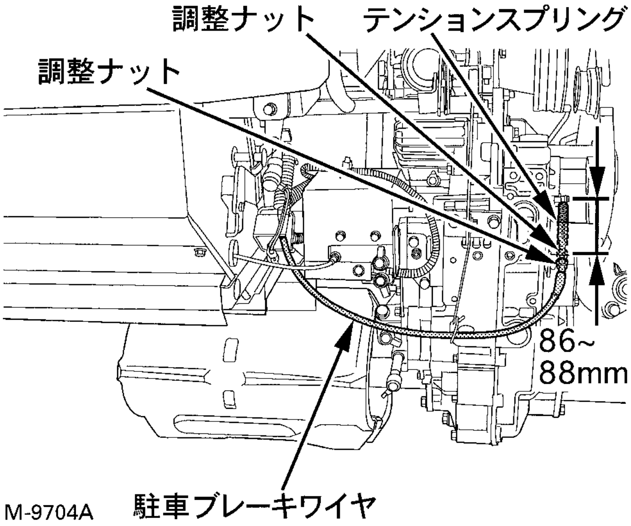
●駐車ブレーキワイヤ

テンションスプリングの長さを86～88mmに調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整します。


ブレーキペダルを
ロックするまで踏込む
踏込む
ロック
(駐車ブレーキ
位置)

M-10060E


調整ナット
テンションスプリング
調整ナット
86～
88mm
駐車ブレーキワイヤ

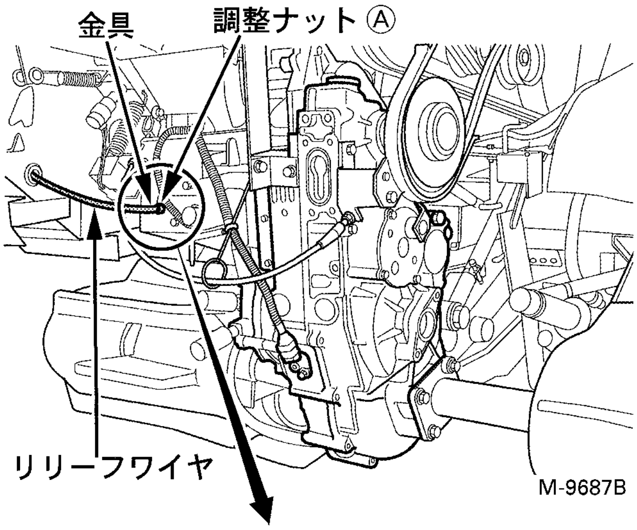
M-9704A

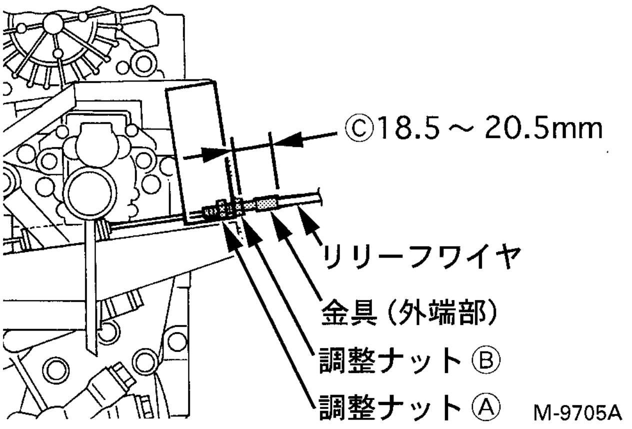
3. 調整ナットを締付けます。
4. 駐車ブレーキを解除します。

●　リリーフワイヤ

調整ナットⒶ外端部とワイヤ金具外端部の寸法Ⓒを18.5～20.5mmに調整します。

1. 調整ナットⒶ，Ⓑをゆるめて調整します。


金具
調整ナット Ⓐ
リリーフワイヤ
M-9687B

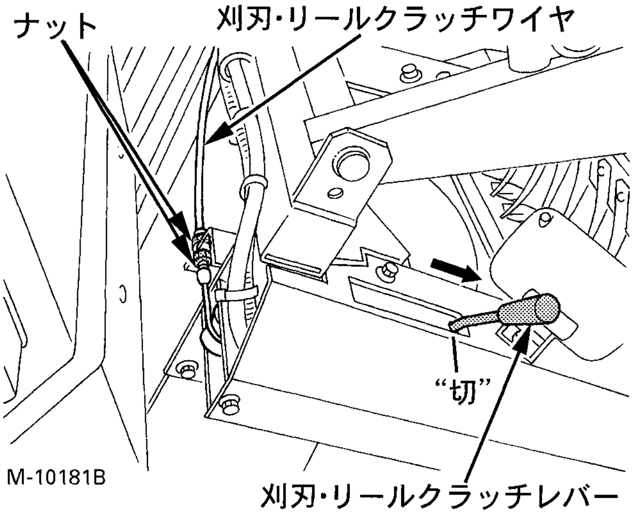

Ⓒ18.5～20.5mm
リリーフワイヤ
金具 (外端部)
調整ナット Ⓑ
調整ナット Ⓐ
M-9705A

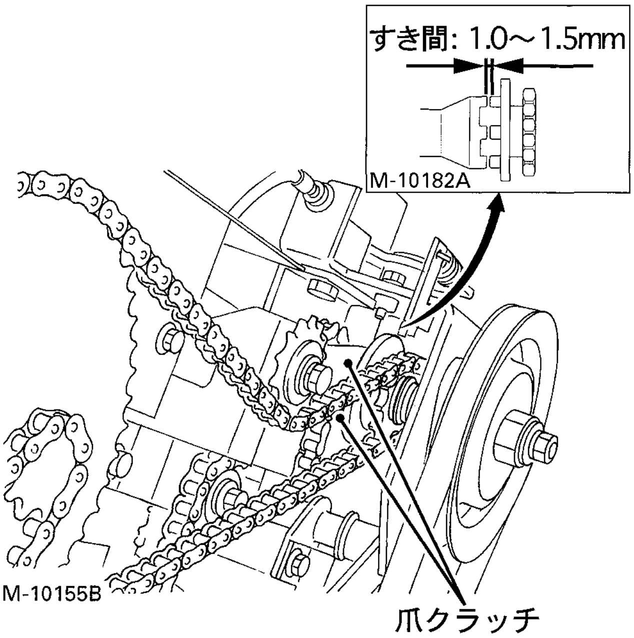
2. 調整ナットⒶ，Ⓑを締付けます。

● 刈刃・リールクラッチワイヤ

爪クラッチの凸部のすき間を1.0～1.5mmに調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. 刈刃・リールクラッチレバーを **“切”** 位置にします。
3. 調整ナット２個をゆるめて調整します。


ナット
刈刃･リールクラッチワイヤ
“切”
M-10181B
刈刃･リールクラッチレバー

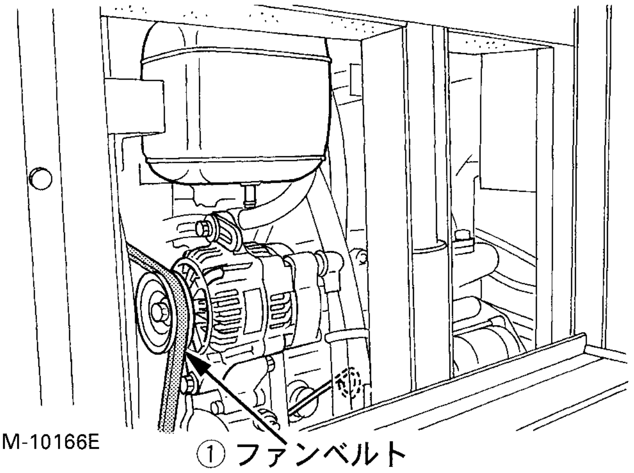

すき間: 1.0～1.5mm
M-10182A
M-10155B
爪クラッチ

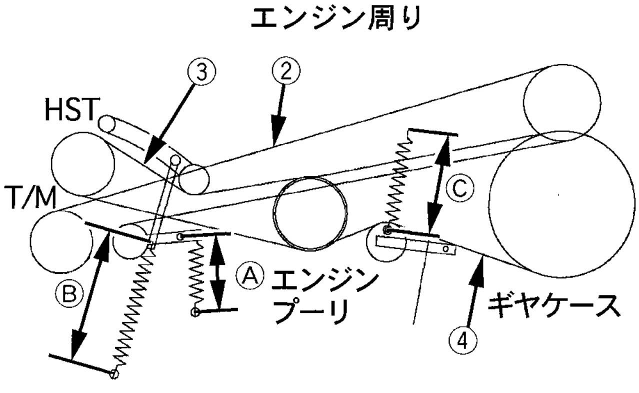
4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈刃・リールクラッチレバーを **“入”** 位置にしたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。

■各部ベルトの点検・調整

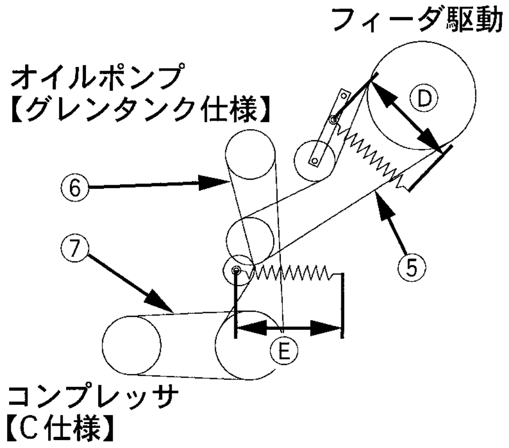
下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名称	サイズ	本数(本/台)	スプリング取付長さ(寸法はフック内側間)(mm)		たわみ量(mm)	適応仕様
エンジン周辺部	①	ファン駆動ベルト	38.5ブイベルト	1	──		5〜10	全仕様
	②	刈取り駆動ベルト	特B101	1	A	66〜 70	──	全仕様
	③	ミッション駆動ベルト	特B54	2	B	211〜215	──	全仕様
	④	ギヤケース駆動ベルト	特C68	1	C	128〜132	──	全仕様
ギヤケース部	⑤	フィーダ駆動ベルト	特B55	1	D	121〜125	──	全仕様
	⑥	オイルポンプ駆動ベルト	特B49	1	E	65〜 69	──	グレンタンク仕様
	⑦	コンプレッサ駆動ベルト	特A39	1	──		──	キャビン仕様
脱こく部	⑧	脱こく駆動ベルト	特C139	1	F	128〜132	──	全仕様
	⑨	脱こくカウンタベルト	特C64	1	G	95〜 99	──	全仕様
	⑩	こぎ胴駆動ベルト	特C62	2	H	140〜144	──	全仕様
	⑪	揺動駆動ベルト	特B46	1	I	87〜 91	──	全仕様
	⑫	1・2番ラセン駆動ベルト	特B92	1	J	100〜104	──	全仕様
	⑬	トウミ駆動ベルト	特B73	1	──		──	全仕様
	⑭	2番還元ラセン駆動ベルト	特B42	1	K	80〜 84	──	全仕様
刈取部	⑮	刈刃駆動ベルト	特B77	1	L	119〜123	──	全仕様
グレンタンク部	⑯	底スクリュ駆動ベルト	特B46	1	M	115〜117	──	グレンタンク仕様
	⑰	バケット駆動ベルト	特B39	1	N	120〜122	──	グレンタンク仕様

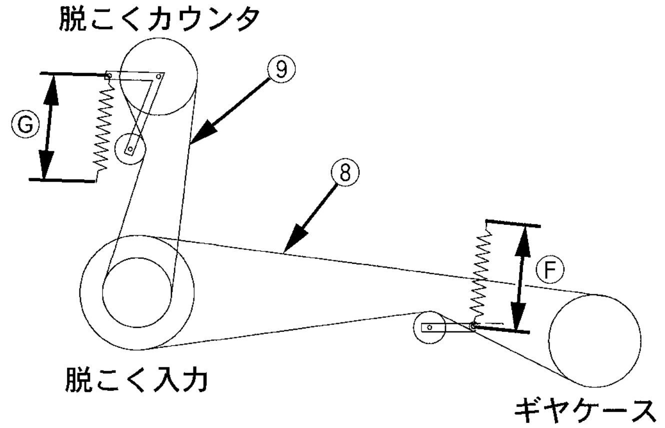




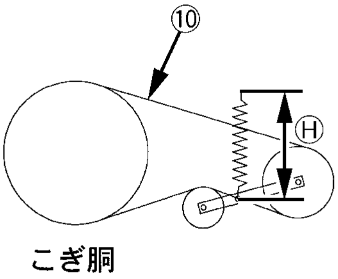
ギヤケース部


フィーダ駆動
オイルポンプ
【グレンタンク仕様】
Ⓓ
⑥
⑦
⑤
Ⓔ
コンプレッサ
【C仕様】

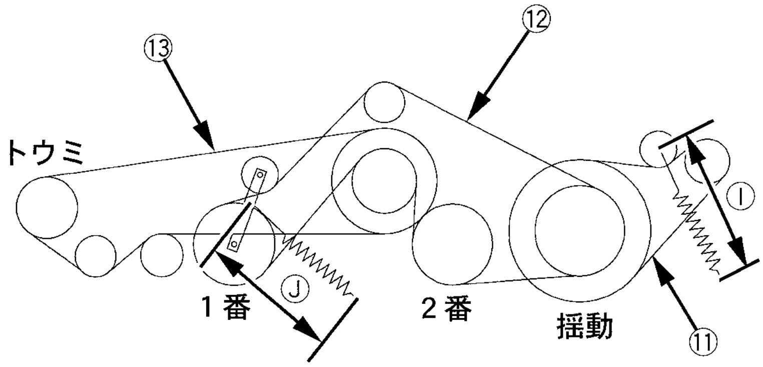
脱こく右側面部


脱こくカウンタ
⑨
Ⓖ
⑧
Ⓕ
脱こく入力
ギヤケース

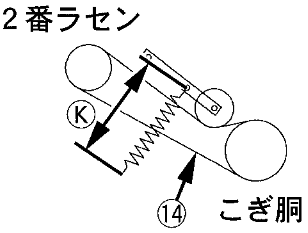
脱こく後部



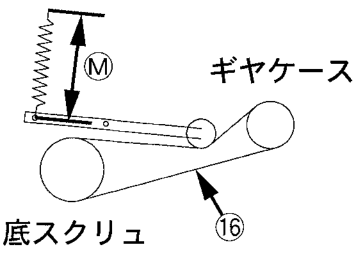
脱こく左側面部

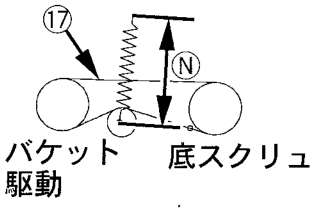

⑬
⑫
トウミ
Ⓘ
Ⓙ
1番
2番
揺動
⑪

脱こく前部

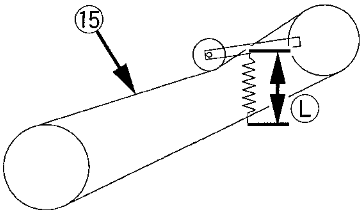


グレンタンク部【グレンタンク仕様】


Ⓜ
ギヤケース
底スクリュ
⑯


⑰
Ⓝ
バケット
駆動
底スクリュ

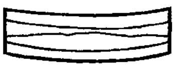
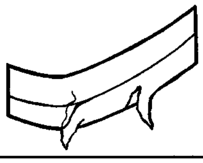
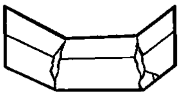
刈取部



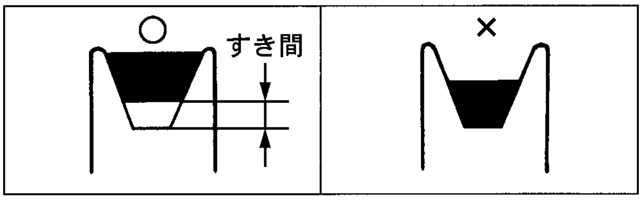
◆点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

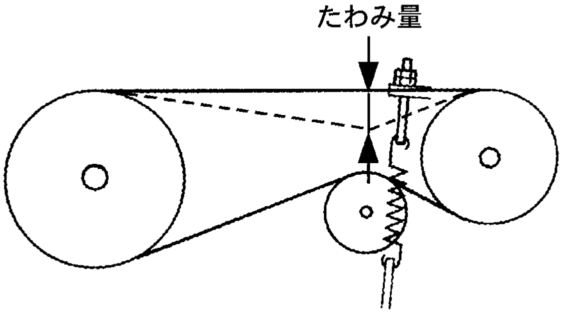
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
✕	✕	✕
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び（たわみ量）



M-7408A改

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

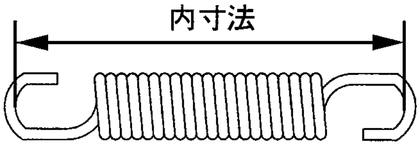
＊ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

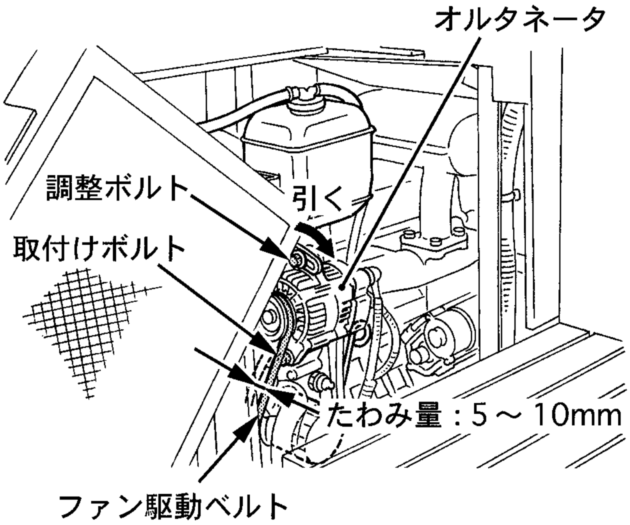


M-7640A

● ファン駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき（約60～70N ｛6～7kg｝ の荷重）のたわみ量を5～10mmに調整します。

1. **【C仕様除く】**はエンジンルームをオープンし，**【C仕様】**は運転席下カバーを取外します。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



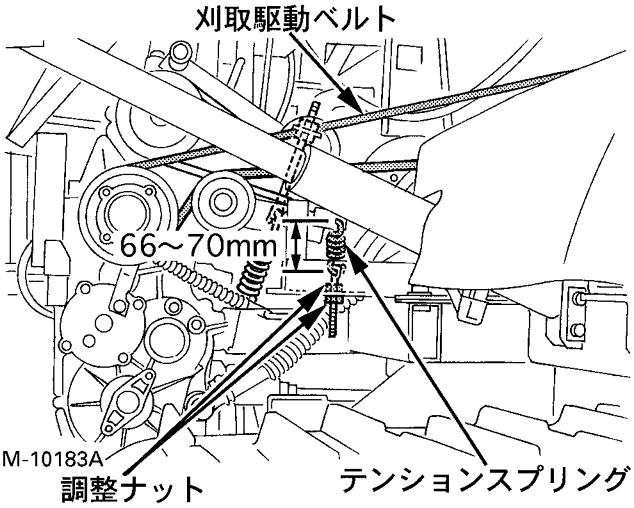
M-9784D

5. **【C仕様除く】**はエンジンルームを閉じ，**【C仕様】**は運転席下カバーを取付けます。

● 刈取駆動ベルト

テンションスプリングの長さを66～70mmに調整します。

1. エンジンが停止した状態で，メインスイッチを **“入”** 位置にしたあと，刈取・脱こくクラッチレバーを **“刈取”** 位置にします。
2. テンションスプリングの長さを測定します。
3. クラッチを **“切”** 位置にします。
4. 調整ナットをゆるめて，２.の工程で測定した長さと規定値の差分を調整します。
5. 調整ナットを締付けます。
6. 刈取部を閉じます。
7. 1.2.を行ない，テンションスプリングの長さが，規定値に入っていることを確認します。


刈取駆動ベルト
66～70mm
M-10183A
調整ナット
テンションスプリング

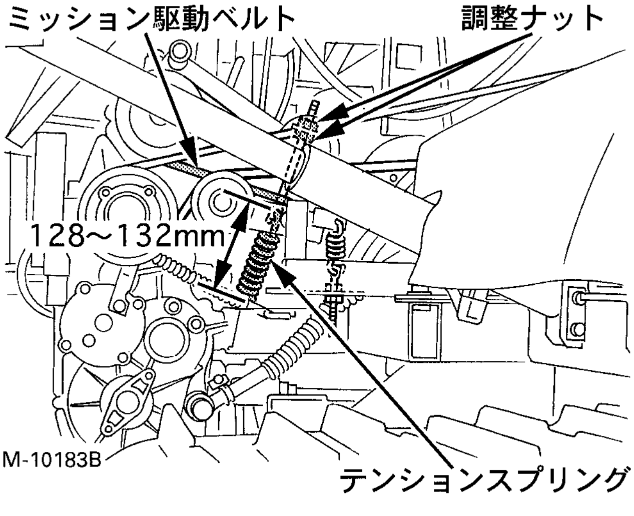
● ミッション駆動ベルト

警告

＊点検・調整を行なうときは，刈刃部を上げ，ロックスイッチを必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

テンションスプリングの長さを128～132㎜に調整します。

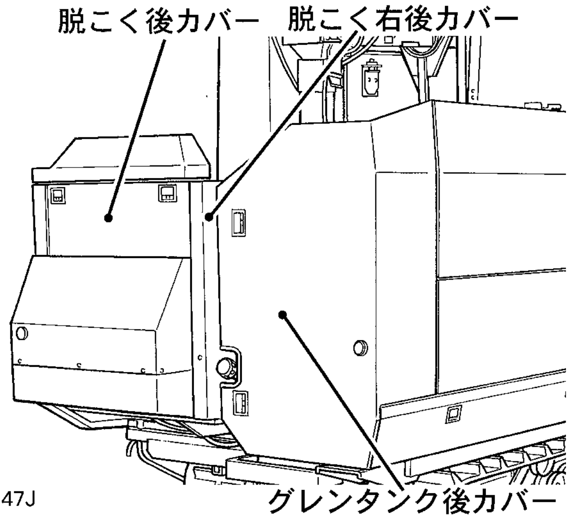
1. 調整ナット２箇所をゆるめて，調整を行ないます。
2. 調整ナットを締付けます。
3. 刈取部を閉じます。

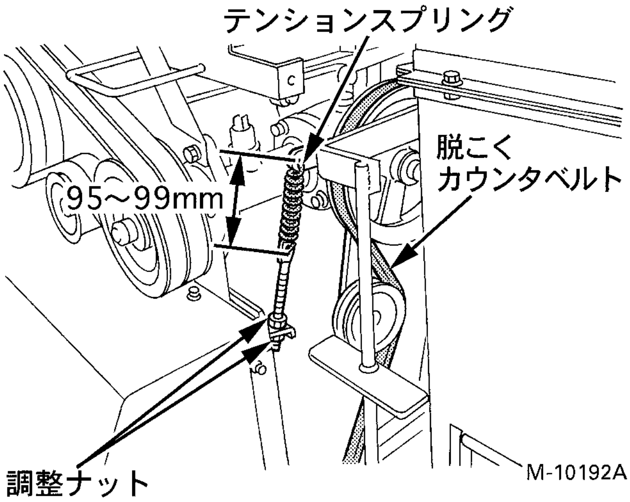

ミッション駆動ベルト
調整ナット
128～132mm
M-10183B
テンションスプリング

●脱こくカウンタベルト

テンションスプリングの長さを95～99㎜に調整します。

1. グレンタンク後カバーを開いたあと，脱こく後カバーを取外します。
   脱こく右後カバーを外します。（ボルト４本）
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。
4. 脱こく後カバーを取付けたあと，グレンタンク後カバーを閉じます。

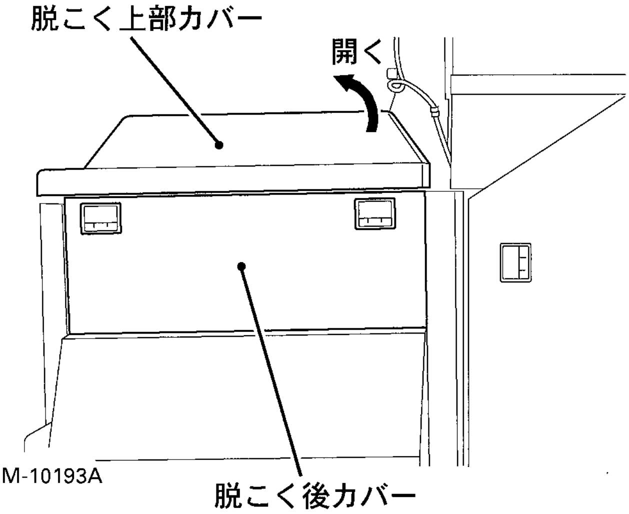

脱こく後カバー
脱こく右後カバー
M-10047J
グレンタンク後カバー

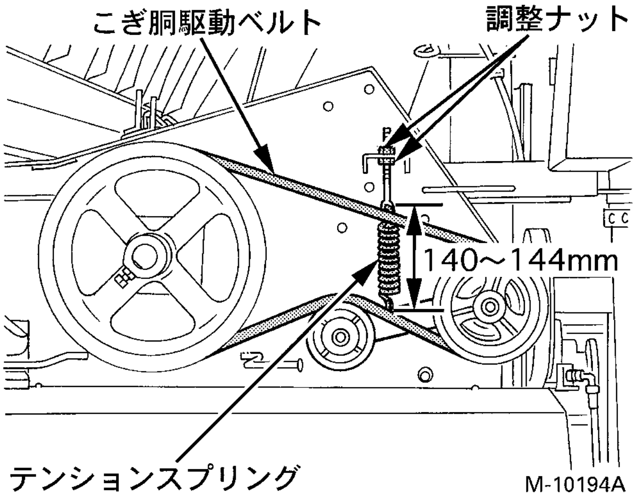

テンションスプリング
95～99mm
脱こく
カウンタベルト
調整ナット
M-10192A

●こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを140～144㎜に調整します。

1. 脱こく上部カバーを開いたあと，脱こく後カバーを取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，脱こく後カバーを取付けます。

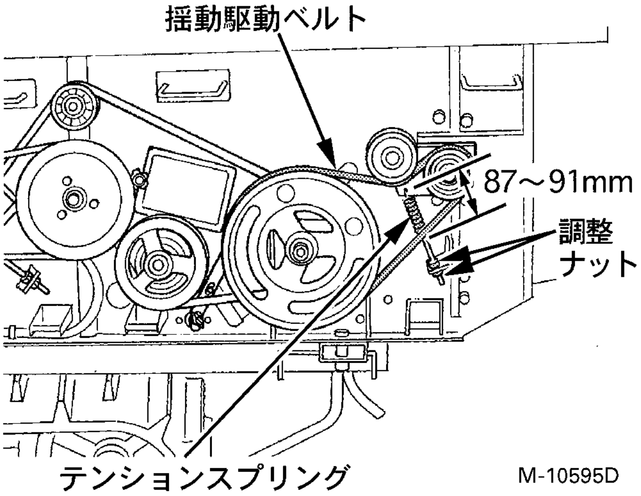

脱こく上部カバー
開く
M-10193A
脱こく後カバー


こぎ胴駆動ベルト
調整ナット
140～144mm
テンションスプリング
M-10194A

● 揺動駆動ベルト

テンションスプリングの長さを87～91㎜に調整します。

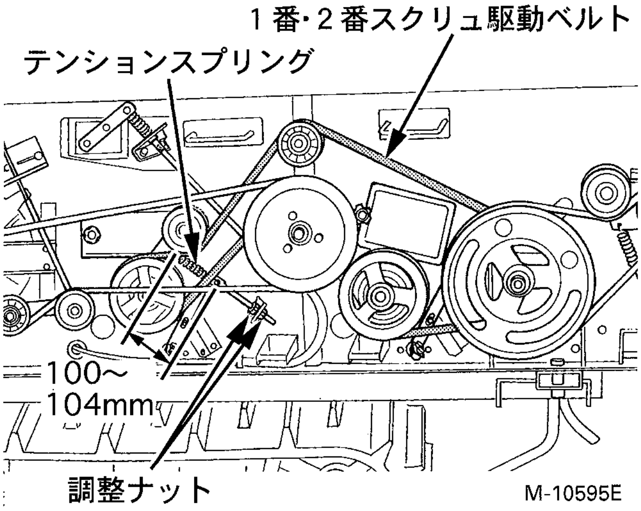
1. 脱こく左サイドカバー下２を取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー下２を取付けます。


揺動駆動ベルト
87～91mm
調整ナット
テンションスプリング
M-10595D

● １番・２番スクリュ駆動ベルト

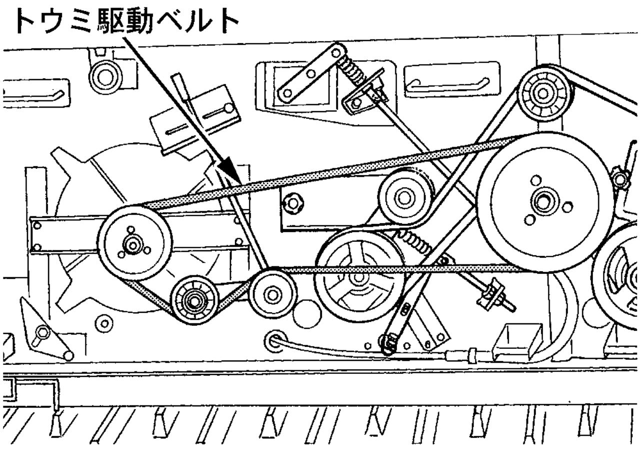
テンションスプリングの長さを100～104㎜に調整します。

1. 脱こく左サイドカバー下１，２を取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー下１，２を取付けます。


１番･２番スクリュ駆動ベルト
テンションスプリング
100～104mm
調整ナット
M-10595E

- **トウミ駆動ベルト**

トウミ駆動ベルトの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

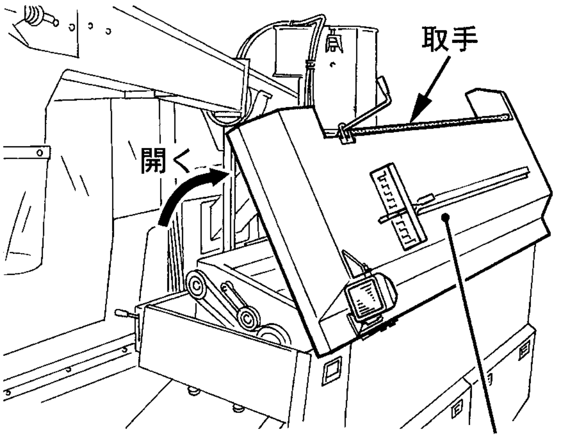


M-10595F

- **2番還元スクリュ駆動ベルト**

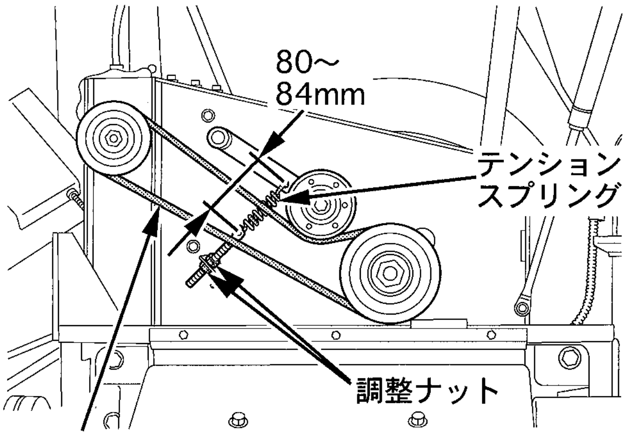
テンションスプリングの長さを80～84㎜に調整します。

1. こぎ胴上部カバーを開きます。


取手
開く
こぎ胴上部カバー

M-10134A

2. 調整ナット２箇所をゆるめて，調整を行ないます。


80～
84mm
テンション
スプリング
調整ナット
２番還元スクリュ駆動ベルト

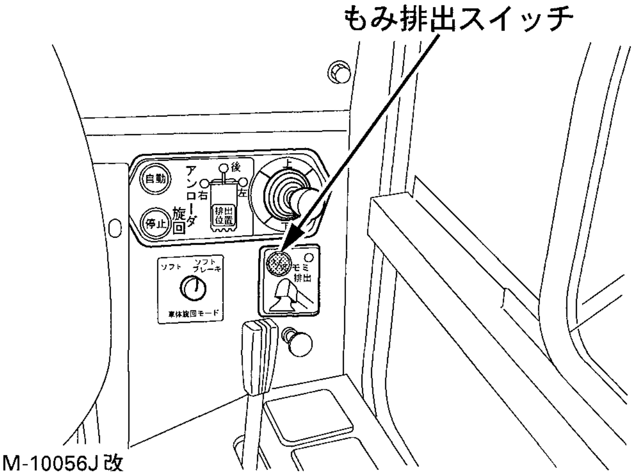
M-10209A

3. 調整ナットを締付けます。

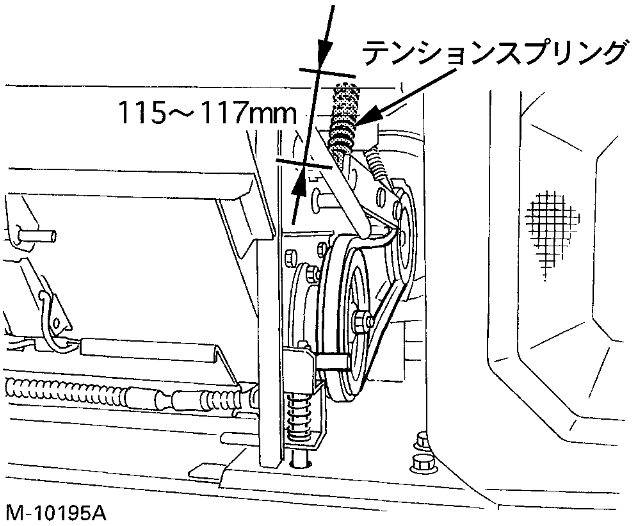
●底スクリュ駆動ベルト【グレンタンク仕様】

テンションスプリングの長さを115～117㎜に調整します。

1. グレンタンク右サイドカバーを取外します。
2. もみ排出スイッチを **“入”** 位置にしたあと，テンションスプリングの長さを測定します。

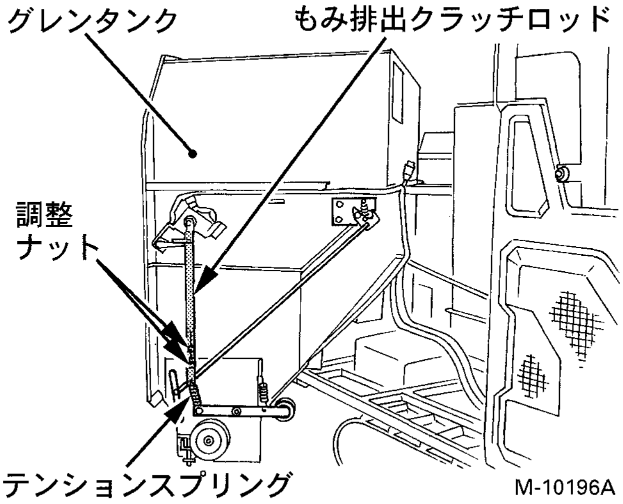

もみ排出スイッチ
自動
停止
アンロ
右
後
左
旋回
ダー
排出位置
ソフト
ソフトブレーキ
車体旋回モード
モミ排出

M-10056J改


テンションスプリング
115～117mm

M-10195A

3. 規定値（115～117㎜）から外れているときはもみ排出スイッチをいったん **“切”** にしたあと，グレンタンクをオープンします。
4. もみ排出クラッチロッド中間位置にある２箇所の調整ナットをゆるめて，調整を行ないます。


グレンタンク
もみ排出クラッチロッド
調整ナット
テンションスプリング

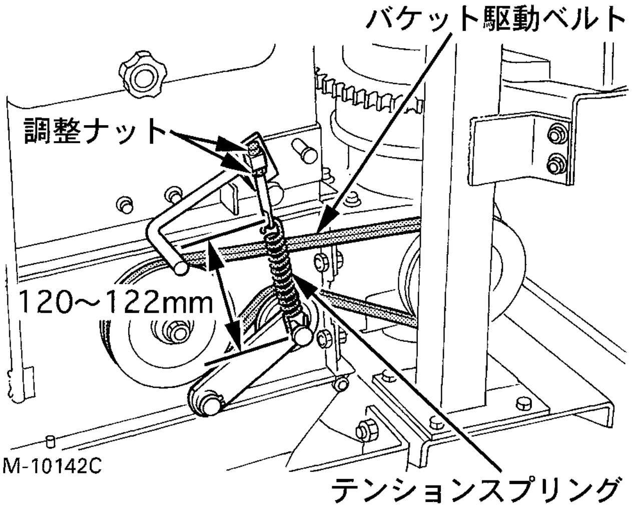
M-10196A

5. ２箇所の調整ナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じて底スクリュ駆動ベルトを取付けます。
6. もみ排出スイッチを **“入”** にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。

●バケット駆動ベルト【グレンタンク仕様】

テンションスプリングの長さを120～122㎜に調整します。

1. グレンタンク後カバーを開きます。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，グレンタンク後カバーを閉じます。

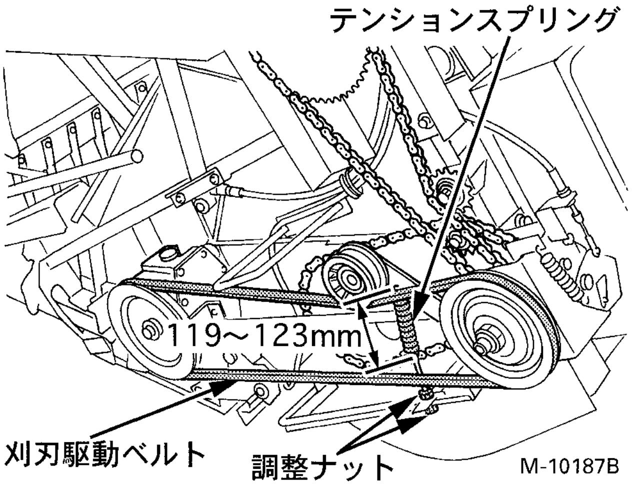

バケット駆動ベルト
調整ナット
120～122mm
テンションスプリング

M-10142C

● 刈刃駆動ベルト

テンションスプリングの長さを119～123㎜に調整します。

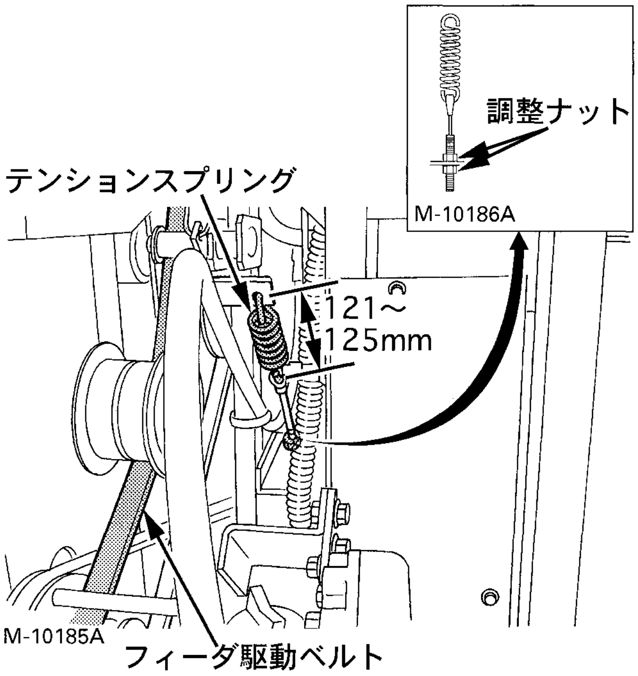
1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。


テンションスプリング
119～123mm
刈刃駆動ベルト
調整ナット
M-10187B

● フィーダ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを121～125㎜に調整します。

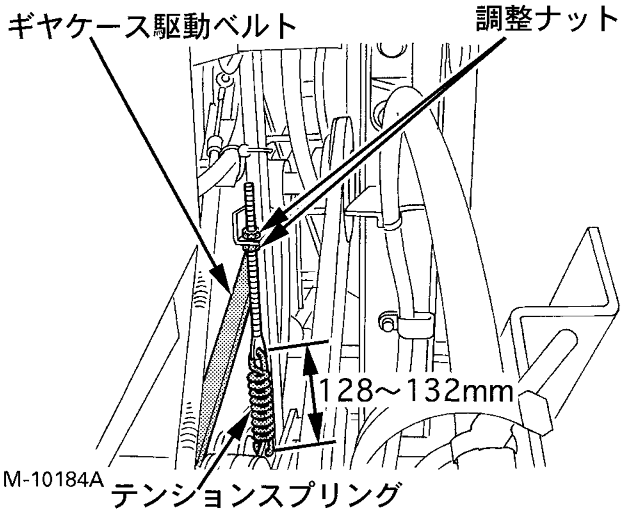
1. **【グレンタンク仕様】**はグレンタンクオープンをし，**【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前，後を取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。
4. **【グレンタンク仕様】**はグレンタンクを閉じ，**【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前後を取付けます。


調整ナット
M-10186A
テンションスプリング
121～
125mm
M-10185A
フィーダ駆動ベルト

●ギヤケース駆動ベルト

テンションスプリングの長さを128～132㎜に調整します。

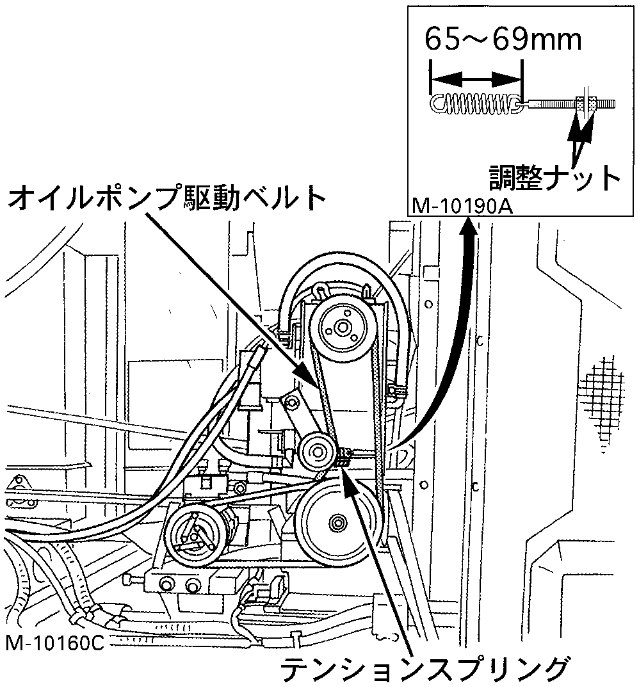
1. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
2. 調整ナットを締付けます。


ギヤケース駆動ベルト
調整ナット
128～132mm
M-10184A
テンションスプリング

●オイルポンプ駆動ベルト【グレンタンク仕様】

テンションスプリングの長さを65～69㎜に調整します。

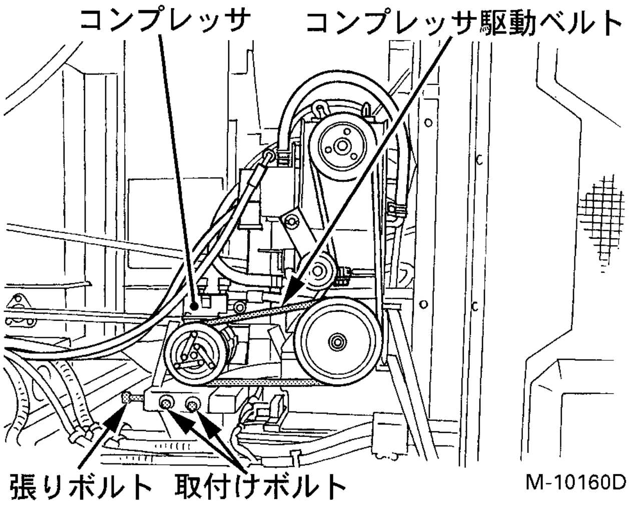
1. グレンタンクオープンをします。
2. 調整ナット２箇所をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けます。
4. グレンタンクを閉じます。


65～69mm
調整ナット
M-10190A
オイルポンプ駆動ベルト
M-10160C
テンションスプリング

●コンプレッサ駆動ベルト【C仕様】

指先でベルトの中央部を押したとき（約60～70N ｛６～７kg｝の荷重）のたわみ量を５～８mmに調整します。

1. **【グレンタンク仕様】**はグレンタンクをオープンします。
2. コンプレッサの取付けボルト２本をゆるめます。
3. 張りボルトを締付けてベルトの張り調整をします。
4. 取付けボルト２本を締付けます。

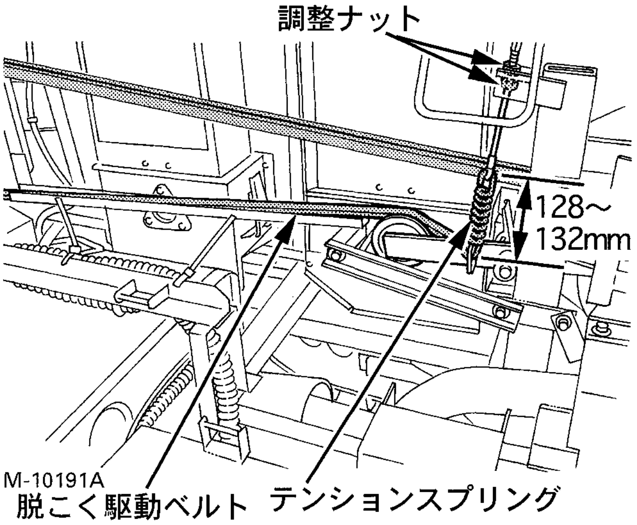

コンプレッサ
コンプレッサ駆動ベルト
張りボルト
取付けボルト
M-10160D

5. **【グレンタンク仕様】**はグレンタンクを閉じます。

●脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを128～132mmに調整します。

1. **【グレンタンク仕様】**はグレンタンクオープンをし，**【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前，後を取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，**【グレンタンク仕様】**はグレンタンクを閉じ，**【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前，後を取付けます。


調整ナット
128～
132mm
M-10191A
脱こく駆動ベルト
テンションスプリング

■各部チェーンの点検・調整

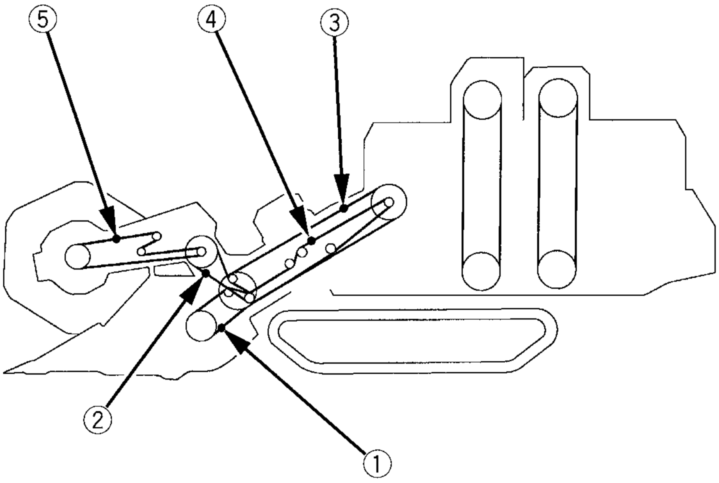
◆点検

各部のチェーンを点検して，異常があればチェーンの交換又は，張り調整を行なってください。チェーンの購入は購入先へ連絡して行なってください。

重 要

＊チェーンは必ずクボタ純正のものを使用してください。

点検箇所	図番	名　称	サイズ	張り調整		たわみ量 (mm)	すき間 (mm)
				テンションスプリング取付け長さ(mm)			
刈取部	①	オーガ駆動チェーン	EK40（93リンク）	—		15 ～ 20	—
	②	リール駆動チェーン	EK40（105リンク）	—		10 ～ 15	—
	③	フィーダチェーン	—	—		—	—
	④	刈取駆動チェーン	EK50（163リンク）	A	128 ～ 132 mm	—	6 ～ 10
	⑤	リール入力チェーン	EK415SH（182リンク）	—		—	—



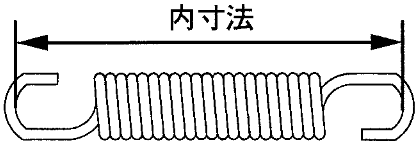
M-10197A

◆調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補 足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

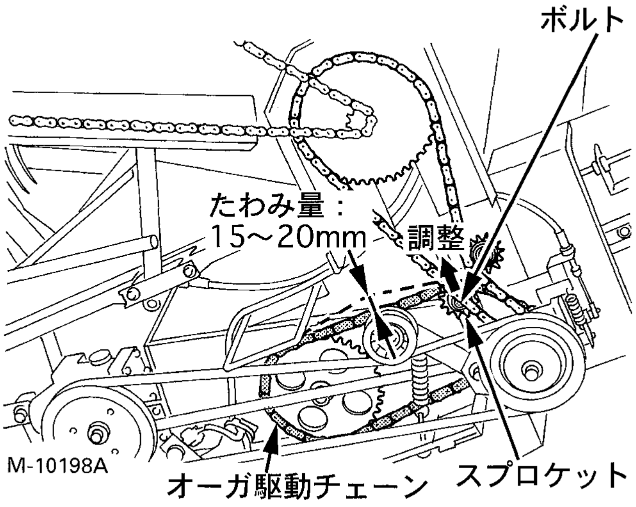


M-7640A

● **オーガ駆動チェーン**

チェーンを引いたときのたわみ量を15～20mmに調整します。

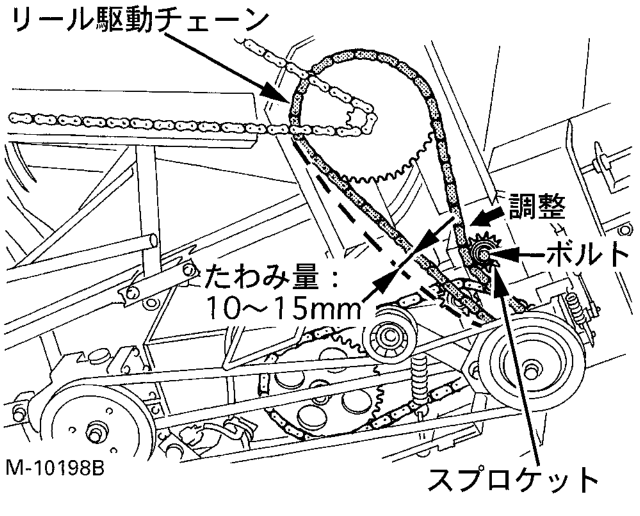
1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. スプロケットのボルトをゆるめて，調整を行ないます。
3. ボルトを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。


ボルト
たわみ量：
15～20mm
調整
M-10198A
オーガ駆動チェーン
スプロケット

● **リール駆動チェーン**

チェーンを引いたときのたわみ量を10～15mmに調整します。

1. 刈取左サイドカバーを取外します。
2. スプロケットのボルトをゆるめて，調整を行ないます。
3. ボルトを締付けたあと，刈取左サイドカバーを取付けます。


リール駆動チェーン
調整
ボルト
たわみ量：
10～15mm
M-10198B
スプロケット

● **フィーダチェーン**

フィーダチェーンに取付けている搬送板とフィーダの底板のすき間を6～10mmに調整します。

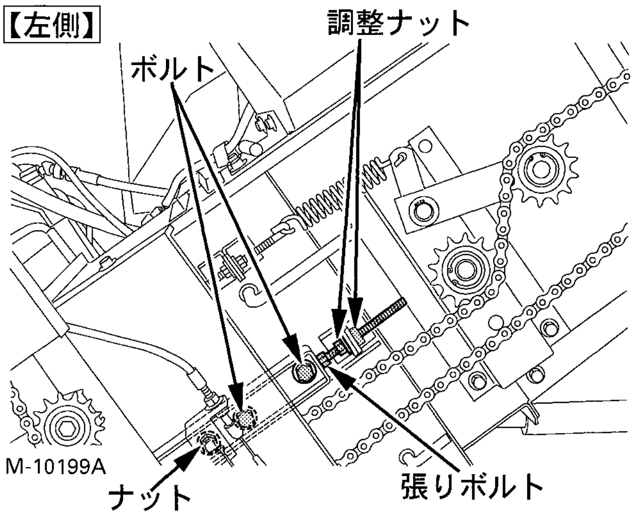
1. ノブボルト2本を取外し，フィーダ上部カバーを取外します。
2. フィーダサイドカバー，刈取左サイドカバーを取外します。
3. 左・右それぞれボルト2本とナット1個をゆるめます。
4. 張りボルトを固定している調整ナット2個をゆるめたあと，張りボルトで左・右共調整を行ないます。

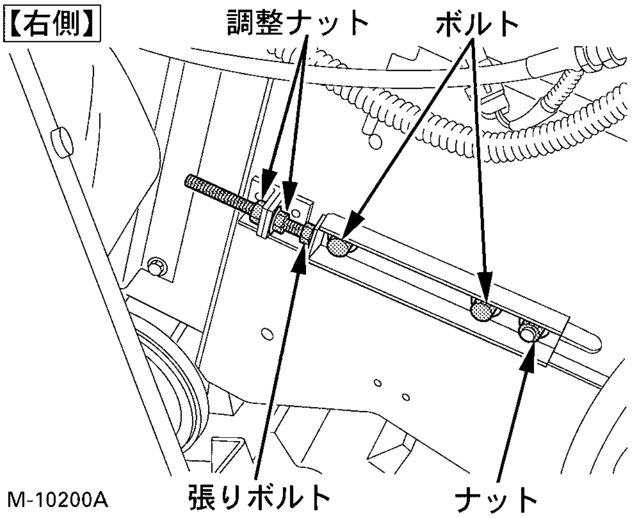
重　要

＊張りボルトの調整量は同じにしてください。搬送板が左・右方向に傾くと故障の原因となります。

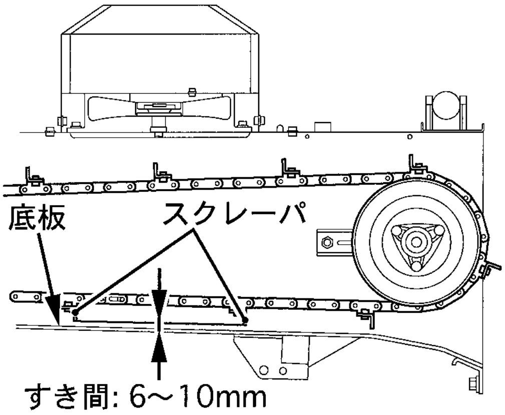
5. 張りボルトの調整ナットを締付けたあと，ボルト2本とナット1個を左・右それぞれ締付けます。
6. フィーダ上部カバーを取付けたあと，フィーダサイドカバー，刈取左サイドカバーを取付けます。

【左側】


調整ナット
ボルト
M-10199A
ナット
張りボルト


【右側】
調整ナット
ボルト
張りボルト
ナット

M-10200A

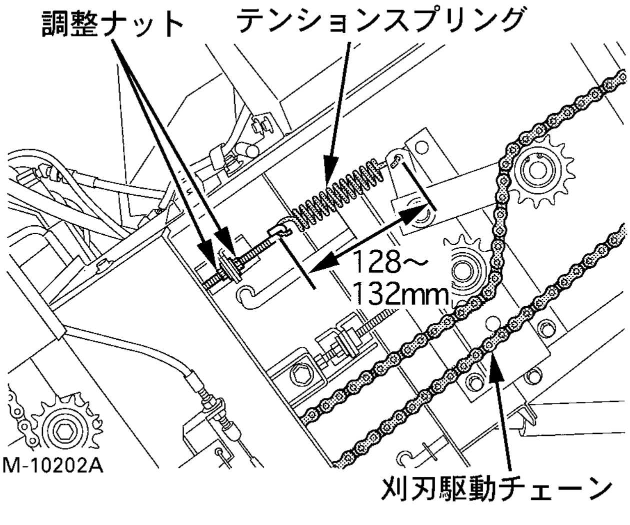

底板
スクレーパ
すき間: 6～10mm

M-10201A

● 刈取駆動チェーン

テンションスプリングの長さを128～132mmに調整します。

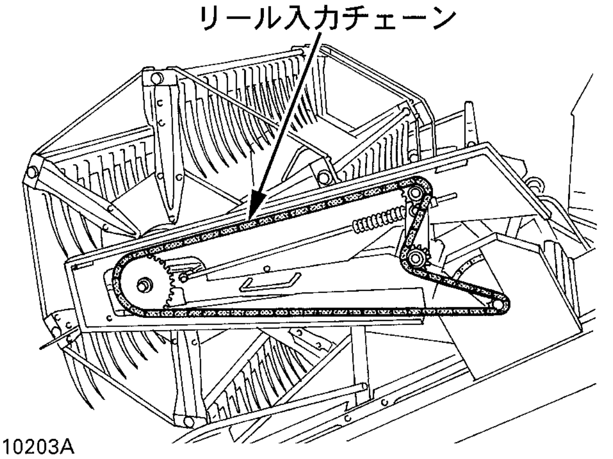
1. フィーダサイドカバー，刈取左サイドカバーを取外します。
2. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，フィーダサイドカバー，刈取左サイドカバーを取外します。


調整ナット
テンションスプリング
128～
132mm
刈刃駆動チェーン

M-10202A

● リール入力チェーン

リール入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。



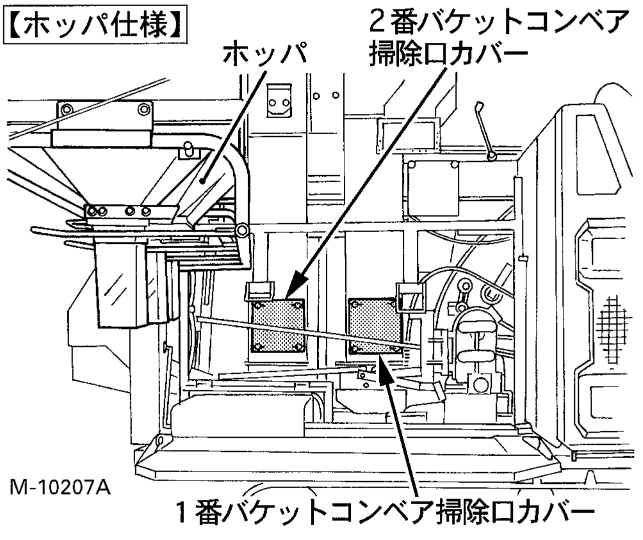
M-10203A

■1番・2番バケットコンベアの点検・調整・交換

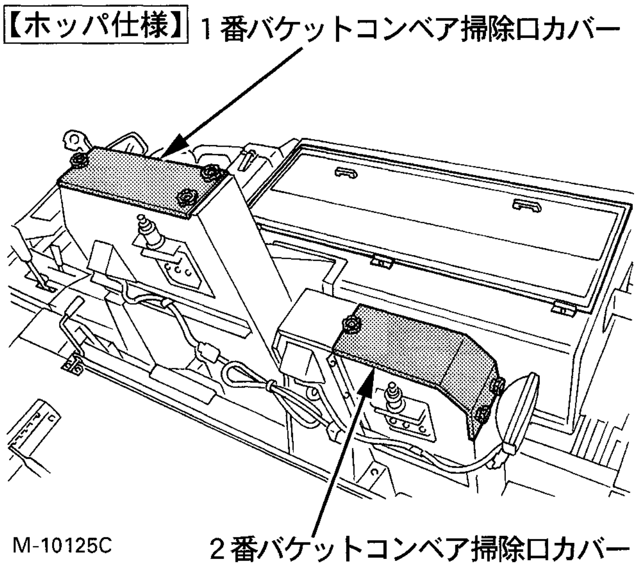
◆点検・調整

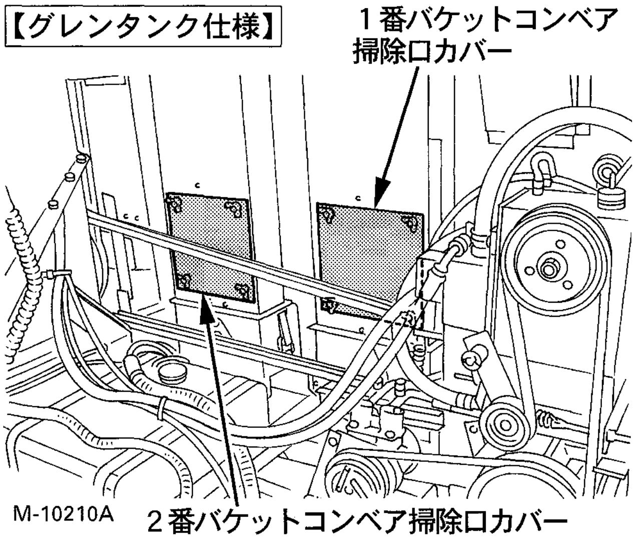
バケットコンベアのバケット（１番），ゴムプレート（２番）とチェーンを点検して，チェーンに伸び（たわみ）があるときは張り調整を行なってください。また，バケット（１番），ゴムプレート（２番）が破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

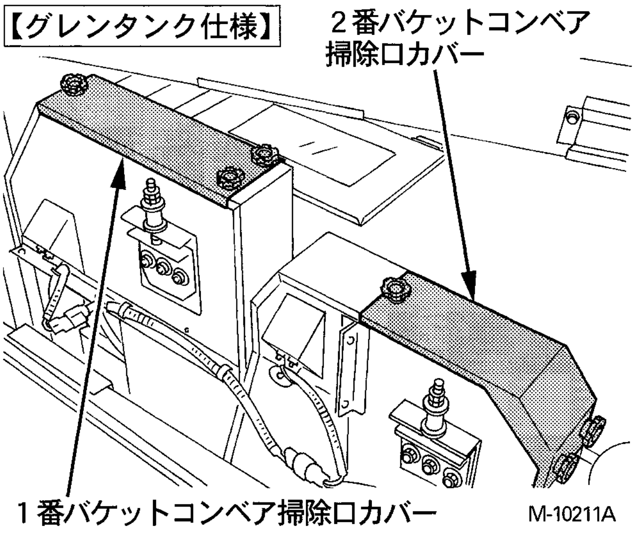
1. **【ホッパ仕様】**はホッパオープンしたあと，脱こく右サイドカバー前，後を取外し，**【グレンタンク仕様】**はグレンタンクをオープンします。
2. 1番・2番バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。


【ホッパ仕様】
ホッパ
２番バケットコンベア
掃除口カバー
１番バケットコンベア掃除口カバー

M-10207A


【ホッパ仕様】
１番バケットコンベア掃除口カバー
M-10125C
２番バケットコンベア掃除口カバー

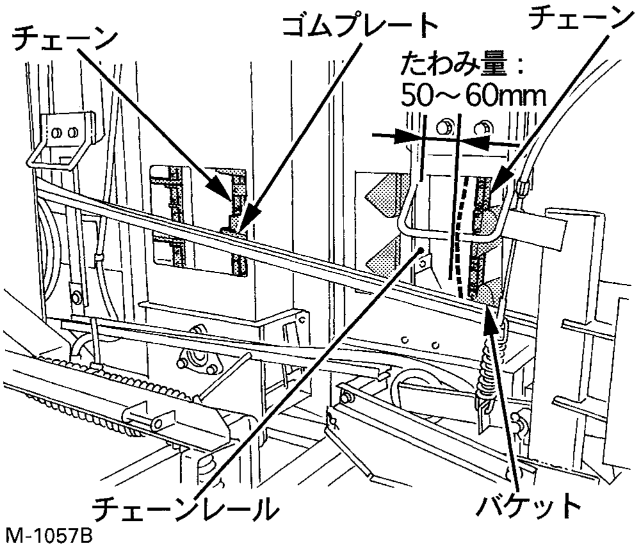

【グレンタンク仕様】
１番バケットコンベア
掃除口カバー
M-10210A
２番バケットコンベア掃除口カバー


【グレンタンク仕様】
２番バケットコンベア
掃除口カバー
１番バケットコンベア掃除口カバー
M-10211A

3. バケットとチェーンを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

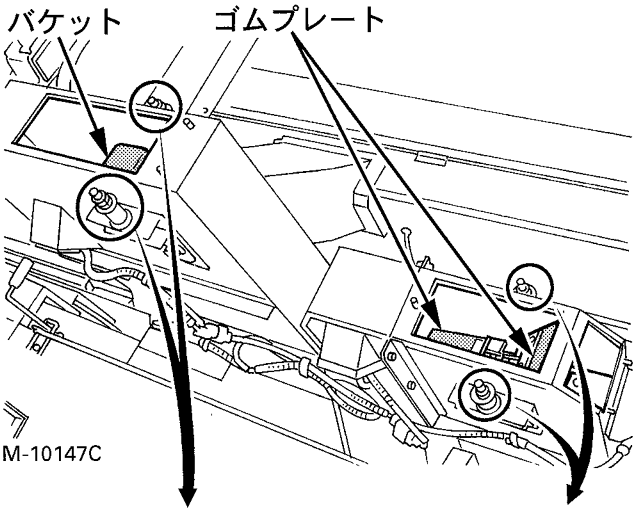
- **調整のしかた**

指先でチェーンレール側にチェーンを押したときのたわみ量を50〜60mmに調整します。

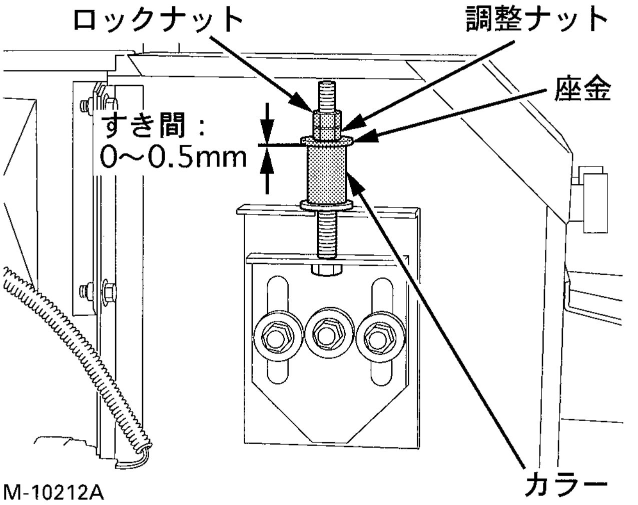

チェーン
ゴムプレート
チェーン
たわみ量：
50〜60mm
チェーンレール
バケット
M-1057B

1. バケットコンベア上部の左・右にある張りボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。
2. 調整ナットで，座金とカラーのすき間を０〜0.5mmの範囲内に調整します。このとき，調整する量は左・右同じにします。

【ホッパ仕様】

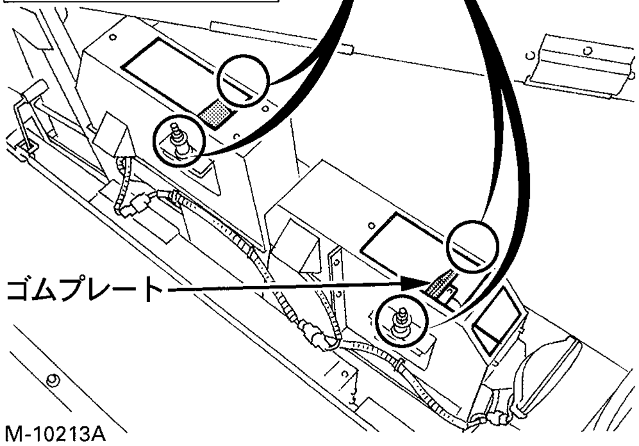

バケット
ゴムプレート

M-10147C


ロックナット
調整ナット
座金
すき間：
0～0.5mm
カラー

M-10212A

【グレンタンク仕様】



M-10213A

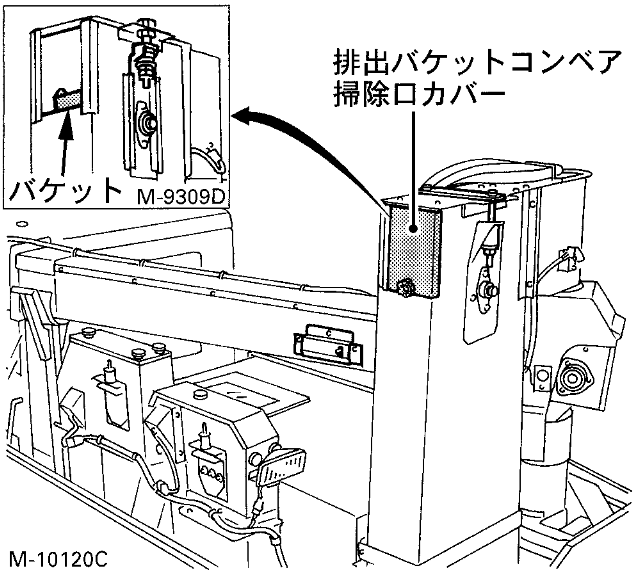
3. ロックナット左・右それぞれ締付けます。
4. １番・２番バケットコンベアの各掃除口カバーを取付けます。
5. **【ホッパ仕様】**は脱こく右サイドカバー前，後を取付けたあとホッパを閉じ，**【グレンタンク仕様】**はグレンタンクを閉じます。

■排出バケットコンベアの点検・調整・交換【グレンタンク仕様】

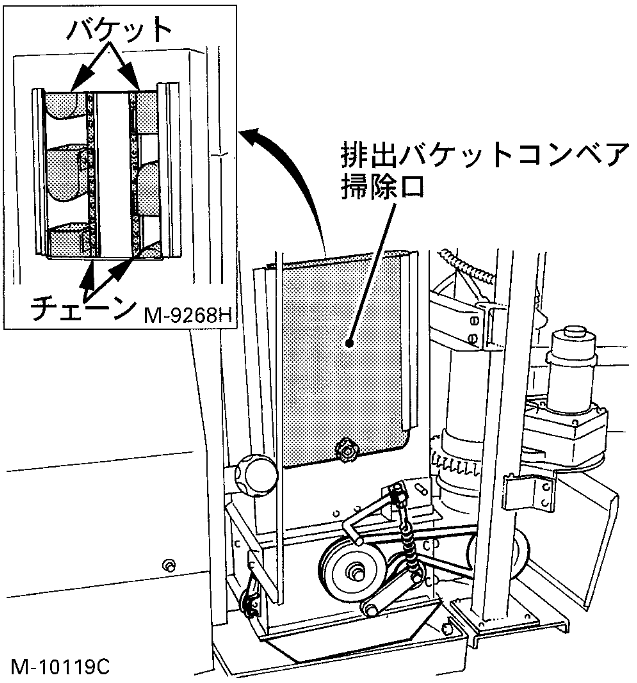
◆点検・調整

バケットコンベアのバケットとチェーンを点検して，チェーンに伸び（たわみ）があるときは張り調整を行なってください。また，バケットが破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

1. グレンタンク後カバーを開き，排出バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。


バケット
M-9309D
排出バケットコンベア
掃除口カバー

M-10120C


バケット
チェーン
M-9268H
排出バケットコンベア
掃除口

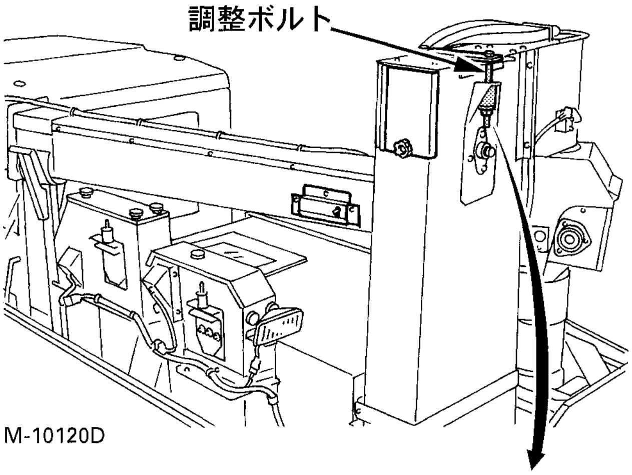
M-10119C

2. バケットとチェーンを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

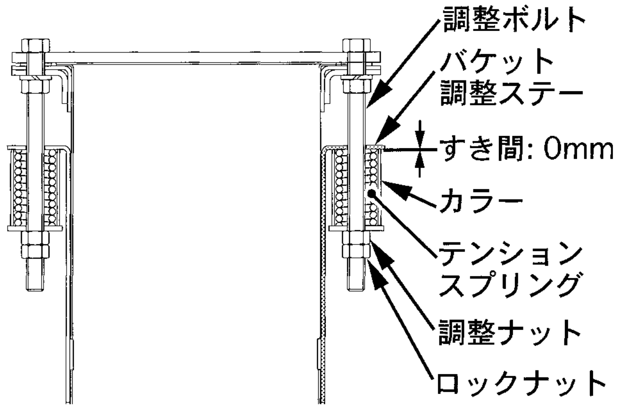
●調整のしかた

テンションスプリング（バネ）の張りを調整し，バケット調整ステーとカラーのすき間を0mmにします。

1. バケットコンベア上部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。
2. 調整ナットを締付け方向に回して，バケット調整ステーとカラーのすき間を0mmにします。このとき，調整する量は左・右同じにします。



M-10120D


調整ボルト
バケット
調整ステー
すき間: 0mm
カラー
テンション
スプリング
調整ナット
ロックナット

M-10214A

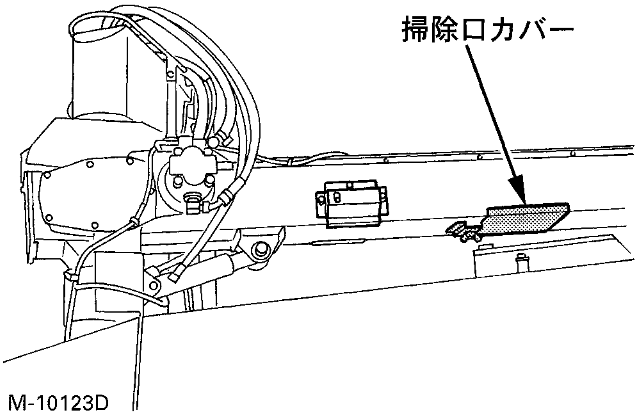
3. ロックナット左・右それぞれ締付けます。
4. 排出バケットコンベアの掃除口カバーを取付けます。
5. グレンタンク後カバーを閉じます。

■アンローダベルトコンベアの点検・調整・交換　【グレンタンク仕様】

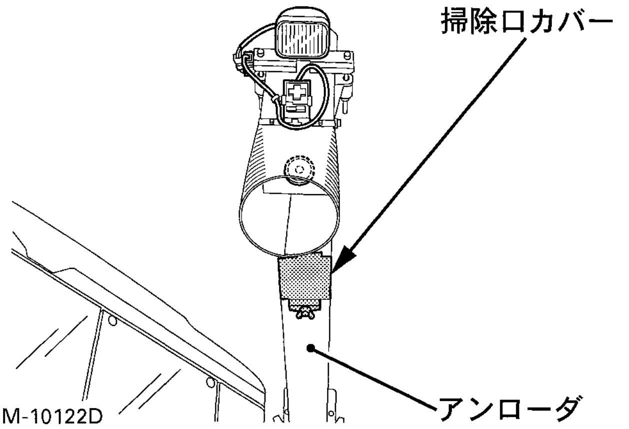
◆点検・調整

アンローダベルトコンベアを点検して，ベルトコンベアに伸び（たわみ）があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトコンベアが破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

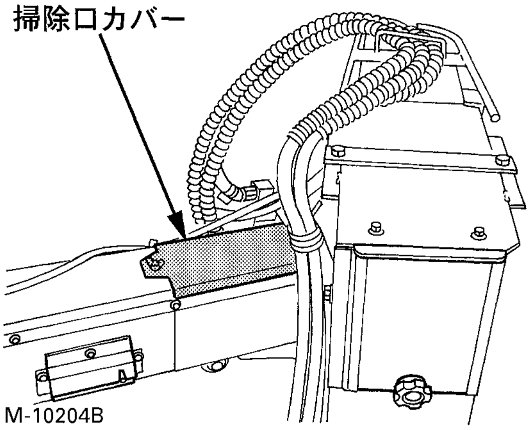
1. アンローダベルトコンベアの掃除口カバーを取外します。



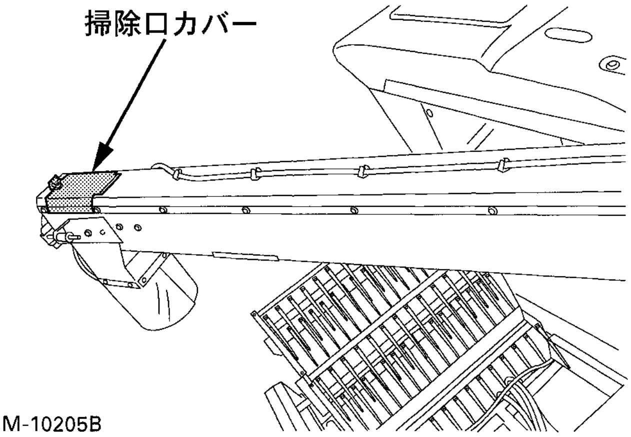
M-10123D


掃除口カバー
アンローダ

M-10122D



M-10204B



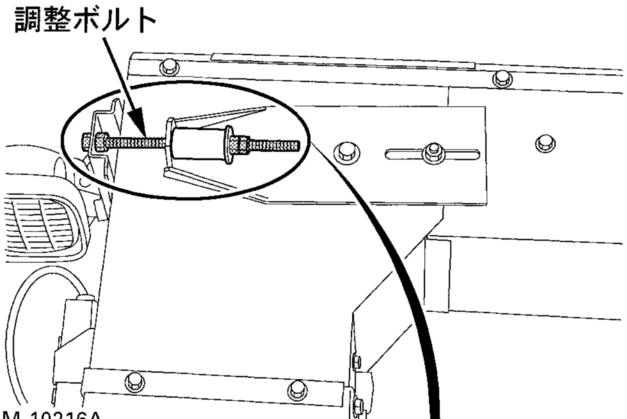
M-10205B

2. ベルトコンベアを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

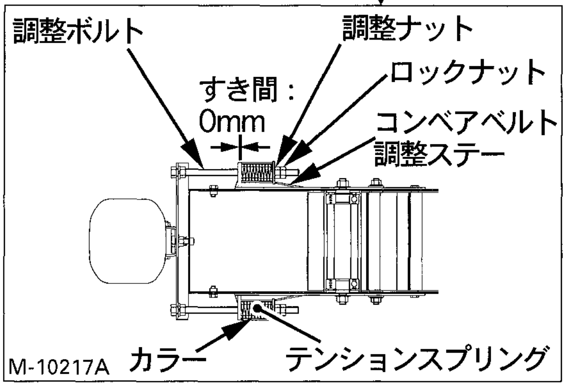
●調整のしかた

テンションスプリング（バネ）の張りを調整し，コンベアベルト調整ステーとカラーのすき間を0mmにします。

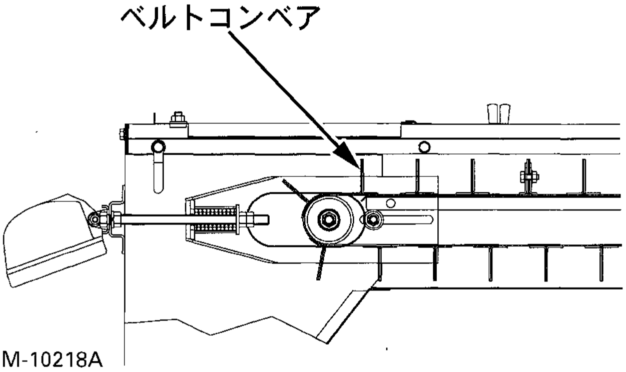
1. アンローダ先端部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。
2. 調整ナットを締付け方向に回して，コンベアベルト調整ステーとカラーのすき間を0mmにします。このとき，調整する量は左・右同じにします。



M-10216A


調整ボルト
調整ナット
すき間：0mm
ロックナット
コンベアベルト調整ステー
カラー
テンションスプリング

M-10217A



M-10218A

3. ロックナット左・右それぞれ締付けます。
4. アンローダの各掃除口カバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

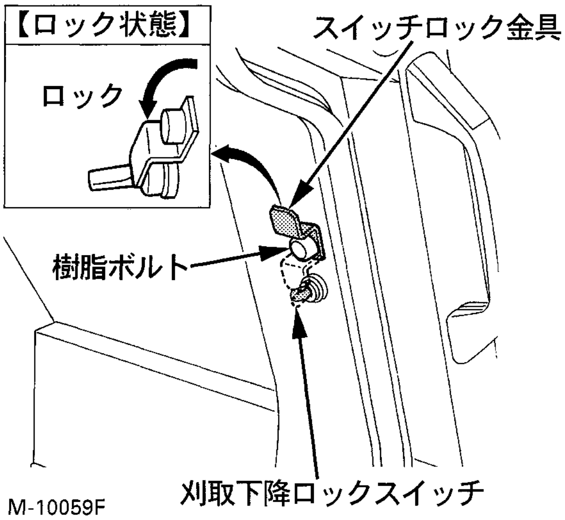
注 意

＊平坦な場所で刈取部及びリールを上げて，刈取・リール下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊脱着作業は手袋をしてください。

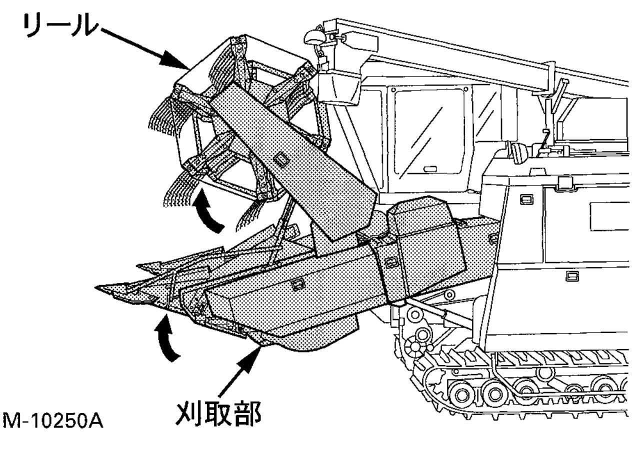
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆点検

1. SFワンレバー操作で刈取部・及びリールを上昇させたあとエンジンを停止し，刈取・リール下降ロックスイッチを**“ロック”**位置にします。

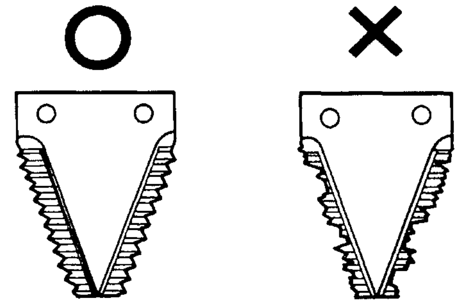

【ロック状態】
ロック
スイッチロック金具
樹脂ボルト
刈取下降ロックスイッチ

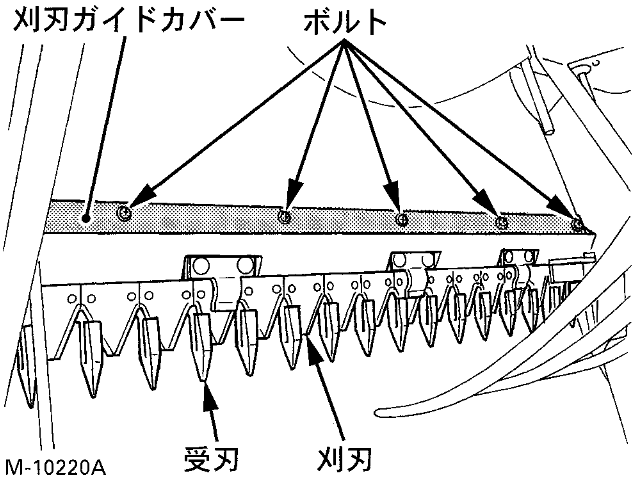
M-10059F



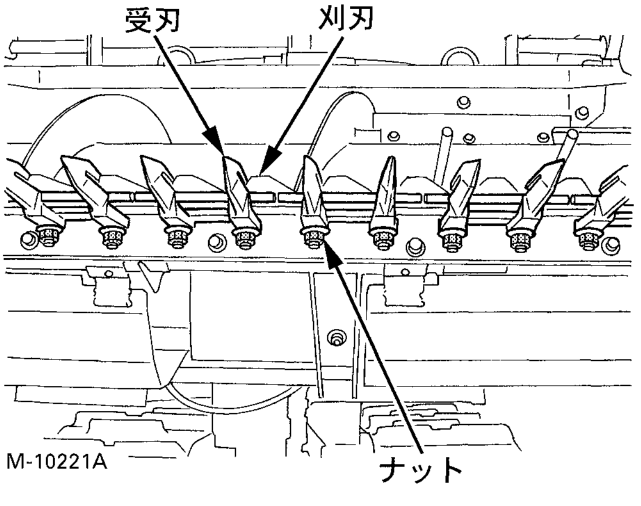
M-10250A

2. ボルトを取外して刈刃ガイドカバーを外します。
3. 刃押さえ締付けナットをゆるめます。
4. 刈刃と受刃のすき間（0.3～0.8mm）を確認し，すき間が大きいときは調整シムで調整をしてください。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。

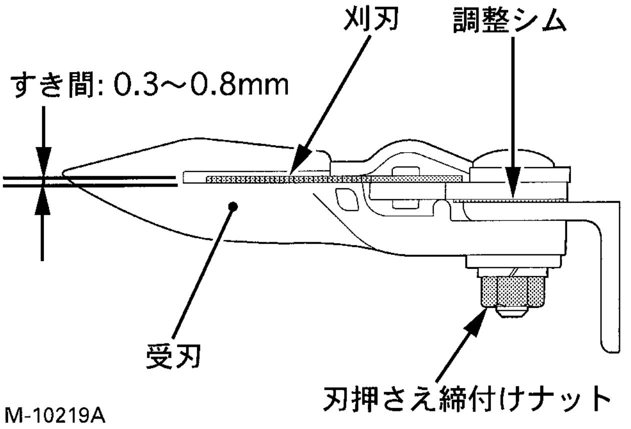



刈刃ガイドカバー
ボルト
受刃
刈刃

M-10220A



M-10221A


刈刃
調整シム
すき間: 0.3～0.8mm
受刃
刃押さえ締付けナット
M-10219A

補　足

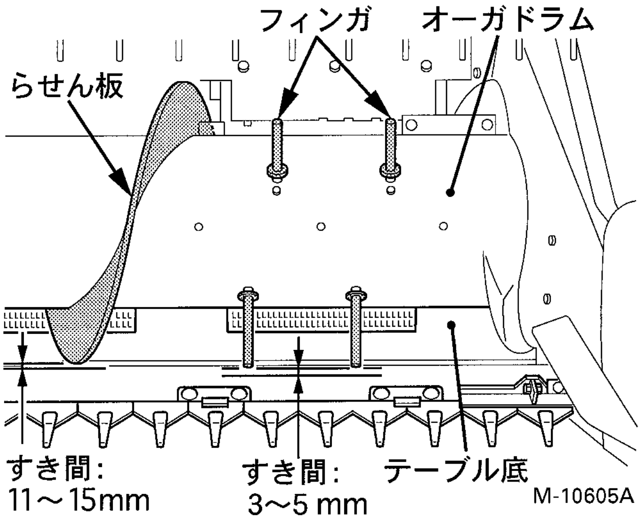
＊すき間はすき間ゲージで測定してください。

5. 刃押さえ締付けナットを締付けます。
6. 調整後，刈刃を手で左，右に動かし作動が重くないことを確認します。重い場合は，再調整を行ないます。
7. 刈刃ガイドカバーを取付けます。
8. 刈刃に注油します。

■オーガドラム・フィンガの点検・調整

◆点検

1. 平たんな場所で刈取部を地面に降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. オーガドラムのらせん板，フィンガ，フィンガガイドを点検して変形や破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。また，オーガドラムのらせん板及びフィンガとテーブル底とのすき間を確認し，らせん板とテーブル底のすき間が11～15mm，フィンガとテーブル底のすき間が３～５mmの範囲から外れているときは調整します。

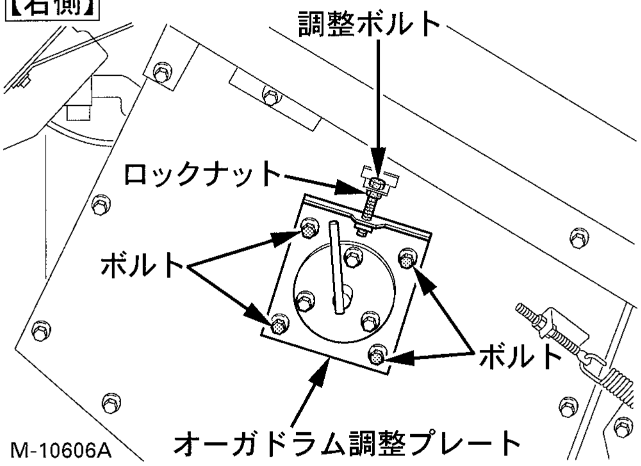

フィンガ
オーガドラム
らせん板
すき間:
11～15mm
すき間:
3～5 mm
テーブル底
M-10605A

◆調整

1. オーガドラムのらせん板とテーブル底のすき間調整を行ないます。

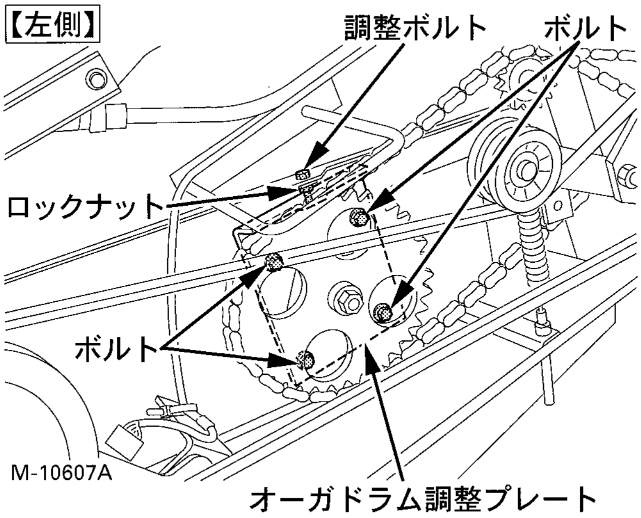
(1) 刈取左サイドカバーを外します。
(2) 刈取部左，右にあるオーガドラム調整プレートの固定ボルト４本をゆるめます。
(3) 左，右の調整ボルトのロックナットをそれぞれゆるめたあと，調整ボルトを回してすき間を11～15mmに調整します。
(4) 左，右の調整ボルトのロックナットを締付けたあと，左，右のオーガドラム調整プレートの固定ボルト各４本を締付けます。
(5) 刈取左サイドカバーを取付けます。

【右側】


調整ボルト
ロックナット
ボルト
ボルト
オーガドラム調整プレート

M-10606A

【左側】


調整ボルト
ボルト
ロックナット
ボルト
オーガドラム調整プレート

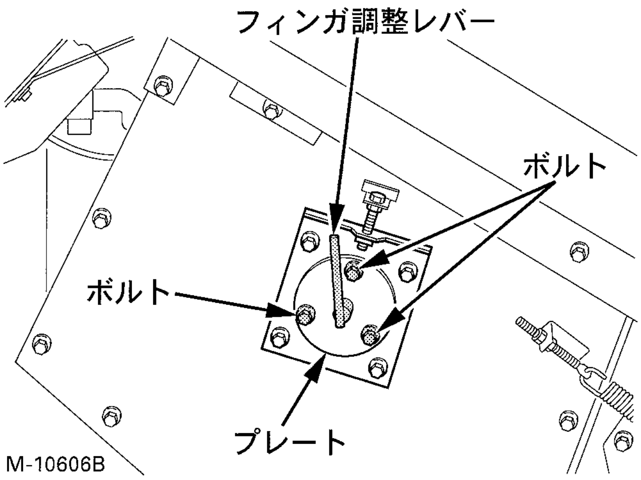
M-10607A

2. フィンガとテーブル底のすき間調整を行ないます。

(1) 刈取部右側にあるフィンガ調整レバープレートの固定ボルト３本をゆるめます。

(2) フィンガ調整レバーを動かしてすき間を３～5mmに調整します。

(3) フィンガ調整レバープレートの固定ボルト３本を締付けます。


フィンガ調整レバー
ボルト
ボルト
プレート

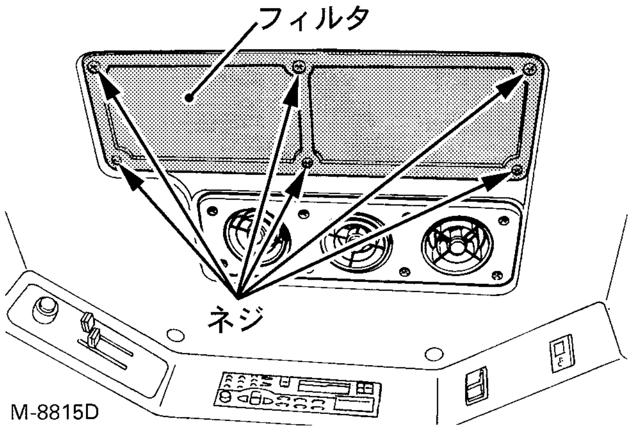
M-10606B

■フィルタの掃除・交換【C仕様】

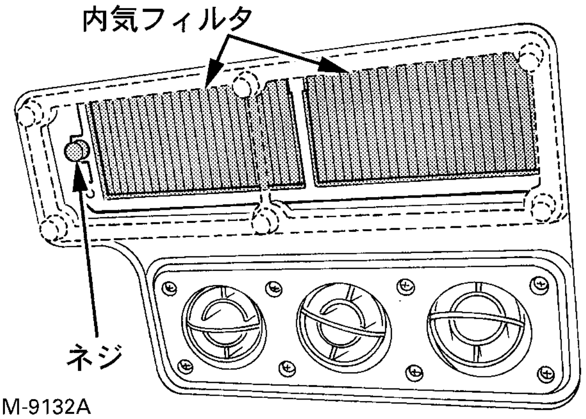
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆掃除・交換

1. フィルタの取付ネジを取外して，フィルタを取外します。そのあと，内気フィルタの取付ネジを取外して内気フィルタを取外します。
2. フィルタと内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタとフィルタを取付けます。



M-8815D



M-9132A

重　要

＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

補　足

＊風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

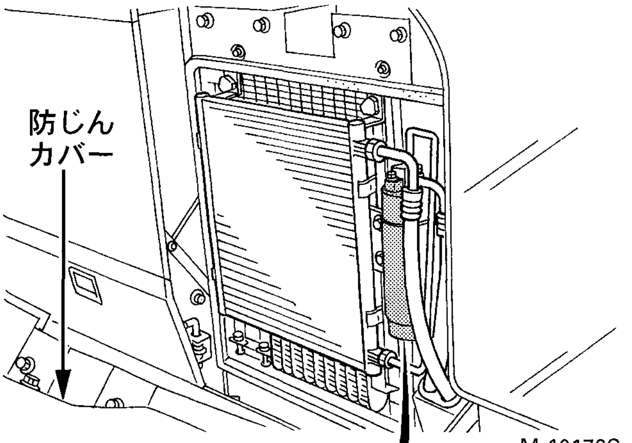
＊汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだあと，完全に自然乾燥させてください。

■冷媒（ガス）量の点検【C仕様】

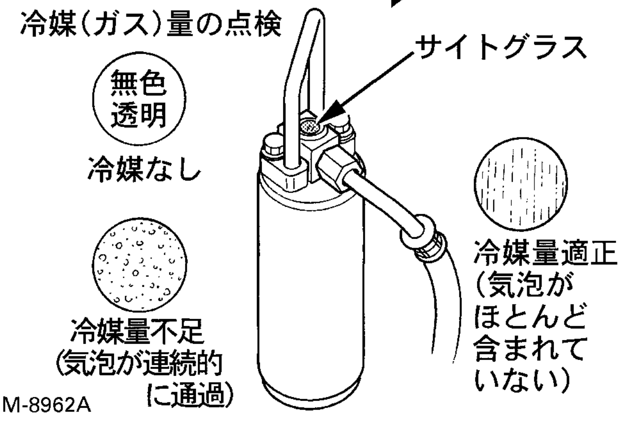
冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆点検

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - ●エンジン回転数　　　　　：約1500rpm
   - ●温度コントロールレバー：左端（**“COOL”** 側）
   - ●ファンスイッチ　　　　　：**“HI”** (強)位置
   - ●エアコンスイッチ　　　　：**“入”** 位置
   - ●窓（左，後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスから流れている冷媒の状態を確認します。



M-10176C


冷媒(ガス)量の点検
サイトグラス
無色透明
冷媒なし
冷媒量不足
(気泡が連続的に通過)
冷媒量適正
(気泡がほとんど含まれていない)

M-8962A

4. エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを **“切”** 位置にします。
5. 防じんカバーを閉じます。
6. 窓（左，後）とドアを閉じます。

■吐出口ブーツの点検・交換【グレンタンク仕様】

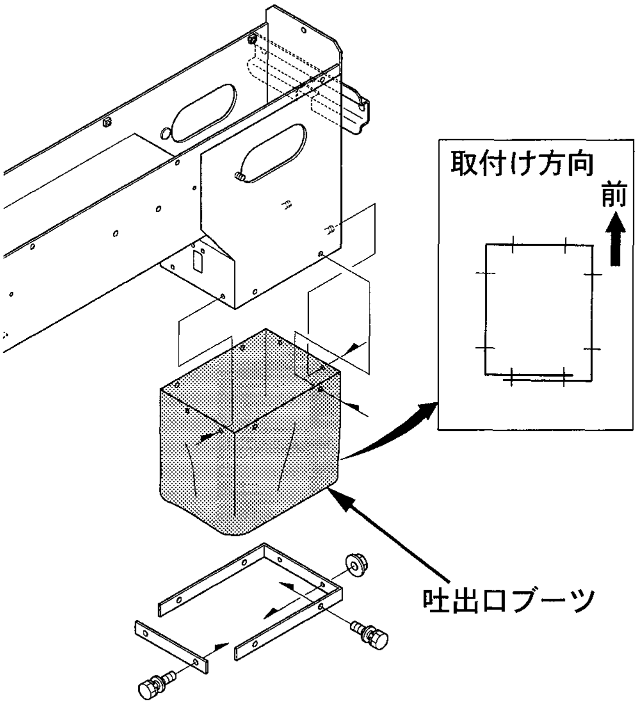
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆交換

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナー10本を外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。


取付け方向
前
吐出口ブーツ

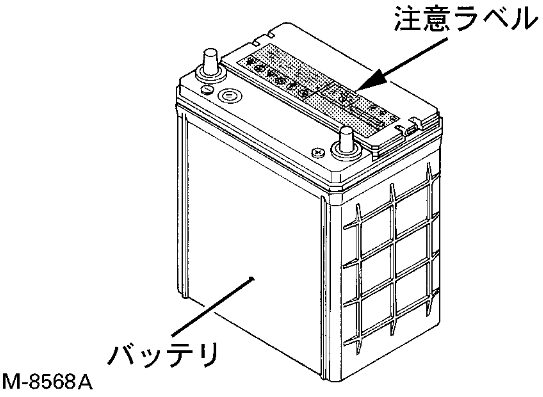
M-10253A改

重　要

＊ブーツ（品番：5T000-7831-1）は必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危 険

＊バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。

＊充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。

＊この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

＊急速充電は厳禁です。

＊開封は厳禁です。（密封タイプ）

警 告

＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補 足

＊出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆点検

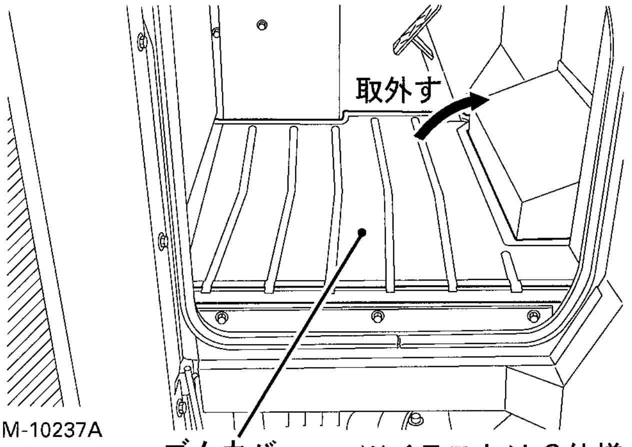
危 険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき………

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

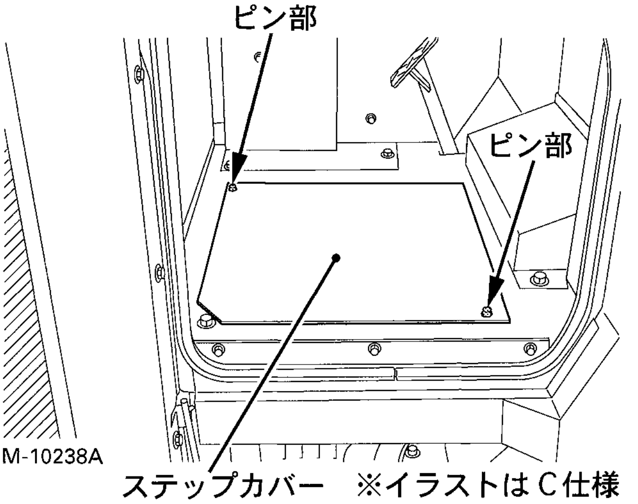
＊バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ステップのゴムカバーを取外します。



※イラストはＣ仕様

2. ステップカバーを２箇所のピン部から抜出して取外します。

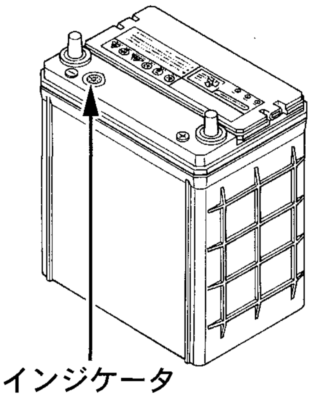

ピン部
ピン部
ステップカバー　※イラストはC仕様

M-10238A

3. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1) バッテリ上面にあるハイドロメータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



M-8568B

補　足

＊ハイドロメータは真上から確認してください。

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

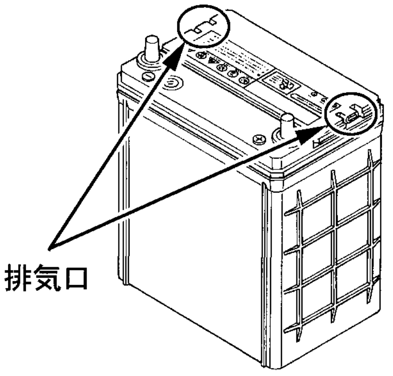
重　要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

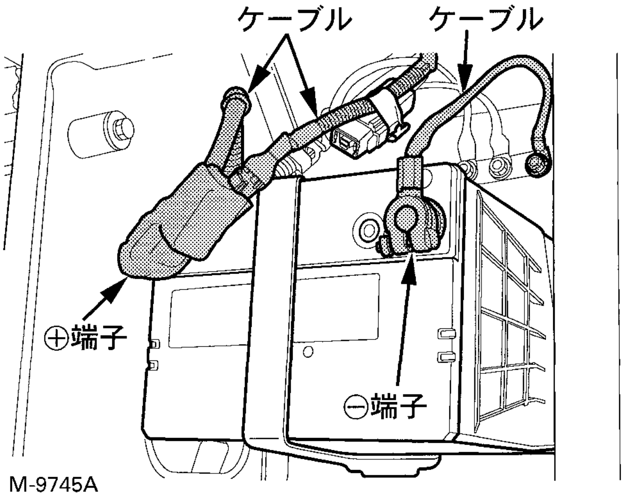
重　要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



M-8568C

(4) バッテリケーブルの破損や⊕端子，⊖端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。


ケーブル
ケーブル
⊕端子
⊖端子

M-9745A

◆補充電・交換

> **警 告**
>
> **＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
>
> - **取外し…⊖ 端子側(アース側)から外す。**
> - **取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。**
>
> **＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。**
>
> **＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**
>
> **＊バッテリの取付け方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。**
>
> **＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。**

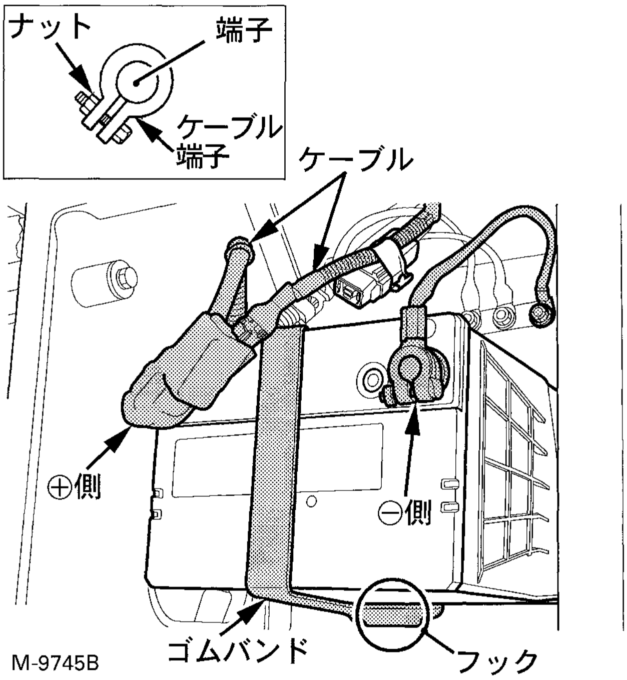
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- ●スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- ●アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ●ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。

(1) ゴムバンドの端部金具をフックから外します。

(2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず⊖側から取外してください。



重 要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平坦で風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**65D23L-MF**

＊バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

＊バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

◆点検・補水

注　意

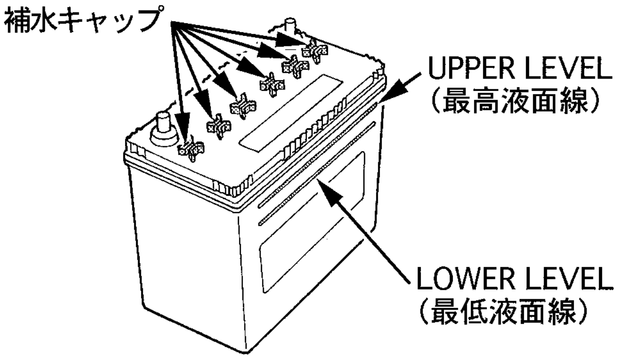
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，“UPPER LEVEL”（最高液面線）と“LOWER LEVEL”（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



M-8163A

重　要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

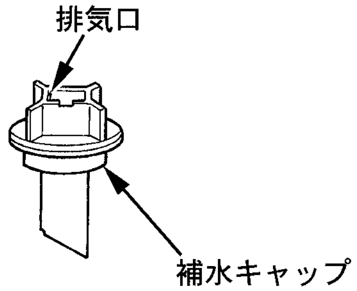
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



M-8166B

◆補充電・交換

注 意

＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補 足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注 意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重 要

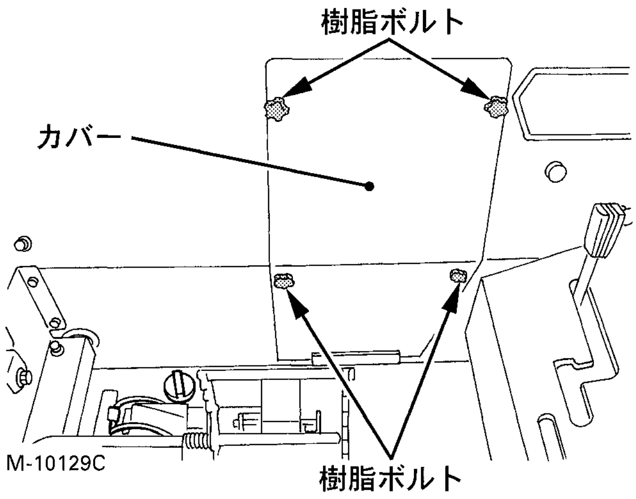
＊新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

補 足

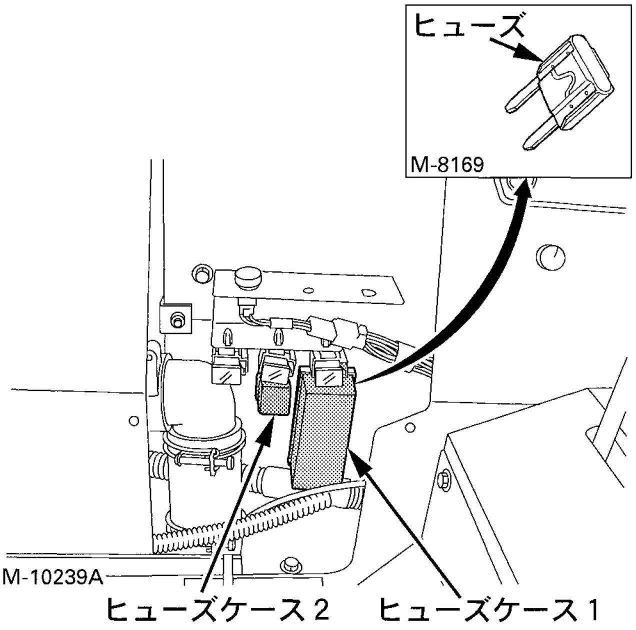
＊ヒューズを交換するときは，ヒューズケースのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

●本機

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
   樹脂ボルト４本を取外して運転席後面のカバーを外します。



3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。



●ヒューズケース１（上から）

回　　路	容量(A)	対象型式	回　　路	容量(A)	対象型式
リール前後電動シリンダ	25	全型式	マイコン（直B）	5	全型式
オーガモータ	25	全型式	前照灯，ウインカ（直B）	20	全型式
クリーンファンモータ	10	全型式	作業灯（直B）	20	全型式
刈取クラッチモータ	15	全型式	エンジン停止(直B)	15	全型式
モミ排出クラッチモータ	15	全型式	マイコン，リレーコイル，チェッカ	5	全型式
ロークロップ刈刃クラッチ モミ排出コンベア	10	全型式	メータ、リモコンスイッチユニット	5	全型式
予備ヒューズ	10	全型式	油圧バルブ（作業機）	15	全型式
予備ヒューズ	15	全型式	燃料ポンプ，オルタネータ	7.5	全型式
予備ヒューズ	20	全型式	ブザー	5	全型式
予備ヒューズ	25	全型式	操向モータ	15	全型式

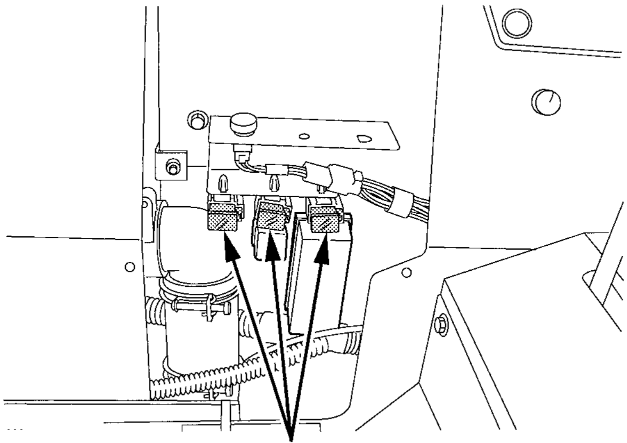
●ヒューズケース２（上から）

回　　路	容量（A）	対象型式
キャビン	20	C仕様
キャビン（直B）	20	C仕様
——	——	——

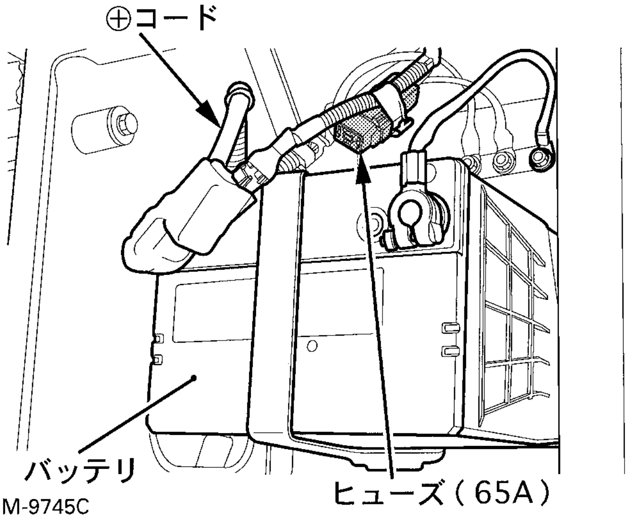
- 予備ヒューズは，予備のヒューズケースとヒューズケース１のカバー裏側に５Ａ１本，7.5A１本が入っております。

- **スローブローヒューズ・バッテリ⊕コードヒューズの点検・交換**

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。


スローブローヒューズ(45A)

M-10239B

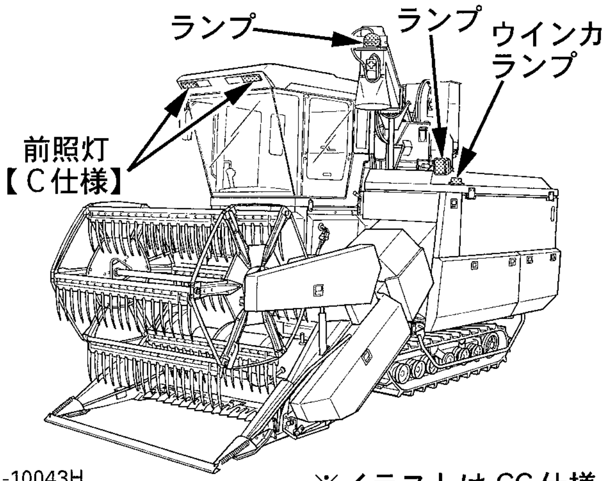

⊕コード
バッテリ
ヒューズ（65A）

M-9745C

■ランプ（電球）の点検・交換

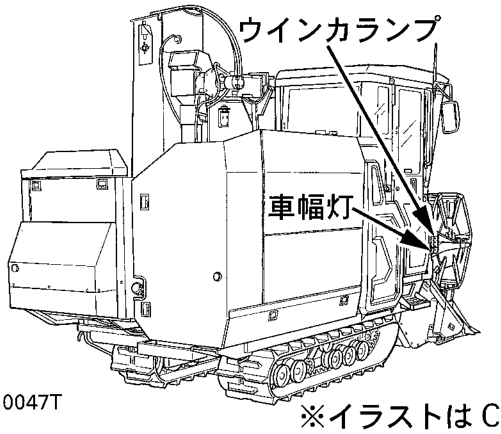
■ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。


ランプ
ランプ
ウインカランプ
前照灯【C仕様】

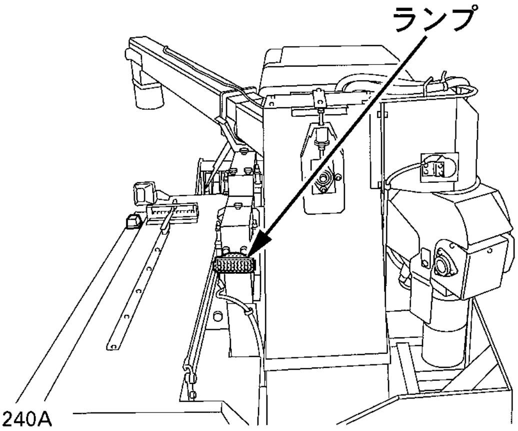
M-10043H

※イラストはCG仕様


ウインカランプ
車幅灯

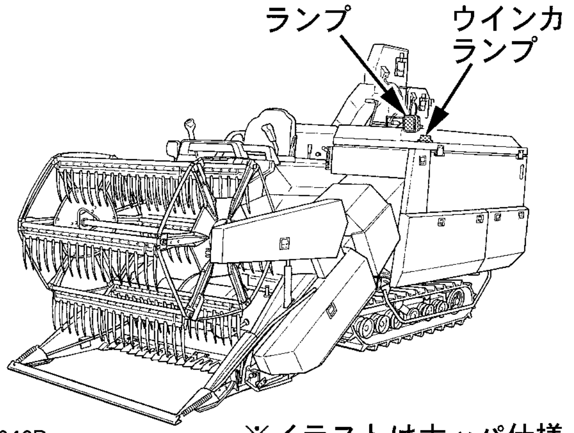
M-10047T

※イラストはCG仕様

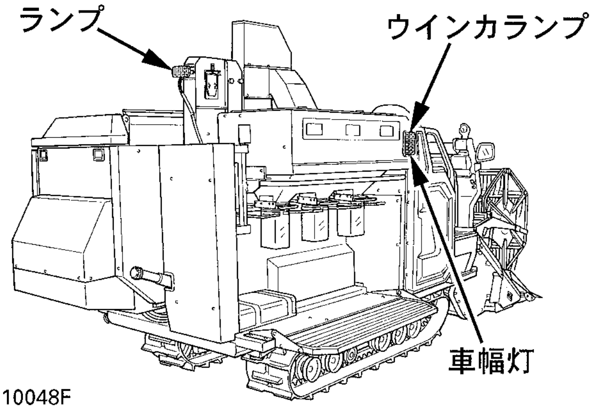


M-10240A

※イラストはCG仕様

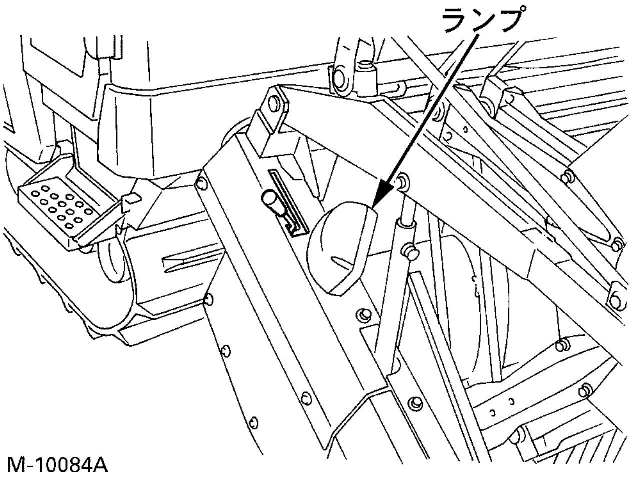

ランプ
ウインカ
ランプ

M-10046D　※イラストはホッパ仕様

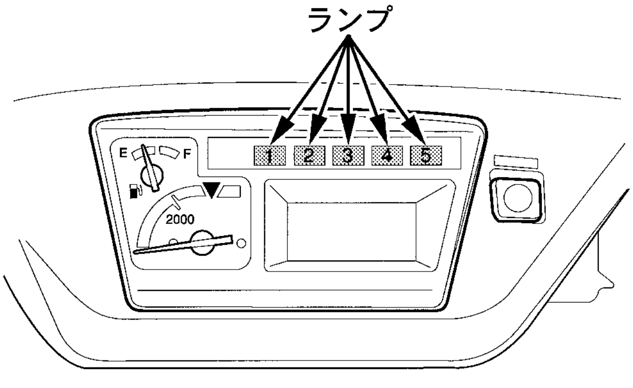

ランプ
ウインカランプ
車幅灯

M-10048F

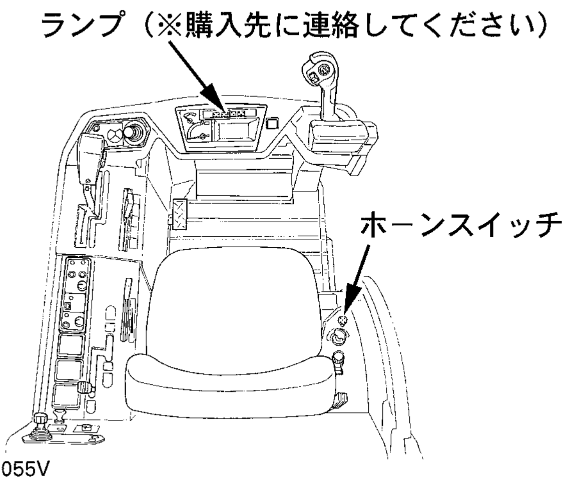
※イラストはホッパ仕様



M-10084A


ランプ
E
F
1
2
3
4
5
2000

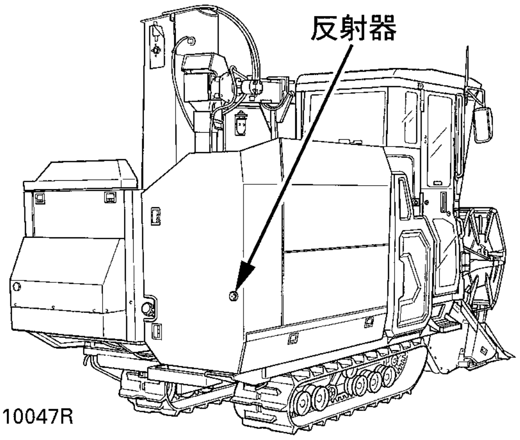
M-9597F


ランプ（※購入先に連絡してください）
ホーンスイッチ

M-10055V

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



M-10047R

■クローラの点検・調整

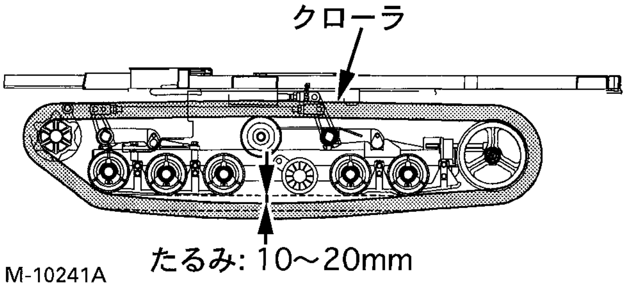
⚠ 注 意

＊平坦な場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

＊ジャッキアップを行なうときは，所定の場所でバランスのとれた位置にして作業してください。

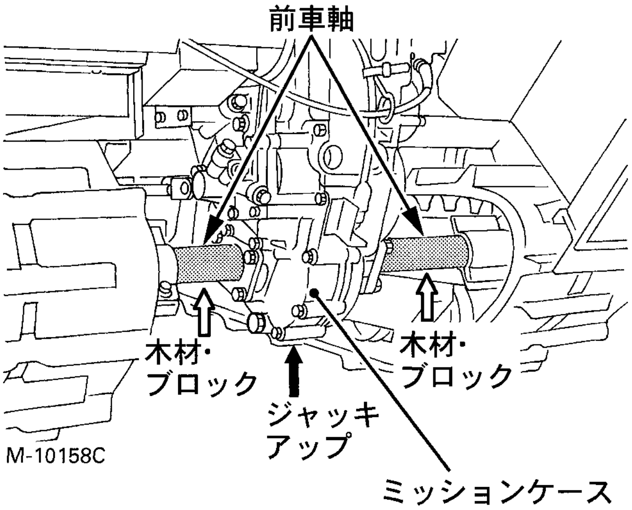
＊機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

下図の状態で地面からクローラを約10cm浮かした状態で，クローラ下側のたるみを10～20㎜に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。


クローラ
たるみ: 10～20mm

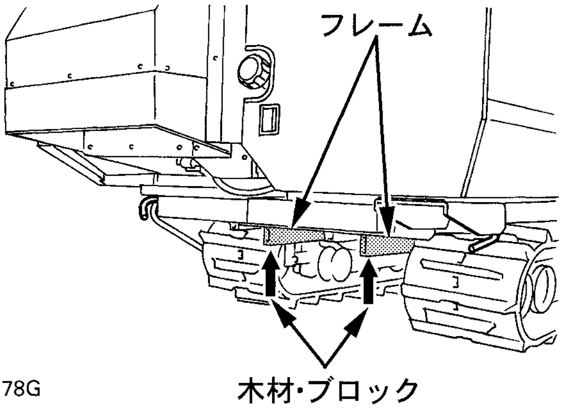
M-10241A

1. 水平操作レバーで機体を上昇させて，クローラを地面から10cm程度浮かせます。
(1) 前部はミッションケース部の，調整を行なう側の前車軸に木材やブロックをセットします。


前車軸
木材・ブロック
木材・ブロック
ジャッキアップ
ミッションケース

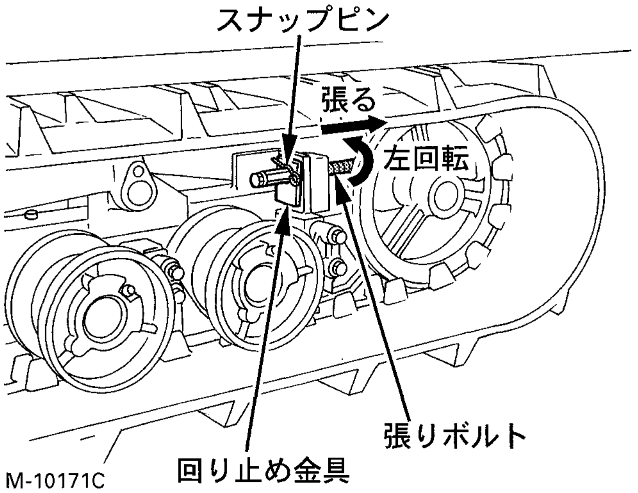
M-10158C

(2) 後部は機体フレームの下図位置に，調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。


フレーム
木材・ブロック

M-10078G

2. 水平操作レバーで機体を下降させたあとエンジンを停止します。
3. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
4. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



M-10171C

5. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
6. 水平操作レバーで機体を上昇させます。
7. ブロックや木材を取外します。

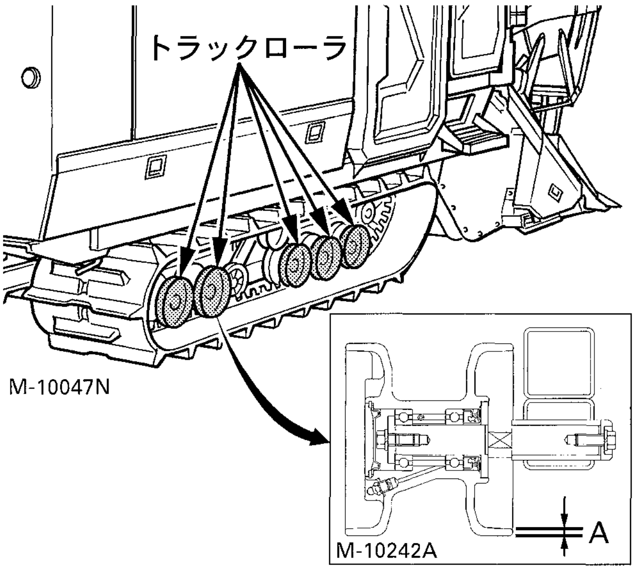
重　要

＊クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

＊クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に増し張りしてください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A寸法が，２mm以下になったとき又は，使用時間が500時間経過したときの早いほうで交換してください。



M-10047N

M-10242A

補　足

＊購入先に連絡して交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部の排かんくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
（96ページ参照）
3. アンローダを収納します。
【グレンタンク仕様】
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- ● 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- ● 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草や排かんくずを，完全に取除いてください。

重　要

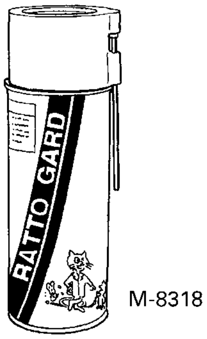
＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

＊作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **“給・注油（水）一覧表”** を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊各部にこく粒や排かんくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。また，ネズミによる被害を避けたいときは，クボタ純正部品**ラットガード**（ネズミよけスプレー塗料）の使用をお勧めします。特に，供給ベルトや選別ベルトは高価消耗部品となりますので，使用されるときは全面に吹付けてください。

クボタ純正品　ラットガード
ネズミよけ
スプレー塗料



＊使用の際は，スプレー缶に書いてある使用上の説明・注意をよくお読みください。

品　名	品　番
クボタラットガード	07908-5619-0

＊各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。

＊塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（112ページ参照）
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

刈取作業後の手入れ

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。

（112ページ参照）

重 要

＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。（ラジエータ容量……3.7L）

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず２年で交換してください。

◆バッテリ

⚠ 危 険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

⚠ 注 意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1)直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2)雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3)バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，⊖側のケーブルを必ず取外してください。

◆各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（“🐢”位置）止めておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは **“切”** 位置にしておいてください。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げてください。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーをかけます。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！　ページ

エンジンがかからない　159
作物を刈取らずに押倒していく　160
刈取部でのロスが多い　160
リールで巻上げや巻付きをおこす　160
こく粒の飛散が多い　161
選別が悪くなった　161
損傷粒が多い　161
汚粒が出る　162
莢付粒が多い　162
こぎ室でゴトゴト音がして能率があがらない　163
刈高さ自動で刈刃が突込む　163

⚠ 警告

＊各部の調整・点検・交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

⚠ 注意

＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
●メインスイッチを **“切”** 位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料計	●燃料を補給する。	103
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタアッシ フューエルフィルタカートリッジ	●フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ●燃料パイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	117 115
		燃料の種類	燃料の種類	●ディーゼル軽油を補給する。	103
	セルモータが回らない	主変速レバーが **“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーが **“切”** になっていない。	主変速レバー 脱こくクラッチレバー 刈取クラッチレバー	●主変速レバーを **“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にする。 （主変速レバーを **“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーを **“切”** 位置にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。）	11, 41
		駐車ブレーキを踏んでいない。	駐車ブレーキペダル	●駐車ブレーキペダルを踏込む。 （駐車ブレーキを踏まないとエンジンは始動しません。）	41
		バッテリが上がっている。	バッテリ （ホーンの音が小さい）	●補充電する。	146
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	●点検し，切れている場合は同じ容量(A)のヒューズに交換する。（アンペア数に注意） （スローブローヒューズはエンジンルームのオイルゲージ付近にあります。）	150

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点検箇所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，刈取クラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみこんでいる。	刈刃部	●異物を取除き，刈刃部を点検する。	142
		搬送部	●異物を取除き，周辺を点検する。	—
	刈取クラッチベルトがスリップしている。	刈取クラッチベルト テンションスプリング	●テンションスプリングを張る。	127
	刈刃の切れが悪い。	刈刃	●刈刃に注油してください。	96

刈取部でのロスが多い

すぐにすること	原　　因	点検箇所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，刈取クラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	リール高さが低すぎる。	リール高さ	●リールで作物を押えすぎないよう，リール高さを調節してください。	63
	刈刃の前で作物が滞留している。	リール高さ	●リールの高さを低くセットし，作物が刈刃からオーガドラムへスムーズに送込まれるようにしてください。	63
	向い刈りでリールが作物を押えつけている。	リール高さ	●リールの高さを適正に調節してください。	63

リールで巻上げや巻付きをおこす

すぐにすること	原　　因	点検箇所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，刈取クラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	タイン角度が後方になっている。	タイン角度	●リールタイン角度を適正にしてください。	72
	リール高さが低すぎる。	リール高さ	●リールの高さを適正にしてください。	63

こく粒の飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	エンジン回転数が高い。	回転計	●回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	59
	トウミ風力調節が強すぎる。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を **“弱”** の方に調節する。	73
	こぎ室送じんレバーが開きすぎる。	こぎ室送じんレバー調節	●こぎ室送じんレバーを **“閉”** の方に調節する。	75
	シーブ調節を閉めすぎる。	シーブ調節	●シーブ調節レバーを **“開”** の方にする。	72

選別が悪くなった

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
莢からや，茎ぎれが入っている。	エンジン回転数が低い。	回転計	●回転計を見ながらアクセルレバーで正規回転にする。	59
	トウミ風力調節が弱い。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を **“強”** の方に調節する。 ● **“強”** にしても不足の場合，トウミ風路切換えを下側流のみにする。	73 73
	シーブのすき間が広すぎる。	シーブ調節	●シーブ調節レバーを **“閉”** の方にする。	72

損傷粒が多い

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
破砕粒や皮切れ粒が多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	●回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	59
	こぎ室送じんレバーが閉じすぎる。	こぎ室送じんレバー	●こぎ室送じんレバーを **“開”** の方にする。	75

汚粒がでる

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
大豆に黒い斑点が付く。	刈取適期が早い。	作物成熟度	● 葉が完全に落ちて莢をふるとカラカラと乾いた音がする時期までのばす。	55
	刈取時間が早い。	作物の乾燥度	● 莢水分20％前後，指でさわってベトつかない時間までのばす。	55
	雑草や青立が多い。	ほ場管理	● 雑草や青立茎は完全に取除く。	55
	土が入った。	自動刈高制御の自動切換えスイッチ	● 自動刈高制御のスイッチを **“自動”** にする。 一度，土をかみ込んだら完全に取除いてから作業を始めてください。	24, 59
		ソリセンサ	● ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	25
	こぎ室送じんレバーが閉になっている。	こぎ室送じんレバー	● こぎ室送じんレバーを **“開”** の方にする。	75
	シーブケース上に埃が蓄積している。	トウミ風路切換えレバー	● トウミ風路切換えを **“上下分流”** にし，シーブケース上にも風を流す。	73
	刈取部で発生する埃が多い。	クリーンファンスイッチ	● クリーンファンスイッチを **“入”** にする。	15

莢付粒が多い

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
莢付粒が多い。	こぎ室送じんレバーが開きすぎる。	こぎ室送じんレバー	● こぎ室送じんレバーを標準又は **“閉”** の方にする。	75
	２番還元の調節。	２番還元	● ２番還元をこぎ胴に還元してください。	75

こぎ室でゴトゴト音がして能率があがらない

現　象	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
ゴトゴト音がする。	作物水分が高い。	作物の乾燥度	●よく乾燥してから刈取ってください。	55
	作物の送りが不均一。	——	●リールが前すぎる場合は，後ろにさげてください。	62
	エンジン回転が低い。	回転計	●回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	59
	作物速度が速い。	——	●車速を落としてください。	64
	こぎ室送じんレバーが閉になっている。	こぎ室送じんレバー	●こぎ室送じんレバーを **“開”** の方にする。	75

刈高さ自動で刈刃が突込む

現　象	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
刈刃が突込む。	枕地の横刈りやほ場の起伏が多い。	自動刈高制御の自動切換スイッチ	●枕地のうねの横刈りや起伏の激しいほ場では自動車体水平制御 **“自動”** 刈高制御 **“手動”** で行なってください。 ●各条の刈初めは，ゆっくりと刈高さを合わせながら操作してください。	24, 59
	ソリセンサの上に土が入っている。	ソリセンサ	●ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	25

付表

主要諸元

農機型式名			ARH350		ARH350G	
商品名			ARH350			
区分			H	CH	G	CG
機体寸法	全長 (mm)		4825			
	全幅 (mm)		1935	2025	2060	2150
	全高 (mm)		2410	2515	2720	
機体質量〔重量〕(kg)			2260	2380	2460	2580
エンジン	名称		V1505-C-10			
	型式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L{cc})		1.498 {1498}			
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		25.7 {35.0} / 3000			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		40			
	始動方式		セルモータ			
	バッテリ (V·Ah)		65D23L-MF（12・52）			
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	980			
		幅×接地長 (mm)	360×1500			
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm^2})	20.5 {0.21}	21.6 {0.22}	22.3 {0.23}	24.1 {0.24}
	最低地上高 (mm)		165～265			
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各3段〕			
	走行速度 (m/s)	前進	〔副変速〕低速：0～0.83　標準：0～1.2　走行：0～2.2			
		後進				
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕			
刈取部	引起し方式		リール引起し			
	リール	径 (mm)×バーの数 (本)	1000×6			
		変速方式	一定回転＋車速同調式			
		上下調節方式	油圧式			
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1520			
	刃幅 (mm)		1430〔フィンガ式〕			
	刈高さ〔昇降〕範囲 (mm)		－80～720〔刈刃先端〕			
脱こく部	脱こく方式		軸流式〔コギ刃式〕			
	こぎ胴	径×幅 (mm)	500×1700			
		回転数 (mm)	大豆・そば：385　麦：805			
	選別方式		揺動・風選			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

農機型式名				ARH350		ARH350G	
商品名				ARH350			
区分				H	CH	G	CG
こく粒処理部			タンク容量(L)	——		800	
こく粒処理部	グレンタンク仕様	アンローダ	排出方式	——		バケット＋ベルトコンベア方式	
			排出時間	——		５分	
			旋回範囲(度)・旋回方式	——		206・モータ式	
			昇降範囲(度)・昇降方式	——		−6〜25・油圧式	
			排出高さ〔作業時〕	——		3230	
			排出長さ〔作業時〕	——		3150	
	ホッパ仕様	ホッパ	容量(L)	200		——	
			口数・取出方式	３口・袋詰め		——	
諸装置	自動化装置		自動刈高制御	○			
			刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	○			
			刈取対地平行制御	○			
			車体水平制御	○			
			アンローダ自動旋回制御	——		○	
			自動エンジン停止装置	○			
	クリーンファン			○			
	パワークラッチ〔刈取〕			○			
	アンローダリモコン			——		○	
	キャビン			——	○	——	○
	警報装置			燃料・水温・油圧・オーバヒート・充電・負荷・こく粒満杯・２番警報・１番詰まり・オーガ詰まり			
適応作物範囲〔全長〕(mm)				300〜1300（刈取部適応範囲700以下）			
作業能率(a/h)				27〜33			
適応作物				大豆・そば・麦			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
＊諸装置について　○：標準装備　−：非装備（後付け不可）

付表

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊取扱説明書確認カード	1
＊メンテナンスブック	1
＊取扱説明書	1
＊本機カバー	1
＊刈取逆転ハンドル（RC仕様は除く）（64ページ参照）	1
＊２番還元，こぎ胴用還元板（75ページ参照）	1

オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■そば用キット

そばの刈取作業に使用します。キットは，そば・麦共通キットとそば専用キットの両方を使用します。

品　番	品　名
5T000-8603-0	キット（そば・麦共通）
5T000-8604-0	キット（そば専用）

※組付要領については，**“そば・麦・小豆用キット組付要領”**（179～190ページ）を参照してください。

■麦用キット

麦の刈取作業に使用します。キットは，そば・麦共通キットと麦専用キットの両方を使用します。

品　番	品　名
5T000-8603-0	キット（そば・麦共通）
5T000-8605-0	キット（麦専用）

※組付要領については，**“そば・麦・小豆用キット組付要領”**（179～187，191～193ページ）を参照してください。

■小豆キット

小豆の刈取作業に使用します。

品　番	品　名	適応型式
5T000-8607-0	キット（小豆）	G仕様除く

※組付要領については，**“そば・麦・小豆用キット組付要領”**（194～197ページ）を参照してください。

■バックミラー

刈取部左側に取付ける大型のバックミラーです。あぜ際の旋回時などで便利です。

品　番	品　名
5T000-8610-0	ミラー，アッシ（バックミラー）

■リフターキット

刈取部に取付けます。倒伏した大豆や短稈の大豆を収穫するとき，刈取部への送込みを良くします。

品　番	品　名
5T000-8608-0	キット（リフター）

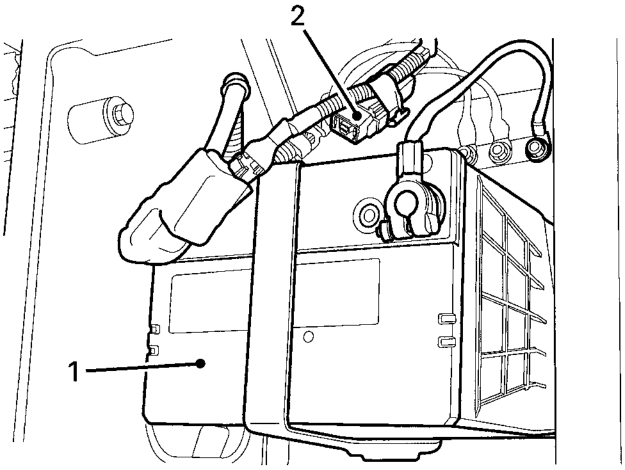
■チョッパ

排かんの切断作業に使用します。

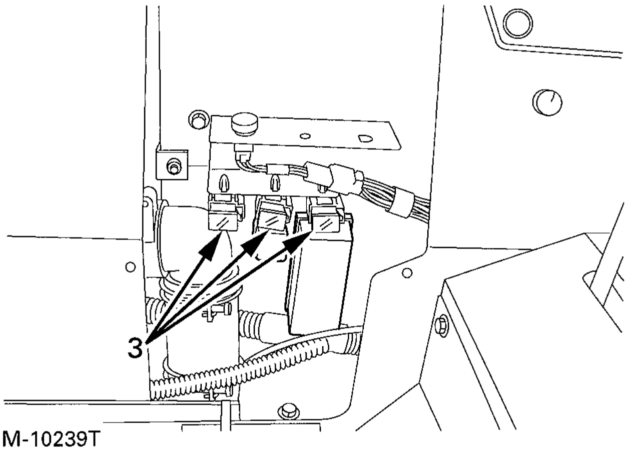
品　番	品　名	適応型式
5T000-8602-0	CH350	RC仕様を除く全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆バッテリ・スローブローヒューズ



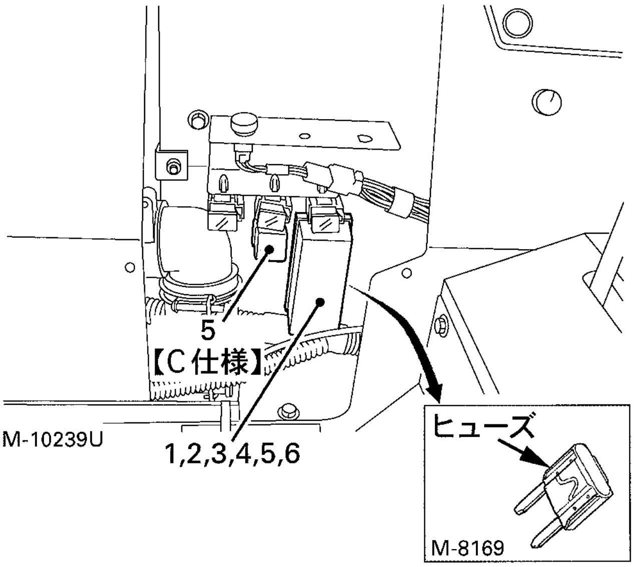
M-9745T



M-10239T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ（デルコ･65D23L）	5H163-4111-0	全型式
2	スローブローヒューズ(65A)	33780-7555-0	
3	スローブローヒューズ(45A)	5H601-4166-0	

◆ヒューズ

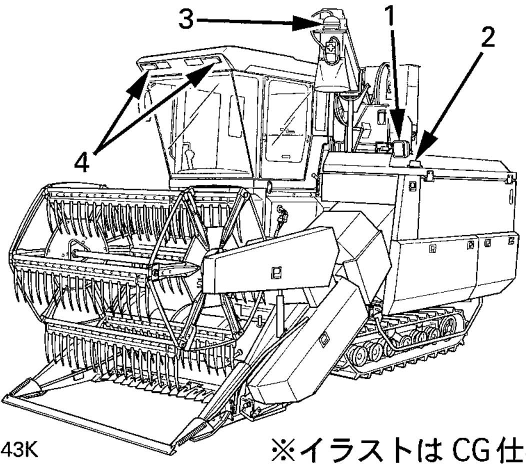


M-10239U

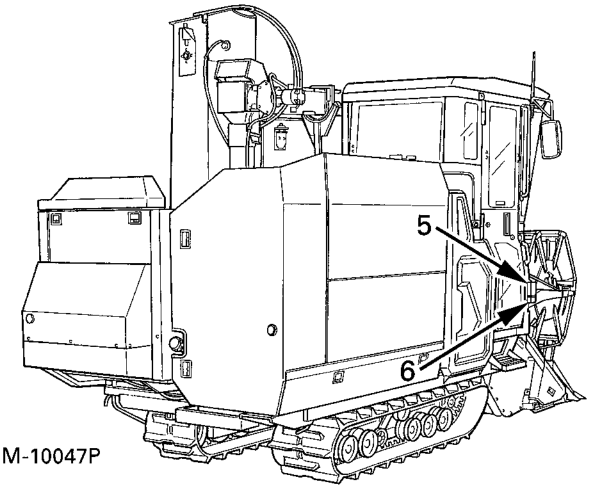
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ヒューズ5A	37410-5552-0	全型式
2	ヒューズ7.5A	58622-4148-0	
3	ヒューズ10A	36730-7555-0	
4	ヒューズ15A	35820-7556-0	
5	ヒューズ20A	36919-5665-0	
6	ヒューズ25A	56605-4215-0	

消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆ランプ（電球）

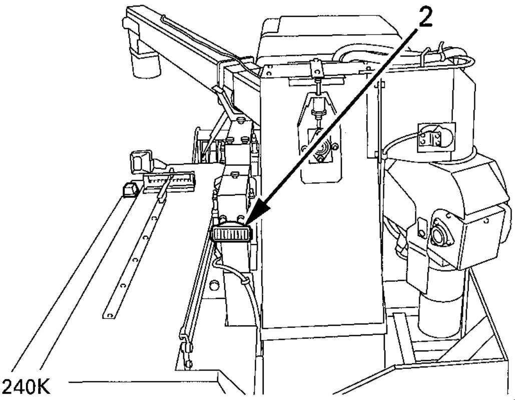


M-10043K　※イラストはCG仕様



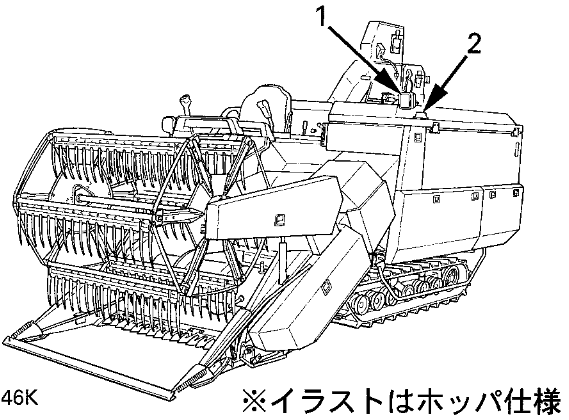
M-10047P

※イラストはCG仕様

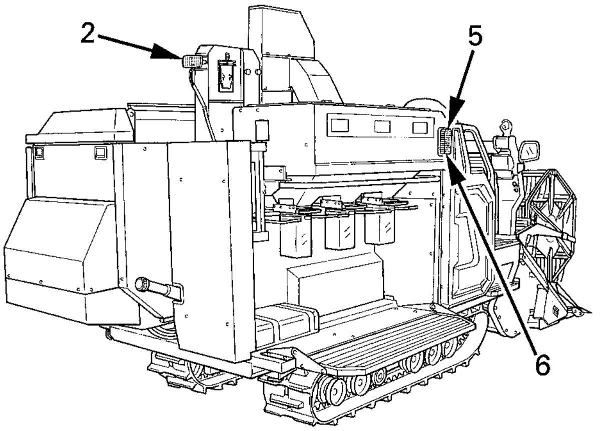


M-10240K

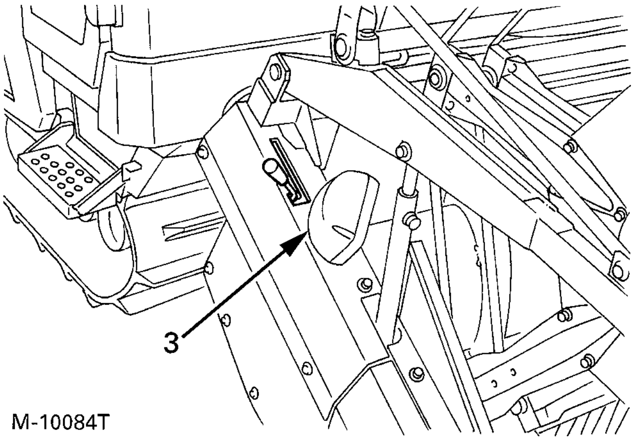
※イラストはCG仕様



M-10046K　※イラストはホッパ仕様



M-10048P　※イラストはホッパ仕様

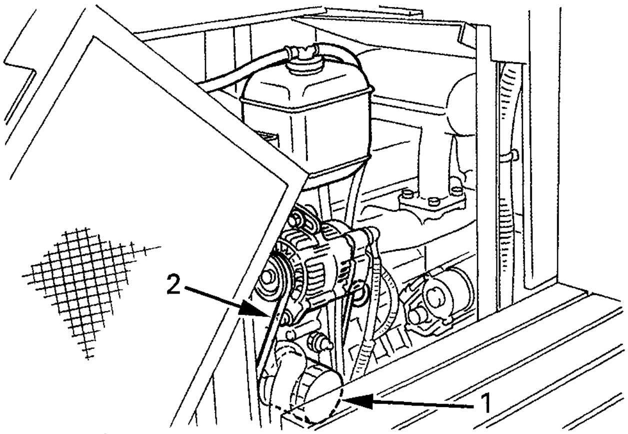


M-10084T

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	デンキュウ	5T009-6735-0	全型式
2	ランプホンタイ	56713-4171-0	
3	ランプバルブ(12V55W)	3G710-7590-0	
4	ランプアッシ	5H690-4183-0	C仕様
5	バルブ(12V10W)	5H601-4184-0	全型式
6	デンキュウ	38450-3421-0	

消耗部品（純正部品を使いましょう）

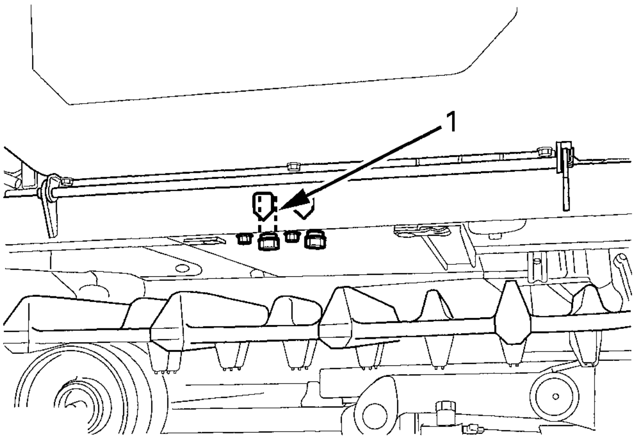
◆オイルフィルタカートリッジ
◆ファン駆動ベルト（38.5ブイベルト）



M-9784T改

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	オイルフィルタカートリッジ	16271-3209-2	全型式
2	38.5ブイベルト	16206-9701-0	

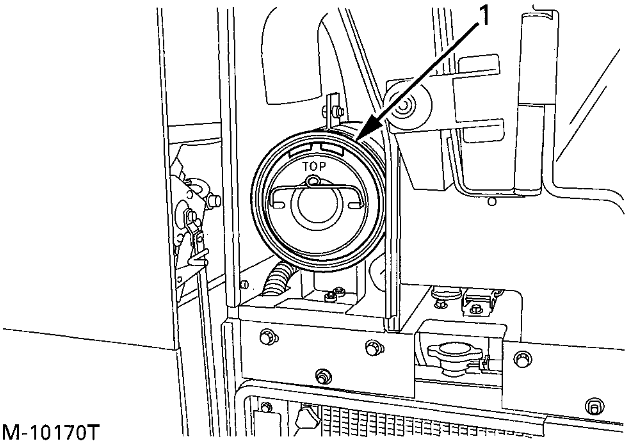
◆オイルドレーンゴムホース



M-9686T改

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	チューブ(ハイユ)	52450-2591-0	全型式

◆エアクリーナ



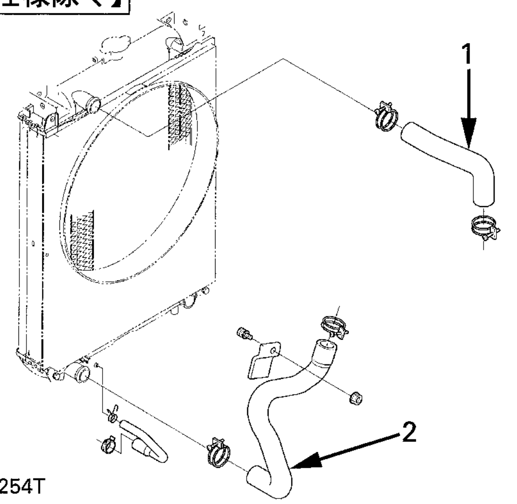
M-10170T

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	RD401-4227-0	全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

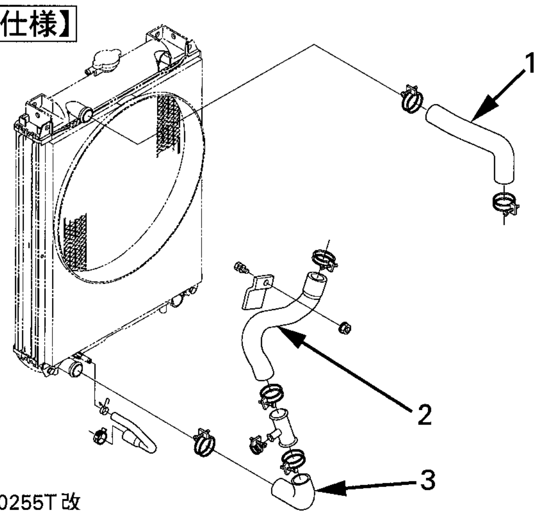
◆ラジエータホース

【C仕様除く】



M-10254T

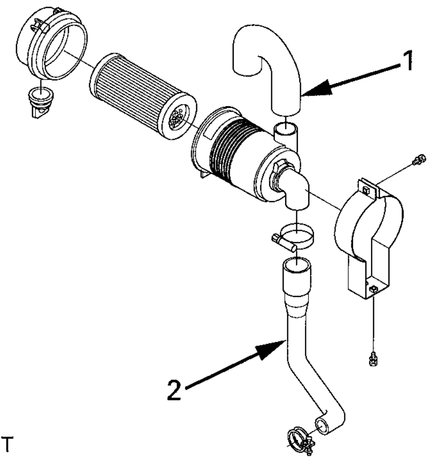
【C仕様】



M-10255T改

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	ホース(1，ウォータ)	5H700-2571-0	全型式
2	ホース(2，ウォータ)	5H702-2572-0	C仕様除く
		5H707-2572-0	C仕様
3	ホース(3，ウォータ)	5H707-2573-0	

◆インレットパイプ

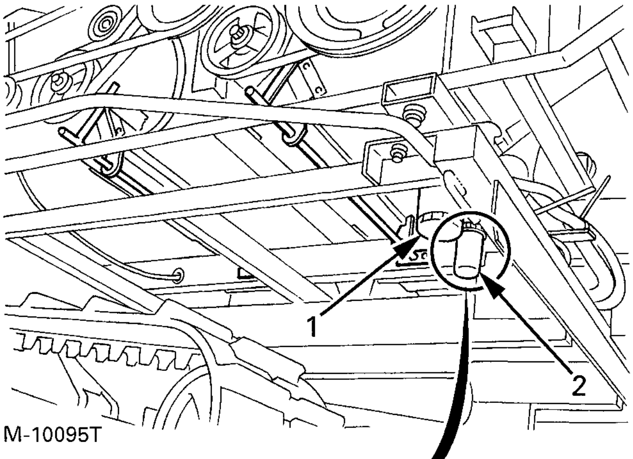


M-10256T

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	ホース(2，インレット)	5H700-2632-0	全型式
2	ホース(1，インレット)	5T000-2631-0	

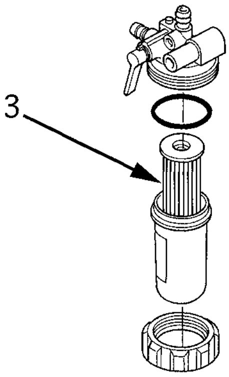
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタカートリッジ
◆フューエルフィルタアッシ，フィルタエレメント

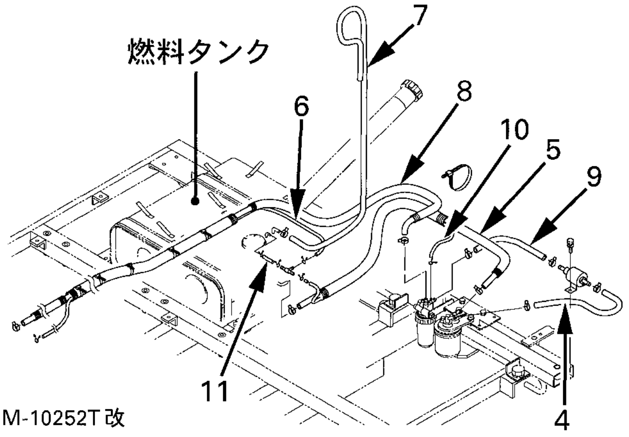


M-10095T

【フューエルフィルタアッシ】



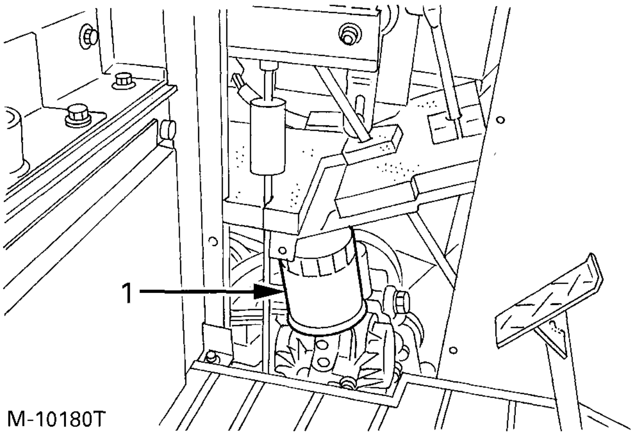
M-8177A



M-10252T改

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタエレメント	15291-4301-0	全型式
2	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-0	
3	エレメントアッシ	16271-4356-0	
4	フューエルチューブ	09661-70280	
5	フューエルチューブ	09661-70800	
6	フューエルチューブ	09661-42400	
7	フューエルチューブ	09661-70625	
8	フューエルチューブ	09661-40575	
9	フューエルチューブ	09661-70070	
10	フューエルチューブ	09661-40350	
11	フューエルチューブ	09661-70900	

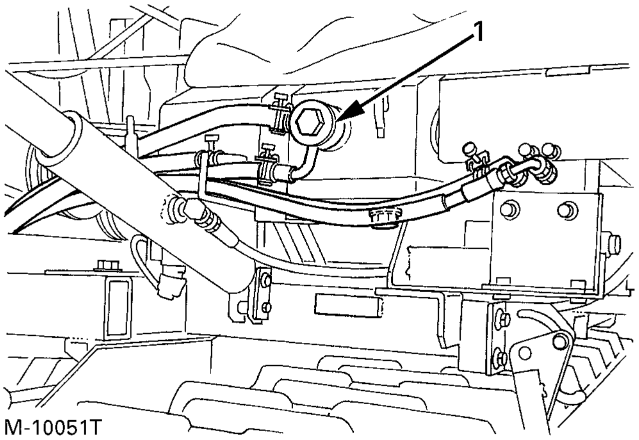
◆HSTオイルフィルタカートリッジ



M-10180T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	オイルフィルタカートリッジ	66021-3606-0	全型式

◆油圧オイルフィルタ

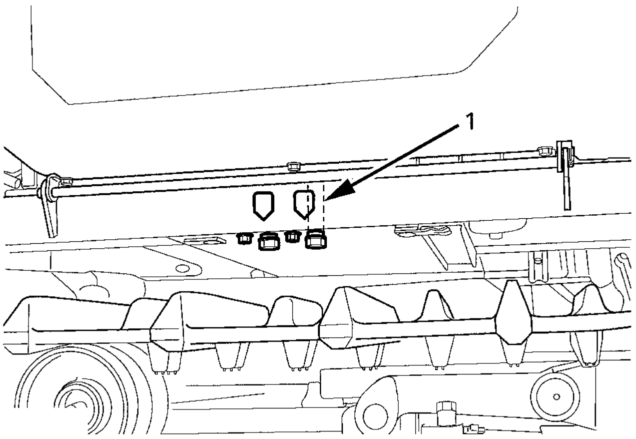


M-10051T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0	全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

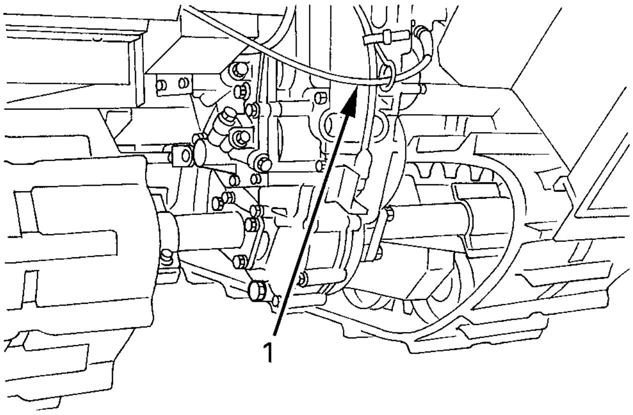
◆排水ホース



M-9686U 改

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ(ハイスイ)	5H700-2574-0	全型式

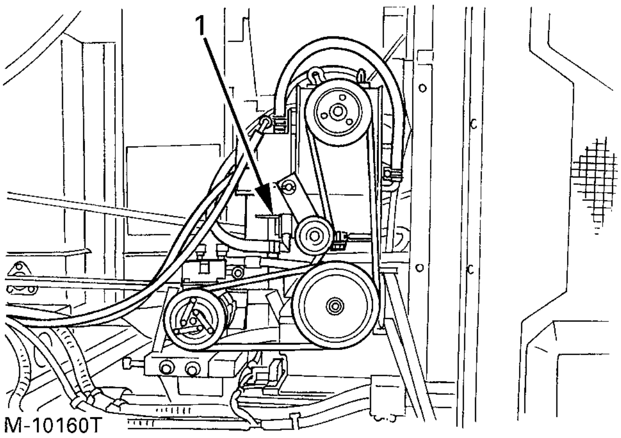
◆各ワイヤ



M-10158T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ワイヤ(ブレーキ)	5H700-3218-0	全型式

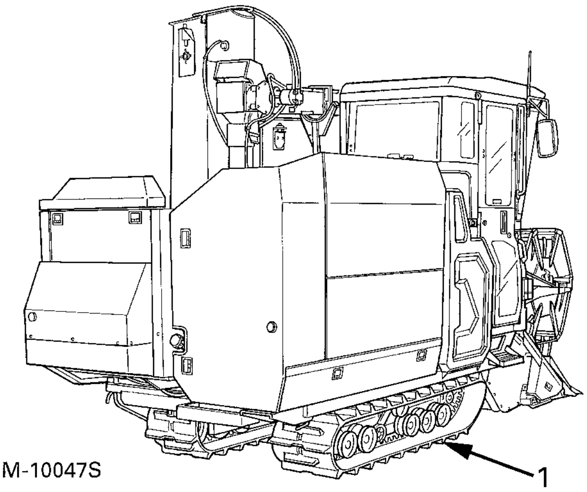
◆アンローダ駆動油圧オイルタンクフィルタ【グレンタンク仕様】



M-10160T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ストレーナ	52600-2765-0	G仕様

◆クローラ

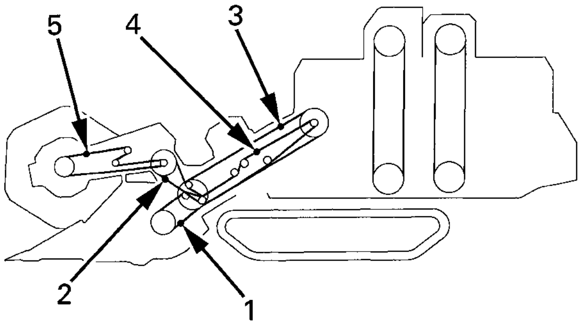


M-10047S

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ(360×47)	5T000-2254-0	全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

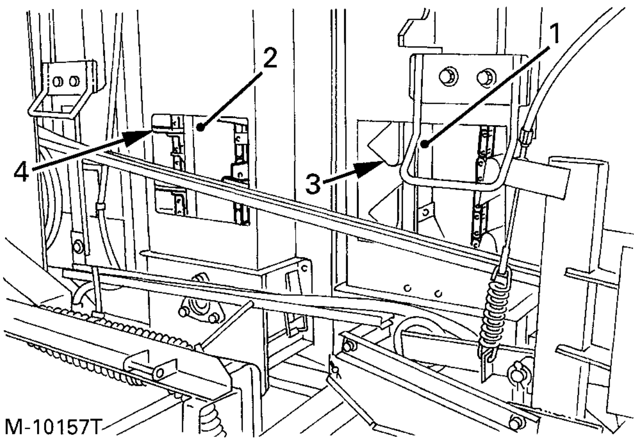
◆チェーン関係



M-10197T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	I, チェーン(ローラ/040×93) Assy	5T008-5538-0	全型式
2	I, チェーン(ローラ/040×105) Assy	5T008-5591-0	
3	I, チェーン(フィード/76/RH) Assy	5T008-5433-0	
	I, チェーン(フィード/76/LH) Assy	5T008-5436-0	
4	I, チェーン(ローラ/050×163) Assy	5T008-5522-0	
5	I, チェーン(ローラ/041×182) Assy	5T008-5556-0	

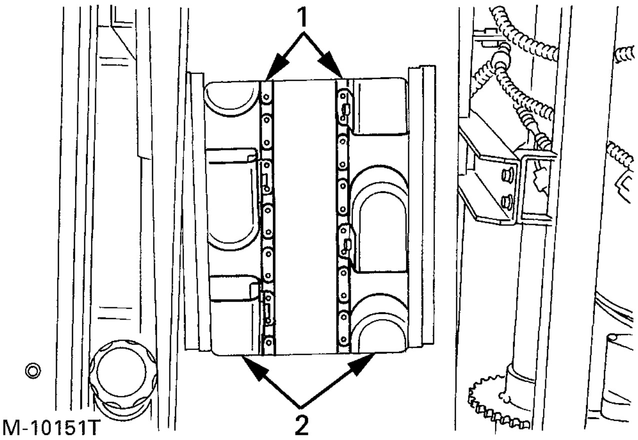
◆１番・２番バケットコンベア



M-10157T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	エレベータチェーン１バン	5T009-6428-0	G仕様
		5T009-6458-0	H仕様
2	エレベータチェーン２バン	5T009-6397-0	全型式
3	バケット75	5T009-6371-0	
4	２バンスラット	5T009-6395-0	

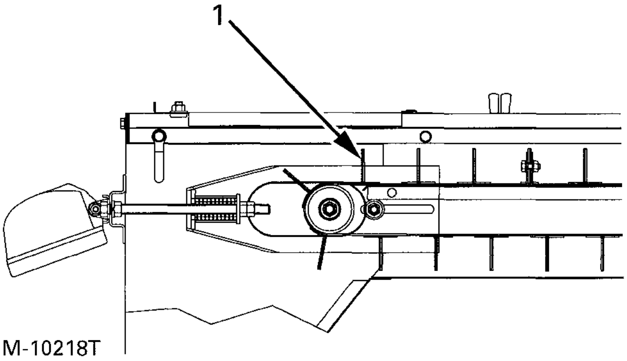
◆排出バケットコンベア【グレンタンク仕様】



M-10151T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン, アッシ(バケット)	5T000-7720-0	G仕様
2	バケット	51873-7924-0	

◆アンローダ搬送ベルトコンベア【グレンタンク仕様】

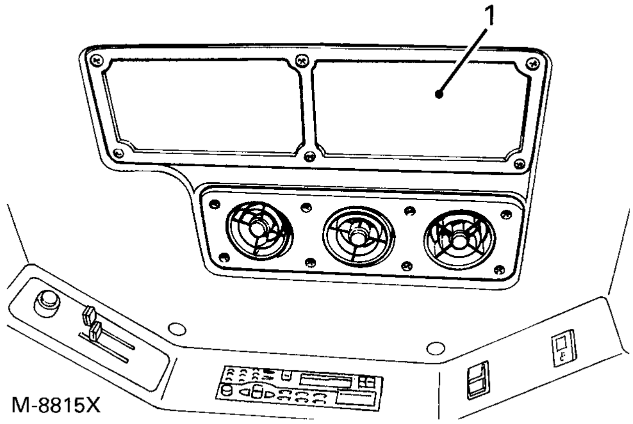


M-10218T

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ヒラベルト	5 T000-7861-0	G仕様

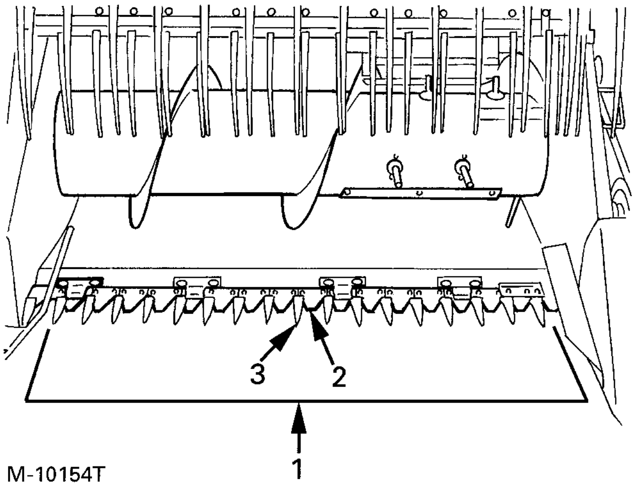
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆内気フィルタ【C仕様】



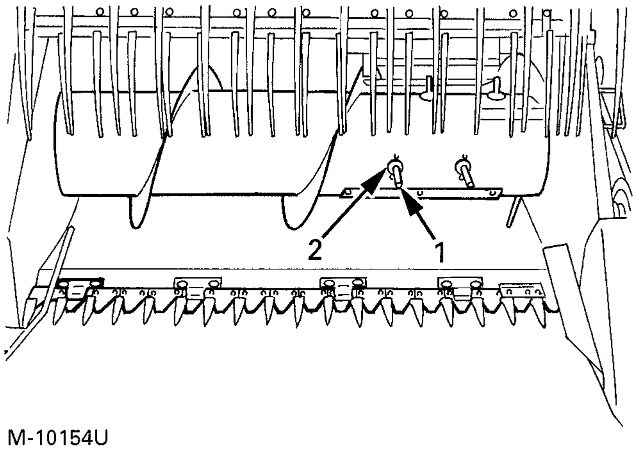
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ(ナイキ)	54800-3843-0	C仕様

◆刈刃


3
2
1
M-10154T

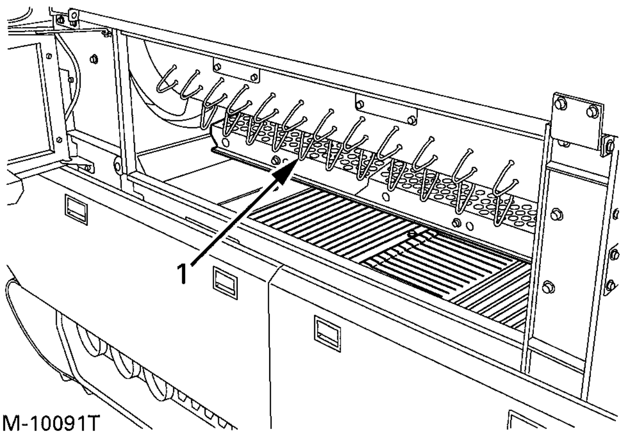
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	I，ナイフ，ASSY	5T008-5268-0	全型式
2	I，ナイフ	5T008-5272-0	
3	I，フィンガ(W)	5T008-5276-0	

◆フィンガ



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	I，ピン(フィンガ/15×215)	5T008-5359-0	全型式
2	I，ピボット	5T008-5362-0	

◆こぎ歯

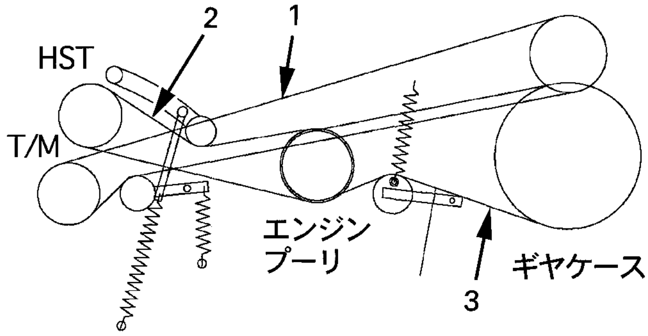


図番	品　　名	品　番	対象型式
1	コギハ	5T009-6479-1	全型式

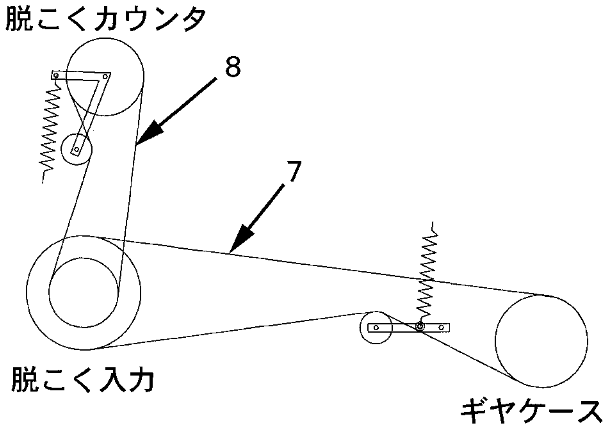
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆各ベルト

エンジン周り

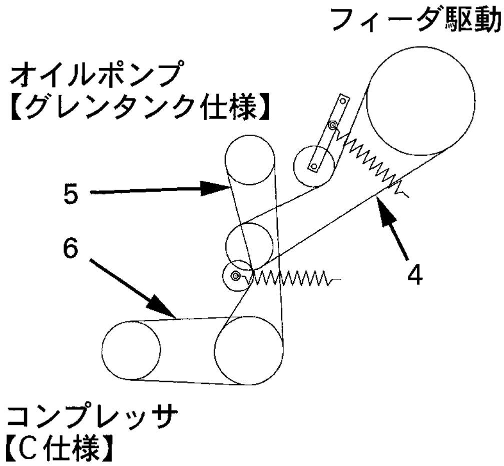

2
1
HST
T/M
エンジン
プーリ
ギヤケース
3

脱こく右側面部

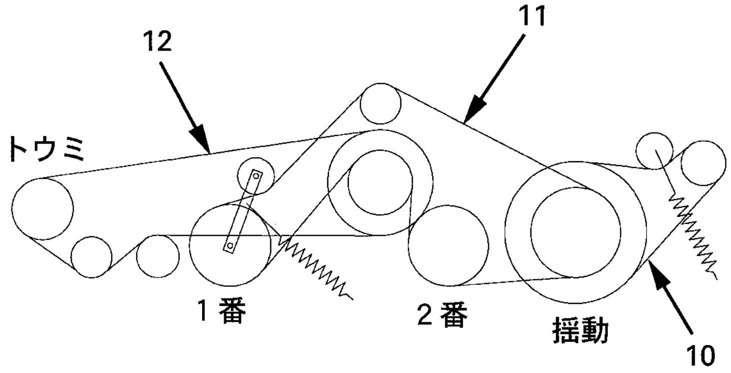

脱こくカウンタ
8
7
脱こく入力
ギヤケース

M-10248T

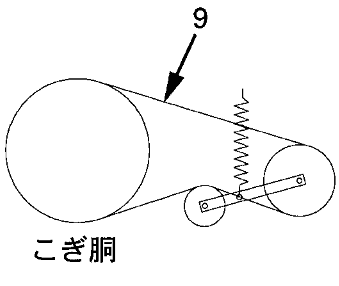
ギヤケース部


フィーダ駆動
オイルポンプ
【グレンタンク仕様】
5
6
4
コンプレッサ
【C仕様】

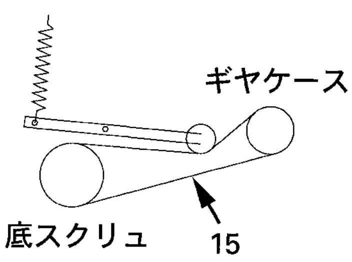
脱こく左側面部

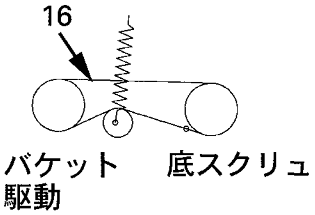

12
11
トウミ
1番
2番
揺動
10

脱こく後部

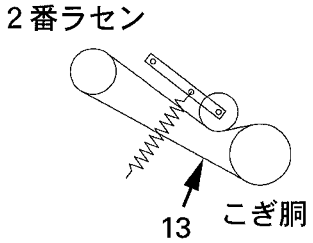


グレンタンク部【グレンタンク仕様】

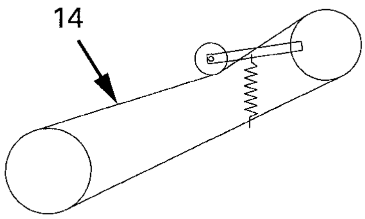

ギヤケース
底スクリュ
15


16
バケット
駆動
底スクリュ

脱こく前部


2番ラセン
13
こぎ胴

刈取部



M-10249T

消耗部品（純正部品を使いましょう）

	図番	品　名	品　番	対象型式
エンジン周辺部	1	Vベルト(B101)	5T000-1165-0	全型式
	2	Vベルト(B54)	5H700-1161-0	
	3	Vベルト(C68)	5T000-1164-0	
ギヤケース部	4	Vベルト(B55)	5T000-1167-0	
	5	Vベルト(B49)	5T000-2957-0	グレンタンク仕様
	6	Vベルト(A39)	59819-3627-0	C仕様
脱こく部	7	Vベルト(C139)	5T000-1168-0	全型式
	8	Y,VベルトトクC64H	5T009-6726-0	
	9	Y,VベルトトクC62H	5T009-6584-0	
	10	Y,VベルトトクB46H	5T009-6581-0	
	11	Y,VベルトトクB92H	5T009-6583-0	
	12	Y,VベルトトクB73H	5T009-6582-0	
	13	Y,VベルトトクB42H	5T009-6727-0	
刈取部	14	I,ベルト(VB077)	5T008-5339-0	
グレンタンク部	15	Vベルト(B46)	5H700-1212-0	グレンタンク仕様
	16	Vベルト(トクB39)	5T000-7565-0	

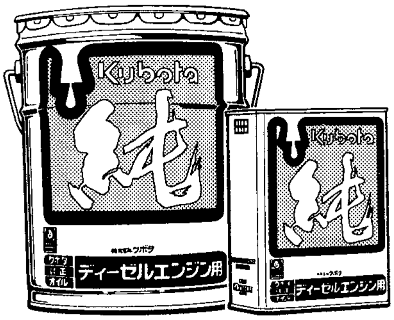
クボタ純オイル

■オイルは　クボタ純オイル　をお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

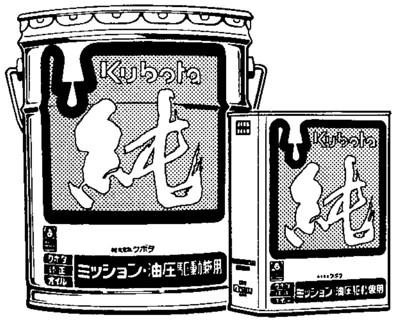
- **D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）**


Kubota
純
ディーゼルエンジン用
ディーゼルエンジン用

20L　　4L

Z-1025

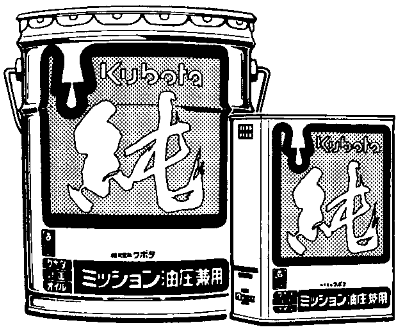
- **スーパーUDT**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）


Kubota
純
ミッション・油圧駆動兼用
ミッション油圧駆動兼用

20L　　4L

Z-1021

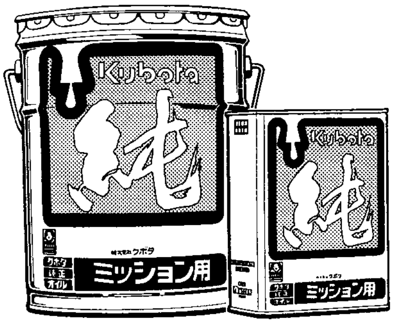
- **M80B（ミッション油圧兼用）**


Kubota
純
ミッション油圧兼用
ミッション油圧兼用

20L　　4L

Z-1024

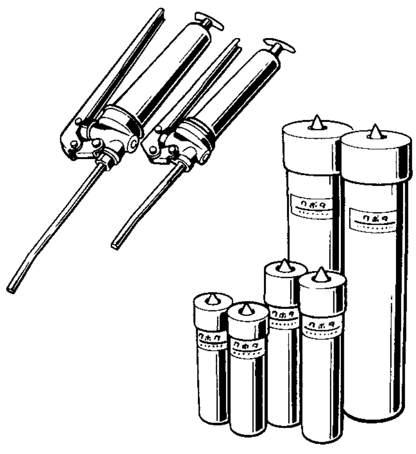
- **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**


Kubota
純
ミッション用
ミッション用

20L　　4L

Z-1023

■ クボタスペアグリース



60　100　400

Z-1026

そば・麦・小豆用キット組付要領

⚠ 警 告

＊平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊傾斜地では，組付作業（開閉や脱着）を行なわないでください。
＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

⚠ 注 意

＊刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック装置で必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

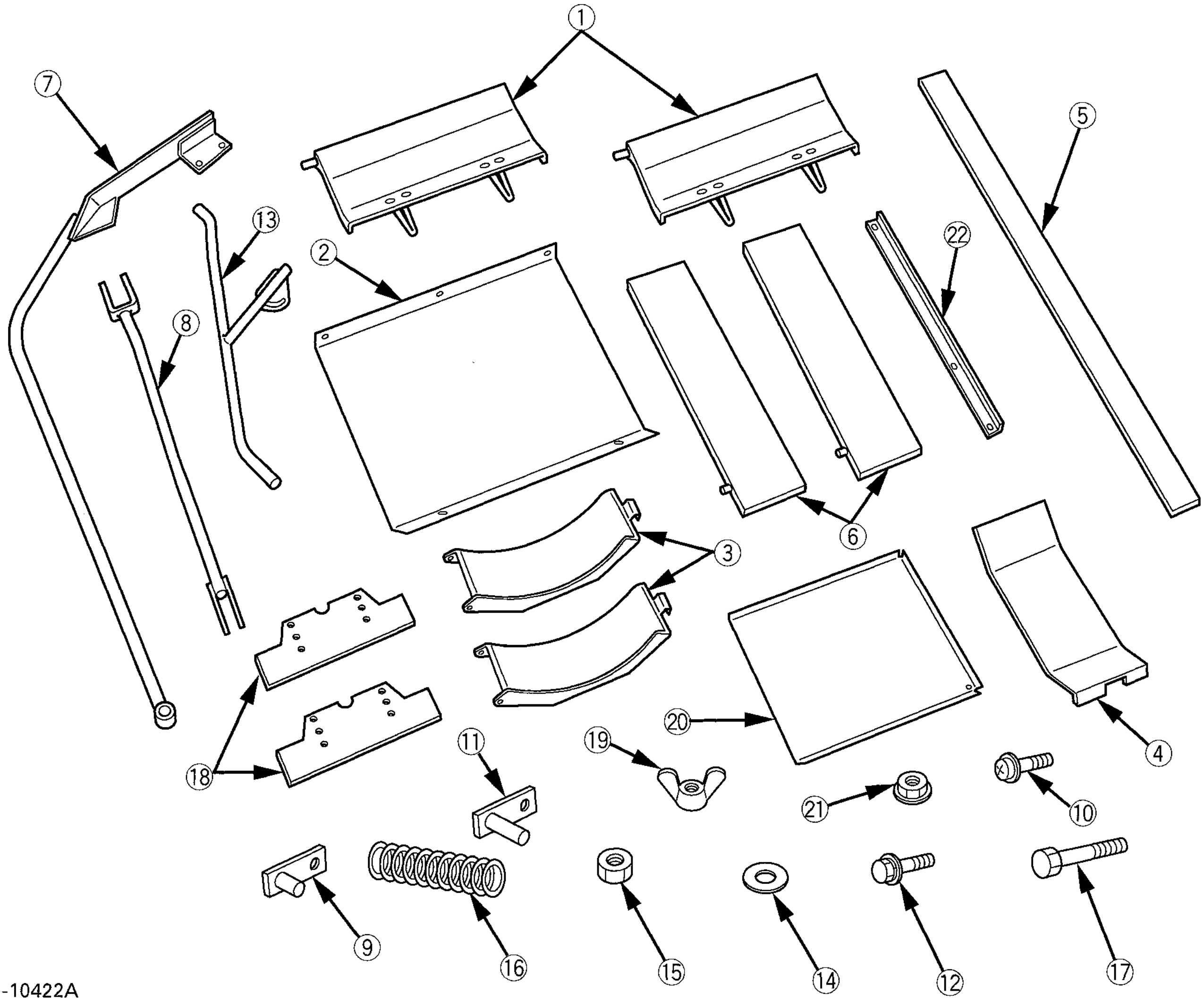
この組付要領書は，そば・麦共通とそば専用，麦専用及び小豆専用の組付要領として説明していますが，そばの場合は，そば・麦共通とそば専用，麦の場合は，そば・麦共通と麦専用，小豆の場合は，小豆専用の組付要領をよく読んで組付作業を行なってください。

そば・麦・小豆用キット組付要領

そば・麦共通キット

■組付部品

下記部品が揃っていることを確認してください。



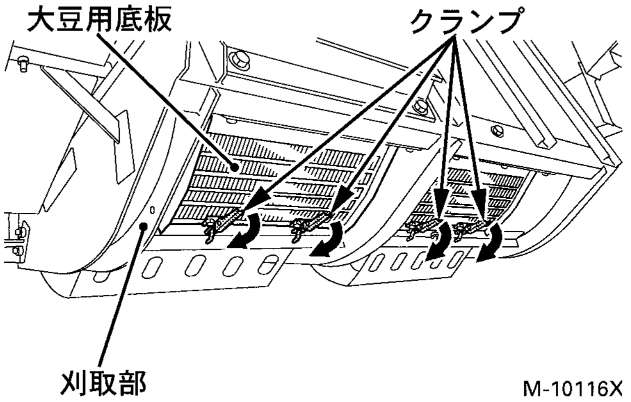
M-10422A

図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
①	刈取部底板	2	⑫	ボルト(M8×20)	2
②	フィーダ底板	1	⑬	右分草かん	1
③	1・2番バケットコンベア底板	各1	⑭	座金	3
④	排出バケットコンベア底板**【グレンタンク仕様】**	1	⑮	ナット	2
⑤	グレンタンク底板**【グレンタンク仕様】**	1	⑯	スプリング	1
⑥	1・2番スクリュ底板	各1	⑰	ボルト(M6×55)	1
⑦	左分草かん	1	⑱	トウミシャッタ	2
⑧	連結フレーム	1	⑲	蝶ナット	2
⑨	ピン(15×042)	1	⑳	排じん流し板	1
⑩	ナベコネジ(M8×20)	1	㉑	皿バネ付きナット	2
⑪	ピン(15×060)	1	㉒	スクレーパ(オーガ)	1

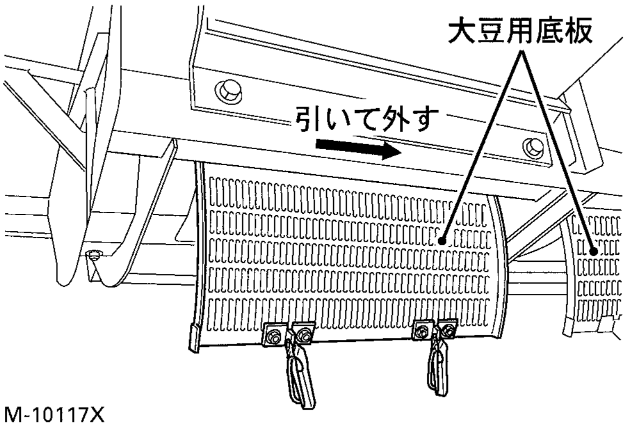
そば・麦共通キット

■刈取部底板

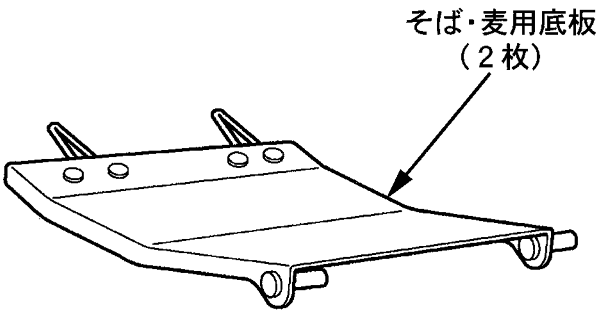
1. 刈取部を最上昇させたあと，エンジンを止めて刈取部の下降ロックを行ないます。
2. 刈取部底板の２箇所のクランプを外したあと，底板を開き大豆用の刈取部底板を右側に引いて，底板を取外します。同じようにもう片方の底板も取外します。
3. そば・麦用の底板を逆の手順で取付けます。


大豆用底板
クランプ
刈取部

M-10116X


大豆用底板
引いて外す

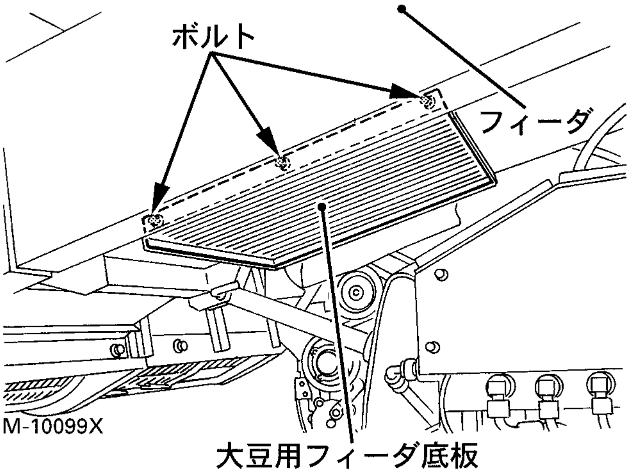
M-10117X



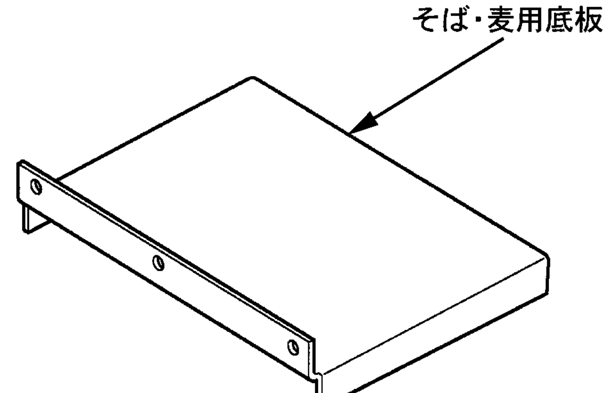
M-10420改A

■フィーダ底板

1. 刈取部を最上昇させたあと，エンジンを止めて刈取部の下降ロックを行ないます。
2. フィーダサイドカバーを取外します。
3. ボルト３本を取外し，大豆用のフィーダ底板を取外します。
4. 逆の手順でそば・麦用のフィーダ底板を取付けます。


ボルト
フィーダ
大豆用フィーダ底板

M-10099X



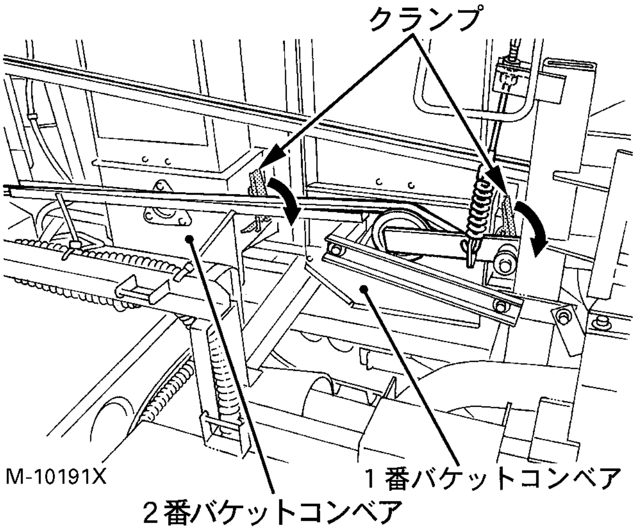
M-10420改B

5. フィーダサイドカバーを取付けます。

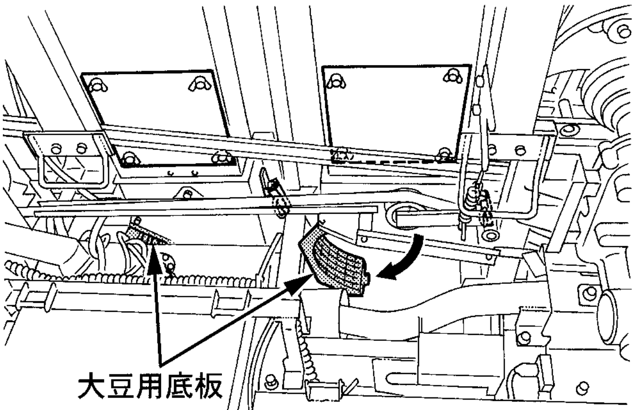
そば・麦共通キット

■1番・2番バケットコンベア底板

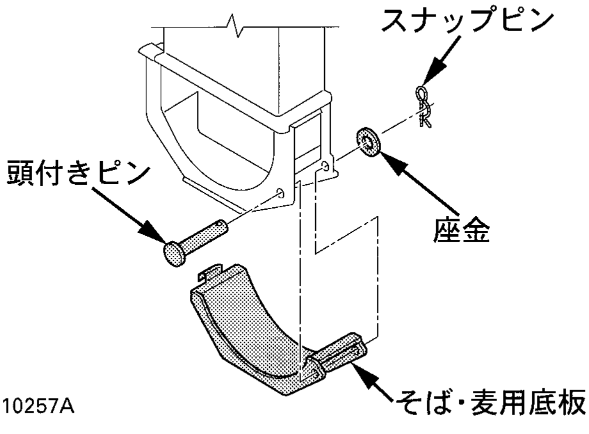
1. ホッパ仕様は，ホッパオープンを行なったあと，脱こく右サイドカバー前・後を取外し，グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンします。
2. クランプを外し底板を開いたあと，スナップピンと頭付きピンを外して，大豆用の底板を取外します。
3. 逆の手順で１番・２番両方共そば・麦用の底板を取付けます。


クランプ
1番バケットコンベア
2番バケットコンベア

M-10191X



M-10094X


スナップピン
頭付きピン
座金
そば・麦用底板

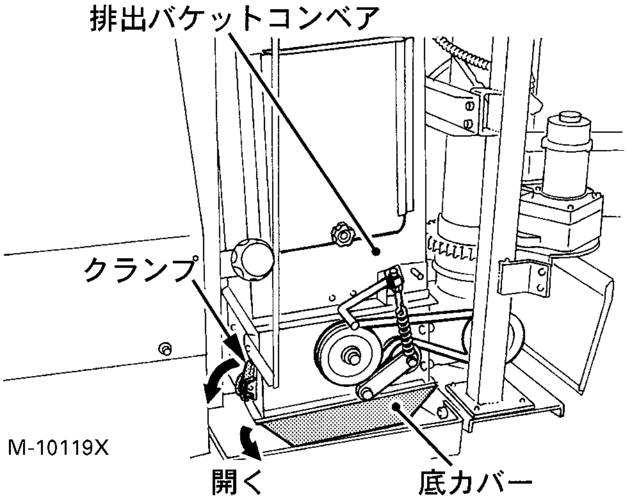
M-10257A

4. ホッパ仕様は脱こく右サイドカバー前・後を取付けたあと，ホッパを閉じ，グレンタンクを閉じます。

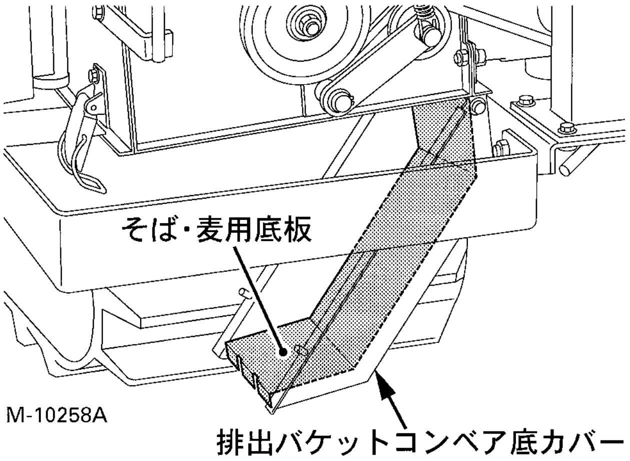
■排出バケットコンベア底板

【グレンタンク仕様】

1. グレンタンク後カバーを開きます。
2. クランプを外し排出バケットコンベア底カバーを開きます。
3. そば・麦用の底板を排出バケットコンベア底カバーの上からかぶせます。


排出バケットコンベア
クランプ
開く
底カバー

M-10119X


そば・麦用底板
排出バケットコンベア底カバー

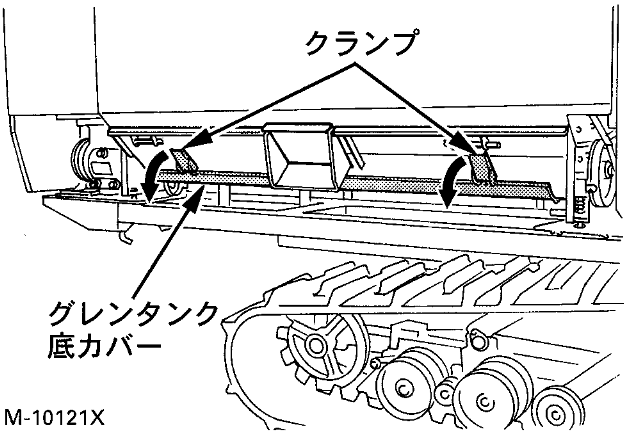
M-10258A

4. 排出バケットコンベアを閉じます。
5. グレンタンク後カバーを閉じます。

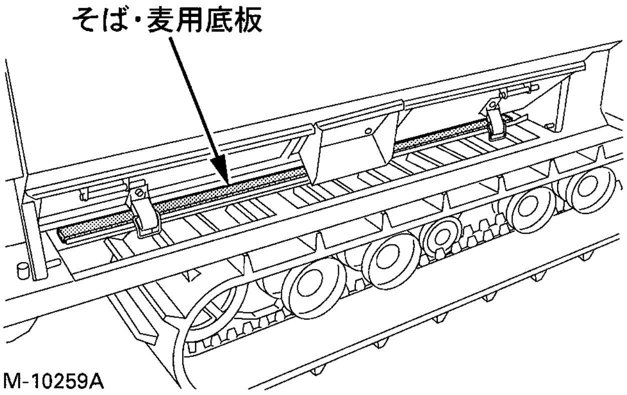
そば・麦共通キット

■グレンタンク底板【グレンタンク仕様】

1. グレンタンク右サイドカバーを外します。
2. クランプを外しグレンタンク底カバーを開きます。
3. そば・麦用の底板をグレンタンク底カバーの上からかぶせます。


クランプ
グレンタンク底カバー

M-10121X

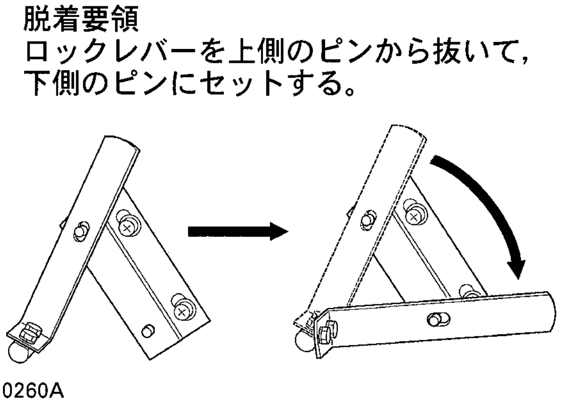


M-10259A

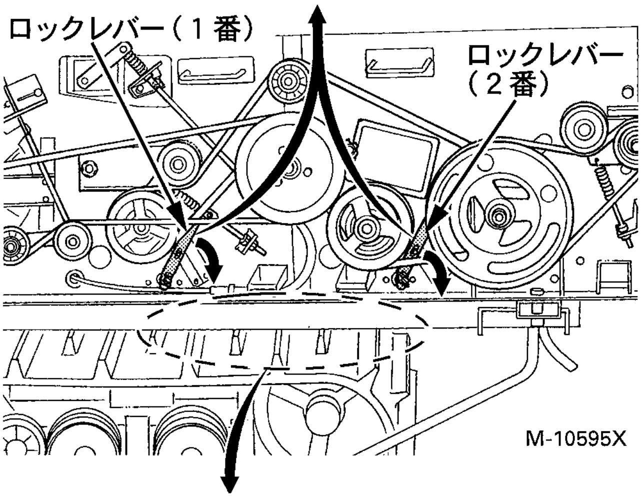
4. グレンタンク底カバーを閉じます。
5. グレンタンク右サイドカバーを取付けます。

■1番・2番横スクリュ底板

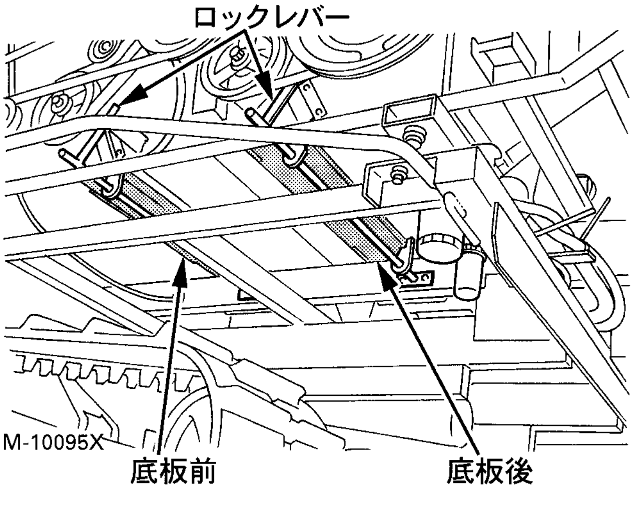
1. 脱こく左サイドカバー下1・2を取外します。
2. ロックレバーを解除し，大豆用横スクリュ底板を取外します。
3. 逆の手順で1番・2番両方共横スクリュ底板を取付けます。


脱着要領
ロックレバーを上側のピンから抜いて，
下側のピンにセットする。

M-10260A


ロックレバー（1番）
ロックレバー（2番）

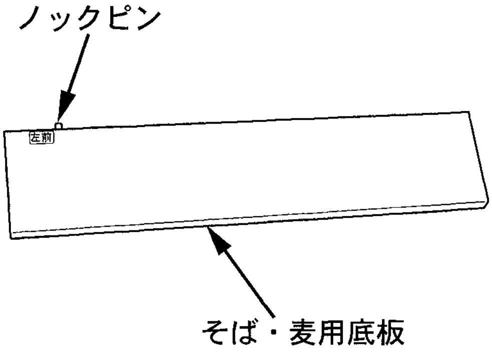
M-10595X


ロックレバー
底板前
底板後

M-10095X

補　足

＊ノックピンはガイド穴に確実に差込んでください。


ノックピン
左前
そば・麦用底板

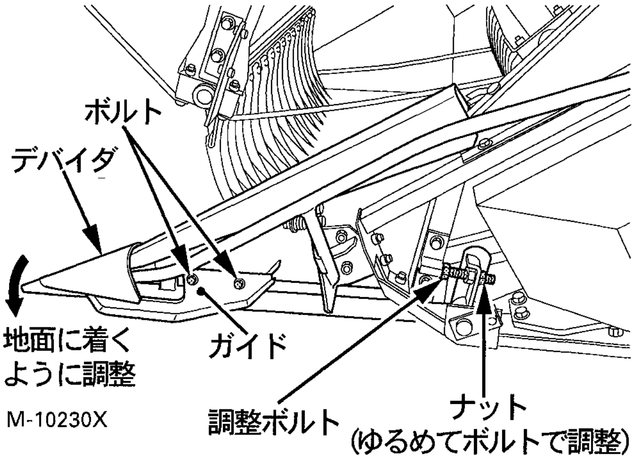
M-10421A

4. ロックレバーを元の位置にセットします。
5. 脱こく左サイドカバー下１・２を取付けます。

■左分草かんの取付け

麦の場合は倒伏時に取付けてください。

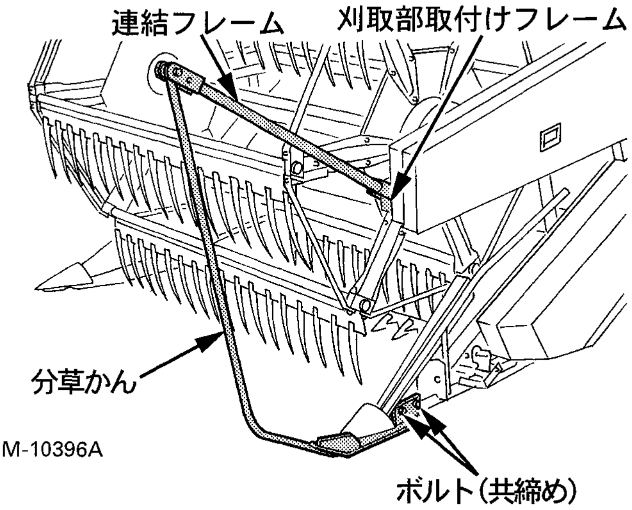
1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. 刈取左サイドカバーを取外し，デバイダの先端が地面に接地するまで調整ボルトで調整します。


ボルト
デバイダ
地面に着くように調整
ガイド
調整ボルト
ナット
(ゆるめてボルトで調整)

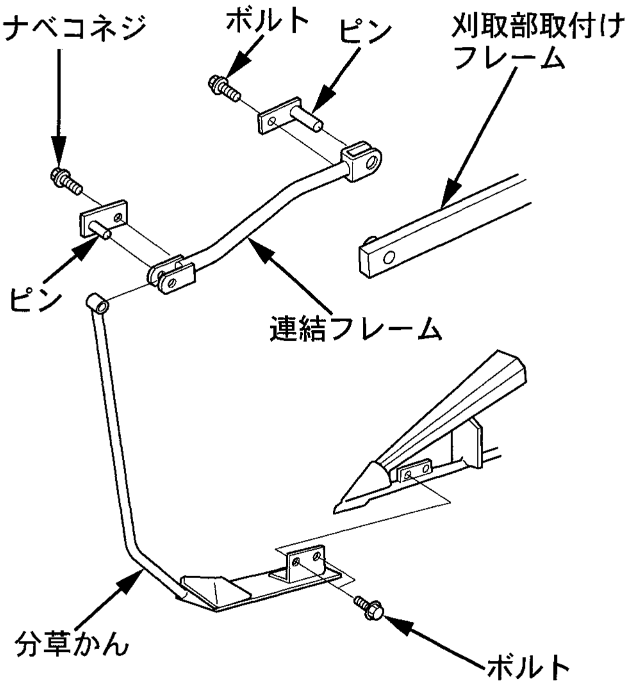
M-10230X

3. ガイドのボルト２本を取外し，分草かんを共締めします。

4. 下図のように，分草かんと刈取部の取付けフレームに連結フレームをピンとボルト及びナベコネジで取付けます。


連結フレーム
刈取部取付けフレーム
分草かん
ボルト(共締め)

M-10396A


ナベコネジ
ボルト
ピン
刈取部取付け
フレーム
ピン
連結フレーム
分草かん
ボルト

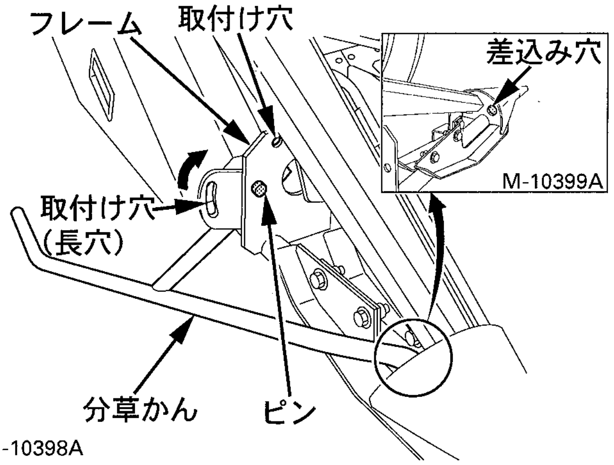
M-10397A改

5. 刈取左サイドカバーを取付けます。

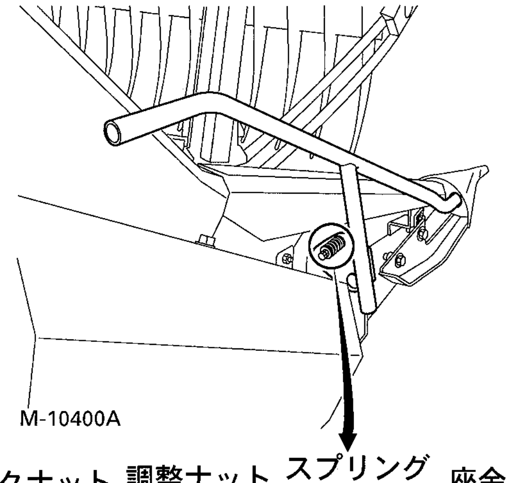
そば・麦共通キット

■右分草かんの取付け

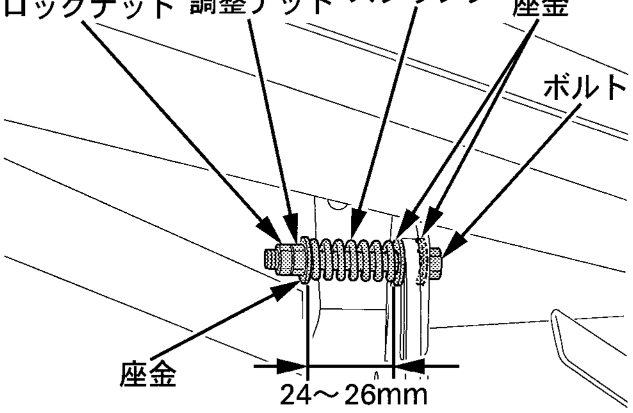
1. 分草かんを下図のように，デバイダ側の取付け穴とフレームのピンを取付け穴に差込みます。
2. デバイダ側フレームの取付け穴と分草かん側取付け穴（長穴）にボルトに座金を入れたあと，取付け穴に差込み，座金でスプリングをはさんでボルトに取付けたあと，調整ナットでスプリングの長さを24～26mmの範囲に調整します。


フレーム
取付け穴
差込み穴
M-10399A
取付け穴
(長穴)
分草かん
ピン

M-10398A



M-10400A


ロックナット
調整ナット
スプリング
座金
ボルト
座金
24～26mm

M-10401A

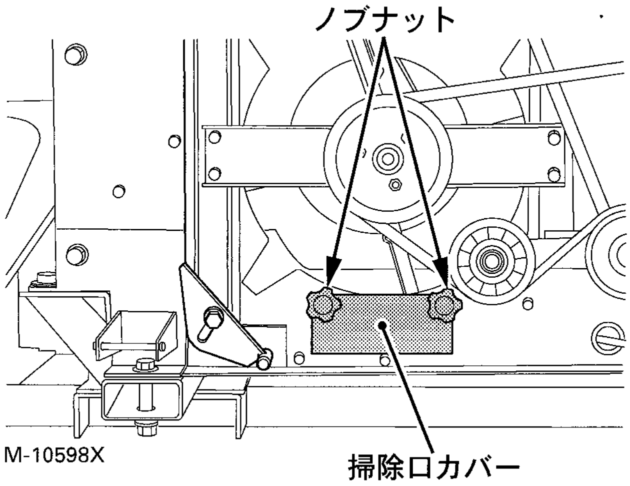
3. ロックナットを取付けてロックしたあと，分草かんを外側に軽く動くか確認します。

■トウミシャッタの取付け

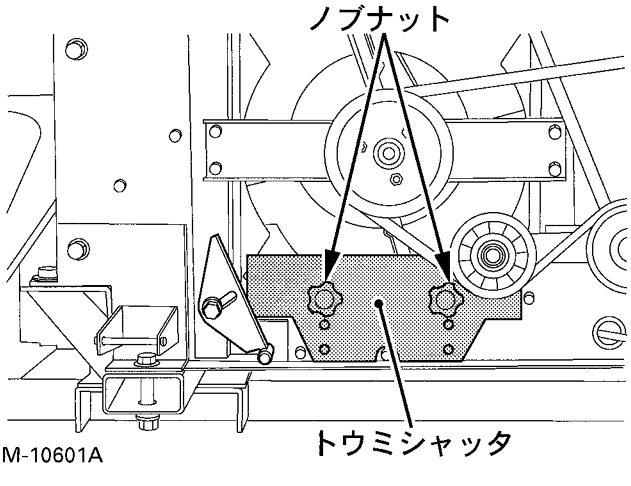
トウミシャッタは，３番ロスが多いときに取付けてください。また，トウミシャッタはトウミの左，右側それぞれに取付けてください。

◆左側

1. 脱こく左サイドカバー下１を取外します。
2. ノブナット２個を取外して掃除口カバーを取外します。
3. トウミシャッタをノブナットで取付けます。
4. 脱こく左サイドカバー下１を取付けます。


ノブナット
掃除口カバー

M-10598X

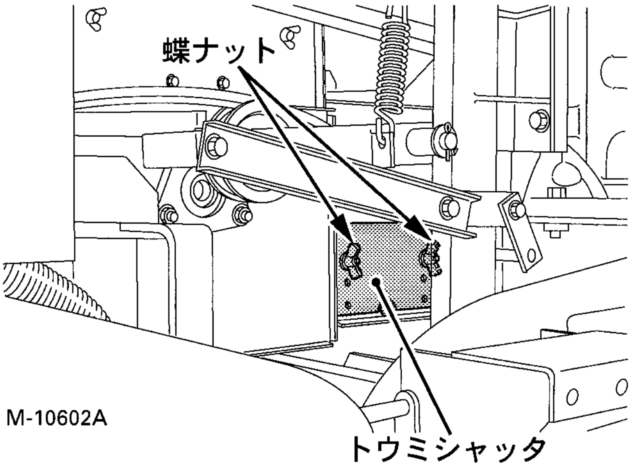

ノブナット
トウミシャッタ

M-10601A

そば・麦共通キット

◆右側

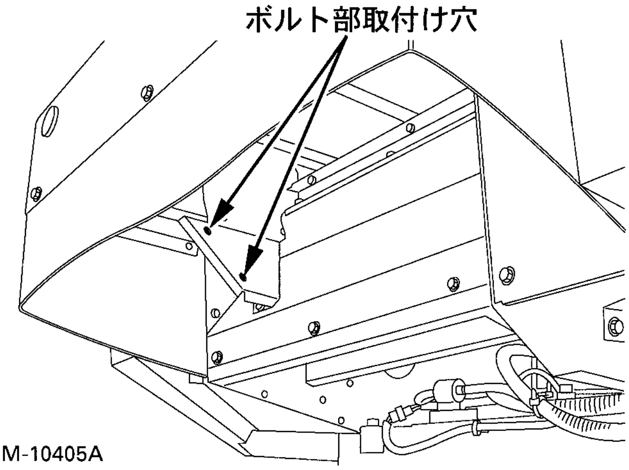
1. ホッパ仕様はホッパオープンをしたあと，脱こく右サイドカバー前・後を取外し，グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンします。
2. トウミシャッタを付属部品の蝶ナットで取付けます。
3. ホッパ仕様は脱こく右サイドカバー前・後を取付けたあとホッパを閉じ，グレンタンク仕様はグレンタンクを閉じます。


蝶ナット
トウミシャッタ

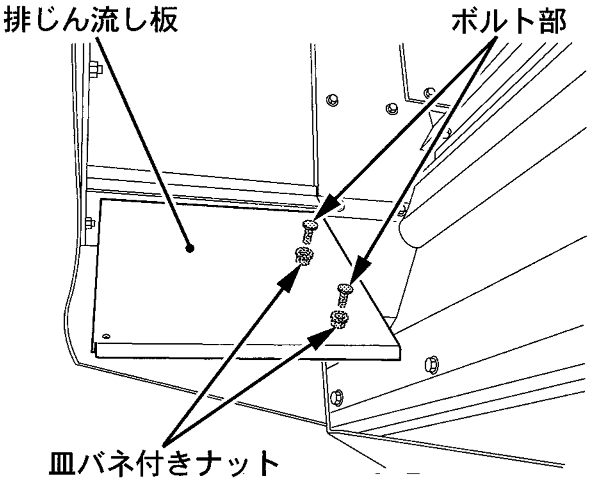
M-10602A

■排じん流し板

排じん流し板を下図の取付け穴にボルト部を差込んで，皿バネ付きナット２個で取付けます。



M-10405A

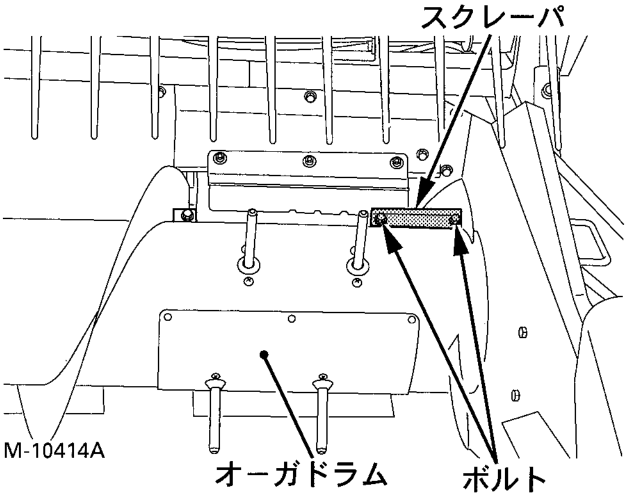

排じん流し板
ボルト部
皿バネ付きナット

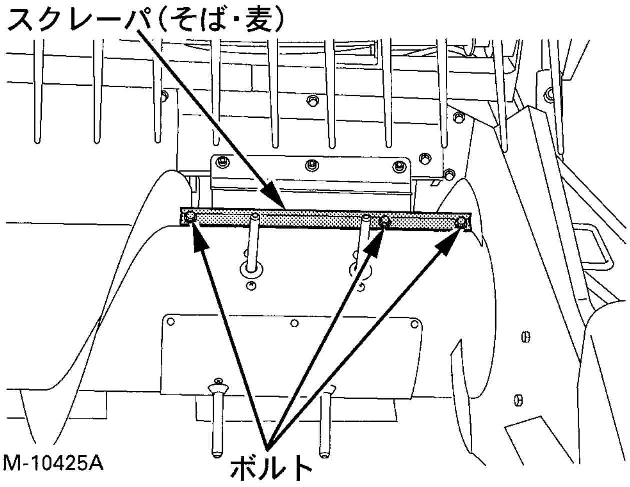
M-10426A

そば・麦共通キット

■スクレーパの取付け

1. 刈取部を上げ，リールを最上昇させたあと，エンジンを止め，刈取部の下降ロックを行ないます。
2. ボルト２本を取外してスクレーパを取外します。
3. 下図のようにスクレーパ（そば・麦）をボルト３本で取付けます。（左側の２本は2.で取外したボルト，右側の１本は本キット中に含まれているボルトです。）

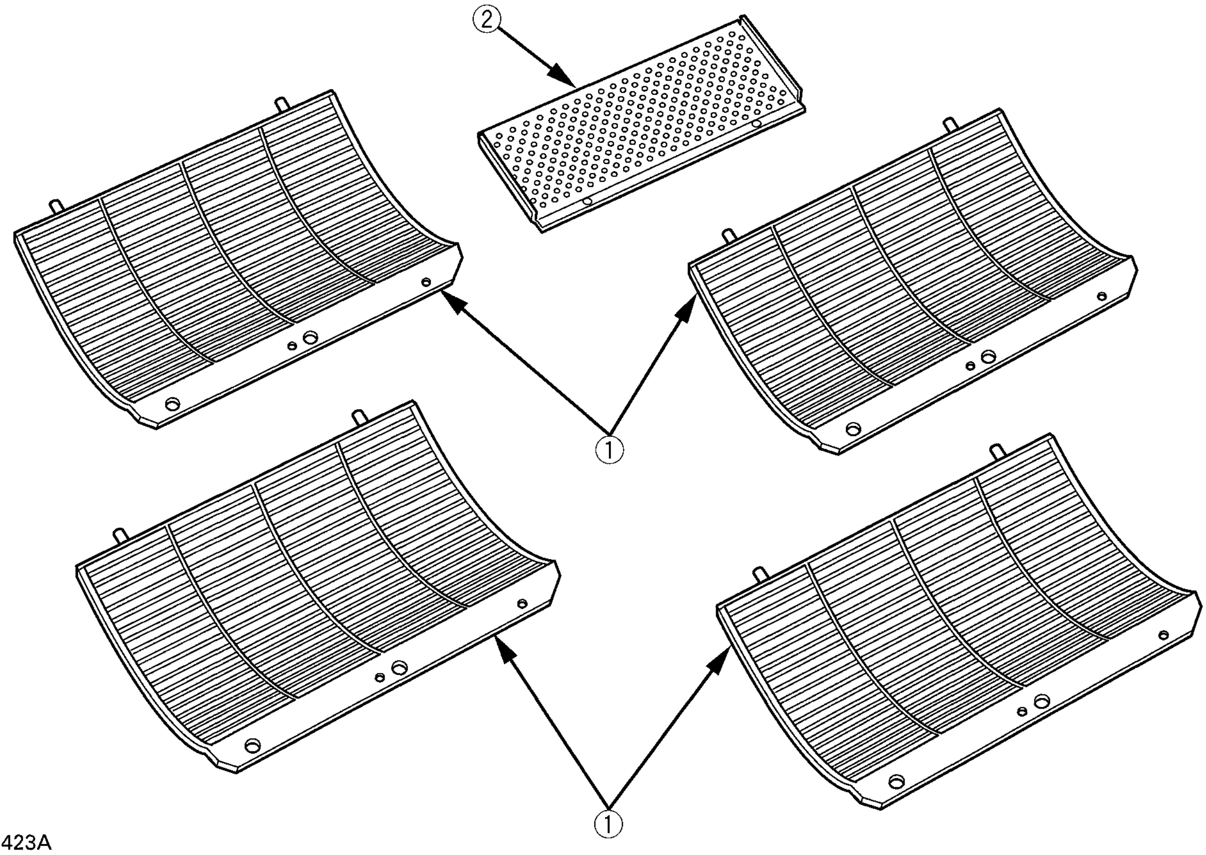

スクレーパ
M-10414A
オーガドラム
ボルト


スクレーパ（そば・麦）
M-10425A
ボルト

そば専用キット

■組付部品

下記部品が揃っていることを確認してください。



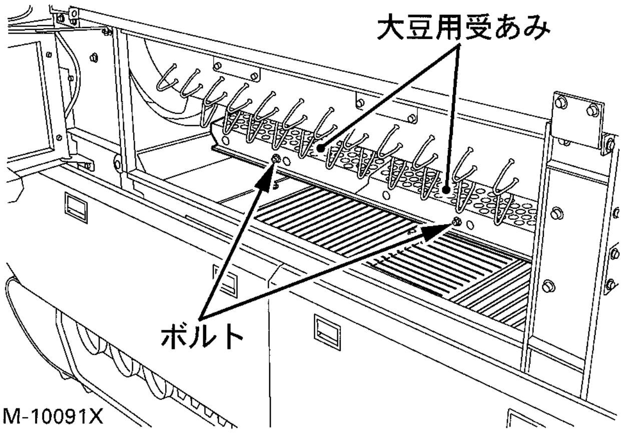
M-10423A

図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
①	コンケーブ（そば）	4	②	グレンシーブ（そば）	1

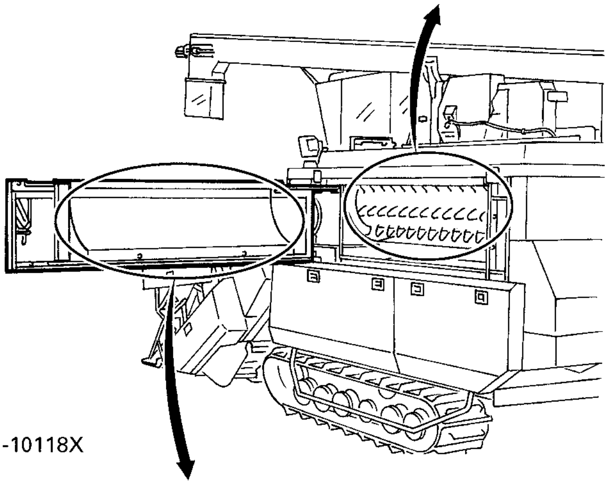
そば専用キット

■受あみ

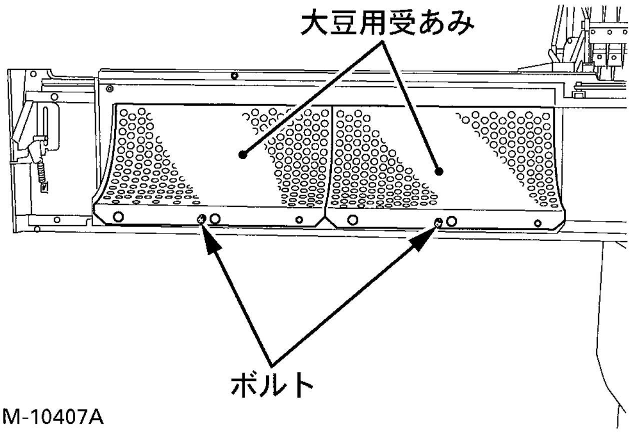
1. 脱こく左サイドカバーを開きます。
2. ボルトを取外し，４箇所の受あみを取外し，そば用の受あみを取付けます。
   このとき，ノックピンを確実に差込んだあと，ボルトで取付けてください。
3. 脱こく左サイドカバーを閉じます。



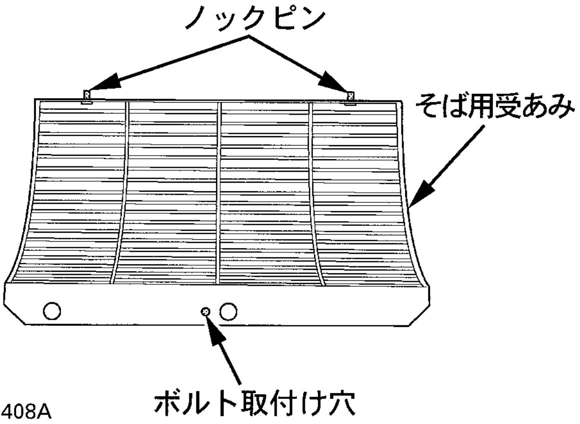
M-10091X



M-10118X



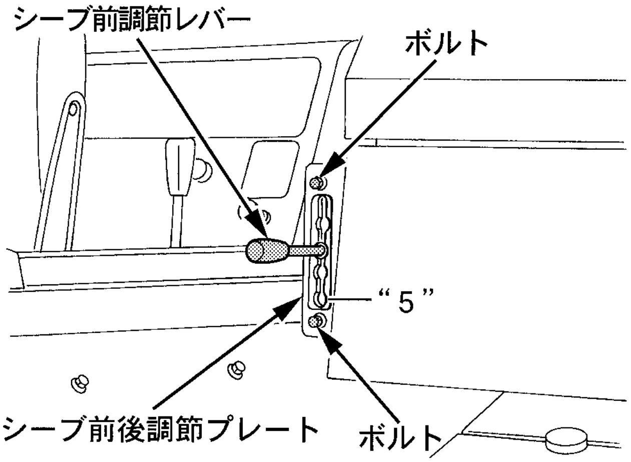
M-10407A


ノックピン
そば用受あみ
ボルト取付け穴

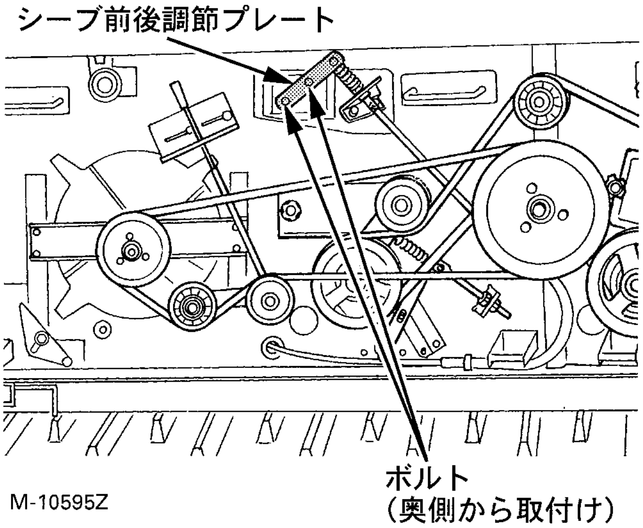
M-10408A

■グレンシーブの組替え

1. 脱こく左サイドカバーををオープンしたあと，脱こく左サイドカバー下１・２を取外します。
2. シーブ前調節レバーを **"5"** の位置にしたあと，シーブ前後調節プレートの取付けボルト２個を取外します。


シーブ前調節レバー
ボルト
"5"
シーブ前後調節プレート
ボルト

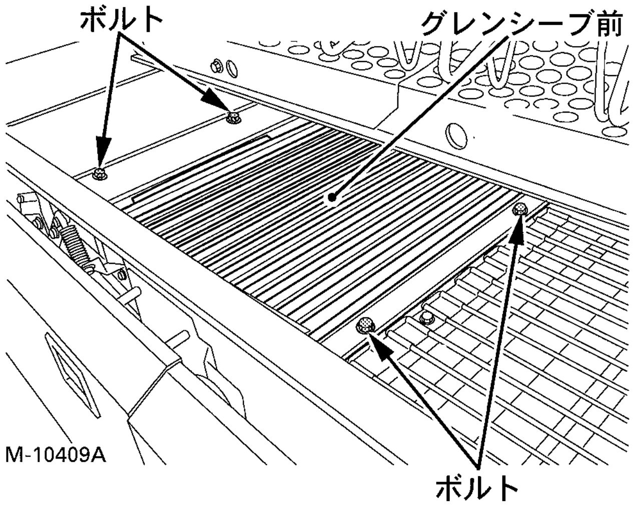
M-10052X

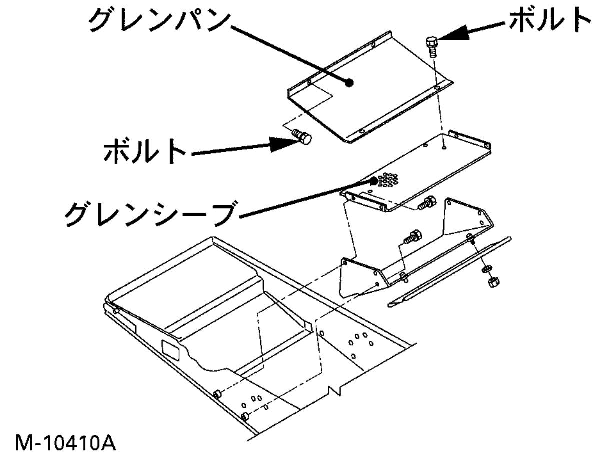

シーブ前後調節プレート
ボルト
（奥側から取付け）

M-10595Z

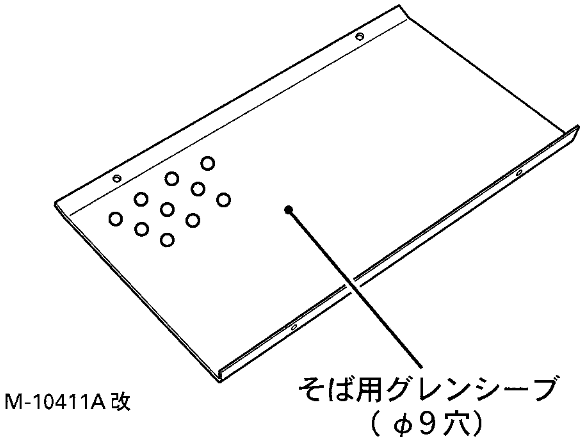
そば専用キット

3. ボルト４本を取外して，シーブ前を取外します。
4. ボルト４本を取外して，グレンパンを取外します。
5. ボルト６本を取外して，グレンシーブを取外します。


ボルト
グレンシーブ前
M-10409A
ボルト


グレンパン
ボルト
ボルト
グレンシーブ
M-10410A

6. そば用のグレンシーブをボルトで取付けます。


M-10411A 改
そば用グレンシーブ
（φ9穴）

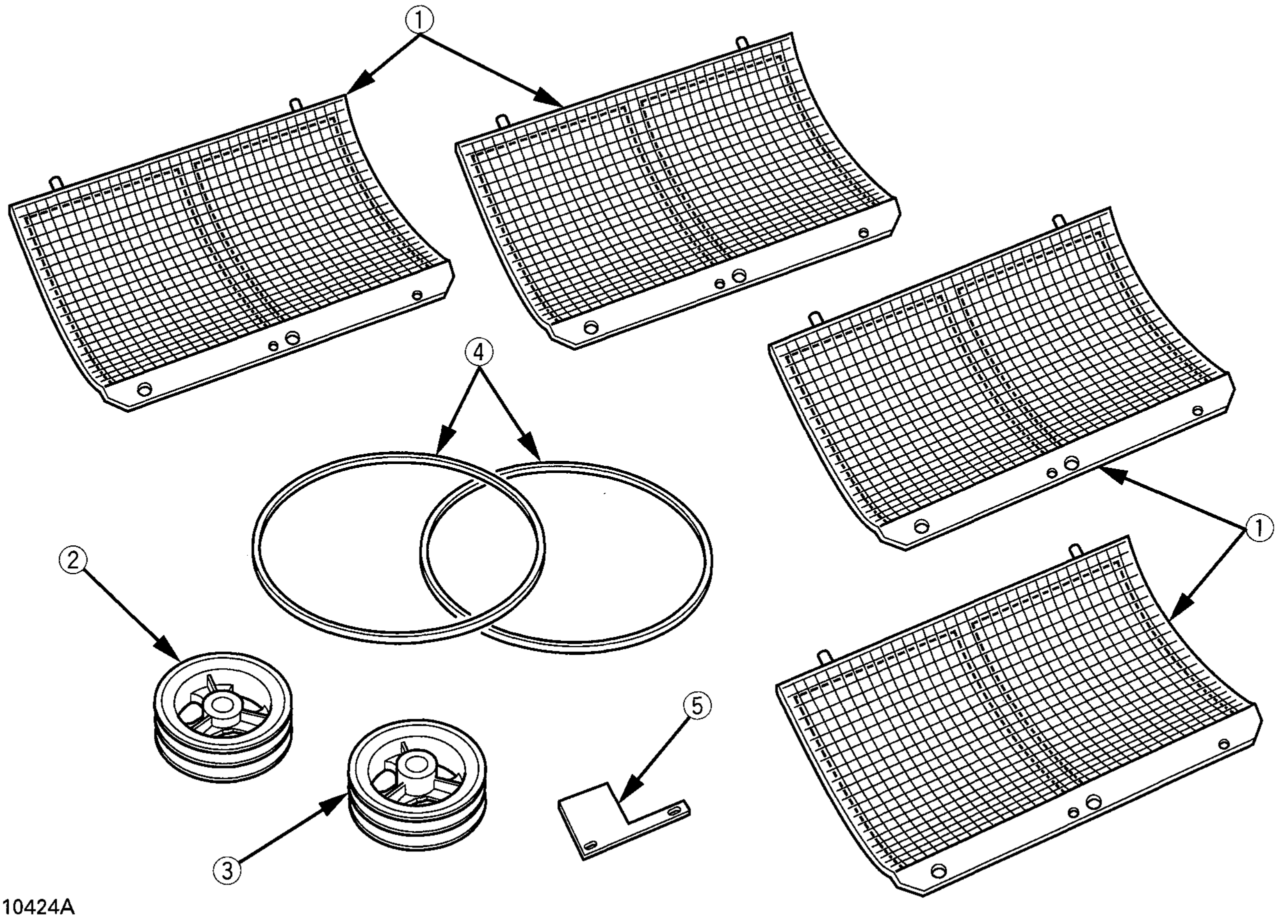
7. グレンパン及びシーブ前をボルトで取付けます。
8. シーブ前後調節プレートのボルト２本を締付けます。
9. 脱こく左サイドカバー下１・２を取付けたあと，脱こく左サイドカバーを閉じます。

■２番還元板の組替え

75ページを参照してください。

麦専用キット

■組付部品



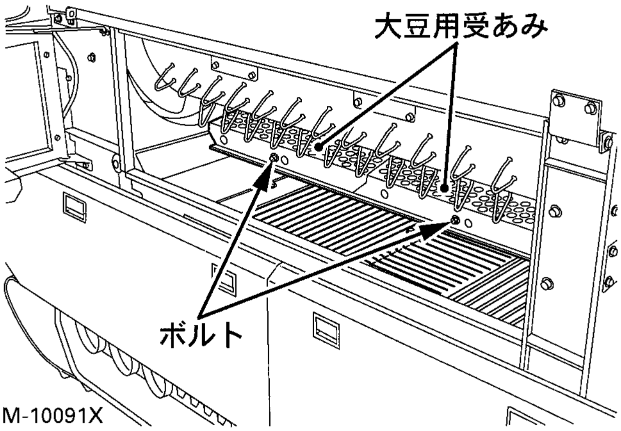
M-10424A

図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
①	コンケーブ（麦）	4	④	Vベルト	2
②	こぎ胴プーリ	1	⑤	スクレーパ（麦）	1
③	こぎ胴駆動プーリ	1			

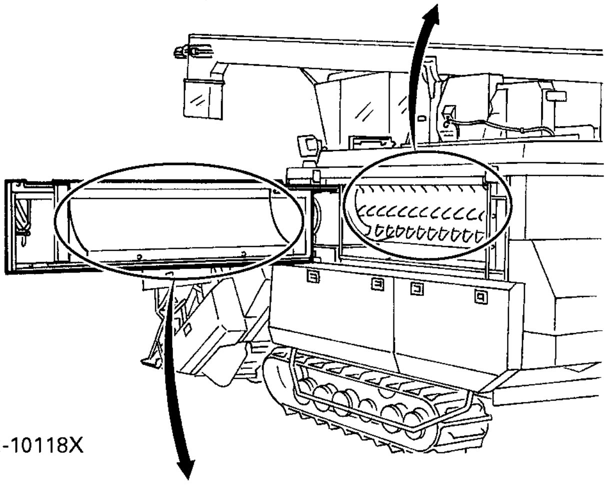
麦専用キット

■受あみ

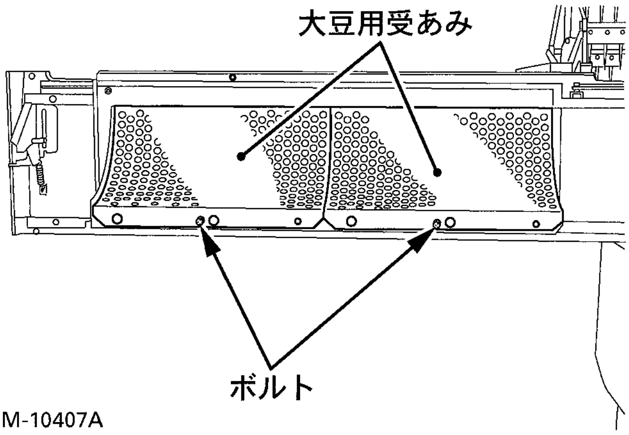
1. 脱こく左サイドカバーを開きます。
2. ボルトを取外し，４箇所の受あみを取外し，麦用の受あみを取付けます。
このとき，ノックピンを確実に差込んだあと，ボルトで取付けてください。



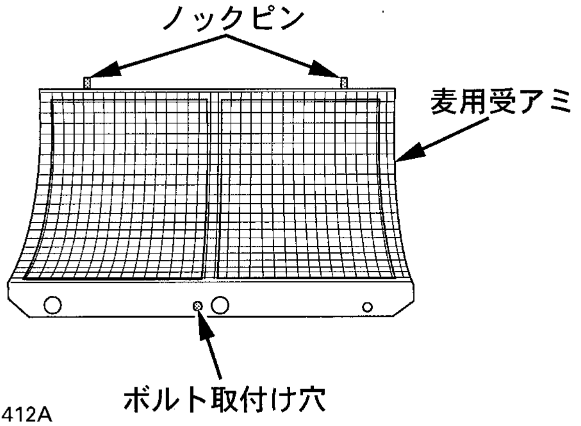
M-10091X



M-10118X



M-10407A

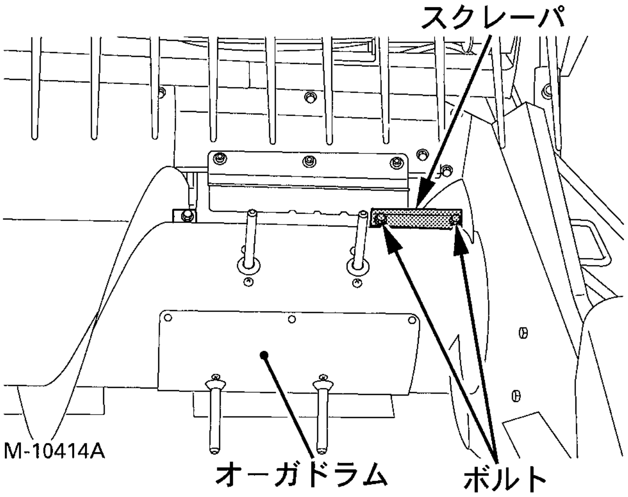

ノックピン
麦用受アミ
ボルト取付け穴

M-10412A

3. 脱こく左サイドカバーを閉じます。

■スクレーパの組付け

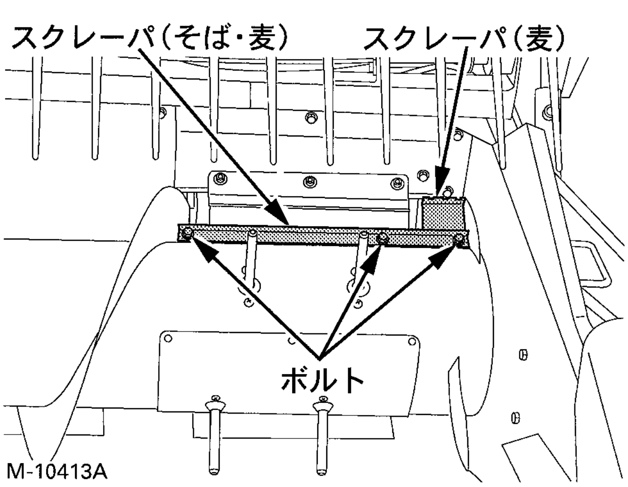
1. 刈取部を上げ，リールを最上昇させたあと，エンジンを止め，刈取部の下降ロックを行ないます。
2. ボルト２本を取外してスクレーパを取外します。


スクレーパ
オーガドラム
ボルト

M-10414A

3. 次頁図のようにスクレーパ（麦）をセットしたあと，スクレーパ（そば・麦）を上から共締めします。（左側の２本は2.で取外したボルト，右側の１本はそば・麦共通キットに含まれているボルトです。）

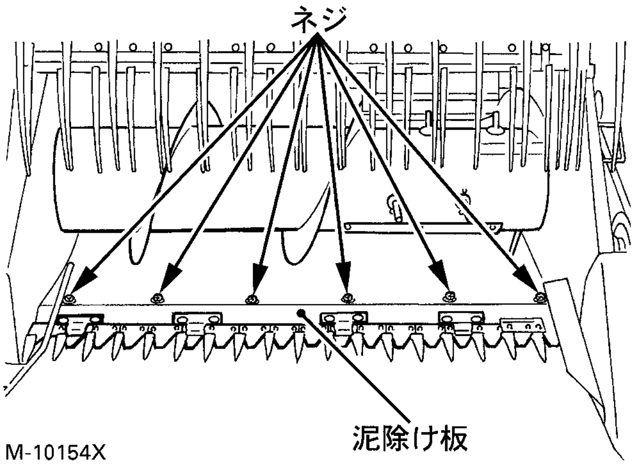
麦専用キット


スクレーパ(そば･麦)
スクレーパ(麦)
ボルト

M-10413A

■泥除け板の取外し

1. 刈取部を上げ，リールを最上昇させたあと，エンジンを止め，刈取部の下降ロックを行ないます。
2. ネジ６個を取外して，泥除け板を取外します。
3. 取外したネジ６個は元の取付け穴に取付けます。



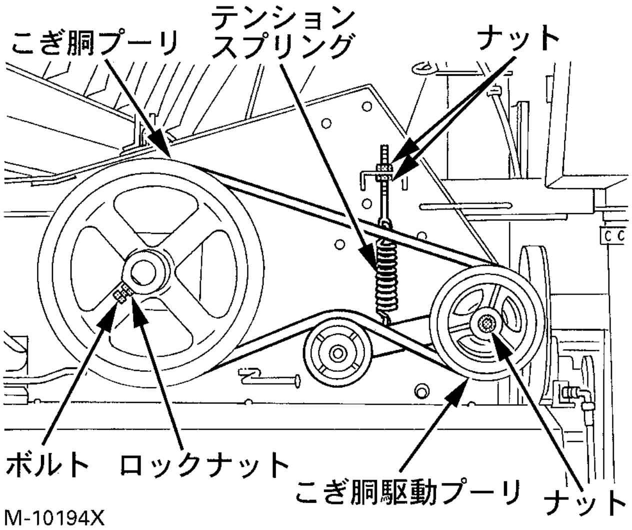
M-10154X

■２番還元板の組替え

75ページを参照してください。

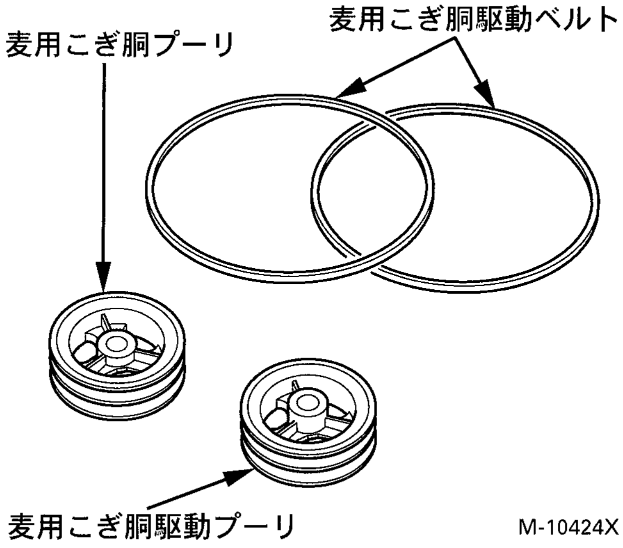
■こぎ胴プーリ・こぎ胴駆動プーリの組替え

1. 脱こく上部カバーを開いたあと，脱こく後カバーを取外します。
2. テンションスプリングの調整ナット２箇をゆるめて，こぎ胴駆動ベルトを外します。
3. ロックナットをゆるめたあと，ボルトをゆるめてこぎ胴プーリを取外します。
4. ナットを取外してこぎ胴駆動プーリを取外します。

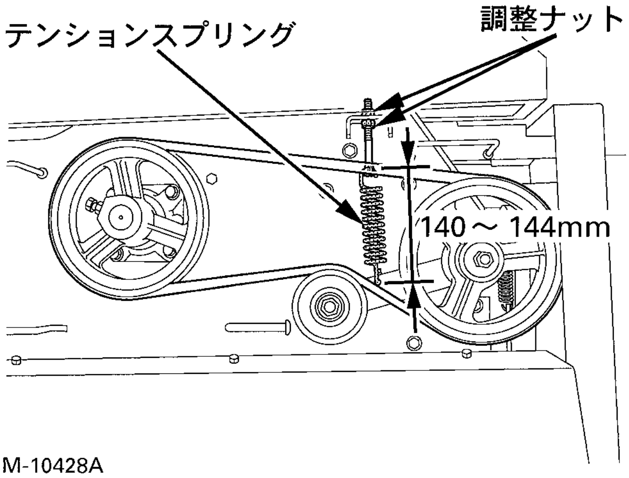

こぎ胴プーリ
テンション
スプリング
ナット
ボルト
ロックナット
こぎ胴駆動プーリ
ナット

M-10194X

5. 麦用のこぎ胴プーリ，こぎ胴駆動プーリを取付けます。
6. 麦用のこぎ胴駆動ベルト２本を取付けます。
7. 調整ナット２個でテンションスプリングの長さを，140～144mmに調整したあと，締付けます。


麦用こぎ胴駆動ベルト
麦用こぎ胴プーリ
麦用こぎ胴駆動プーリ

M-10424X

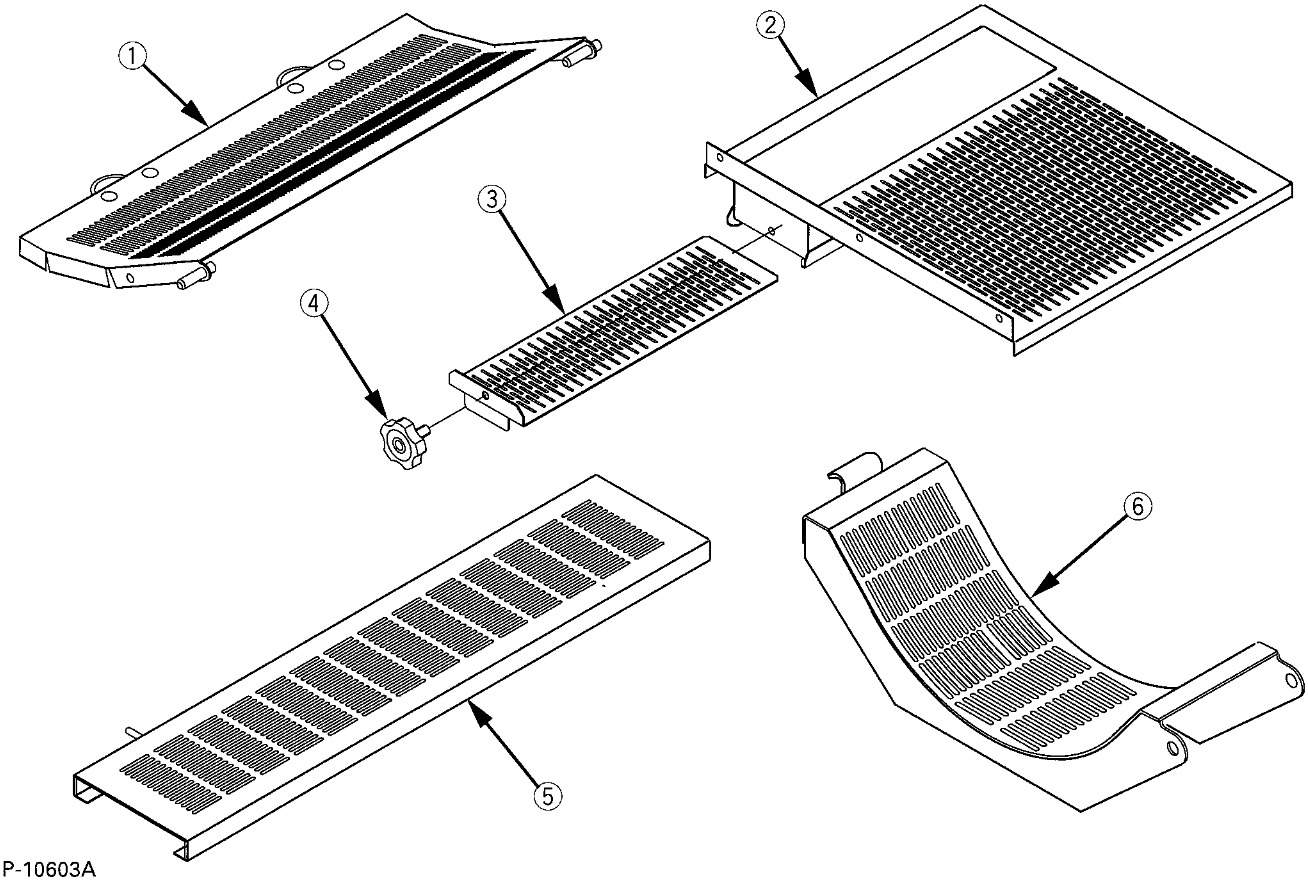

テンションスプリング
調整ナット
140～144mm

M-10428A

8. 脱こく後カバーを取付けたあと，脱こく上部カバーを取付けます。

小豆専用キット

■組付部品

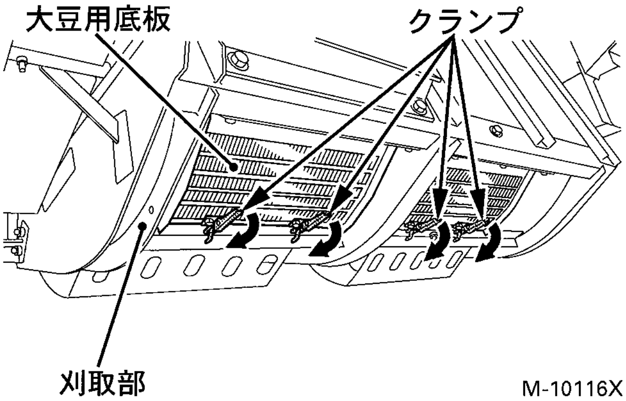

①
②
③
④
⑤
⑥
P-10603A

図番	部　品　名　称	数量	図番	部　品　名　称	数量
①	刈取部底板（小豆）	2	④	ノブボルト	1
②	フィーダ底板（小豆）	1	⑤	1番・2番横スクリュ底板（小豆）	2
③	底カバー	1	⑥	1番・2番バケットコンベア底板（小豆）	2

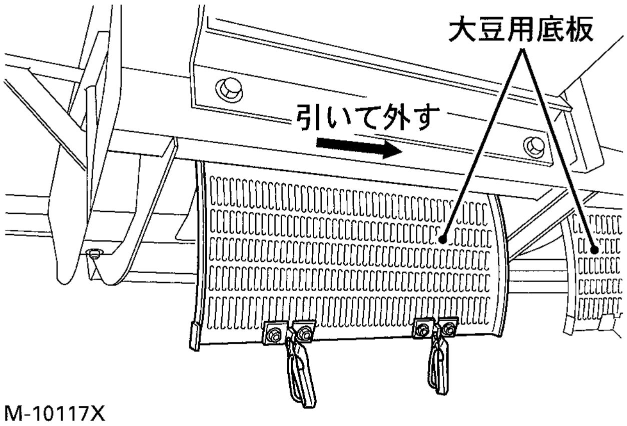
小豆専用キット

■刈取部底板

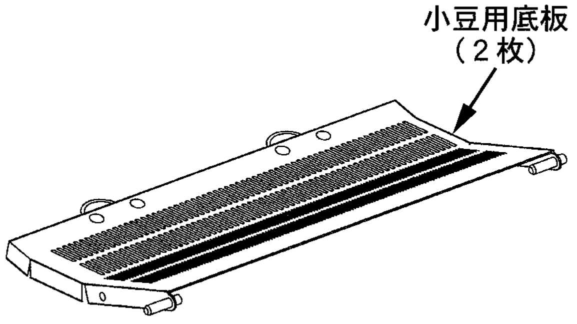
1. 刈取部を最上昇させたあと，エンジンを止めて刈取部の下降ロックを行ないます。
2. 刈取部底板の２箇所のクランプを外したあと，底板を開き大豆用の刈取部底板を右側に引いて，底板を取外します。同じようにもう片方の底板も取外します。
3. 小豆用の底板を逆の手順で取付けます。


大豆用底板
クランプ
刈取部

M-10116X


大豆用底板
引いて外す

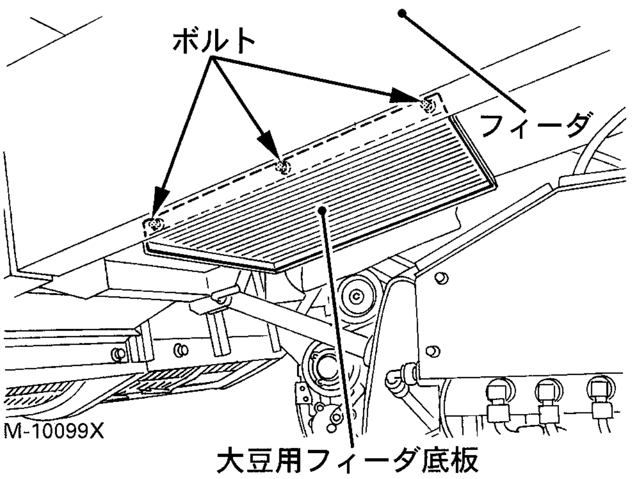
M-10117X



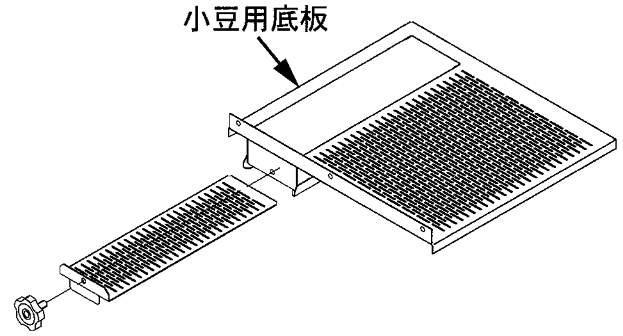
P-10603B

■フィーダ底板

1. 刈取部を最上昇させたあと，エンジンを止めて刈取部の下降ロックを行ないます。
2. フィーダサイドカバーを取外します。
3. ボルト３本を取外し，大豆用のフィーダ底板を取外します。
4. 逆の手順で小豆用のフィーダ底板を取付けます。


ボルト
フィーダ
大豆用フィーダ底板

M-10099X

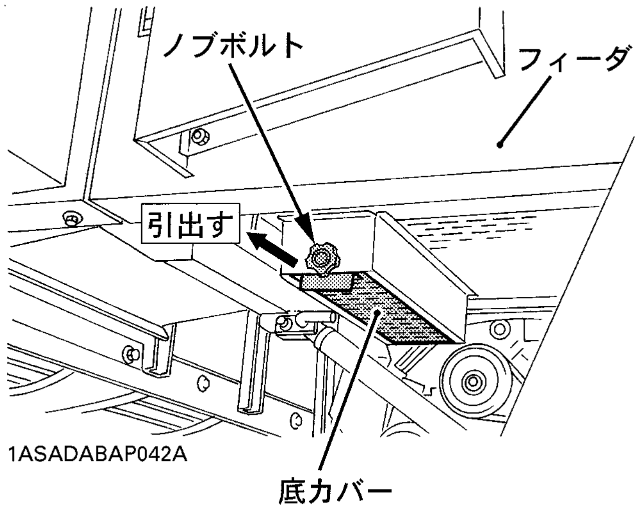


M-10603C

5. フィーダサイドカバーを取付けます。

補　足

＊１日の作業が終わったあと，ノブボルトを取外し，底カバーを引出して溜まった石を捨ててください。

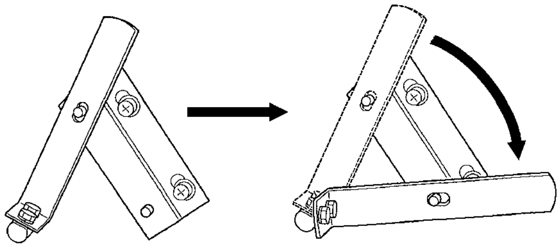

ノブボルト
フィーダ
引出す
底カバー

1ASADABAP042A

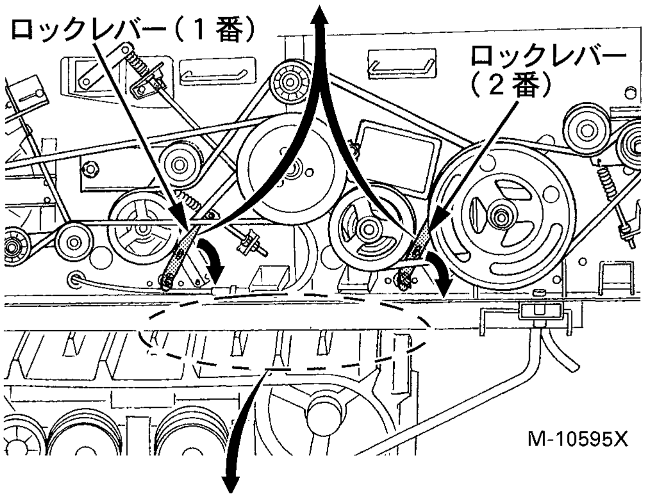
■1番・2番横スクリュ底板

1. 脱こく左サイドカバー下１・２を取外します。
2. ロックレバーを解除し，大豆用横スクリュ底板を取外します。
3. 逆の手順で１番・２番両方共横スクリュ底板を取付けます。

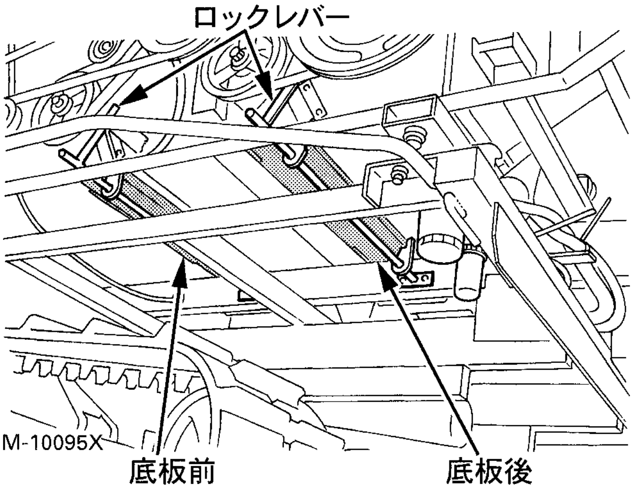
脱着要領
ロックレバーを上側のピンから抜いて，下側のピンにセットする。



M-10260A


ロックレバー（１番）
ロックレバー
（２番）

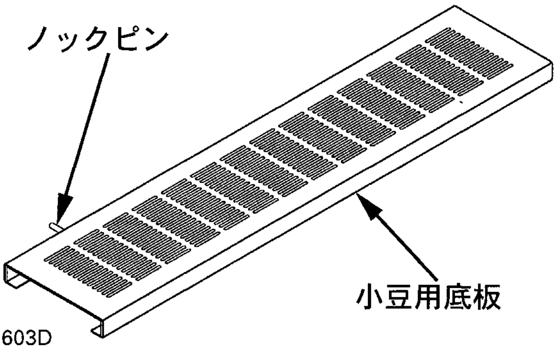
M-10595X


ロックレバー
底板前
底板後

M-10095X

補　足

＊ノックピンはガイド穴に確実に差込んでください。


ノックピン
小豆用底板

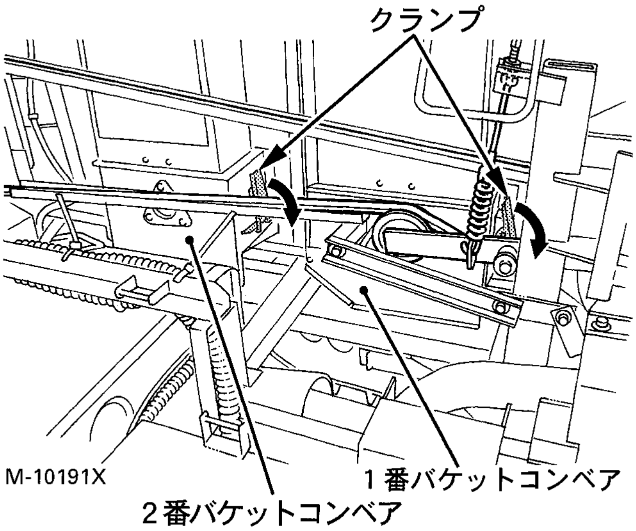
P-10603D

4. ロックレバーを元の位置にセットします。
5. 脱こく左サイドカバー下１・２を取付けます。

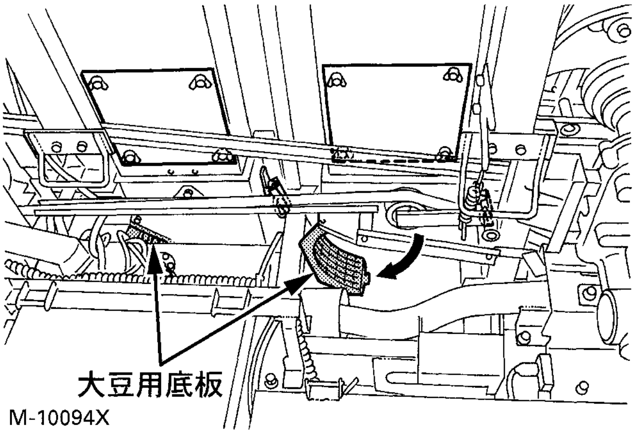
小豆専用キット

■1番・2番バケットコンベア底板

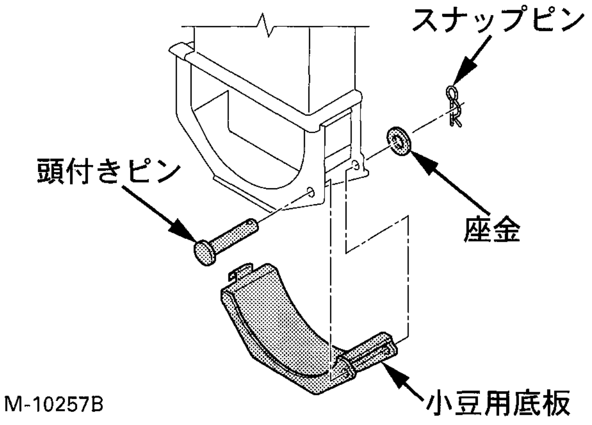
1. ホッパ仕様は，ホッパオープンを行なったあと，脱こく右サイドカバー前・後を取外し，グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンします。
2. クランプを外し底板を開いたあと，スナップピンと頭付きピンを外して，大豆用の底板を取外します。
3. 逆の手順で１番・２番両方共小豆用の底板を取付けます。


クランプ
1番バケットコンベア
2番バケットコンベア

M-10191X



M-10094X


スナップピン
頭付きピン
座金
小豆用底板

M-10257B

4. ホッパ仕様は脱こく右サイドカバー前・後を取付けたあと，ホッパを閉じ，グレンタンクを閉じます。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　－
ご購入日	型式名	区分
車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860　〒661-8567　尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970　〒661-8567　尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号

ARH350
AI. F. 5-5. 2. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862